

# 明治国際医療大学 柔道整復学科

講義概要

[2021]

柔道整復学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
運動器外傷発生学総論	後期	1	1
固定学実習	後期	1	1
柔道整復師のための骨学・筋学	後期	1	1
柔道整復師のための職業倫理概論	前期	1	1
整復学総論Ⅰ	前期	1	1
整復学総論Ⅱ	後期	1	2
体表解剖学	後期	1	1
包帯・固定学総論	前期	1	1
包帯学実習	前期	1	1
鍼灸・東洋医学入門	後期	1	2
医療面接法	後期	2	1
運動機能解剖学	前期	2	1
運動機能解剖学実習	後期	2	1
外科学概論	後期	2	1
整形外科学	後期	2	1
整復学Ⅰ（上肢系）	前期	2	1
整復学Ⅱ（上肢系）	前期	2	1
整復学Ⅲ（上肢系）	後期	2	1
整復学Ⅳ（下肢系）	後期	2	1
徒手療法学総論	後期	2	1
脳神経外科学概論	後期	2	1
病理学	前期	2	1
臨床整復学実習Ⅱ	後期	2	1
臨床整復学実習Ⅲ	後期	2	1
スポーツ医学応用	後期	3	2
スポーツ医学基礎	前期	3	2
スポーツ柔道整復学概論	前期	3	1
スポーツ柔道整復学実習	後期	3	1
リハビリテーション医学	後期	3	1
運動学	前期	3	1
応急救急処置実習	前期	3	1
関節評価法Ⅰ	前期	3	1
関節評価法Ⅱ	後期	3	1
実践整復学Ⅰ（上肢）	前期	3	1

柔道整復学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
実践整復学Ⅲ（体幹）	後期	3	1
整復学Ⅴ（下肢系）	前期	3	1
整復学Ⅵ（頭部・顔面・脊椎）	前期	3	1
整復学Ⅵ実習（頭部・顔面・脊椎）	後期	3	1
生活習慣病とその予防	後期	3	1
総合演習Ⅰ	後期	3	1
臨床技術実習	前期	3	1
臨床整復学実習Ⅳ	前期	3	1
臨床整復学実習Ⅴ	前期	3	1
伝承整復術演習	後期	4	1
外傷・障害予防論実習	後期	4	1
臨床シミュレーション実習Ⅱ	前期	4	1
臨床シミュレーション実習Ⅲ	前期	4	1
合計単位数			51
省令で定める基準単位数			13

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
岡田 成賛			
柔道整復学科	15時間	講義形態：講義（対面／遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	初年次教育の一環であり、本学の「建学の精神」「教学の理念」「沿革」「教育目標」を理解し、明治国際医療大学の学生として求められる学修態度と姿勢を明確にする。その上で、柔道整復学科の教育目的と教育の特徴を理解する。また、現代医療の課題を踏まえて看護学科、鍼灸学科、救急救命学科の教育概要を理解し、医療系大学である明治国際医療大学の求める医療人像について理解を深める。さらに、柔道整復学士を目指すうえで必要な基礎知識や知るべき研究内容などを教授し、大学教育の在り方を深めることをねらいとする。
授業計画	<p>1回目 本学の教育の特徴、および「建学の精神」と「教学の理念」について（担当：矢野、苗村） 到達目標：本学の教育の主な特徴、および建学の精神と教学の理念を説明できる。</p> <p>2回目 柔道整復学科と鍼灸学科の教育の特徴について（担当：岡田、角谷） 到達目標：柔道整復学科と鍼灸学科の教育の主な特徴を説明できる。</p> <p>3回目 看護学科と救急救命学科の教育の特徴について（担当：山下、樋口） 到達目標：看護学科と救急救命学科の教育の主な特徴を説明できる。</p> <p>4回目 大学における一般教養教育と基礎医学教育について（担当：鳴瀬） 到達目標：一般教養教育と医学基礎教育の特徴について説明でき、大学教育での生物学、生化学と分子生物学の重要性について説明できる。</p> <p>5回目 柔道整復の大学教育において必要な基礎医学、特に生理学について（担当：林） 到達目標：柔道整復の大学教育に必要な基礎医学の重要性を説明できる。</p> <p>6回目 大学の教育と研究について（研究と後療法の変遷）（担当：松本） 到達目標：高校と大学の教育の違い、および過去の研究と現在の後療法とのつながりを説明でき、大学生活のグランドデザインを描くことができる。</p> <p>7回目 柔道整復とスポーツ関連資格について（担当：長尾） 到達目標：本学で取得できるスポーツ関連資格と柔道整復との関わりを説明できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で出題されたテーマや内容などについて自分で調べ、復習を行う。
教科書	授業中にレジュメを配布するため教科書の指定はなし
参考書	講義中に適宜紹介する
成績評価	<p>レポート試験を実施する。評価はレポート内容を80%、出席率を20%とし、成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この科目の成績の評価は、入学時または前期末の「すらの実力テスト」で正解率6割以上が必須条件となる。</li> <li>入学時の「すらの実力テスト」で正解率6割以上の者は、すらの課題実施を課さないが、前期末にも同様の試験を全員対象に行う予定であるので、基礎学力を維持するよう自主学習を推奨する。</li> <li>入学時の「すらの実力テスト」で正解率6割を下回った者は、前期末の同様の試験までにすらの大学指定範囲の課題を必ず完了し、基礎学力を十分高めて前期末のテストに臨み、正解率6割以上をとること。ただし、前期末の試験で正解率6割を切った場合は「大学の教育と研究」・「生物」または「生き物の科学」の単位が保留になるため、自主学習を積極的に進めること。</li> <li>特に入学時の「すらの実力テスト」の結果が正解率6割以下で「基礎学力テスト」の成績不良であった者は、学修支援センターへ呼び出され、そこでしっかり指導を受けて基礎学力を身に付け、前期末のテストに臨むこと。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：岡田成賛 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：木曜日 17:30～18:30</p> <p>担当教員名：苗村 建慈 研究室：病院2階教授室 オフィスアワー：月曜日 16:30-17:00</p> <p>担当教員名：角谷 英治 研究室：病院2階教授室 オフィスアワー：金曜日 16:00-17:00</p> <p>担当教員名：山下 八重子 研究室：10号館8階教授室 オフィスアワー：火曜日 14:00-16:00</p> <p>担当教員名：樋口 敏宏 研究室：病院1階MRセンター オフィスアワー：月曜日 17:30-18:00</p>

	<p>担当教員名 : 鳴瀬善久  研究室 : 8号館4階教授室  オフィスアワー : 水、木曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 林 知也  研究室 : 8号館4階教授室  オフィスアワー : 月曜日 17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 松本和久  研究室 : 8号館4階教授室  オフィスアワー : 水曜日17:30-18:00</p> <p>担当教員名 : 長尾淳彦  研究室 : 8号館4階教授室  オフィスアワー : 水曜日17:30-18:00</p>
備考	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-③ ○-④  岡田成賛：歯科医師としての臨床経験や海外留学先での経験を生かして授業をすすめる。  山下八重子：臨床での看護管理実務経験20年（師長・副看護部長・医療安全管理者）の経験を通じて講義する。  樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。  苗村建慈：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。  長尾淳彦：接骨院での臨床経験を生かした授業をすすめる。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
日下 貴弘			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	コミュニケーション論について理解し、合わせて情報伝達という観点で自身のコミュニケーションについて考察し、読み書き話すという活用の力を身に付けられるようになる。そのうえで、医療におけるコミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）について理解を深めることができるようになる。また、情報リテラシーを身に付け、情報について自分自身で取捨選択しできるようになる。
授業計画	<p>第1講 「ヘルスコミュニケーション」について [到達目標] コミュニケーション論を学ぶ理由を理解できる</p> <p>[授業形態] 可能なら、受講前に教科書に目を通しておいてください。目次だけでも結構です。終了後に講義内容に沿ってプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第2講 コミュニケーション論の基本について [到達目標] コミュニケーション論の概略について理解できる</p> <p>[授業形態] 受講前に教科書のunit 1、unit 2を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第3講 ことばをつかわないコミュニケーションについて [到達目標] コミュニケーションにおけることばの持つ意味を理解できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 3、4を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第4講 コミュニケーションにおける理解と誤解について [到達目標] 何をどのように伝えればよいのか、適切な情報伝達について説明できる 会話の際に誤解を招かない表現を選択できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 5、6を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第5講 コミュニケーションと文字について [到達目標] コミュニケーションにおける文字の役割を理解できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 7を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第6講 映像のコミュニケーションについて [到達目標] コミュニケーションにおける映像の効果を理解できる 「印象操作」「演出」について具体的に説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 8、9を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第7講 社会関係とコミュニケーションについて [到達目標] 社会、組織におけるコミュニケーションの技法について理解できる発言の「意図」について推測できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 10、11、12を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第8講 説得について [到達目標] 「説得」の技法を理解できる。欺瞞を指摘できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 13を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>

	<p>第9講 「うわさ」の拡散と「流行」の普及について [到達目標] 「うわさ」の拡散や「流行」の普及について、具体例を挙げてその影響とともに説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit14、15を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第10講 「世論」と「メディア」について [到達目標] メディアの影響力について具体例を挙げて説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit16、17、18を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第11講 企業・スポーツとコミュニケーションの関わりについて [到達目標] マーケティングコミュニケーションについて実例を挙げて説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit19、20、21を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第12講 バーチャル空間とコミュニケーションについて [到達目標] バーチャル空間における情報リテラシーの有無、強弱について、その影響を指摘できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit22を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第13講 情報社会とコミュニケーション・ネットワークについて [到達目標] 現代社会の情報網、メディアと人間関係について理解し、情報リテラシーの重要性を指摘できる。</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit23を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第14講 災害とコミュニケーションについて、ヘルスコミュニケーションについて [到達目標] 災害時におけるコミュニケーションの役割の重要性を説明できる。ヘルスコミュニケーションの概略について理解できる</p> <p>[備考] 受講前にunit24、ならびに今までの受講内容について復習しておいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は教科書にそって進め、スライドを使って解説します。予習として教科書の指定unitを熟読し、よくわからない部分を把握しておいてください。また、授業では教科書に登場しない用語や事例も挙げて説明しますので、必ず筆記用具とノートを持って受講してください。
教科書	『コミュニケーション論をつかむ』（辻 大介・是永 論・関谷直也、有斐閣、2014年、本体2,000円+税）
参考書	なし
成績評価	①評価方法 : レポート70%、平常点30% ②評価基準 : レポートは内容を理解し、課題に対して十分に考察して、自分の考えを説明できているか否かで判定します。（出席していないと書けない課題が提示されます） 平常点は受講態度、出席の有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 日下貴弘 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了前後（Classroomへのコメント）
備考	商社、サ高住運営企業（老人ホームの管理会社）、社会福祉法人（病院）等に勤務して 内部統制制度の構築や社員教育に携わってきた経験をふまえ、福祉・医療の現場、組織において「コミュニケーション」がどういう役割を担うのかについて授業をすすめます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
川村 茂			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は初年次教育の一環であり、学生間、学生-教員間のコミュニケーションを密接にすることでスムーズな大学教育への導入を図ることを目的とする。</p> <p>本科目では、医療に関する未知の世界に関心を持ち、大学で主体的に学ぶ意欲を高め、姿勢を整えること、「読み」「書き」「考える」能力を鍛え、基本的な学修作法を身につけるために、小グループによる授業を行う。</p>		
授業計画	第1回目	<p>授業オリエンテーション・「大学って何？研究って何？ゼミって何？」</p> <p>[ 授業概要 ] オリエンテーション 本科目における授業の概要、進め方、各小グループでの役割などを決定する。 自己・他己紹介を行い、聴く力を高めることを学ぶ。 「大学って何？研究って何？ゼミって何？」高校と大学の違いについて説明する。 各教員が、それぞれのグループ学修・課題内容について説明する。その際、各教員が要求する「予習・復習内容」についても説明する。</p> <p>[ 到達目標 ] 本科目における今後の学修内容・要点を理解する。 「大学とは」どういったものかを理解する。</p>	
	第2回	<p>アクティブラーニング : 有 グループ学修 ①</p> <p>[ 授業概要 ] 各教員別にグループ学修を行なう。 [ 到達目標 ] 各教員毎に課題や学修を行ない、その内容を理解する。 [ 授業時間外学習の指示 ] オリエンテーション時に各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p>	
	第3回	<p>アクティブラーニング : 有 グループ学修 ②</p> <p>[ 授業概要 ] 各教員別にグループ学修を行なう。 [ 到達目標 ] 各教員毎に課題や学修を行ない、その内容を理解する。 [ 授業時間外学習の指示 ] オリエンテーション時に各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p>	
	第4回	<p>アクティブラーニング : 有 テーピング実技①</p> <p>[ 授業概要 ] 柔道整復にて使用頻度の高いテーピング方法について実技を交え学修し理解を深める。 [ 到達目標 ] 各関節を固定するためのテーピングを巻き、その仕組みを理解する。</p> <p>[ 授業時間外学習の指示 ] オリエンテーション時に各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p>	
	第5回	<p>アクティブラーニング : 有 テーピング実技②</p> <p>[ 授業概要 ] 柔道整復にて使用頻度の高いテーピング方法について実技を交え学修し理解を深める。 [ 到達目標 ] 各関節を固定するためのテーピングを巻き、その仕組みを理解する。</p> <p>[ 授業時間外学習の指示 ] オリエンテーション時に各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p>	
	第6回	<p>アクティブラーニング : 有 テーピング実技③</p> <p>[ 授業概要 ] 柔道整復にて使用頻度の高いテーピング方法について実技を交え学修し理解を深める。 [ 到達目標 ] 各関節を固定するためのテーピングを巻き、その仕組みを理解する。</p> <p>[ 授業時間外学習の指示 ] オリエンテーション時に各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p>	

	<p>第7回</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>テーピング実技④</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>第4回-第6回で学んだテーピングを巻いた状態で体を動かしてみ、テーピングの効果について体験し理解を深める。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>各関節を固定するためのテーピングを巻きいたうえで体を動かし、その仕組みを理解する。</p> <p>[ 授業時間外学習の指示 ]</p> <p>オリエンテーション時に各教員が提示した予習・復習に関することを事前に行なっておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	毎授業後に担当教員から課題テーマを出題するため、次回の授業までに調べるのが授業時間外学修となる。
教科書	教科書指定なし
参考書	参考書指定なし
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 グループ学習①～⑥において、各教員毎に課題を実施・評価する(各10点×6=60点)。 グループ学習を欠席すると、その課題について評価されない場合があるので注意すること。 さらに、グループ発表を行なってもらい、その内容についても評価する(40点)。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 川村 茂</p> <p>研究室 : 8号館 4階准教授室</p> <p>メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業日の夕方17:00以降</p> <p>担当教員名 : 吉田 勲生</p> <p>研究室 : 8号館 4階講師室</p> <p>メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 棚原勝平</p> <p>研究室 : 8号館 4階講師室</p> <p>メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業日の夕方17:00以降</p> <p>担当教員名 : 沖 和久</p> <p>研究室 : 8号館 4階講師室</p> <p>メールアドレス : k_oki@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	基礎ゼミの担当教員とグループについては、オリエンテーションで説明する。
	<p>本科目におけるDPの位置づけ</p> <p>①知識・理解 - ◎</p> <p>③関心・意欲 - ○</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
日下 貴弘			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	読書を通して読解力を身につけることで、文章が書かれた意図やその影響について考察し、コミュニケーションにおける影響について把握することができるようになる。あわせて、文章構造を理解することで論文等、文章を書く準備や書き方を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 読解力とは [到達目標] リテラシーと読書の大切さを自覚し、読解力を身につける重要性を理解できる。小説など文章の構造を理解できる。</p> <p>[備考] 夏目漱石「坊ちゃん」、新美南吉「ごん狐」</p> <p>第2講 著者の意図について [到達目標] 評論を通して「読み方」「読まれ方」が複数あることを理解し、考えながら読み、書くことの重要性が理解できる。</p> <p>[備考] ミゲル・デ・セルバンテス「ドン・キホーテ」、アントン・チェーホフ「桜の園」</p> <p>第3講 テーマについて 1 [到達目標] 作品のテーマについての学習を通じて、文章の主題（言いたいこと）を説明することができるようになる。</p> <p>[備考]</p> <p>第4講 テーマについて 2 [到達目標] 作品のテーマについての学習を通じて、文章を要約することができるようになる。</p> <p>[備考]</p> <p>第5講 表現するということ [到達目標] 文章表現を通じて概念を言葉で説明することの意味を理解し、言葉の使い方を身につけることができる。</p> <p>[備考]</p> <p>第6講 論説文の構造 1 [到達目標] 論説文を読み解くことで、その構造を理解し、論理的に表現する方法を身につけることができる。</p> <p>[備考]</p> <p>第7講 論説文の構造 2 [到達目標] 論説文の学習を通じて、論理的に記述することができるようになる。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業教材は基本的に青空文庫を活用しますので、可能なら、取り上げる作品を青空文庫にて事前に読んでおいてください。授業はスライドを使用し、朗読と合わせて解説を進めます。なお、国語辞典と筆記用具、ノートは必携です。
教科書	基本的に「青空文庫」を活用し、スライドでお見せしますので、とくに購入の必要はありません。
参考書	特になし
成績評価	①評価方法：課題評点70%、平常点30% ②評価基準：課題はその理解度、表現力を考慮して判定します。 平常点は受講態度、出席の有無、ジョウホウリテラシーの有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名：日下 貴弘 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス： オフィスアワー：ClassRoomのコメントで対応
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1
	商社、サ高住運営企業（老人ホームの運営会社）、社会福祉法人（病院）等の勤務して、内部統制の構築等における稟議書類の統括に関わってきた経験をふまえ、福祉・医療の現場、組織における「書類」が何を必要と

	し、何が読み取られるのかについても解説します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ レポート作成等	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	なし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名：前中 一晃（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1		

講義科目名称： 学習技法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：柔道整備学科	時間数：15時間	講義形態：講義（対面）	GoogleClassroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学でどのように学ぶのか、またそのために必要なスキルとは何かを学んでいきます。そして、授業の全体を通して、皆さんが学びに対するスキルの獲得や学びへの真摯な態度を培うことが、この授業の目的です。
授業計画	<p>第1講 大学ってどんなところ！？</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で求められる力や態度を具体的に述べることができる。</li> <li>・高校と大学との違いを述べるができる。</li> <li>・自らの学びの姿勢を見つめることができる。</li> </ul> <p>※課題1：高校と大学の違いをレポートする。</p> <p>第2講 1. 大学の昔と今、そして未来 2. 考える、てどういうこと？①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（学）明治東洋医学院の歴史を知り、自らの位置を関連づけることができる。</li> <li>・学びのスキルや思考方法を活用できる。</li> </ul> <p>第3講 1. 考える、てどういうこと？② 2. 学習スタイルを知ろう！</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びのスキル、思考方法が活用できる。</li> <li>・自らの学習スタイルを知り、自らの学びの姿勢を対象化できる。</li> </ul> <p>第4講 Active Learning①：ディプロマ・ポリシーとICEルーブリック 1</p> <p>【到達目標】</p> <p>ディプロマ・ポリシーとICEルーブリックの作成を通して、自身の学びの姿勢が確認できる。</p> <p>※課題1：提出</p> <p>第5講 Active Learning②：ディプロマ・ポリシーとICEルーブリック 2</p> <p>【到達目標】</p> <p>ディプロマ・ポリシーとICEルーブリックの作成を通して、自身の学びの姿勢が確認できる。</p> <p>※課題2：提出</p> <p>第6講 Active Learning③：図式化に挑戦！</p> <p>【到達目標】</p> <p>選択した科目の重要ポイントを図式化により整理できる。</p> <p>※課題3：図式化の成果物を提出</p> <p>第7講 本授業の振り返りとまとめ</p> <p>【到達目標】</p> <p>本授業で学んだ内容を振り返り、授業の目的と今の自分を省察することができる。</p> <p>※レポート作成：提出</p> <p>第8講</p> <p>第9講</p> <p>第10講</p> <p>第11講</p> <p>第12講</p> <p>第13講</p> <p>第14講</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外の課題は、GoogleClassroomへUPします。</li> <li>・課題内容に応じて、グループまたは個人で取り組み、GoogleClassroomへ提出してください（初回の授業で説明します）。</li> <li>・本授業における時間外学習は、週4時間となります。</li> </ul>
教科書	授業テーマ毎に応じた、自作資料を配布します。
参考書	必要により、授業テーマ毎に資料として配布します。
成績評価	<p>【評価方法・基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業内容を踏まえた課題：100点満点。</li> <li>・60点以上を合格とする。</li> </ul>

	※課題などへのコメント（評価）は、授業内で提示します（全体or個別）。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 河井 正隆 研究室 : 学修支援センター別室（3号館） メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、午後5時30分～午後7時
備考	本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。
	本授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎－2、○－3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、GoogleClassroomでお伝えします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
長尾 淳彦			
柔道整復学科	30時間	演習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】本科目では、医療者としてのキャリア育成のための理論や社会で必要な素養（コミュニケーション力、社会的なマナー）について学び、アーリーエクスポージャー（早期体験学習）として柔道整復師の職業理解を深めるため、臨床現場での見学実習を行う。また、本学近隣地域（美山町）の方とふれあい、農業体験を実施する。さらに、キャリア育成を考える上で自分の将来を見据えた行動を考える必要性を見える化するため、キャリアデザインシートの作成を行う。</p> <p>【授業目標】本科目で学ぶ、通して地域での産業を理解し、本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。また、キャリアデザインシートを作成することを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・キャリアとは何か？なぜ働くのか？ 【到達目標】キャリアとは何かを学び、キャリアデザインを作成 【授業形態】アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 柔道整復師とは1 【到達目標】柔道整復師の職業について学ぶ。大学生生活の4年間で柔道整復師として必要な素養とは何かについて理解することを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第3回 柔道整復師とは2 【到達目標】柔道整復師の職業について学ぶ。大学生生活の4年間で柔道整復師として必要な素養とは何かについて理解することを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第4回 柔道整復師とは3 【到達目標】柔道整復師の職業について学ぶ。大学生生活の4年間で柔道整復師として必要な素養とは何かについて理解することを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第5回 柔道整復師とは4 【到達目標】柔道整復師の職業について学ぶ。大学生生活の4年間で柔道整復師として必要な素養とは何かについて理解することを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第6回 大学生4年間におけるキャリアデザイン 【授業概要】4年間における学びを深めるために、この4年間での活動や勉強の目的を学生自身で考える。 【到達目標】自身で大学で学ぶ意義や目標について答えることができることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第7回 社会的マナーとは 【授業概要】既に本授業で学んだ内容を基礎とし、報告、連絡、相談、確認の意義と方法を学ぶ。 【到達目標】報告、連絡、相談、確認の意義と方法を学び、理解し、実践できることを目的とする。 アクティブラーニングの有無：有り 小グループ内で授業内課題についてディスカッションする。</p> <p>第8回 大学生4年間におけるキャリアデザイン 【授業概要】4年間における学びを深めるために、この4年間での活動や勉強の目的を学生自身で考える。 【到達目標】自身で大学で学ぶ意義や目標について答えることができることを目標とする。 【授業形態】アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第9回 農業体験学習（早期体験学習）1 本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）を体験し、地域の方とのコミュニケーションを図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。</p> <p>第10回 農業体験学習（早期体験学習）2 本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）を体験し、地域の方とのコミュニケーションを図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。</p> <p>第11回 農業体験学習（早期体験学習）3 本学の近隣地域における美山町で農業（米作り）を体験し、地域の方とのコミュニケーションを</p>

	<p>第12回 図り、地域産業や本学周辺の地域特性を知ることが目的とする。 臨床現場見学（早期体験学習） 1 柔道整復師が施術を行う現場を見学し、接骨院とはどのような医療施設なのかを理解する。また、今後4年間の学修に必要な知識について調べる。先生やそこで働くスタッフから意見を聞き、自分のキャリアを形成するために大切なことは何かを見つけることを目的とする。</p> <p>第13回 臨床現場見学（早期体験学習） 2 柔道整復師が施術を行う現場を見学し、接骨院とはどのような医療施設なのかを理解する。また、今後4年間の学修に必要な知識について調べる。先生やそこで働くスタッフから意見を聞き、自分のキャリアを形成するために大切なことは何かを見つけることを目的とする。</p> <p>第14回 （総合復習）まとめ 本科目で学んだ臨床現場での体験、農業体験について各グループでの活動内容を発表する。また、キャリアプランを実行していくために必要なことは何かというテーマで総合討論を各グループで行い、お互いで知識を高めることを目的とする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内で配布する資料を参考に復習を行う。また、授業内の課題テーマについて調べ、予習を行うことが必要である。
教科書	授業用資料を配布するため教科書指定はしない。
参考書	自分らしいキャリアのつくり方 著者：高橋俊介 PHP新書
成績評価	授業の出席基準を満たした者に評価を行う。臨床現場見学（早期体験学習）の課題レポート40%、農業体験実習課題レポート40% 授業内課題レポート20%の割合で総合的に評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>教員氏名：棚原 勝平 メールアドレス：s_tanahara@meiji-u.ac.jp 研究室：8号館4階講師室 オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>長尾淳彦：開業している臨床現場で実習を行う。 武田啓孝：開業している臨床現場で実習を行う。 服部博幸：開業している臨床現場で実習を行う。 中井嘉崇：開業している臨床現場で実習を行う。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
堀 歩未、齊藤 昌久			
配当学部：保健医療学部 柔道 整復学科	授業時間 30時間	授業形態：対面実技+ブレ ンディッド	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の健康管理と体力向上を目的として、運動についての知識と健康づくりを学ぶことができるようになる。</li> <li>・将来指導者になった際に、健康管理や健康づくりについて説明・指導ができるようになる。</li> <li>・自己で課題を見つけ解決できる能力を身につけることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回目 オリエンテーション 自己の体力向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践を体験・理解できる。</p> <p>第2回目 ウォーミングアップ [達成目標] ウォーミングアップの方法・重要性について体験・理解できる。</p> <p>第3回目 オンデマンド①</p> <p>第4回目 体力測定① 体力測定の方法① [達成目標] 体力測定（握力・上体起こし）を通して、新スポーツテストの実施方法を体験・理解できる。</p> <p>第5回目 体力測定② 体力測定の方法② [達成目標] 体力測定（反復横跳び・立ち幅跳び）を通して、新スポーツテストの実施方法を体験・理解できる。</p> <p>第6回目 オンデマンド②</p> <p>第7回目 速歩① 室内で100mウォーキングタイム測定① [達成目標] ウォーキングタイム測定により自己の歩行スピードを体験・理解できる。</p> <p>第8回目 跳躍 室内で5段跳び測定 [達成目標] 立5段跳び測定により自己の脚筋力・瞬発力を体験・理解できる。</p> <p>第9回目 オンデマンド③</p> <p>第10回目 投擲 室内で砲丸投げ（メディシンボール）測定 [達成目標] メディシンボールによる砲丸投げで自己の投擲力・筋力を体験・理解できる。</p> <p>第11回目 ハードル [達成目標] ミニハードル走から巧緻性向上と、自己の歩行・ランニングスピード向上を体験理解できる。</p> <p>第12回目 オンデマンド④</p> <p>第13回目 速歩② 屋外陸上競技場で100mタイムを測定 [達成目標] 速歩測定により自己の歩行スピードを体験・理解できる。</p> <p>第14回目 総括 [達成目標] 走る・跳ぶ・投げるを通して、ウォーミングアップの方法、重要性・コミュニケーション方法を体験・理解できる。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	受講後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習（予習35分）し、実技で学修した内容をまとめてください（復習35分）
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回までとする）。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを

	加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 堀 歩未 メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後受け付ける
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我防止・安全管理の観点から、長い爪やピアス・ネックレス・指輪等の装飾品を身に付けての受講は認めない。</li> <li>また、肩より長い髪については授業が始まるまでに束ね受講すること。</li> <li>・運動に適した服装・室内シューズを着用すること。</li> <li>・水筒（水分）等を持参し、自己管理を行うこと。</li> </ul>
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1 ○-3

講義科目名称： 生物学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：対面講義（ブレンド型）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【教育目標】</b>          生物学について学ぶことは、自分自身をより深く理解することへとつながる。講義では、カラダの器官（臓器）の位置から始まり、カラダのなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織、器官、器官系へと順に学び、ヒトのからだのかたちやはたらきについて理解し、自分の言葉で説明できることを目指す。（解剖生理学への入門）          ヒトのカラダの発生や遺伝の原理、人間が受精卵といった1個の細胞からどのようにして発生するのか、また子供はどのようにして親に似ているのかなど、生物の生きている不思議さと尊厳を学ぶ。医療人の一人として、ウイルスや微生物、植物、動物など生物界を通し、人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：胃、心臓ってどこにある？カラダの中の器官（臓器）がどこにあるのか知ろう。          [到達目標]          ヒトのカラダの中の空間と器官（臓器）の位置関係が描ける。また器官の簡単なはたらきを説明できる。          [授業形態]アクティブラーニング有り          [備考]          講義に必要な部分のプリントを配布する。講義前には各器官（心臓や腎臓、小腸など）がどこにあるか調べておくこと。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！次回講義までに必ず復習と予習をすること。次回の講義では、はじめの15分～30分で前回の講義内容をグループディスカッションして学修を深める（アクティブラーニング）。</p> <p>2回目 食物は口から入ってどこへ行く？食べ物はどう消化されるの？（消化器と酵素）          [到達目標]          口から肛門まで食べ物が通過する器官を説明できる。3大栄養素はどう消化されるか説明できる。          [授業形態]アクティブラーニング有り          [備考]          口腔、咽頭、食道、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、3大栄養素、タンパク質、糖質、脂質、消化酵素など。          講義前にWeb玉先生の指定された動画を見て、まとめノートを作成していることを前提として講義を進める（指定動画はGoogle Classroomで案内を行う）。そのため、講義までにWeb玉先生の指定動画内容を理解すること（予習：30分）。          講義中は各グループに分かれ、グループ内で各個人が必ず上記テーマ内容が説明できるように努める（アクティブラーニング）。わからない場合は徹底的に調べ、教員や友人にも聞き、まとめておき、講義後はそれを復習すること（復習：1時間）。          また、講義の終わりに講義内容の小テストを行い、どの程度理解できているか確認する。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。（3回目講義以降も同様）</p> <p>3回目 カラダをつくる物質は何からできているのか？          [到達目標]          体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。三大栄養素のタンパク質、糖質と脂質について説明できる。          [授業形態]アクティブラーニング有り          [備考]          五大栄養素(タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル)と核酸、水など</p> <p>4回目 呼吸、なぜ酸素と二酸化炭素のガス交換が必要か?(呼吸器系)          [到達目標]          ガス交換としての呼吸器系(外呼吸と内呼吸)を説明ができる。さまざまな代謝系(代謝経路 マップ)の説明ができる。          [授業形態]アクティブラーニング有り          [備考]          呼吸器:鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺など</p> <p>5回目 酸素と栄養素を運搬する血液循環としての血管、心臓の循環器系とは?          [到達目標]          酸素・栄養素を運び、毛細血管で二酸化炭素と老廃物を交換する血液とポンプの役割としての心臓を通し循環器系を説明できる。          [授業形態]アクティブラーニング有り          [備考]          循環器:心臓、動脈、静脈、生命の維持と活動に必要なエネルギーATP</p> <p>6回目 カラダの老廃物はどこへいく?(泌尿器)          [到達目標]          カラダの中の老廃物はどこで作られ、どこへ運ばれるか説明できる。          [授業形態]アクティブラーニング有り          [備考]          腎臓、尿管、膀胱、尿道、尿、アンモニア、尿素、尿酸など</p> <p>7回目 カラダをコントロールする神経系とは?          [到達目標]          カラダを動かす運動神経、感覚を伝える感覚(知覚)神経、器官の働きをコントロールする自律神</p>

	<p>経を説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  [備考]  中枢神経:脳、脊髄。末梢神経:脳神経、脊髄神経。体性神経、運動神経、感覚神経、自律神経 など</p> <p>8回目  五感とは?(感覚器系)  [到達目標]  見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れるなどの五感や感覚を説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  [備考]</p> <p>9回目  視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、触覚、感覚(表在感覚、内臓感覚、深部感覚)など  血液とカラダを守る免疫とは?  [到達目標]  血液とカラダを守る免疫系を理解し説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  [備考]  血液、血液の細胞、カラダを守る(免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など)、細胞性免疫、液性免疫</p> <p>10回目  ホメオスタシス(恒常性)とホルモン(内分泌)  [到達目標]  外部環境に対する体内環境の調節を説明できる。ホルモン(内分泌)調節について理解し説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  [備考]</p> <p>11回目  外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節(生体の化学成分はほぼ一定)、代謝、ホルモン(内分泌)。  命の誕生(生殖と発生)と性の決まるしくみ(生殖器)  [到達目標]  生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  [備考]</p> <p>12回目  途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞(精子、卵子、受精)減数分裂、染色体発生(受精卵の分化、胎児の発育・出生)。  遺伝子の働き(1)  [到達目標]  染色体と遺伝子について説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  【実習と演習】  遺伝暗号を解読しよう1。  [備考]  生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>13回目  遺伝子の働き(2)  [到達目標]  遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。オペロンを説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  【実習と演習】 遺伝暗号を解読をしよう2。自分のDNAを見てみよう!  [備考]</p> <p>14回目  生命の設計図であるDNAを簡単な実験で見てみよう!(DNAはどれだけ集めれば目で見えるのか?)  遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病  [到達目標]  遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。  [授業形態]アクティブラーニング有り  [備考]</p> <p>15回目  メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など  定期試験  各講義で行われた小テストをもとに定期テストを行う。(70%)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>講義は、講義前にWeb玉先生の指定された動画を見て、まとめノートを作成していることを前提として進める(Google Classroomで案内を行う)。そのため、講義までにWeb玉先生の指定動画内容を理解すること(予習:30分)。  講義中は各グループに分かれ、グループ内で各個人が必ず講義のテーマ内容が説明できるように努める(アクティブラーニング)。わからない場合は徹底的に調べ、教員や友人にも聞き、まとめておき、講義後はそれを復習すること(復習:1時間)。  また、講義の終わりに講義内容の小テストを行い、どの程度理解できているか確認する。  小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
教科書	(入学前教育として配布した教材) MOVE 人体のふしぎ [新訂版] 講談社編 2020年、2,200円(税込) + (講義時間ごとに補足プリントを配布)
参考書	『のほほん解剖生理学』玉先生 他(永岡書店)2016年、1,480円+税 高校教科書『生物』(教研出版)1,287円など 『生物用語集』吉田邦久 他共著(駿台文庫)1,250円+税 『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修(数件出版)1,130円+税 【もっと詳しく学びたい学生へ】 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳(丸善)15,000円+税
成績評価	第1回目から14回目までの講義内容に関連したヒトのからだの簡単な構造やはたらき、生命を構成する物質、染色体と遺伝子、遺伝などの基本知識を筆記試験で把握し、その理解度を評価する。 評価割合:小テスト30%、試験70%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 1号館2階 教授室または3号館 学修支援センター メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00
備考	①実務経験の有無: 実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生物について講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係: 1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
柔道整備学科	30時間	講義 (オンデマンド)	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	中間試験そして総括 到達目標： ・第6回までの講義内容を総合的に理解できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	いろいろエネルギー 到達目標： ・エネルギー保存の法則を説明できる。 ・モノのエネルギーが説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	試験及びまとめ 到達目標：全体的な概要の説明ができる。	

	<p>授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有.  第14回 総括  到達目標：講義全体を振り返り，自然現象を総合的に判断し説明することができる.  授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有.</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習 (130分) と講義内容の復習 (130分) を行う.
教科書	特に指定しない.
参考書	改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本 鈴木誠治 (著) ISBN-10: 404600777X
成績評価	2回の試験により成績を評価する.
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間. その他の時間はメールで予約を取って下さい.
備考	「◎-1」

講義科目名称： 化学

授業コード： 3J111

英文科目名称： Basic Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号、分子を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第3回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第4回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第5回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第6回 分子の間に働く力 到達目標：化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>第7回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第8回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第9回 溶液と濃度・コロイド 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第10回 化学反応 到達目標：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第11回 酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元 到達目標：酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>第12回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第13回 イオン化傾向・電池・電気分解 到達目標：イオン化傾向・電池・電気分解を説明できる。</p> <p>第14回 期末試験/無機・有機・高分子化合物 期末試験 到達目標：身近な化合物の性質を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習130分)
教科書	「化学の基礎—元素記号からおさらいする化学の基本—」 中川 徹夫著(化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一、梅田 雅宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とします。また、デジタルデータを正確に取り扱い、データの記録と解析をコンピュータを用いて達成できることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] オンラインストレージが利用できる 関数を使った計算を復習し、棒グラフを作成することができる キーボードショートカットを用いた操作を修得する [備考] 課題提出あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ① 度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題提出あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ② ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③ 散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など、必要に応じたグラフを選択して作成することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第7回 実験ノートとデジタルデータの取り扱い・試験 [到達目標] 実験で得たデータの安全な取り扱い方と実験ノートの意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 適した解析方法を選択して提示された数値データを正確に処理し、グラフ等を用いて視覚的にレポートを作成できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておきましょう（130分程度）。</li> <li>・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるように準備しておいて下さい。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めましょう（130分程度）。</li> <li>・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておいて下さい。</li> </ul>
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

成績評価	評価割合は試験90%、課題10%とします。 試験は選択式および記述式の問題により、総合的にデータ処理能力の到達度を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子  研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター  メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一  研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター  メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏  研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター  メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3, ○-1  講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。 アクティブラーニング形式の授業は実施しない。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、英単語の記憶、英文法の習得を中心に英語の基礎力を深め、表現力を磨いていくことが目的となります。将来、医療従事者として活動する際に必要な表現を念頭に置きながら、授業を展開していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	文・句型 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	疑問詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	形容詞・副詞・比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	動詞・時制I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	動詞・時制II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	法I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	法II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	関係詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	まとめ1	

第14講	<p>[到達目標]これまでの授業内容を理解することができる。          [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出          [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。          まとめ2（評価を含む）          [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。          [授業形態]前回提出物の返却→まとめ→評価（仮）          [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業では、英単語を習得できるように毎回小テストを実施しますので準備してください。また、授業ごとに英単語や英語表現を身につけ、次の授業では活かせるように、復習することも大切です。          また、本講義においてはTOIECやTOEFLなどの学外英語検定、国家試験等に対応した英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していく予定です。自らの将来的なビジョンを明確にするよう、心がけてください。</p>
教科書	<p>授業ごとにこちらから授業資料を配布します。資料をまとめるファイルを用意してください（形式は任意）。</p>
参考書	<p>授業ごとに必要があれば紹介します。</p>
成績評価	<p>授業への参加、提出物（単語テストと課題）と、定期試験またはレポートの結果より総合的に評価します。授業参加・提出物30～50%、定期試験またはレポート50～70%を目安として考えています。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小島 奈名子          研究室 : 1号館2階          メールアドレス : n_kojima@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー :</p>
備考	
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、英単語の記憶、英文法の習得を中心に英語の基礎力を深め、表現力を磨いていくことが目的となります。将来、医療従事者として活動する際に必要な表現を念頭に置きながら、授業を展開していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	文・文型 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	疑問詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	形容詞・副詞・比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	動詞・時制I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	動詞・時制II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	法I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	法II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	関係詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	まとめ1	

第14講	<p>[到達目標]これまでの授業内容を理解することができる。          [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出          [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。          まとめ2（評価を含む）          [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。          [授業形態]前回提出物の返却→まとめ→評価（仮）          [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業では、英単語を習得できるように毎回小テストを実施しますので準備してください。また、授業ごとに英単語や英語表現を身につけ、次の授業では活かせるように、復習することも大切です。また、本講義においてはTOIECやTOEFLなどの学外英語検定、国家試験等に対応した英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していく予定です。自らの将来的なビジョンを明確にするよう、心がけてください。</p>
教科書	<p>授業ごとにこちらで授業資料を配布します。資料をまとめるファイルを用意してください（形式は任意）。</p>
参考書	<p>授業ごとに必要があれば紹介します。</p>
成績評価	<p>授業への参加、提出物（単語テストと課題）と、定期試験またはレポートの結果より総合的に評価します。授業参加・提出物30%～50%、定期試験またはレポート50%～70%を目安として考えています。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小島 奈名子          研究室 : 1号館2階          メールアドレス : n_kojima@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー :</p>
備考	
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
矢原 昭文			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語を学ぶことである。発音が難しい、といわれている中国語の音声の仕組みを理解しつつ、身につける方法として；①シャドーイングの反復、リスニングと発音、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行的に練習し、身につける。②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ初級中国語の運用力を身につける。学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語とその表現法を日本語、英語と対照しつつ材料に採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つとする。</p>
授業計画	<p>1回目 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標] ①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」（p.74-75）に基づいて学ぶ。教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備（p11-16）を予習する。 [備考]補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>2回目 第1課「自己紹介」を学ぶ [到達目標]発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。 [備考]次回授業の準備：p.17-18「ドリル」を完成し、p.19-22を予習する。</p> <p>3回目 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p.20）の発音練習・書取を行う。 [備考]さらに、次回授業の準備：p.23-24「ドリル」を完成し、p.25-28を予習する。</p> <p>4回目 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。 [備考]さらに、発音：鼻母音と「新出語句」（p.26）の発音・書取を行う。</p> <p>5回目 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。 [備考]次回授業の準備：p.29-30「ドリル」を完成し、p.31-35を予習する。</p> <p>6回目 第4課「病室はどこですか」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。 [備考]さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p.33）の練習・書取を行う。</p> <p>7回目 第4課「病室はどこですか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。 [備考]次回授業の準備：p.36-37「ドリル」を完成し、p.38-41を予習する。</p> <p>8回目 第5課「具合はいかがですか」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。 [備考]さらに、発音：「新出語句（p.38）」「補足語句（p.40）」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>9回目 第5課「具合はいかがですか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。 [備考]次回授業の準備：p.42-43「ドリル」を完成し、p.44-46を予習する。</p> <p>10回目 第6課「心配ありません」の学習</p>

	<p>[到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考]さらに、発音：「新出語句 (p. 44)」「補足語句 (p. 46)」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>11回目 第6課「心配いりません」の復習 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>12回目 [備考]次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。 また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認、補正する。</p> <p>13回目 [備考]さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。 さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>14回目 [備考]また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。また前回ドリルの答え合わせを行う。 [備考]評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>①予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果がある。特にイントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果がある。</p> <p>②シャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高い。「ドリル」を完成することも定着するためには大切である。</p> <p>③ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来る。自分で時間の配分を考えながら、実行することを習慣にすると効果は高い。</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100 円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%) の成績を総合して評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ)</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 アナ クリスチーナ アケミ			
配当学科：柔整	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標はポルトガル語の初級会話および初級文法を習得することにある。本学のポルトガル研修実施を鑑み、研修に必要かつ使用頻度の高いポルトガル語を習得していく。内容としては、自己紹介や質問方法（目的地までの行き方や食事時の注文方法、患者の容態確認など）をロールプレイ、グループワークを通して学び、病院研修にて必要な医療用語も学習する。また、日本と関りが深いポルトガルやブラジルの文化、習慣にも触れ、言語学習にとどまらないより広い視野での学びを目指す。</p>		
授業計画	第1講	<p>ポルトガル・ブラジル、ポルトガル語について知ろう          [到達目標]          ポルトガル語を公用語とする代表的な国々について知り、ポルトガル語の学習をアルファベットからはじめる。          アルファベット、発音、読み方 (1)          [備考]</p>	
	第2講	<p>ポルトガル語の読み方をマスターし、あいさつ表現を学ぼう          [到達目標]          ポルトガル語の読み方をマスターし、基本的な挨拶をポルトガル語で出来るようにする。          読み方 (2)、挨拶表現 (1)          [備考]</p>	
	第3講	<p>単語表「家族」 (名詞の学習)          所有詞、SER動詞 1          [到達目標]          学習した挨拶表現でロールプレイ。基礎文法：所有詞「誰々の〇〇」、SER動詞「～です」の学習。</p>	
	第4講	<p>単語表「サッカー」          SER動詞 2：自己紹介・出身地、形容詞          [到達目標] SER動詞を使ってロールプレイ。</p>	
	第5講	<p>単語表「事故、トラブル」          ESTAR動詞 1          [到達目標] ESTAR動詞「～です、～ます」の学習</p>	
	第6講	<p>単語表「からだ」          ESTAR動詞 2：現在進行形          [到達目標] ESTAR動詞を使ってロールプレイ：診察時の問診形式。</p>	
	第7講	<p>単語表「病気、ケガ」          中間のまとめ (評価)、映像学習。          [到達目標] 筆記やヒアリングのテストを行うことで、自己の学習の定着度合いを確認する。</p>	
	第8講	<p>中間テストの実施          IR動詞、FAZER動詞          [到達目標] IR動詞「～行く」とFAZER動詞「～する、作る」の学習。ロールプレイ。</p>	
	第9講	<p>単語表「動詞の原形」          QUERER動詞、指示詞          [到達目標] QUERER動詞「～が欲しい、～したい」の学習。ロールプレイ。</p>	
	第10講	<p>単語表「ポルトガル土産」「料理」          TER動詞、数詞          [到達目標] TER動詞「～持っている、～いる、～ある、～しなければならない」の学習。          数詞 1～999。ロールプレイ。</p>	
	第11講	<p>単語表「お菓子」「軽食、飲み物」          疑問詞、規則動詞の現在形 1、GOSTAR動詞          [到達目標]          様々な疑問詞を学習し、これまでに習った動詞を用いて疑問文を作ろう！グループワーク、ロールプレイ。規則動詞の現在形、活用と用法の学習。GOSTAR動詞「～好き、～するのが好き」</p>	
	第12講	<p>単語表「趣味」          規則動詞の現在形 2          [到達目標] 動詞を現在形に活用し、使う練習。グループワーク、ロールプレイ。          [備考]</p>	

	<p>第13講 全体のまとめ（評価）、映像学習。 [到達目標] 筆記やヒアリングのテストを行うことで、自己の学習の定着度合いを確認する。</p> <p>第14講 [備考] 期末テストの実施 過去形 [到達目標] 規則動詞の直説法過去の学習。これまでの総復習。 [備考] 期末テストの返却</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業で学習した内容を復習するための課題プリントを解き提出すること。または事前に調べるテーマ（ポルトガルやブラジルの文化・社会情勢など）を講師より指示。プリントにまとめ提出すること。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	講師の自作プリントを使用
参考書	授業で紹介
成績評価	授業に対する意欲、積極的な参加、課題の提出、中間・期末テストの点数などによって評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山本 アナ クリスティーナ アケミ 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、梅田 雅宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを活用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るに当たり必要なコンピュータスキル(特にExcel)と犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標]</p> <p>本学のコンピュータ利用方法を理解する コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>入学時ガイダンスでの配布物（パスワードが記載された用紙）を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標]</p> <p>電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p> <p>必要に応じてUSBメモリーを持参すること（任意）</p>	
	第3講	<p>学修の記録とポートフォリオ</p> <p>[到達目標]</p> <p>学修記録の必要性を理解する Cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第4講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考]</p> <p>提出課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標]</p> <p>グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考]</p> <p>提出課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標]</p> <p>引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考]</p> <p>提出課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考]</p> <p>提出課題あり</p>	
	第8講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標]</p> <p>表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考]</p> <p>表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第9講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>IT情報リテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスなマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策 について知識を修得する [備考] 講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施 NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと 文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第10講</p> <p>第11講</p> <p>ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第12講</p> <p>デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第13講</p> <p>デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第14講</p> <p>プログラミングと論理的思考 [到達目標] プログラミングとは何かを理解する スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題提出あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(35分程度)。 必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(35分程度)。 第9講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック 2021年度版」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。 評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1, ○-3  講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
河合 裕子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 医療システムから出力されるデジタルデータの取り扱いを想定し、実際に取得したデータを使って表計算ソフトを利用した四則演算・データ解析・統計学の手法を活用したデータ処理を実践することで、データを正しく判断できる力を養います。また、医療情報の新しい展開として期待されるウェアラブルデバイスなどIoTの現状について、医療情報収集における課題やセキュリティ対策などを踏まえて調査し、今後のデータ活用のあり方を考えます。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・医療情報システムから出力されるデータを正しく把握するための統計学の基礎知識を修得する。 ・医療システムについて理解し、診療情報を含めた医療情報の流れなどの仕組みを理解し、医療情報のあり方について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1講 統計学の概念 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第2講 統計手法の理解 [到達目標] パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 対応の有無について理解し、判別することができる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第3講 グラフを使った多様な表現方法とデータ処理 [到達目標] グラフで表現できる事項を理解する データの可視化において必要となる「正しいグラフの選択」ができる データ処理上の誤りを指摘することができる 複合グラフの読み取りができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第4講 実務における統計 [到達目標] 推計統計と記述統計の違いを理解する 統計が必要となる場面を想定し、どのような技術を身につける必要があるのか考察する データをグラフや表で表現することができる データに即した統計的表現を選択することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第5講 統計処理の実践 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと表および数値の読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる 独力でデータの統計処理を実施できる [備考] 講義後半の時間で到達度試験を実施する</p> <p>第6講 医療情報システムとデータベースの概念 [到達目標] 医療システムの仕組みを理解する 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] レポートあり</p> <p>第7講 IoT技術の医療へ新しい展開の理解 [到達目標] 医療用デバイスの意義と問題点について、情報を集めることができる 多岐にわたるデバイスから得られるデータがどのように収集され、活用されているのかを理解する [備考] レポートあり</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめましょう。(130分程度)</li> <li>・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躓き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにして下さい。(130分程度)</li> <li>・講義をやむを得ず欠席した場合は必ず欠席した講義内容を確認し、演習問題にチャレンジして下さい。</li> <li>・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。</li> </ul>
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	評価割合は試験80%、課題20%とします。 試験は選択式の問題を解答し、統計学的な判断力を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	担当教員の基本情報 担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-3  講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
佐別当 義博			
添付ファイル			

授業目標	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、生命倫理学成立の歴史的背景、生命倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に理解する。重要なことは、この理解をもとに、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療・看護の具体的な状況と関係づけて、考えることである。この思考がどの程度達成されているかを確認する為に授業内レポートを実施する。このレポートは、採点し必要に応じてコメントを記し返却するので、受講生は再度しっかり考える機会になる。生命を扱う職業人として倫理的思考を展開できる素養と姿勢を身に付けてほしい。
授業計画	<p>第1講 ガイダンスならびに生命倫理の課題と特殊性 [到達目標] 医療関連の倫理綱要を知り、倫理学を学ぶ意義を理解する。</p> <p>[備考] 各自志望する業界にどのような倫理綱要があるか調べておく。</p> <p>第2講 生命倫理の歴史 [到達目標] 生命倫理の歴史を社会問題との関連で理解し、生命倫理の必要性を説明できる。</p> <p>[備考] ヒポクラテスの誓い、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言を一読しておく。</p> <p>第3講 生命倫理の原則 1 [到達目標] SOLとQOLの2原則を理解し、具体的な問題に適用できるようになる。</p> <p>[備考] 医療関係者と患者との関係についてどうあるべきか考えておく。</p> <p>第4講 生命倫理の原則 2 [到達目標] 自己決定とパターンリズムを理解し、具体的な問題に適用できるようになる。</p> <p>[備考] 保護者（救援者）と被保護者（被救援者）との関係についてどうあるべきか考えておく。</p> <p>第5講 生殖補助医療 [到達目標] 生殖補助医療に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。</p> <p>[備考] 生殖補助医療の問題点について調べておく。</p> <p>第6講 脳死と臓器移植 [到達目標] 脳死・臓器移植に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。</p> <p>[備考] 脳死判定の問題点について調べておく。</p> <p>第7講 尊厳死と安楽死 [到達目標] 尊厳死・安楽死について自分なりの是非論を展開できるようになる。</p> <p>[備考] 尊厳死・安楽死が事件化した事例について調べておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義資料等を参考に、授業計画に記載した課題についてメモを作っておくこと（予習130分）。 2. 授業時に取ったノートもとにテーマに即した内容を文章化しておくこと（復習130分）。 後述する授業内レポートを作成する際に必要となるので励行してください。
教科書	使用しない。
参考書	『医療倫理 1』 グレゴリー・E・ペンス著 みすず書房出版 2000年 5,500円 『医療倫理 2』 グレゴリー・E・ペンス著 みすず書房出版 2001年 5,500円
成績評価	①評価方法 2回の授業内レポートで評価する。第4講と第6講に実施する。 レポート作成時には自作ノート持ち込み可。採点の結果基準を満たさない場合には再レポートを課す。 ②評価基準 倫理学の課題として展開されているかどうか 40% 論理的に展開されているかどうか 30% 自分なりの問題意識が明確化どうか 30% ③留意事項 私語は厳禁。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 佐別当 義博（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : y-sabetto@outlook.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	チーム医療の中で鍼灸師や漢方の専門医が使う東洋医学の用語を理解できるようになるための科目である。東洋医学における人体のとらえ方や自然界との関わりを学習する。また、病になる原因や簡単なツボ療法についても紹介し、東洋医学の基礎を理解することが目標である。東洋医学の基礎を理解して、その基本的な内容を説明できるようになる。
授業計画	<p>1回目 東洋医学とは何か [到達目標] 東洋医学の特徴を説明できる [授業形態] 前半に講義、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P18～23：東洋医学の概念、統一体観を覚える</p> <p>2回目 気 [到達目標] 人体を構成する4要素や気の内容を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P24～29：4要素、気の種類、気の作用を覚える</p> <p>3回目 血・津液・精・神 [到達目標] 血・津液・精・神の概念を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P30～35：血・津液の作用、精・神の種類、気虚・気滞を覚える</p> <p>4回目 血・津液・精の変調 [到達目標] 各変調の概要を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P36～41：各変調の概要（key word参照）を覚える</p> <p>5回目 五臓六腑、心・肺 [到達目標] 五臓六腑と心・肺を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P42～45：五臓六腑の名称、心・肺の主な機能を覚える</p> <p>6回目 脾・肝・腎、六腑 [到達目標] 脾・肝・腎、六腑を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P46～49：脾・肝・腎の主な機能や六腑の名称を覚える</p> <p>7回目 五行説と心・肺の変調 [到達目標] 相生・相克と心・肺の症状を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P50～55：相生・相克の概念、心・肺の主な症状を覚える</p> <p>8回目 脾・肝・腎の変調 [到達目標] 脾・肝・腎の症状を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P56～61：脾・肝・腎の主な症状を覚える</p> <p>9回目 六腑の変調、色体表 [到達目標] 六腑の症状を説明できる [授業形態] 前半に講義、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P62～67：六腑の主な症状と色体表を覚える</p> <p>10回目 病因1 [到達目標] 外因を概説できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P68～71：病因の種類、外因の概念を覚える</p> <p>11回目 病因2 [到達目標] 内因と不内外因を概説できる [授業形態] 前半に講義、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする [備考] P72～75：内因・不内外因の概念を覚える</p> <p>12回目 経絡 [到達目標] 経絡の概念を説明できる [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメント</p>

	<p>を書き、次の時間にフィードバックする  [備 考] P116～125：経絡の概念、十二経脈名を覚える  経穴  [到達目標] 経穴の概念を説明できる  [授業形態] 前半に講義と実技、後半に小テストを行う。コミュニケーションカードにコメントを書き、次の時間にフィードバックする  [備 考] P126～139：経穴の概念を覚える</p> <p>14回目  まとめ  [授業形態] 鍼灸を中心とした東洋医学のまとめと評価  [授業形態] 筆記試験を行い、その後、解説を行う。  [備 考] 東洋医学・鍼灸の要点を理解し、その主な概略を記載できる。  また教科書の要点を読んで、その内容の正誤が判断できる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義の前日までに教科書の該当部分を読み、概要を理解しておいてください。 復習は主に授業計画の備考欄にある内容を覚えてください。
教科書	「東洋医学のしくみ」兵頭 明 監修 (新星出版社)
参考書	「東洋医学概論」東洋療法学校協会 (医道の日本社) 「鍼灸学基礎編」日中共同編集 (東洋学術出版社)
成績評価	評価方法：受講状況と試験結果を総合して評価する。 評価割合：受講状況 30%；受講態度 (取り組み)、成果物など 試験 70%；形式は穴埋め、選択問題、語句の説明、記述など。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教授室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (月曜日を除く)
備考	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。在宅訪問鍼灸にも従事していた。 DP：◎-1
	アクティブラーニング：毎回授業の後半で小テストを行って自らが解答した後、その解答を話し合う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：オンデマンド授業	
添付ファイル			

授業目標	本科目では柔道整復師の職業倫理の模範となる「医の倫理」について理解を深め、社会的な役割や責任について個人が行動を律する基準・範囲について学修する。また、医療者としてのモラルを身に付けることの大切さを学修する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・医の倫理について ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言など医の倫理に関する知識を学ぶ。 【到達目標】 ヒポクラテスの誓いについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第2回 インフォームド・コンセントについて インフォームド・コンセントの成り立ち、意義などの知識を学ぶ。 セカンドオピニオンについての知識を学ぶ。 【到達目標】 インフォームド・コンセントについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第3回 医療人としてのモラルについて ハラスメント・社会人のモラルに関する知識を学ぶ。 【到達目標】 医療人としてのモラルを習得する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第4回 医療費・療養費について 現状の医療制度・療養費についての知識を学ぶ。 【到達目標】 柔道整復師が扱う療養費の仕組みについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第5回 受領委任払い制度・柔道整復師の保険請求について 受領委任払い・柔道整復師の保険請求についての知識を学ぶ。 【到達目標】 受領委任払い・保険請求の仕組みについて理解する。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第6回 柔道整復師の職業倫理について 柔道整復師としての職業倫理についての知識を学ぶ。 【到達目標】 架空請求・水増し請求などの違反行為について学ぶ。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第7回 まとめ（評価含む） 本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時毎に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載して次の授業までに自習（約90分程度）または教員に聞き、理解する。
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（監修）川渕孝一・長尾淳彦 医歯薬出版株式会社
参考書	教員作成資料
成績評価	出席基準を充たした者に筆記試験(100%)を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 棚原 勝平 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : s_tanahara@meiji-s.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時
備考	整形外科病院、整骨院での臨床経験をもとに授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
柔道整備学科	30時間	実習(対面授業)	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。</li> <li>2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。</li> <li>3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。</li> <li>4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。</li> <li>5. 審判規定が理解できる。</li> <li>6. 柔道の歴史、柔道の理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身を理解し、国家試験問題に対応できる能力を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣がないので、スポーツウェアを持参してください。 1) 柔道の概要(歴史や理念)が理解できる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。</p> <p>第2回 柔道衣の着方・柔道の概要・礼法・受け身・立技・固技 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 後受け身ができる。 4) 立技(大外刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 5) 固技(袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第3回 礼法・受け身・立技・固技 1) 横受け身ができる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 立技(背負投)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 4) 固技(縦四方固)の理解ができる。</p> <p>第4回 礼法・受け身・立技・固技 1) 前回り受け身ができる。 2) 立技(一本背負投)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(上四方固)の理解ができる。</p> <p>第5回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(大腰)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(逆袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第6回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(体落)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(肩袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第7回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(払腰)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技の掛け方が理解ができる。</p> <p>第8回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(膝車)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第9回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(支釣込足)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第10回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(大内刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第11回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(小内刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技・関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第12回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p> <p>第13回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。</p>

	<p>第14回</p> <p>3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。          まとめ、理解度チェック          1) 礼法（立礼、座礼）ができる。          2) 受け身ができる。          3) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。          4) 固技の掛け方ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し（予習35分）、実技で学修した内容をまとめてください（復習35分）。</p>
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著（史資料出版協会）
成績評価	<p>授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清          研究室 : 体育館・教員室          メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 堀 歩未          研究室 : 体育館・教員室          メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
柔道整備学科	30時間	実習(対面授業)	
添付ファイル			

授業目標	1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。 4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。 5. 立技・固技の乱取（実践練習）を通して柔道の楽しさを実感しながら身体精神が鍛錬できる。 6. 柔道の歴史、柔道の理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身を理解し、国家試験問題に対応できる能力を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 1) 学習の取り組み方や方針が理解できる。 2) 柔道衣を正しく着ることができる。 3) 礼法（立礼、座礼）ができる。 4) 受け身ができる。	
	第2回	投技・固技の対人的技能Ⅰ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技の応用が理解できる。	
	第3回	投技・固技の対人的技能Ⅰ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技の応用が理解できる。	
	第4回	投技・固技の対人的技能Ⅰ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 立技の応用が理解できる。	
	第5回	投技・固技の対人的技能Ⅱ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 相手の動きに合わせて立技ができる。	
	第6回	投技・固技の対人的技能Ⅱ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 相手の動きに合わせて立技ができる。	
	第7回	投技・固技の対人的技能Ⅱ 1) 受け身ができる。 2) 固技の応用が理解できる。 3) 相手の動きに合わせて立技ができる。	
	第8回	投技・固技の対人的技能Ⅲ 1) 受け身ができる。 2) 相手の動きに合わせて固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第9回	投技・固技の対人的技能Ⅲ 1) 受け身ができる。 2) 相手の動きに合わせて固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第10回	投技・固技の対人的技能Ⅲ 1) 受け身ができる。 2) 相手の動きに合わせて固技ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第11回	投技・固技の対人的技能Ⅳ 1) 受け身ができる。 2) 立技の乱取ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第12回	投技・固技の対人的技能Ⅳ 1) 受け身ができる。 2) 立技の乱取ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第13回	投技・固技の対人的技能Ⅳ 1) 受け身ができる。 2) 立技の乱取ができる。 3) 固技の乱取ができる。	
	第14回	まとめ、理解度チェック	

	<p>1) 受け身・礼法ができる。 2) 総合的な動きができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し(予習35分)、実技で学修した内容をまとめてください(復習35分)。</p>
教科書	なし
参考書	学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著(史資料出版協会)
成績評価	<p>授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回まで可とする)。 実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 堀 歩未 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連: ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
吉田 勲生・石橋 重良			
柔道整復学科	60時間	講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>人体の構造の理解と知識は、柔道整復学はもとより医学領域においては最も基礎となり欠かすことのできないものである。解剖学 I では、骨学から筋学まで講義する。特に骨学は、全身の骨の名称、その部位名をカバーするので内容は非常に多い。しかし柔道整復師になるための基礎中の基礎であり十分な学修が絶対に必要となるため、柔道整復学の専門講義を理解することができる基礎知識の確立が目標である。</p>
授業計画	<p>1 講：吉田 勲 骨学 1  [到達目標] 器官系、骨学総論（骨の種類、骨組織）、骨の連結について説明できる。  [備考] 教科書P. 17, P. 21～P. 26を学修する。</p> <p>2 講：吉田 勲 骨学 2  [到達目標] 骨の連結（関節）、脊柱（脊柱の構成、頸椎）について説明できる。  [備考] 教科書P. 26～P. 31を学修する。</p> <p>3 講：吉田 勲 骨学 3  [到達目標] 脊柱（胸椎、腰椎、仙骨、尾骨、脊柱の弯曲、脊柱の連結）について説明できる。  [備考] 教科書P. 31～P. 33を学修する。</p> <p>4 講：吉田 勲 骨学 4  [到達目標] 胸郭、胸骨、肋骨、上肢骨の構成、肩甲骨について説明できる。  [備考] 教科書P. 33～P. 38を学修する。</p> <p>5 講：吉田 勲 骨学 5  [到達目標] 鎖骨、上腕骨、橈骨について説明できる。  [備考] 教科書P. 38～P. 41を学修する。</p> <p>6 講：吉田 勲 骨学 6  [到達目標] 尺骨、手の骨、上肢の関節について説明できる。  [備考] 教科書P. 40～P. 46を学修する。</p> <p>7 講：吉田 勲 骨学 7  [到達目標] 下肢骨の構成、寛骨、骨盤について説明できる。  [備考] 教科書P. 46～P. 50を学修する。</p> <p>8 講：吉田 勲 骨学 8  到達目標 大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨について説明できる。  [備考] 教科書P. 50～P. 53を学修する。</p> <p>9 講：吉田 勲 骨学 9  [到達目標] 足の骨、足弓、下肢の関節について説明できる。  [備考] 教科書P. 53～P. 59を学修する。</p> <p>10 講：吉田 勲 骨学 10  [到達目標] 頭蓋骨概論、脳頭蓋の構成、顔面頭蓋の構成、頭蓋冠について説明できる。  [備考] 教科書P. 59～P. 65を学修する。</p> <p>11 講：吉田 勲 骨学 11  [到達目標] 脳頭蓋の構成、顔面頭蓋の構成、頭蓋冠、頭蓋前面について説明できる。  [備考] 教科書P. 65～P. 68を学修する。</p> <p>12 講：吉田 勲 骨学 12  [到達目標] 頭蓋底、頭蓋前面について説明できる。  [備考] 教科書P. 65～P. 68を学修する。</p> <p>13 講：吉田 勲 骨学 13  [到達目標] 頭蓋側面、頭蓋泉門、顎関節について説明できる。  [備考] 教科書P. 68～. 70を学修する。</p> <p>14 講：吉田 勲 骨学 14 総括（吉田勲担当分）  [到達目標] 吉田担当分の講義内容についての設問に60%以上解答できる。  [備考]</p> <p>1 講：石橋 筋学 1</p>

	<p>到達目標] 骨格筋（筋の形態と起始・停止、筋の作用）について説明できる。 [備考] 教科書P. 70～P. 76を学修する。</p> <p>2講：石橋 筋学2 [到達目標] 頭部の筋、頸部の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 76～P. 81を学修する。</p> <p>3講：石橋 筋学3 [到達目標] 胸部の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 81～P. 84を学修する。</p> <p>4講：石橋 筋学4 [到達目標] 腹部の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 85～P. 88を学修する。</p> <p>5講：石橋 筋学5 [到達目標] 背部の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 88～P. 92を学修する。</p> <p>6講：石橋 筋学6 [到達目標] 上肢帯の筋、上腕の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 92～P. 97を学修する。</p> <p>7講：石橋 筋学7 [到達目標] 前腕の屈筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 97～P. 100を学修する。</p> <p>8講：石橋 筋学8 [到達目標] 前腕の伸筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 97～P. 100を学修する。</p> <p>9講：石橋 筋学9 [到達目標] 手の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 102～P. 107を学修する。</p> <p>10講：石橋 筋学10 [到達目標] 下肢帯の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 107～P. 111を学修する。</p> <p>11講：石橋 筋学11 [到達目標] 大腿の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 111～P. 114を学修する。</p> <p>12講：石橋 筋学12 [到達目標] の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 114～P. 118を学修する。</p> <p>13講：石橋 筋学13 [到達目標] の筋について説明できる。 [備考] 教科書P. 118～P. 122を学修する。</p> <p>14講：石橋 筋学14 [到達目標] 石橋担当分の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>高校までの学習と比べ、この科目の授業進行は極めて速い。事前に次回授業範囲を教科書で下調べを行い、あらかじめ疑問点を見つけ出しておく（予習65分）。講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に直接またはmellyを利用して質問し、疑問点の速やかな解消につとめる。</p> <p>さらに復習として、授業内容をノートにまとめ直すことなどにより理解を深め、講義内容の記憶定着につとめる（復習65分）。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版 7800円（+税） ※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。 また、講義内容の理解を深めるため、プリント資料を配ることがある。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円（+税） ※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用する。より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p>吉田勲担当分と石橋担当分に分け、それぞれ50%ずつの配点を案分して評価する。主に選択問題からなる期末試験により評価する。受験資格は、それぞれの担当講義において3/5以上の出席を満たすこととする。両担当分の評価をあわせ、6割以上を取得した場合を合格とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田勲生 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 石橋重良 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : ishibashi@meiji-s.ac.jp オフィスアワー : 月曜日15:40-17:20</p>
備考	
	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1
	この科目は、対面の講義形式にて実施する。アクティブラーニング形式の学修は行わない。
	教室内は一つの社会と解釈される。医療人になるとの目的を忘れることなく、他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を強く期待する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	2	必修
担当教員			
渡邊 康晴			
柔道整復学科	前期30時間、後期30時間	講義、対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>人体の構造の理解と知識は、柔道整復学はもとより医学領域において基盤となる知識であり、疾病を学ぶ上でも必要不可欠である。解剖学Ⅱでは、主に脈管学と内臓学を学ぶ。外傷や疾患を学ぶうえで必要な血管の走行や内臓の構造についての理解を深め、患者を診る際に重要な人体について説明できるようにすることを目標とする。</p> <p>脈管学と内臓学は必ず国家試験に出題され、その問題数も多い。このため、授業と自学自習を通し、国家試験の水準まで脈管学と内臓学の「知識と理解と定着」を高めることができる点を高く評価する。</p>
授業計画	<p>前期：1講 解剖学基礎 細胞 [到達目標] 解剖学概論、解剖学用語、細胞（染色体、細胞小器官、細胞分裂）について説明できる。 [備考] 教科書P.1～P.8を学修する。 授業の冒頭にガイダンスを実施する。</p> <p>前期：2講 解剖学基礎 組織 [到達目標] 組織学（上皮組織、支持組織、筋組織）について説明できる。 [備考] 教科書P.8～P.14を学修する。</p> <p>前期：3講 脈管 総論・心臓1 [到達目標] 体循環と肺循環、血管の形態と構造、心臓の位置と形態について説明できる。 [備考] 教科書P.123～P.127を学修する。</p> <p>前期：4講 脈管 心臓2 [到達目標] 心臓の構造、心臓の弁、心臓壁の構造、刺激伝導系について説明できる。 [備考] 教科書P.127～P.131を学修する。</p> <p>前期：5講 脈管 心臓3・動脈系1 [到達目標] 心臓の脈管、心臓の神経、心膜、大動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.131～P.135を学修する。</p> <p>前期：6講 脈管 動脈系2 [到達目標] 頭頸部の動脈、上肢の動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.135～P.139を学修する。</p> <p>前期：7講 脈管 動脈系3 [到達目標] 胸大動脈、腹大動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.139～P.142を学修する。</p> <p>前期：8講 脈管 動脈系4 [到達目標] 骨盤部の動脈、下肢の動脈について説明できる。 [備考] 教科書P.142～P.145を学修する。</p> <p>前期：9講 脈管 静脈系1 [到達目標] 上大静脈に注ぐ静脈、下大静脈に注ぐ壁側枝について説明できる。 [備考] 教科書P.145～P.148を学修する。</p> <p>前期：10講 脈管 静脈系2・胎児循環 [到達目標] 下大静脈に注ぐ臓側枝、胎児循環について説明できる。 [備考] 教科書P.148～P.152を学修する。</p> <p>前期：11講 脈管 リンパ系 [到達目標] リンパ本幹に注ぐリンパ、リンパ性器官について説明できる。 [備考] 教科書P.152～P.156を学修する。</p> <p>前期：12講 内臓 内分泌系1 [到達目標] 内分泌の働き、下垂体、松果体の内分泌について説明できる。 [備考] 教科書P.207～P.210を学修する。</p> <p>前期：13講 内臓 内分泌系2 [到達目標] 甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓の内分泌について説明できる。 [備考] 教科書P.211～P.215を学修する。</p> <p>前期：14講 解剖学基礎、脈管および内分泌 総括 [到達目標] 解剖学基礎、脈管および内分泌についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験実施後に問題の解答解説を行う。</p> <p>後期：1講 解剖学基礎 発生学・内臓 消化器系1 [到達目標] 発生学、内臓学総論、消化器の種類と構造（口腔）について説明できる。 [備考] 教科書P.14～P.17、P.157～P.163を学修する。</p> <p>後期：2講 内臓 消化器系2 [到達目標] 消化器の種類と構造（咽頭、食道、胃）について説明できる。 [備考] 教科書P.163～P.167を学修する。</p> <p>後期：3講 内臓 消化器系3</p>

	<p>[到達目標] 消化器の種類と構造(小腸、大腸)について説明できる。 [備考] 教科書P.167～P.171を学修する。</p> <p>後期：4講 内臓 消化器系4</p> <p>[到達目標] 消化器の種類と構造(肝臓と胆道、膵臓、腹膜)について説明できる。 [備考] 教科書P.171～P.177を学修する。</p> <p>後期：5講 内臓 呼吸器系1</p> <p>[到達目標] 呼吸器(外鼻、鼻腔と副鼻腔、喉頭)について説明できる。 [備考] 教科書P.177～P.181を学修する。</p> <p>後期：6講 内臓 呼吸器系2</p> <p>[到達目標] 呼吸器(気管および気管支、肺、胸膜、縦隔)について説明できる。 [備考] 教科書P.181～P.186を学修する。</p> <p>後期：7講 内臓 泌尿器系1</p> <p>[到達目標] 泌尿器(腎臓)について説明できる。 [備考] 教科書P.186～P.190を学修する。</p> <p>後期：8講 内臓 泌尿器系2</p> <p>[到達目標] 泌尿器(尿管、膀胱、尿道)について説明できる。 [備考] 教科書P.190～P.192を学修する。</p> <p>後期：9講 内臓 生殖器系1</p> <p>[到達目標] 男性生殖器(精巣と精巣上体、精管)について説明できる。 [備考] 教科書P.192～P.195を学修する。</p> <p>後期：10講 内臓 生殖器系2</p> <p>[到達目標] 男性生殖器(精嚢、付属生殖器、陰茎と陰嚢)について説明できる。 [備考] 教科書P.195～P.197を学修する。</p> <p>後期：11講 内臓 生殖器系3</p> <p>[到達目標] 女性生殖器(卵巣、卵管)について説明できる。 [備考] 教科書P.197～P.200を学修する。</p> <p>後期：12講 内臓 生殖器系4</p> <p>[到達目標] 女性生殖器(子宮、膣)について説明できる。 [備考] 教科書P.200～P.202を学修する。</p> <p>後期：13講 内臓 生殖器系5</p> <p>[到達目標] 女性生殖器(外陰部、会陰、胎盤)について説明できる。 [備考] 教科書P.202～P.205を学修する。</p> <p>後期：14講 消化器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系 総括 [到達目標] 発生学、消化器系、呼吸器系、泌尿器系および生殖器系についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験実施後に問題の解答解説を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>高校までの学習と比べ、授業進行は極めて速い。事前に教科書を読み、次回の授業範囲の下調べを行う(予習30分)。 授業は、人体の構造を「理解する」ことに重点をおく。 授業後の復習として、授業内容をノートにまとめ直すことなどにより理解を深め、講義内容の記憶定着につとめる(復習50分)。 Google classroom上にある小テスト(国家試験の過去問題)を行い、知識の理解と定着を確認する(演習復習50分)。</p>
教科書	<p>「解剖学」改定第2版、公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修、岸 清・石塚 寛 編、医歯薬出版 7800円(+税)。 ※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。 また、講義内容の理解を深めるため、プリント資料を配る。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円(+税) ※講義で主に使うものではないが、より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p>期末試験(80%) : 国家試験の過去問題と同等水準の問題を解答する。 小テスト(20%) : 過去の国家試験問題を小テスト(何回でも受験可)として活用し、それぞれの小テストの最高点を評価する。 評価基準 : 優れている 80%以上、良い成績である 70%～79%、概ね水準に達している 60%～69%、努力を要する 59%以下。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 渡邊康晴 研究室 : 附属病院1階MRセンター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	<p>② 「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1</p>
	<p>この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。アクティブラーニング形式の学修は行わない。</p>
	<p>教室は一つの社会と解釈される。医療人になるとの目的を忘れることなく、他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を強く期待する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	2	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、細胞の働き、血液の働き、循環、呼吸、腎機能、代謝、消化・吸収、体温調節を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働き、血液やリンパ液を生体の隅々まで運ぶ仕組み、酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、体液の恒常性維持に必須の腎機能、摂取した栄養を代謝して生命活動を営むしくみ、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収、産熱と放熱のバランスをとる体温調節等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎(1) 到達目標：細胞膜、物質移動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 生理学の基礎(2) 到達目標：細胞内小器官について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 生理学の基礎(3) 到達目標：生体の恒常性、体液の区分と組成について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 血液(1) 到達目標：血漿と各血球の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 血液(2) 到達目標：止血の仕組みと血液型について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 血液(3) 到達目標：生体防御である免疫について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 まとめ(1) 到達目標：第1回～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験（50分）＋演習（アクティブラーニングあり）（50分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。</p> <p>第8回 循環(1) 到達目標：心臓の構造とはたらき、心臓の電氣的活動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 循環(2) 到達目標：心電図、心周期について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 循環(3) 到達目標：弾性血管、抵抗血管、交換血管、容量血管、リンパ系の特徴と機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 循環(4) 到達目標：循環調節の局所性調節、神経性調節、液性調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 循環(5) 到達目標：収縮期血圧、拡張期血圧、脈圧、平均血圧、血圧の測定法について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 まとめ(2) 到達目標：第1～12回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニングあり） 備考：事前に提示された課題に対して、プレゼンテーションができるように準備すること。</p>

第14回	まとめ(3) 到達目標：第1～12回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験(50分)＋演習(アクティブラーニングあり)(50分) 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。
第15回	呼吸の生理(1) 到達目標：換気の仕組み、肺容量について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第16回	呼吸の生理(2) 到達目標：ガス交換、呼吸調節について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第17回	尿の生成と排泄(1) 到達目標：糸球体濾過、再吸収、分泌、クリアランスについて説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第18回	尿の生成と排泄(2) 到達目標：排尿のしくみ、腎臓による体液の調節について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第19回	栄養と代謝(1) 到達目標：各栄養素、エネルギー代謝について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第20回	栄養と代謝(2) 到達目標：三大栄養素の代謝、エネルギー代謝量の測定方法、エネルギー代謝の内訳について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第21回	まとめ(4) 到達目標：第15回～21回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験(50分)＋演習(アクティブラーニングあり)(50分)
第22回	消化と吸収(1) 到達目標：消化器系の概要、消化管運動、消化液分泌、消化管機能の調節、口腔の作用、嚥下について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第23回	消化と吸収(2) 到達目標：胃の作用、小腸の作用、膵臓の働き、胆嚢の働き、大腸の作用、肝臓の働きについて説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第24回	消化と吸収(3) 到達目標：糖質・タンパク質・脂質の消化と吸収、ビタミン、ミネラル、水の吸収について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第25回	体温とその調節(1) 到達目標：体内の温度分布、体温の生理的変動、産熱、放熱について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第26回	体温とその調節(2)、および骨の生理 到達目標：体温調節、気候順化、発熱、うつ熱、骨のカルシウム代謝の調節について説明できる。 授業形態：講義(アクティブラーニングなし) 備考：教科書並びに配布プリントを熟読すること。
第27回	まとめ(5) 到達目標：第15～26回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：課題に対するプレゼンテーション(アクティブラーニングあり) 備考：事前に提示された課題に対して、プレゼンテーションができるように準備すること。
第28回	まとめ(6) 到達目標：第15～26回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験(50分)＋演習(アクティブラーニングあり)(50分)
授業時間外の学習(準備学習等)について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習35分) 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。(復習35分)
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修、彼末一之 編集(南江堂)
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編(羊土社) 「イラストでまなぶ生理学(第3版)」 田中越郎 著(医学書院) 「人体の正常構造と機能(改訂第3版)」 坂井建雄・河原克雅 編集(日本医事新報社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修(オーム社) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集(メジカルビュー社) 「生理学テキスト(第8版)」 大地陸男 著(文光堂)
成績評価	筆記試験(80%)、各講義の終了時に行う小テスト(20%)の結果にて評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林(知)教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30~18:30
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	2	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、筋、神経、感覚、内分泌、生殖を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必要なものとなる。</p> <p>到達目標：筋肉の収縮のメカニズムや収縮の特性、神経の基本的機能として興奮の発生とその伝導・伝達、内臓機能を調節する自律神経の働き、運動機能にかかわる反射と運動を司る中枢、脳の高次機能、外界の変化や生体内部の状態を把握する感覚機能、生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働き、種族維持に必要な生殖機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 筋の生理(1) 到達目標：骨格筋の構造について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第2回 筋の生理(2) 到達目標：骨格筋の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第3回 筋の生理(3) 到達目標：心筋・平滑筋の性質について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第4回 神経の生理(1) 到達目標：静止膜電位について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第5回 神経の生理(2) 到達目標：活動電位について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第6回 まとめ(1) 到達目標：第1回～5回の学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験＋講義（アクティブラーニングあり）</p> <p>第7回 神経の生理(3) 到達目標：脳の高次機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第8回 神経の生理(4) 到達目標：内臓機能の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第9回 運動の生理(1) 到達目標：運動と支配神経について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第10回 運動の生理(2) 到達目標：脊髄反射について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第11回 運動の生理(3) 到達目標：脳幹反射について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第12回 運動の生理(4) 到達目標：高次運動機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第13回 まとめ(2) 到達目標：第7回～12回の学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験＋講義（アクティブラーニングあり）</p> <p>第14回 まとめ(3) 到達目標：第1～13回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（50分）</p>

第15回	<p>感覚の生理(1)</p> <p>到達目標：感覚の特性について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第16回	<p>感覚の生理(2)</p> <p>到達目標：特殊感覚(視覚)について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第17回	<p>感覚の生理(3)</p> <p>到達目標：特殊感覚(聴覚・平衡覚)について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第18回	<p>感覚の生理(4)</p> <p>到達目標：特殊感覚(味覚・嗅覚)、体性感覚について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第19回	<p>感覚の生理(5)</p> <p>到達目標：痛覚について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第20回	<p>まとめ(4)</p> <p>到達目標：第15回～20回の学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。</p> <p>授業形態：筆記試験＋講義（アクティブラーニングあり）</p>
第21回	<p>内分泌(1)</p> <p>到達目標：ホルモンについて説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第22回	<p>内分泌(2)</p> <p>到達目標：視床下部ホルモン、下垂体のホルモンについて説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第23回	<p>内分泌(3)</p> <p>到達目標：甲状腺のホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモンについて説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第24回	<p>内分泌(4)</p> <p>到達目標：副腎髄質ホルモン、腎臓のホルモン、膵臓のホルモンについて説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第25回	<p>内分泌(5)</p> <p>到達目標：男性ホルモン、女性ホルモンについて説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第26回	<p>生殖(1)</p> <p>到達目標：男性生殖器の機能について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第27回	<p>生殖(2)</p> <p>到達目標：女性生殖器の機能について説明できる。</p> <p>授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p> <p>備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p>
第28回	<p>まとめ(5)</p> <p>到達目標：第15～27回の学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。</p> <p>授業形態：筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（50分）</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する。(予習35分)</p> <p>講義ノートを整理し、授業で配布した確認テストを行う。(復習35分)</p>
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修、彼末一之 編集 (南江堂)
参考書	<p>※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。</p> <p>「イラストでまなぶ生理学(第3版)」田中越郎 著 (医学書院)</p> <p>「人体の正常構造と機能(改訂第3版)」坂井建雄・河原克雅 編集 (日本医事新報社)</p> <p>「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」照井直人 編 (羊土社)</p> <p>「マンガでわかる基礎生理学」田中 越郎 監修 (オーム社)</p> <p>「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社)</p> <p>「生理学テキスト(第8版)」大地陸男 著 (文光堂)</p>
成績評価	小テスト(20%)、期末試験(80%)の結果にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田中健吾</p> <p>研究室 : 8号館4F講師室</p> <p>オフィスアワー : 水曜日17:30～18:30</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
辻村 敦			
添付ファイル			

授業目標	<p>生化学では人体を構成する物質とその物質の合成や分解(代謝)の基本的知識を、医学の基礎を支える自然科学のひとつとして体系的に学びます。生化学を理解することは、自分のカラダや患者さんのカラダの状態を理解することにつながり、また、患者さんに栄養指導をするためにもとても重要な科目です。従って、本講義では、栄養学のためのタンパク質代謝、糖質代謝、脂質代謝、核酸代謝などを理解してもらうことを目的とする。生化学の学習を通して、ダイエット、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドローム、アレルギーや免疫の仕組み、糖尿病、骨粗鬆症、痛風などについて考察できる力を身に付ける。看護・鍼灸・保健医療サービスの担い手に求められる生化学的基礎知識を習得する。</p>
授業計画	<p>第1講 序論:生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。  [到達目標] 生化学の基礎を理解。分子の構造、アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。  [授業形態] 講義プリントを配布し、パワーポイントを利用して説明を行う。  毎回、前回の復習とその日のまとめ問題を提示し、全員で理解度を確認する。  [備考] 人体を構成、調整する生体物質を理解する。生命活動維持のに重要な必須成分と酵素の働きを理解。</p> <p>第2講 糖質と糖質代謝  [到達目標] 糖質の生体内での消化、吸収、動態、エネルギー産生について説明できる。  [備考] 糖質の構造と代謝を体系的に理解する。解糖系、TCA回路、ペントースリン酸回路。</p> <p>第3講 脂質と脂質代謝  [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。  [備考] 脂質の生体内での消化、吸収、動態を理解。脂質のエネルギー代謝を理解。</p> <p>第4講 タンパク質・アミノ酸  [到達目標] タンパク質の消化、吸収、代謝について説明できる。  [備考] タンパク質とアミノ酸の化学構造と性質。タンパク質の代謝を理解。  アンモニアと尿素について。</p> <p>第5講 核酸(ヌクレオチド)の代謝  [到達目標] 核酸生合成と分解について説明できる。  [備考] 核酸(ヌクレオチド)の生合成と分解を通してその役割と遺伝子について理解。  核酸のプリン塩基、尿酸と痛風について。</p> <p>第6講 ビタミン、ホルモンの役割  [到達目標] ビタミンの生理機能をヒトの栄養の面より理解。  ホルモンを生体内恒常性の維持として理解できる。  [備考] ビタミンの生体内での役割。カルシウム代謝と調節など。  補酵素としての機能。ホルモンの役割。脂溶性ビタミン、ステロイドホルモンなど。</p> <p>第7講 総括(評価含む)  [到達目標] 生体物質の構造と代謝を関連づけて説明できる。  [備考] 全講義の総括を行い、評価を行う。  講義内容の理解度を測る問題だけではなく、自分の考えを記述する問題もあるため、普段から生化学を学ぶ意義について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>平易な視覚的生化学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努める必要がある。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること!  参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。</p>
教科書	<p>特になし(講義時間ごとにプリントを配布します。重要項目のマーキングや追加の情報を記入して、自分のプリントを完成させてください)。</p>
参考書	<p>『栄養科学イラストレイテッド生化学』 藪田 勝/編 (羊土社)  『マンカでわかる生化学』 武村 政春他(オーム社)  『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他(翻訳) 原書5版(丸善出版)</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験(定期試験、小テスト)にて把握し、その理解度を評価する。授業時間中の質問に対する回答、演習への積極的な取り組み状況を評価する。  評価割合:(定期試験 60%、小テスト20%、平常点20%)とし総合評価60%以上を合格とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 辻村敦  研究室 : 京都府立医科大学・基礎老化学  メールアドレス : atsuji@koto.kpu-m.ac.jp  オフィスアワー : 講義内容についての質問は、講義後またはメールで質問してください。</p>

備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
柔道整備学科	30時間	講義（未定）	
添付ファイル			

授業目標	<p>前半では、疾病の要因としての病原微生物について、その特徴、感染症の発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、主な感染症の原因微生物、特徴、感染経路、予防、診断と治療について学ぶ。さらに、健康管理、衛生管理の意義を理解する。</p> <p>後半では、生体に侵入する病原微生物や異物に対する生体防御システムを学ぶ。免疫を担う細胞や器官の特徴を学び、免疫応答の細胞学的背景・分子的背景や遺伝子背景を理解する。免疫系による感染防御の仕組みと免疫系の異常として免疫不全症のメカニズムと易感染性、アレルギーの仕組み、移植免疫および自己免疫疾患について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 病原微生物と感染症、病原微生物の種類と特徴 [到達目標] 病原微生物の種類とそれぞれの特徴について理解する。 感染症成立の要因について理解する。 発症に関わる病原因子について理解する。 感染経路および感染症の分類について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>第2回 感染症の予防と対策 [到達目標] 感染症の予防の感受性体対策、感染源対策、感染経路対策について理解する。 院内感染予防の標準予防策、感染経路別予防策について理解する。 化学療法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第3回 呼吸器感染症 [到達目標] 主な呼吸器感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第4回 消化器感染症 [到達目標] 主な消化器感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第5回 全身感染症、神経系感染症および眼感染症 [到達目標] 主な全身感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 主な神経系感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 主な眼感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第6回 尿路・性感染症および皮膚軟部組織感染症 [到達目標] 主な尿路・性感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 主な皮膚軟部組織感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第7回 ウイルス性肝炎、レトロウイルス感染症、プリオン病 [到達目標] 主な皮膚・軟部組織感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ウイルス性肝炎、レトロウイルス感染症およびプリオン病の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第8回 中間試験、試験解説 試験範囲：第1回～第7回講義内容 [授業形態] アクティブラーニング有（中間試験、解答と解説）</p> <p>第9回 生体防御系の成り立ち：免疫系の細胞と器官 [到達目標] 異物に対する反応系：生体防御系の全体像を理解する。 骨髄球系細胞およびリンパ球系細胞の特徴と機能およびリンパ系の組織・器官について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング無</p>

	<p>第10回 自然免疫と急性炎症、補体 [到達目標] 自然免疫のしくみと自然免疫における急性炎症の役割を理解する。 自然免疫および獲得免疫における補体の役割を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第11回 抗体の機能・B細胞の分化と活性化 [到達目標] 抗体の機能と抗体のクラスを理解する。 B細胞の活性化と抗体産生細胞への分化のしくみを理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第12回 T細胞の機能・T細胞の分化と活性化 [到達目標] T細胞の特徴、種類と機能を理解する。 T細胞の活性化と分化のしくみを理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第13回 免疫不全症、HLAと移植免疫 [到達目標] 主な免疫不全症の発症機序を理解する。 HLA(MHC)拘束性による自己認識の仕組みと移植時の非自己HLA分子への免疫応答を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第14回 アレルギーと自己免疫疾患 [到達目標] I～IV型アレルギーの発症のメカニズムおよび自己免疫疾患の発症のメカニズムを理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第15回 期末試験、試験解説 試験範囲：第9回～第15回講義内容 [授業形態] アクティブラーニング有（期末試験、解答と解説）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（35分程度）</li> <li>2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。</li> <li>3. 確認問題を解いて理解を深めること。（2. 3併せて35分程度）</li> <li>4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。</li> </ol>
教科書	「シンプル微生物学」東 匡伸、小熊恵二 編（南江堂） 「シンプル免疫学」 中島泉ほか （南江堂）
参考書	『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』藤本秀士編著、目野郁子、小島夫美子著（南山堂） 『Simple Step 感染症』平山 謙二監修（海馬書房） 『戸田細菌学』吉田・柳 編（南江堂） 『もっとよくわかる！免疫学』河本宏 （羊土社） 『メディカル免疫学』A. ロアット （西村書店） 『免疫生物学』 笹月健彦 訳 （南江堂） 『マンガでわかる免疫学』 河本宏 （ビーコムプラス）
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は中間試験45%、期末試験45%と小テスト10%で行い、60点以上を合格とする。 但し、出席が6割（第1回～7回：5回以上、第9回～14回：4回以上）に満たないものは試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日13:00-13:50
備考	この科目とディプロマポリシーの関連：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義(対面、状況により遠隔)	
添付ファイル			

授業目標	<p>(授業内容)</p> <p>主に柔道整復師になるために必要最低限の骨学、筋学及び関節を中心とした局所解剖学、臨床解剖学を、実際の臨床現場での体験等を交え講義します。</p> <p>すでに系統解剖学で学んだ骨学や筋学をさらに関節を中心とした局所解剖学として学修し、さらに臨床解剖学的見地(系統解剖学では、例えば「〇〇筋の作用は・・・」と学修しますが、臨床解剖学では「もし〇〇筋の活動が失われたらどのような症状が出現するか?」というような逆の考え方もします。)で運動器を理解できるようになることを目標とします。</p> <p>柔道整復の臨床現場における、様々な外傷・障害の診察や鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかりと学修しましょう。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨折、脱臼、軟部組織損傷に関連する骨の部位名称や関節名、関節の構造、筋の名称・起始・停止・作用を理解し、説明することができるようにしましょう。</li> <li>2. 体表から触知できる骨指標や筋・腱を理解し、説明することができるようにしましょう。</li> <li>3. 臨床に応用できる臨床解剖学的見地で骨、筋、関節の作用を理解できるようにしましょう。</li> <li>4. 柔道整復師国家試験における解剖学(骨学・筋学)の出題範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導く事ができるようにしましょう。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 上肢帯の構造と機能</p> <p>【到達目標】 上肢帯の骨(部位名称、指標)・筋(起始・停止、支配神経、作用)、および肩鎖関節・胸鎖関節の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 教科書 解剖学 p 37、92-96までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第2回 肩関節の構造と機能</p> <p>【到達目標】 上腕部の骨(部位名称、指標)・肩関節の筋(起始・停止、支配神経、作用)、および肩関節の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 38-40、p 96-97、までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第3回 肘関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 前腕部の骨(部位名称、指標)・肘関節の筋(起始・停止、支配神経、作用)、および肘関節の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 40、44、97-102までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第4回 手関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 手関節周辺の骨(部位名称、指標)・手関節の筋(起始・停止、支配神経、作用)、および手関節の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 41、45、102までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第5回 指関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 指の骨(部位名称、指標)・指関節周囲の筋(起始・停止、支配神経、作用)、および指関節の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 41-42、45-46、103-107までを予習し授業に臨みましょう。</p>

第6回	<p>骨盤周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 骨盤周囲の骨(部位名称、指標)・骨盤周囲の筋(起始・停止、支配神経、作用)、および仙腸関節の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 4 6 えー 7 5 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第7回	<p>股関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 股関節周辺の骨(部位名称、指標)・股関節の動きに関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 5 0 - 5 1、5 5、1 0 7 - 1 1 1 までを予習しましょう。</p>
第8回	<p>膝関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 膝関節周辺の骨(部位名称、指標)・膝関節の動きに関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 5 2、5 6 - 5 7、1 1 0 - 1 1 4 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第9回	<p>足関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 足関節周辺の骨(部位名称、指標)・足関節の動きに関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 5 3 - 5 4、5 7、1 1 4 - 1 1 8 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第10回	<p>足趾関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 足根部・足指部の骨(部位名称、指標)・足部の関節に関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 5 3 - 5 5、5 7 - 5 9、1 1 8 - 1 2 2 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第11回	<p>顎関節周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 顎関節周辺の骨(部位名称、指標)・顎関節の動きに関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 5 9 - 7 0、7 6 - 8 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第12回	<p>頸椎周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 頸椎と周辺の骨(部位名称、指標)・頸部の動きに関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 2 8 - 3 0、7 8 - 8 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第13回	<p>胸・腰椎周辺の構造と機能</p> <p>【到達目標】 胸・腰椎周辺の骨(部位名称、指標)・体幹の動きに関する筋(起始・停止、支配神経、作用)の構造と機能について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 2 8 - 3 6、8 2 - 9 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p>
第14回	<p>総まとめ (定期試験を含む)</p>

	<p>【到達目標】 骨の部位名称や関節名、関節の構造、筋の名称・起始・停止・作用を理解し、説明することができる。 体表から触知できる骨指標や筋・腱を理解し、説明することができる。 臨床に応用できる臨床解剖学の見地で骨、筋、関節の作用を理解できる。 柔道整復師国家試験における解剖学（骨学・筋学）の出題範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導く事ができる</p> <p>【授業形態】 定期試験および問題解説（講義形式）、グループワークを実施します。 状況によってオンラインの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書 解剖学 p 28-1 22に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。</p> <p>【</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>解剖学（骨学、筋学）の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなしで記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。</p> <p>予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。</p> <p>復習：小テストにおいて不正解部分や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書などを用いて35分程度調べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	解剖学 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 改定第2版
参考書	適宜紹介させていただきます。
成績評価	<p>成績評価および留意事項</p> <p>定期試験(90%)および毎回授業ごと行う理解度確認テスト(10%)により評価します。</p> <p>小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。</p> <p>定期試験の正解および解説は試験時間終了後の授業時間内にフィードバックします。</p> <p>また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。そうなった場合、評価方法を若干変更する場合があります。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名： 宮坂卓治  役職： 柔道整復学科教授  研究室： 柔道整復学科棟4階  メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp  オフィースアワー： 火曜日午前11:00～12:00</p>
備考	<p>①大阪大学歯学部解剖学教室、信州大学医学部解剖学教室、信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「解剖学」について講義します。</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義(対面)	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【 授業概要 】</b>          本科目は、柔道整復に関する導入として、骨組織損傷についての基礎知識を理解することを目的とする。教科書前半部分の総論が学習の中心である。この知識が、今後どのようなかたちで必要になるのか理解するために、一部、各論についての解説も導入する。          授業範囲：柔道整復学（理論編）改訂第6版 P21～43</p> <p><b>【 到達目標 】</b>          主に骨折に関する基礎知識を学び、今後の臨床科目を習得するための基盤構築を目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、骨の形態と機能、骨損傷の概説について  <b>【内容・到達目標】</b>          骨の形態と機能、骨損傷の概説について理解する。          骨の形態と機能 P21～23          骨損傷の概説 P23～24</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）          ・教科書P21～24について予習し、授業終了後に復習しておくこと。</p> <p>第2回 骨折の分類について①  <b>【内容・到達目標】</b>          骨折の分類について理解する。          骨折の分類について① P24～27</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）          ・教科書P24～27について予習し、授業終了後に復習しておくこと。          ・アクティブラーニングの実施：授業開始時に前回の授業について小テストを実施し、内容についてフィードバックする。</p> <p>第3回 骨折の分類について②  <b>【内容・到達目標】</b>          骨折の分類について理解する。          骨折の分類について② P27～31</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）          ・教科書P27～31について予習し、授業終了後に復習しておくこと。          ・アクティブラーニングの実施：授業開始時に前回の授業について小テストを実施し、内容についてフィードバックする。</p> <p>第4回 骨折の症状について  <b>【内容・到達目標】</b>          骨折の症状について理解する。          骨折の局所症状について P31～34          骨折の全身症状について P34～35</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）          ・教科書P31～35について予習し、授業終了後に復習しておくこと。          ・アクティブラーニングの実施：授業開始時に前回の授業について小テストを実施し、内容についてフィードバックする。</p> <p>第5回 骨折の合併症について  <b>【内容・到達目標】</b>          骨折の合併症について理解する。          骨折の合併症について P35～39</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）          ・教科書P35～39について予習し、授業終了後に復習しておくこと。          ・アクティブラーニングの実施：授業開始時に前回の授業について小テストを実施し、内容についてフィードバックする。</p> <p>第6回 小児骨折、高齢者骨折について  <b>【内容・到達目標】</b>          小児骨折、高齢者骨折について理解する。          小児骨折について P40～41          高齢者骨折について P41～43</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）          ・教科書P40～43について予習し、授業終了後に復習しておくこと。          ・アクティブラーニングの実施：授業開始時に前回の授業について小テストを実施し、内容についてフィードバックする。</p> <p>第7回 まとめおよび評価（筆記試験）  <b>【内容・到達目標】</b>          第1回～第7回までの範囲について理解する。</p>

	<p>第1回～第7回までの範囲について総合的に評価(筆記試験)を行う。 試験終了後、問題解説(講義形式)を行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) ・教科書P21`43について理解し、授業終了後に復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>授業までに前回分の復習を行う。 また、各授業開始時に前回の試験範囲について確認テストを行うので、次回の授業までに予習・復習しておくこと。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習100分)し、講義で学修した内容をまとめること(復習100分)。</p>
教科書	1. 柔道整復学(理論編)改訂第6版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
参考書	1. 柔道整復学(実技編)改訂第2版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	<p>学年末試験を90%程度とする。 授業時に行う小テストの評価を10%程度の割合として総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：児玉 香菜絵 研究室；8号館4F講師室 メールアドレス：k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	<p>授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。 ①各学科の資格に関する実務経験の有無：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
濱口 夏花			
柔道整復学科	30時間	講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【 講義概要 】 柔道整復師の業務範囲である脱臼と軟部組織損傷の基本的事項を学習する。そのため、この科目は柔道整復学各論で各部位で発生する脱臼や軟部組織損傷を学習する前の導入科目となっている。本講義では、関節構造や軟部組織構造の復習を行いながら講義を行う。</p> <p>【 到達目標 】 柔道整復学各論を学習する前段階として、脱臼および軟部組織損傷時の基本的状態を理解する。また、各々の外傷が発生した際の初期鑑別が可能となる。</p>
授業計画	<p>1回目 骨折の骨折の癒合と治癒 【到達目標】骨損傷の治癒機序を理解し、骨癒合経過とその予後について説明することができる。 【講義内容】P. 43～P. 47 【備考】整復学総論Ⅰで学習した内容を 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>2回目 関節の構造と機能 【到達目標】脱臼と軟部組織の概説を理解し、関節の構造と機能を説明することができる。 【講義内容】P. 47～P. 52 【備考】解剖学の教科書で関節の構造を理解しておくこと。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>3回目 関節損傷の概説 【到達目標】関節損傷の発生機序を理解し、説明することができる。 【講義内容】P. 52～P. 54 【備考】骨損傷の発生機序の復習を行いながら講義を実施する 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>4回目 関節構成組織損傷 【到達目標】関節構成組織の損傷発生時の症状とその後の治癒経過を理解し、説明することができる。 【講義内容】P. 54～P. 59 【備考】骨折の症状を復習を行いながら講義を実施する。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>5回目 脱臼の各種分類1 【到達目標】脱臼の各種分類を理解し、説明することができる。 【授業内容】P. 59～P. 62 【備考】骨折の分類の復習を行いながら講義を実施する。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>6回目 脱臼の各種分類2 【到達目標】脱臼の各種分類を理解し、説明することができる。 【授業内容】P. 62～P. 64 【備考】骨折の分類および4回目の講義内容の復習を行いながら講義を実施する。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>7回目 脱臼の症状 【到達目標】脱臼発生時にみられる特有の症状を理解し、説明をすることができる。 【授業内容】P. 64～P. 65 【備考】骨折の固有症状および一般外傷症状の復習を行いながら講義を実施する。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>8回目 脱臼の整復障害 【到達目標】脱臼の整復法を理解し、脱臼の各部位に生じる整復障害を把握することができる。 【授業内容】P. 65～P. 66、P. 91～P. 96 【備考】骨折の骨折の治癒経過の復習を行いながら講義を実施する。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>9回目 筋の損傷 【到達目標】筋の構造と機能を理解し、外傷発生時の基本事項を説明することができる。 【講義内容】P. 67～P. 74 【備考】解剖学の教科書で筋の基本構造を復習すること。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>10回目 腱の損傷 【到達目標】腱の構造と機能を理解し、外傷発生時の基本事項を説明することができる。 【講義内容】P. 74～P. 79、P. 96～P. 98 【備考】解剖学の教科書で腱の基本構造を復習すること。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う。</p> <p>11回目 末梢神経の損傷 【到達目標】神経の構造と機能を理解し、外傷発生時の基本事項を説明することができる。 【講義内容】P. 80～P. 85</p>

12回目	<p>【備考】解剖学の教科書で腱の基本構造を復習すること。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う</p> <p>治療法（骨折の整復法） 【到達目標】骨折整復を行う際の各種整復法を理解し、説明することができる。 【講義内容】P. 91～P. 95</p>
13回目	<p>【備考】教科書を熟読し、不明な点は授業内に理解できるよう努める。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う</p> <p>治療法（脱臼の整復法軟部組織損傷の初期処置） 【到達目標】脱臼整復を行う際の各種整復法や軟部組織損傷の初期処置を理解し、説明することができる。 【講義内容】P. 95～P. 98</p>
14回目	<p>【備考】教科書を熟読し、不明な点は授業内に理解できるよう努める。 【アクティブラーニング】有：各グループで講義内容の範囲で問題を作成し、解説を行う</p> <p>評価（筆記試験）＋講義 【到達目標】本講義で教授した内容を理解し、脱臼および軟部組織損傷時の基本的状態を把握し、外傷発生時に鑑別を行うことが可能である。 【評価内容】1～13回目までの講義内容に関する筆記試験を実施する。 【授業内容】筆記試験実施後の解説および全講義内容のそう復習を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>講義受講前までに講義受講範囲を熟読しておくこと。 講義受講後の不明点は次回の講義までに教員に質問または参考書等で調べておくこと。 また、シラバスを参照し【備考】欄を確認し復習しておくこと。 講義受講に必要な予習および復習の時間は各90分とする。</p>
教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」社団法人柔道整復学校協会 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」社団法人柔道整復学校協会 南江堂 「解剖学 改訂第2版」社団法人柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して筆記試験を実施する。 また、各講義で小テストを実施する。 小テスト（10％）＋筆記試験（90％）
担当教員の基本情報	担当教員名：濱口 夏花 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	濱口 夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
川村 茂			
添付ファイル			

授業目標	次年度から始まる柔道整復学・各論に向けて外傷（ケガ）についての概要を理解する。外傷（骨折・脱臼・軟部組織損傷）がどのような機序で発生するのか、またその際に身体にどのような外力が加わるのかを理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、怪我（外傷）とは  <b>【内容・到達目標】</b>  怪我や外傷について理解する。  損傷に加わる力 P14～15</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  教科書P14～15について予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：授業時に怪我に関するディベートを行い、その内容についてフィードバックする。</p> <p>第2回 骨折について  <b>【内容・到達目標】</b>  骨折や骨折の発生機序について理解する。  骨の損傷損傷 P21～24</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  教科書P21～24について予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：授業時に骨折に関するディベートを行い、その内容についてフィードバックする。</p> <p>第3回 脱臼について  <b>【内容・到達目標】</b>  脱臼や脱臼の発生機序について理解する。  関節の損傷損傷 P47～60</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  教科書P47～60について予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：授業時に脱臼に</p> <p>第4回 軟部組織損傷について  <b>【内容・到達目標】</b>  軟部組織損傷や軟部組織損傷の発生機序について理解する。  筋の損傷損傷 P66～70</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  教科書P66～70について予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：授業時に軟部組織損傷に関するディベートを行い、その内容についてフィードバックする。</p> <p>第5回 外傷発生の具体例  <b>【内容・到達目標】</b>  柔道整復師が取り扱う外傷を具体的に挙げ、その外傷の発生機序について理解する。</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  これまでの配布プリント等で予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：授業時に外傷に関するディベートを行い、その内容についてフィードバックする。</p> <p>第6回 プレゼンテーション①  <b>【内容・到達目標】</b>  柔道整復師が取り扱う外傷を具体的に挙げ、その外傷の発生機序について理解する。</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  これまでの配布プリント等で予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：クラスメイトに外傷の発生機序についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>第7回 プレゼンテーション②  <b>【内容・到達目標】</b>  柔道整復師が取り扱う外傷を具体的に挙げ、その外傷の発生機序について理解する。</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  これまでの配布プリント等で予習し、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：クラスメイトに外傷の発生機序についてプレゼンテーションを</p>

	行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書や配布プリントを参考に、各講義の項目に関連する箇所を事前学習(予習100分)し、講義で学修した内容をまとめること(復習100分)。それでもわからなければ質問するなどの対応すること。
教科書	・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 改訂第6版 南江堂
参考書	特になし
成績評価	出席基準を満たした者について、レポートやプレゼンテーションを行い評価する。平常点(授業態度など)を加味(20%)し、レポート(80%)で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 川村 茂 研究室 : 8号館 4 階准教授室 メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の夕方17:00以降
備考	授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。 ①各学科の資格に関する実務経験の有無: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
齋木 基			
添付ファイル			

授業目標	臨床で必要な人体の現状を把握するため、解剖学の知識の取得、正常な状態の骨・筋の形と位置を正確に知ることにより現場で重要である触診の仕方を得ることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 関節運動 アクティブラーニング：ペアを組み身体を触診しながら、触診部位の正確さや、より適切な触診の仕方を互いにフィードバックする。 【内容・到達目標】 上肢・下肢の関節運動を理解する。</p> <p>第2回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 小テスト(筆記)、上肢帯、付着する筋の理解 上肢帯の骨の部位、付着する筋を理解する</p> <p>第3回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 上肢帯と付着する筋の触察 上肢帯の形と付着する筋を触察し、機能を理解する</p> <p>第4回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 上腕骨・前腕骨、付着する筋の理解 上腕骨、前腕骨、手の骨の部位と付着する筋を理解する</p> <p>第5回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 上腕骨・前腕骨・手の骨、付着する筋の触察① 上腕骨、前腕骨、手の骨の形と付着する筋を触察し、機能を理解する</p> <p>第6回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 上腕骨・前腕骨・手の骨、付着する筋の触察② 上腕骨、前腕骨、手の骨の形と付着する筋を触察し、機能を理解する</p> <p>第7回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 小テスト(筆記)、上肢の骨、筋の触察 上肢全体の骨、筋の解剖学を理解し、触察する</p> <p>第8回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 脊柱・寛骨、付着する筋の理解 脊柱、寛骨の部位と付着する筋を理解</p> <p>第9回 プリント、解剖学教科書 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 脊柱・寛骨の形と付着する筋の触察 脊柱、寛骨の形と付着する筋を触察し、機能を理解する</p> <p>第10回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 大腿骨・下腿骨・足の骨、付着する筋の理解 大腿骨、下腿骨、足の骨の部位と付着する筋を理解する</p> <p>第11回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 大腿骨・下腿骨・足の骨、付着する筋の触察① 大腿骨、下腿骨、足の骨の形と付着する筋を触察し、機能を理解する</p> <p>第12回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 腿骨・下腿骨・足の骨、付着する筋の触察② 大腿骨、下腿骨、足の骨の形と付着する筋を触察し、機能を理解する</p> <p>第13回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 小テスト(筆記)、下肢の骨、筋の触察 下肢全体の骨、筋の解剖学を理解し、触察する</p> <p>第14回 【備考】柔道整復師のための骨学筋学の範囲の復習をしておくこと。 単位認定試験(触察) 上肢、下肢の骨、筋の触察の理解度をする</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	触察技術を取得し、その上で考えていく骨、筋の解剖学の理解することにより臨床の知恵を身につける。
教科書	・解剖学 第2版(社)全国柔道整復学校協会監修
参考書	・解剖学 第2版(社)全国柔道整復学校協会監修
成績評価	・触察による実技試験(50%)、出席点(40%)・小テスト(10%)
担当教員の基本情報	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-4

備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
濱口 夏花			
柔道整復学科	15時間	講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	【授業概要】 柔道整復師が臨床現場で使用する基本的な固定法や固定に使用する材料の特性を学ぶ。 【到達目標】 固定の目的や固定材料の特性を理解し、固定時に固定材料および固定法を選択することができる。
授業計画	<p>第1回 固定の概説 【到達目標】 固定の目的および固定材料の種類を理解する。 【授業内容】 教科書P. 1～P. 7 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第2回 巻軸帯の基礎 【到達目標】 巻軸帯の基礎を理解する。 【授業内容】 教科書P. 8～P. 15 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第3回 基本包帯法と冠名包帯法 【到達目標】 6つの基本包帯法と3つの冠名包帯法の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 16～P. 41 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第4回 部位別包帯法 【到達目標】 身体部位の特徴から各部位に用いられる包帯法を理解する。 【授業内容】 教科書P. 42～P. 70 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第5回 その他の固定法と固定材料の特性 【到達目標】 巻軸帯以外の固定法と固定（軟性）材料の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 71～P. 90 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第6回 固定材料の特徴 【到達目標】 固定（硬性）材料の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 91～P. 119 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第7回 その他の固定材料の特徴 【到達目標】 固定（熱可塑性、その他）材料の特徴を理解する。 【授業内容】 教科書P. 120～P. 150 【アクティブラーニング有】 グループで講義内容に関する問題を作成し、解説を行う。</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスを参照し、次回の授業範囲の教科書を熟読する。また、授業での疑問点は次回の授業までに教員に質問する、調べる等の復習を行うこと。（各回の予習および復習に必要な時間は各100分程度）
教科書	「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂 「柔道整復学・理論編 改訂第6版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
成績評価	授業の各回で小テストを実施する。 出席基準を満たした者に対して筆記試験を行い評価する。 小テスト（10%）＋筆記試験（90%）
担当教員の基本情報	保健医療学部 柔道整復学講座 濱口夏花 待機室：8号館4階講師室 メールアドレス：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	濱口夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
濱口 夏花・児玉 香菜絵			
柔道整復学科	30時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	包帯・固定学総論で得た知識を基に、柔道整復師の施術の基本となる巻軸包帯や三角巾を用いた被覆包帯の技術を習得し、適切な施行をすることができるようになる。		
授業計画	第1講目	<p>巻軸包帯の巻き方と注意事項、巻軸包帯の巻き戻しP. 8～P. 15</p> <p>【到達目標】巻軸包帯の基本となる巻き方や巻き戻し方の技術を習得することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 8～P. 15</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第2講目	<p>螺旋帯・蛇行帯（上肢帯・下肢帯）</p> <p>【到達目標】各包帯法の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 16～P. 17</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第3講目	<p>折転帯（上肢帯・下肢帯）</p> <p>【到達目標】折転帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 17</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第4講目	<p>亀甲帯（扇状帯）① 集合亀甲帯（肘関節・膝関節）</p> <p>【到達目標】集合亀甲帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 19</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第5講目	<p>亀甲帯（扇状帯）② 離開亀甲帯（肘関節・膝関節）</p> <p>【到達目標】離開亀甲帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 19</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第6講目	<p>亀甲帯（扇状帯）③ 集合・離開亀甲帯（足関節）、三節帯</p> <p>【到達目標】上行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 62～P. 64</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第7講目	<p>麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）① 上行麦穂帯（手関節・足部）</p> <p>【到達目標】上行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 20</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第8講目	<p>麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）② 下行麦穂帯（手関節・足部）</p> <p>【到達目標】下行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 20</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第9講目	<p>麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）③ 上行麦穂帯（肩関節）</p> <p>【到達目標】上行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 20</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第10講目	<p>麦穂帯（人字帯・スパイカ帯）④ 下行麦穂帯（肩関節）</p> <p>【到達目標】下行麦穂帯の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。</p> <p>【備考】教科書P. 20</p> <p>【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>	
	第11講目	<p>隻指帯・全指帯（手指部・足趾部）</p> <p>【到達目標】各包帯法の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することがで</p>	

	<p>きる。 【備考】教科書P. 53～P. 54 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p> <p>第12講目 指頭包か帯・総指包か帯（手指部・足趾部） 【到達目標】各包帯法の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 54～P. 55 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p> <p>第13講目 提肘三角巾 【到達目標】三角巾の施行目的を理解し、巻軸包帯の注意事項を基に適切に施行することができる。 【備考】教科書P. 77～P. 78 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p> <p>第14講目 総復習 【到達目標】第1講目～第13講目までに修得した知識と技術を適切に実施することが可能である。 【備考】各包帯法について自主練習を行う。 【アクティブラーニング】有：学生間で包帯を施行する中で、各包帯の走行、注意点等のフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	包帯実技は反復練習により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習(100分)：シラバスの【備考】を参照し、教科書を熟読し不明点は授業中に理解できるよう努める。 復習(100分)：各包帯施行時の注意点を再確認するとともに、授業で習得した技術の反復継続した練習を行う。
教科書	包帯固定学 改訂第2版：(社)全国柔道整復学校協会監修 南江堂 必要に応じてプリントを配布することがある。
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第6版：(社)全国柔道整復学校協会監修 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版：(社)全国柔道整復学校協会監修 南江堂
成績評価	成績評価は、出席基準を満たした者に対して、授業時間内に実技試験を行い評価することとする。 合格基準は、授業時の注意点や各包帯法について正しく施行することができた者とする。 原則として、授業を受講する際は、上下KCおよび名札を着用し、教科書、授業時の配布物（包帯・プリント等）を持参すること。 KCを着用していない者や忘れ物については、1項目につき-3点として成績評価の授業態度の項目から減点する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：濱口 夏花 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p> <p>担当教員名：児玉 香菜絵 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	濱口夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 児玉香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
棚原 勝平・児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習(対面)	
添付ファイル			

授業目標	包帯学で得た知識を踏まえ、柔道整復で使用することの多い副子の作成や固定技術を中心に学習し、理解を深める。		
授業計画	第1回	基本包帯方法の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。  【内容・到達目標】 前期に学んだ基本包帯法を、正確に実践することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。	
	第2回	クラーメル副子の作成  【内容・到達目標】 クラーメル副子の作成を通して、固定材についてその仕組みを理解することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。	
	第3回	三角巾法 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な関節固定角度などを互いにフィードバックする。  【内容・到達目標】 三角巾固定法を行うことができる。 三角巾の畳み方や様々な巻き方について理解し、実践することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。	
	第4回	クラーメル副子の固定法 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み固定方法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。  【内容・到達目標】 上肢ならびに下肢に対してクラーメル副子による固定を行うことができる。(上司の固定に際しては三角巾固定も併用して実施する)  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。	
	第5回	厚紙副子と枕子の作成  【内容・到達目標】 厚紙副子と枕子の作成を通して、固定材についてその仕組みを理解することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。	
	第6回	厚紙副子とクラーメル副子の固定 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。  【内容・到達目標】 上肢に対して厚紙副子とクラーメル副子にて固定を行い、三角巾で堤肘することができる。 上肢の基本的な固定方法 について理解し、実践することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。	
	第7回	アルミシーネの固定 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。  【内容・到達目標】 手指に対してアルミシーネを合わせ、包帯により固定を行うことができる。	

	<p>その他、手指の固定方法について理解し、実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  予習(45分)：自主練習しておくこと。  復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>復習  アクティブラーニング  第1回から第7回で行った内容の復習を行う。ペアで実技練習を行いながら、互いの包帯を評価し合い、それぞれの包帯施行技術が向上するように努める。</p> <p>第9回  テーピングの基本①  アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】  テーピングの種類や適応について理解し、実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  予習(45分)：自主練習しておくこと。  復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第10回  テーピングの基本②  アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】  テーピングの種類や適応について理解し、実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  予習(45分)：自主練習しておくこと。  復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第11回  キャストライトによるシーネの作成と固定  アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】  キャストライトによるシーネの作成を通して、その性質を理解することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  予習(45分)：自主練習しておくこと。  復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第12回  熱可塑性固定材(ブライトン)によるシーネの作成と固定  アクティブラーニング：学生同士でペアを組み包帯法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】  熱可塑性固定材(ブライトン)によるシーネの作成を通して、その性質を理解することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  予習(45分)：自主練習しておくこと。  復習(45分)：授業中の注意点などを基に復習しておくこと。</p> <p>第13回  総復習  アクティブラーニング  第1回から第12回で行った内容の復習を行う。ペアで実技練習を行いながら、互いの包帯を評価し合い、それぞれの包帯施行技術が向上するように努める。</p> <p>第14回  評価  これまでに学んだ項目について、実技による評価を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	包帯実技は反復練習により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習(45分)：シラバスから授業で行う範囲を確認し、配布したプリントを基に自主練習を行う。 復習(45分)：授業で行った内容(走行や注意点など)を確認しながら、自主練習を行う。
教科書	包帯固定学：(社)全国柔道整復学校協会監修、南江堂 また授業時に講義用ノートを配布する。
参考書	柔道整復学 理論編・実技編 柔道整復学校協会監修
成績評価	授業時間中に実技試験を行い評価する。 授業時間内に行った評価において、不合格となった項目があった場合は、補講を受講し、補講内での再評価で合格した場合に単位修得とする。 実習態度等も加味し総合評価する。 授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。
担当教員の基本情報	保健医療学部 柔道整復学講座 棚原勝平 s_tanahara@meiji-u.ac.jp 保健医療学部 柔道整復学講座 児玉香菜絵 k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業日17時～18時
備考	棚原勝平：整形外科ならびに接骨院での臨床経験を生かした授業を行う。 児玉香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5


英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
岩内 和也			
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習はネット型スポーツの中から、「バドミントン」と「卓球」をとりあげる。ネットで区切られたコートの中で攻守を組み立て得点を競い合うネット型スポーツ（バドミントン・卓球）は、相手（敵）との身体接触がなく比較的 safely に実施できることから、性別や年齢を問わず、初心者から競技者まで様々なレベルに応じて手軽に楽しめる生涯スポーツとなる種目である。</p> <p>本実習では、いずれの種目もまず基本技術を習得し、その上で段階的により高度な技術の向上を目指していく。併せて、ルール理解、マナーの会得、安全への配慮等にも注力し、より質の高いスポーツの楽しさを追求し生涯スポーツにつなげることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ◇ガイダンス ◇基本練習Ⅰ（バドミントン；グリップ、ラケットワーク、フットワーク） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／ラケット・シャトルに慣れる、グリップ、ラケットワーク、フットワークについて理解する</p> <p>第2講 ◇基本練習Ⅱ（デイリードリル、サーブ、クリア、ドライブ） ◇簡易ゲーム [到達目標] サーブ、クリア、ドライブの打ち方とそのフライトを理解する／ゲームの進め方を理解する</p> <p>第3講 ◇基本練習Ⅲ（デイリードリル、ヘアピン、ドロップ、ロブ、スマッシュ） ◇簡易ゲーム [到達目標] ヘアピン、ドロップ、ロブ、スマッシュの打ち方とそのフライトを理解する／ゲームの戦術を理解する</p> <p>第4講 ◇発展練習Ⅰ（デイリードリル、規則的な動きの中でのラリードリル：ドロップ&amp;ヘアピン等） ◇ルール説明 ◇シングルスゲーム [到達目標] 規則的な動きの中で指定されたストロークでラリーを行うことができる／シングルのルールとゲーム進行を理解する</p> <p>第5講 ◇発展練習Ⅱ（デイリードリル、規則的な動きの中でのラリードリル：ドロップ&amp;ヘアピン&amp;ロブ等） ◇シングルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] 規則的な動きの中で指定されたストロークでラリーを行うことができる／シングルのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p> <p>第6講 ◇発展練習Ⅲ（フォーメーションを使つての攻防：ダブルス） ◇ダブルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ダブルスのフォーメーションを理解する／ダブルスのルールとゲーム進行を理解する</p> <p>第7講 ◇ダブルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ゲームの中で様々なストロークを使つてプレーすることができる／ダブルスのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p> <p>第8講 ◇ガイダンス ◇基本練習Ⅰ（卓球；バックハンドショートストローク） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／グリップを理解し、ラケット・ボールに慣れる、バックハンドショートストロークの打ち方を理解する</p> <p>第9講 ◇基本練習Ⅱ（デイリードリル、バックハンドショートストローク、サーブ） ◇ルール説明 ◇簡易ゲーム [到達目標] バックハンドショートストローク、サーブ打ち方を理解する／基本ルールを理解し簡易ゲームを進行する</p> <p>第10講 ◇基本練習Ⅲ（デイリードリル、サーブ、フォアハンドストローク） ◇ルール説明 ◇シングルスゲーム [到達目標] サーブ、フォアハンドストロークの打ち方を理解する／シングルのルールを理解しゲームを進行する</p> <p>第11講 ◇発展練習Ⅰ（デイリードリル、サーブからのストローク練習） ◇シングルスゲーム [到達目標] サーブからストロークが打つことができる、ラリーが続けられる／シングルのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p> <p>第12講 ◇発展練習Ⅱ（デイリードリル、様々なストローク、サーブ、スマッシュ） ◇シングルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ボールの回転を意識した打ち方を理解する／戦略を理解し打ち分ける</p> <p>第13講 ◇発展練習Ⅲ（ダブルスのフォーメーション、ダブルスのルール） ◇ダブルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ダブルスのフォーメーションを理解する／ダブルスのルールを理解しゲームを進行する</p> <p>第14講 ◇ダブルスゲーム ◇技能評価</p>

	[到達目標] 仲間と協力してゲームに取り組むことができる／ダブルスのルールと審判法を理解しゲームを進行する
授業時間外の学習 (準備学習等)について	本実習は、毎時間終了時に実習カードにふりかえり（技術の習得度合い、成果、課題等）を記入し提出する形式をとる。 よって、復習として、前時の実習内容を再確認し、自己の到達点を整理しておくことを求める（35分）。 また、予習として、前時の課題から次時への改善点を整理しておく。また、資料を配付した場合は、熟読し理解しておくことを求める（35分）。
教科書	特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。
参考書	特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。
成績評価	4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価は、毎時間の授業態度、技能習得状況、実習カード記入状況等をもとに行う。 知識・技能（40%）、思考・判断（30%）、態度・意欲（30%）を基準として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岩内 和也 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後に受け付ける
備考	◇第1～7講に「バドミントン」を、第8～14講に「卓球」を実施する。 ◇毎時間終了時に実習カードにふりかえり（技術の習得度合い、成果、課題等）を記入し提出する形式をとる。 ◇授業の進行は、受講者の習得度によって変更になる可能性がある。 ◇ケガ防止・安全管理の観点から、長い爪・付け爪での受講は認めない。また、肩より長い髪は束ねた上で参加すること。 ◇準備物等 運動に適した服装・屋内シューズを着用すること。 水筒等を持参し休憩時に水分摂取する等、自己管理すること。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
池本 敬博			
		対面実技授業+ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を的確に判断できるようになる。また、医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、病態別運動療法、ロコモティブシンドローム、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。 オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 運動療法1 ウォーキング 理論と屋外実践(グラウンド) 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキングを体験理解できる。</p> <p>3回目 運動療法2 ボール運動1 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>4回目 運動療法3 ボール運動2 集団運動とバッティング系(ノックと野球)から、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>5回目 オンデマンド授業1 スクワットについて 安全かつ効果的に足腰を鍛える方法を理解できる。</p> <p>6回目 運動療法4 手作り用具使用1 シート・ウォーキングから、健康づくりのための集団運動を体験理解できる。転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントンから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>7回目 オンデマンド授業2 レジスタンス運動について 身体活動・運動の進め方について理解できる。</p> <p>8回目 運動療法5 手作り用具使用2 スクエアシートから、転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントンから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>9回目 運動療法6 集団運動1 輪投げから、集団運動と筋力・バランス運動を体験理解できる。 集団バドミントンから、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>10回目 オンデマンド授業3 運動療法について 健康運動実践について理解できる。</p> <p>11回目 運動療法7 集団運動2 ドッチビーから、楽しい集団運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>12回目 運動療法8 集団運動3 ミニハードル走から、リズムとバランス運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>13回目 運動療法9 集団運動4 集団ソフトバレーボールゲームから、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとした①グループワークを体験できる。</p> <p>14回目 運動療法10 集団運動5 集団ソフトバレーボールゲームから、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとした②グループワークを体験できる。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:随時
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部連藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎ - 1

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード： 3J201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：柔整	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。		
授業計画	第1講	日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。	
	第2講	[備考] 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・第14条に関連する判例を指摘できる。	
	第3講	[備考] 自由権 1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。	
	第4講	[備考] 自由権 2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。	
	第5講	[備考] 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。	
	第6講	[備考] 国務請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。	
	第7講	[備考] 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度を説明できる。	
	第8講	[備考] 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義やそれがどのような場合に認められるかを指摘できる。	
	第9講	[備考] 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。	
	第10講	[備考] 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。	
	第11講	[備考] 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。	
	第12講	[備考] 天皇・平和主義その他 [到達目標] 日本国憲法における天皇の地位を説明できる。憲法9条の意義について説明できる。	
	第13講	[備考] 医療をめぐる法律関係 [到達目標] 民事法・刑事法の基礎をふまえて、医療事故等が発生した場合の法律関係につき説明できる。	

	<p>[備考] 第14講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>既習事項の確認や指示された問題（特に公務員試験問題）の演習を行う。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	プリントを使用する。
参考書	<p>芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第七版』（岩波書店）。</p> <p>その他講義において指示するもの。</p>
成績評価	<p>最終試験 50%・レポート（毎回終了時に提出するシート含む） 30%</p> <p>授業態度など平常点 20%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : m_yamatani@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：柔整	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得することが大切である。この講義では、医療現場や日常生活における様々なシチュエーションで必要となる会話表現と医療用語について学ぶ。
授業計画	<p>第1講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、時間の表現及び診療予約の英会話、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は時間の表現を学習する。後半は診療予約の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に時間の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第2講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業や仕事場の表現及び初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は職業や仕事場の表現を学習する。後半は初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に職業や仕事場の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第3講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国及び初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は国について学習する。後半は初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に世界の国や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第4講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道案内の表現及びその英会話、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は道案内に使う表現について学習する。後半は道案内の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に道案内の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第5講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の館内案内の表現及びその英会話、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は館内案内の表現について学習する。後半は館内案内の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に病院の館内案内の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第6講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者を適切な姿勢にさせる表現（採決や血圧測定等）及びその英会話、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は患者を適切な姿勢にさせる表現について学習する。後半は患者を適切な姿勢にさせる表現の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に患者を適切な姿勢にさせる表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第7講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道の駅や路線の表現、駅での乗り換えに関する英会話、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は鉄道の駅や路線の表現について学習する。後半は乗り換えに関する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に鉄道の駅や路線の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第8講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の部位確認、患者の症状を尋ね記録（内科中心）、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は身体の部位（内科中心）について学習する。後半は患者の症状を尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで連取を行う。最後に身体の部位や患者の症状を尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第9講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の部位確認、患者の症状を尋ね記録（外科中心）、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は身体の部位（外科中心）について学習する。後半は患者の症状を尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に身体の部位や患者の症状を尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第10講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レストランでの注文の仕方及びその英会話、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半はレストランでの注文の仕方について学習する。後半はレストランでの注文の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後にレストランの注文の仕方とその英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第11講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家系図の確認、患者本人及び家族の既往歴等の確認、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は家系図について学習する。後半は患者本人及び家族の既往歴等を問う英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に家系図の表現や患者本人及び家族の既往歴等の確認する英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第12講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症状の発生時期や痛みの度合いを尋ね記録、リスニング</li> <li>[到達目標] 前半は症状の発生時期等の問い方を学習する。後半は症状の発症時期や痛みの度合いを尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に症状の発生時期や痛みの度合いを尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。</li> </ul> <p>第13講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1講～第12講までの復習</li> <li>[到達目標] しっかり復習し期末考査に</li> </ul> <p>第14講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1講～第12講までの復習、期末考査</li> <li>[到達目標] 前半は考査に向けて復習し、期末考査に備える。後半は期末考査を行う。</li> </ul>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいけば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。

教科書	English For Nurses Revised edition(看護系学生のための実践英語) 朝日出版 基本的に教科書とパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	教科書、高校で使用していた教科書や参考書
成績評価	「授業への参加度合い、積極性、提出物、各講義の課題や小テスト等」30～50%、「中間考査と期末考査」50～70%を目安に考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

講義科目名称： 手話

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
中村 雄一			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語としての手話を学び、自己紹介酢や挨拶から簡単な日常会話ができるようになる。</li> <li>・ 聴覚障害者が置かれてきた社会背景を学び、時代の福祉観と人権観を考える。</li> <li>・ 医療分野に従事する職業者の基礎的な姿勢としての、手話を含む様々なコミュニケーション障害への対応姿勢を学ぶことにより、人権感覚を身につける。</li> </ul>
授業計画	<p>第1講 「手話」って何?…手話言語を身近に感じてみよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・日本で最初の手話サークルが医療現場から生まれてきたことなどを知り、手話言語について身近に感じるとともに、名前・数字・家族・趣味などの自己紹介に使われる基本の手話単語を習得する。</p> <p>第2講 [備考] ・社会福祉法人全国手話研修センターのHP(手話検定ページ)を見ておく。 手話表現の種類を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・ろう者の使う手話や中途失聴者、盲ろう者のコミュニケーション手段など、様々な種類の手話があることを知るとともに、自己紹介に関わる手話単語を習得する。</p> <p>第3講 [備考] 手話教育の歴史を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう③ [到達目標] ・聴覚障害児教育の歴史を知るとともに、問いかげの手話表現を習得する。</p> <p>第4講 [備考] 「聴覚障害」について理解しよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう④ [到達目標] ・きこえのしくみを理解し、障害に対応した補聴器等の活用を知るとともに、手話での時間の表現を習得する。</p> <p>第5講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう① 自己紹介の手話単語を習得しよう? [到達目標] ・古事記(国生みの物語)から日本独特の障害者観を知るとともに、1日・1週間・1月の出来事に関する手話表現を習得する。</p> <p>第6講 [備考] ・日本文化に根付く障害者観について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう② 自己紹介の手話単語を習得しよう⑥ [到達目標] ・戦前・戦中・戦後の障害福祉施策を知るとともに、自己紹介のまとめとして手話での会話を楽しむ。</p> <p>第7講 [備考] 第3講での教育の歴史も含めて、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう③ 日常会話の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・国際障害者年以降の「障害」のとらえ方を知るとともに、医療に関する手話単語を習得する。</p> <p>第8講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう④ 日常会話の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・国連障害者の権利条約で謳われた「手話は言語である」ことの意義を知るとともに、日常会話の手話単語の語彙数を増やす。</p> <p>第9講 [備考] ・権利条約第2条を確認しておく。 日本の障害福祉施策を知ろう? 豊かな手話表現を身につけよう① [到達目標] ・日本の手話通訳派遣制度を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第10講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう⑥ 豊かな手話表現を身に着けよう② [到達目標] ・優生保護法下でのろう者の状況を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第11講 [備考] 優生保護法下での「医療倫理」のあり方、医療現場での「インフォームドコンセント」のあり方について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう⑦ 豊かな手話表現を身に着けよう③ [到達目標] ・ろう者の人権宣言といわれる「3.3声明」から、ろう者の人権を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第12講 [備考] ・京都府立聾学校での「写生大会ボイコット事件」について、調べておく。 日本の障害福祉施策を知ろう⑧ 豊かな手話表現を身につけよう?</p>

	<p>[到達目標] 災害時の情報保障を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>[備考] 第13講 まとめ① 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] ・これまで学んだ手話単語を使って、簡単な会話を楽しんでみるとともに、手話歌を楽しんでみる。</p> <p>[備考] 第14講 まとめ② 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] これまで学んだ授業を通じて、「手話」に関する思いや意見を確認するとともに、より豊かな手話表現技術と読み取り技術を確認する。</p> <p>[備考] ・レポートの提出及び実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	●全国手話検定試験5級及び4級の出題範囲の手話単語について、自習をする。
教科書	●特に定めない。必要な資料は毎時配布する。
参考書	●社会福祉法人全国手研修センターのHP
成績評価	<p>●出席及び授業時の取り組み姿勢の評価 30%</p> <p>●授業内パフォーマンス課題 30%</p> <p>●まとめ(試験)における確認評価 40%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中村雄一</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : npo_morohoshi.juku@yahoo.co.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-4, ○-5</p>

講義科目名称： 医療面接法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療面接法では、実際の診療に則した問診や医療面接・カルテ記載の方法を適切かつ効果的に行える技能を修得することを到達目標とする。あわせて医療人としての心構えや医療倫理などについての理解を深める。		
授業計画	1回目	医療面接の目的や概要 【内容・到達目標】 オリエンテーションを行う。 医療面接の目的・構造を理解する  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。	2回目
	2回目	初診患者さんとのコミュニケーション 【内容・到達目標】 初診患者さんとのコミュニケーションおよび、その際の情報収集について理解する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：授業の内容に沿って課題を出し、小グループでのディスカッションを行う。	3回目
	3回目	再診患者さんとのコミュニケーション 【内容・到達目標】 再診患者さんとのコミュニケーションおよび、その際の情報収集について理解する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：授業の内容に沿って課題を出し、小グループでのディスカッションを行う。	4回目
	4回目	コミュニケーション技法 【内容・到達目標】 円滑なコミュニケーションを実現するために使用される「技法」について理解する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：授業の内容に沿って課題を出し、小グループでのディスカッションを行う。	5回目
	5回目	円滑な医療面接・コミュニケーションの実現に求められる医療従事者の態度・姿勢 【内容・到達目標】 より良い医療面接・コミュニケーションを行なうための患者さんに対する態度、診察環境、位置関係について理解する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：授業の内容に沿って課題を出し、小グループでのディスカッションを行う。	6回目
	6回目	医療面接の実際 【授業概要・到達目標】 実践・ロールプレイを行なう。 ロールプレイを通じて医療コミュニケーションが実践できる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ロールプレイを行う。	7回目
	7回目	医療面接の実際 【授業概要・到達目標】 実践・ロールプレイを行なう。 ロールプレイを通じて医療コミュニケーションが実践できる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 柔道整復学・理論編の教科書P86～90を読み予習し、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ロールプレイを行う。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	本授業は、初診患者、再診患者から聞き出す内容(問診)と患者さんの良好な関係を築くためのコミュニケーション(態度を含む)の2つの柱から構築される。それに加えて正確なカルテ記載などについても学習する。  1) 初診患者・再診患者から聞き出す内容、カルテ記載 参考資料を熟読して学習、理解すること。これを修得しておかなくては実際の患者さんを目の前にした際、何を質問してよいのかわからなくなる。問診は、患者さんと接する最初の医療行為である。		

	<p>2) コミュニケーション法  授業で学習した内容を日常生活で意識することが重要である。実際のコミュニケーション能力は、授業で学習したのみでは向上しない。日常生活でも意識して実践することが重要である。</p> <p>3) 基本と応用  本授業では、問診と医療面接に必要な基本事項を学習する。臨床現場では、患者さんの病態や性格に応じた面接（コミュニケーションを含む）が求められる。本授業で学習した内容を省略する場合もあれば、さらに深い面接が必要になることもある。現代医学的知識、柔道整復学的知識を活かしながら各患者に応じた面接を応用として学習する。</p> <p>上記項目について予習・復習を行うこと。</p>
教科書	特に指定はない。 授業時に資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よくわかる医療面接と模擬患者：鈴木富雄、阿部恵子（名古屋大学出版会）</li> <li>・ 鍼灸臨床における医療面接：丹澤章八（医道の日本社）</li> <li>・ 授業中配付したプリントなどを参考資料とする。</li> </ul>
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価は、授業内評価(課題や配布物)とレポート課題とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：○ 川村 茂 研究室：8号館4F 准教授室(川村) メールアドレス：s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後
備考	授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。 ①各学科の資格に関する実務経験の有無：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-4

講義科目名称： 社会保障概論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	柔道整復師に関係の深い社会保障制度の基本として「社会保障」「社会保険制度」「医療保険制度」を学ぶと共に「柔道整復療養費受領委任の取扱い」の知識を深める。		
授業計画	第1講義	社会保障制度と柔道整復療養費について（オリエンテーション） <b>【到達目標】</b> この授業における概要説明と到達目標を理解させる。 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> この授業における到達目標を理解させる。	
	第2講義	わが国の社会保障：社会保障とは <b>【到達目標】</b> 「社会保障」の理解 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> 教科書 1 p - 4 p この授業における到達目標を理解させる。	
	第3講義	わが国の社会保障：社会保険制度とは <b>【到達目標】</b> 「社会保険制度」の理解 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> 教科書 4 p - 7 p この授業における到達目標を理解させる。	
	第4講義	わが国の社会保障：医療保険制度とは <b>【到達目標】</b> 「医療保険制度」の理解 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> 教科書 7 p - 17 p この授業における到達目標を理解させる。	
	第5講義	<b>【到達目標】</b> 「療養費制度」の理解 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> 教科書 20 p - 25 p この授業における到達目標を理解させる。	
	第6講義	柔道整復療養費受領委任の取扱い：療養費の算定 <b>【到達目標】</b> 「療養費の算定」の理解 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> 教科書 25 p - 33 p この授業における到達目標を理解させる。	
	第7講義	柔道整復療養費受領委任の取扱い：請求のケーススタディ <b>【到達目標】</b> 「請求のケーススタディ」の理解 <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングによる授業を行う。 <b>【備考】</b> 教科書 34 p - 48 p この授業における到達目標を理解させる。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習について 次の授業範囲における教科書を読んでおく。 ※ 自学自習の課題として ① 教科書 1 ページから 48 ページまでを読む。 ② 施術録、支給申請書を書けるようにする。 など		
教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」長尾淳彦共著（医歯薬出版株式会社）		
参考書	「療養費の支給基準」令和2年度版（社会保険研究所）		
成績評価	評価方法と評価割合（筆記試験 80%、授業内演習 10%、その他 10%）		
担当教員の基本情報	担当教員名：長尾淳彦 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。		
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
吉田 勲生・沖 和久・小川 豊清			
柔道整備学科	30時間	実技（対面）	
添付ファイル			

授業目標	1. 投の形を通して、崩し・作り・掛けの投技の理論や受け方が身につく。 2. 寝技、立技の対人的技術を身につく。 3. 柔道の歴史、柔道の理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身を理解し、柔道における外傷及び国家試験問題に対応できる能力を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（投の形・ビデオ教材の視聴） 投の形の目的が理解できる。すり足、継ぎ足、礼法、受け身ができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第2回 投の形（手技） 投の形（手技） 寝技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第3回 投の形（手技） 投の形（手技） 寝技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第4回 投の形（腰技） 投の形（腰技） 寝技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第5回 投の形（腰技） 投の形（腰技） 寝技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第6回 投の形（足技） 投の形（足技） 寝技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第7回 投の形（足技） 投の形（足技） 寝技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第8回 投の形（まとめ） 投の形（足技） 立技の対人的技能を身につける。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、ペアを変えながら実技を実施し、お互い動作の確認をフィードバックする。</p> <p>第9回 投の形の理解度チェック 投の形についての理解度チェック</p> <p>第10回 柔道の歴史 柔道の歴史、柔道理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身について 【授業形態】アクティブラーニング有 ・授業の講義内容について問題を出し合う。</p> <p>第11回 柔道の審判規定 審判規定、ルールについて 【授業形態】アクティブラーニング有 ・授業の講義内容について問題を出し合う。</p> <p>第12回 柔道における怪我、国家試験対策まとめ1 柔道の歴史、柔道理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身について 【授業形態】アクティブラーニング有 ・授業の講義内容について問題を出し合う。</p> <p>第13回 柔道における怪我、国家試験対策まとめ2 柔道の歴史、柔道理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身について 【授業形態】アクティブラーニング有 ・授業の講義内容について問題を出し合う。</p>

	第14回 理解度チェック 柔道の歴史、柔道理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身についての理解度チェック
授業時間外の学習 (準備学習等)について	柔道場で準備学習を希望する者は教員まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
教科書	授業時に資料を配布する
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著 (史資料出版協会) 2) 柔道の形 入門[投の形][柔の形] 小俣幸嗣 著 (大泉書店) 3) 投の形 財団法人 講道館 (亀井印刷)
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。出席基準を満たした者に対して評価を行う。 (筆記試験50%、実技試験50%)
担当教員の基本情報	担当教員名：吉田 勲生 研究室：8号館4階(柔道整復学科) メールアドレス：isao@meiji-u.ac.jp
備考	吉田 勲生：22年間における、柔道指導経験をもとに、実技指導を行う。 沖 和久：18年間における、柔道指導経験をもとに、実技指導を行う。 小川 豊清：20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導経験をもとに、実技指導を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期、後期	2	2	必修
担当教員			
岡田 成賛			
柔道整復学科	60時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本講義では神経系全体の概論をまず解説した後に、中枢神経（脳・脊髄神経）と末梢神経（運動神経と自律神経）の概論を展開する。さらに運動神経は各論として、全身の神経の走行と、筋肉支配について解説する。これに付随して感覚器（皮膚感覚器や特殊感覚の受容器）とその情報伝達について解説する。後半は特に外皮系、神経系の各論は柔道整復の専門の習得には重要な基礎知識であるとともに、国家試験には必ず数題以上出題される分野なので、意欲を持って受講することが望まれる。</p>
授業計画	<p>第1講 神経系総論 [到達目標] 感覚神経と運動神経の用語について。 [備考] 教科書P. 217～P. 219を学修する。</p> <p>第2講 神経組織 [到達目標] 神経細胞の特徴 [備考] 教科書P. 219～P. 220を学修する。 末梢神経系と中枢神経系の構成細胞の違い。</p> <p>第3講 中枢神経系 1（脳室と髄膜） [到達目標] 脳の発生から脳室の形成と髄膜の構造。 [備考] 教科書P. 220～P. 223を学修する。</p> <p>第4講 中枢神経系 2（大脳皮質、大脳灰白質） [到達目標] 大脳の構造と機能局在について。 [備考] 教科書P. 224～P. 225を学修する。大脳辺縁系の構造について。</p> <p>第5講 中枢神経系 3（大脳髄質、大脳白質） [到達目標] 内包の構造と周辺組織との関連。 [備考] 教科書P. 226を学修する。 大脳基底核の構造と周辺器官との連絡。</p> <p>第6講 中枢神経系 4（間脳、視床と視床下部） [到達目標] 視床と視床下部の楮を理解する。 [備考] 教科書P. 226～P. 227を学修する。 特に視床の上行性伝導路の役割と下行性伝導路における大脳小脳関連系での機能について</p> <p>第7講 中枢神経系 5（脳幹；中脳・橋・延髄） [到達目標] 脳幹の構造と機能について [備考] 教科書P. 227～P. 229を学修する。 中脳の構造と脳幹網様体の機能、大脳基底核との連絡。</p> <p>第8講 中枢神経系 6（脳幹；中脳・橋・延髄） [到達目標] 橋の核と機能。小脳との連絡。 [備考] 教科書P. 227～P. 229を学修する。 橋にある核と網様体の機能。</p> <p>第9講 中枢神経系 7（脳幹；中脳・橋・延髄） [到達目標] 延髄の核と網様体 [備考] 教科書P. 227～P. 229を学修する。 延髄特有の核と延髄における疾患との関連。</p> <p>第10講 中枢神経系 8（小脳） [到達目標] 小脳の構造と機能について。 [備考] 教科書P. 229～P. 230を学修する。 小脳と脳幹との連絡と、小脳・大脳皮質関連系の連絡路について。</p> <p>第11講 中枢神経系 9（伝導路） [到達目標] 上行性伝導路と下行性伝導路の理解。 [備考] 教科書P. 233～P. 236を学修する。 単純な反射弓から始める。一般感覚の伝導路から特殊感覚の伝導路について。</p> <p>第12講 中枢神経系 10（伝導路） [到達目標] 上行性伝導路と下行性伝導路の理解。 [備考] 教科書P. 233～P. 236を学修する。 特殊感覚である視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚の伝導路と、下行性伝導路；錐体路と錐体外路について、理解する。</p> <p>第13講 末梢神経系 1（脳神経） [到達目標] 脳神経12対の構成と、走行と分枝と分布領域を理解する。 [備考] 各脳神経を構成する神経線維の種類と機能に関して理解する。</p> <p>第14講 中間試験 [到達目標] 第1講から第14講の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。</p> <p>第15講 末梢神経系 1（脳神経） [到達目標] 脳神経12対の構成と、走行と分枝と分布領域を理解する。</p>

第16講	<p>[備考] 各脳神経を構成する神経線維の種類と機能に関して理解する。 末梢神経系 1 (脳神経)</p> <p>[到達目標] 脳神経12対の構成と、走行と分枝と分布領域を理解する。</p>
第17講	<p>[備考] 各脳神経を構成する神経線維の種類と機能に関して理解する。 末梢神経系 (脊髄神経) 後枝と頸神経叢</p> <p>[到達目標] 脊髄神経後枝と頸神経叢の構成について。 [備考] 教科書P. 246～P. 247を学修する。 頸神経叢からの分枝と頸神経ワナの構成について。</p>
第18講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 腕神経叢</p> <p>[到達目標] 腕神経叢の構成について理解する。 [備考] 教科書P. 247～P. 250を学修する。 腕神経叢からの分枝と走行と分布領域。</p>
第19講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 腕神経叢</p> <p>[到達目標] 腕神経叢の構成について理解する。 [備考] 教科書P. 247～P. 250を学修する。 腕神経叢からの分枝と走行と分布領域。</p>
第20講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 腕神経叢と肋間神経</p> <p>[到達目標] 腕神経叢の構成について理解する。 [備考] 教科書P. 247～P. 250を学修する。 腕神経叢からの分枝と走行と分布領域と肋間神経の分布領域。</p>
第21講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 腰神経叢</p> <p>[到達目標] 腰神経叢からの分枝と走行、分布領域の理解。 [備考] 教科書P. 251～P. 252を学修する。</p>
第22講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 仙骨神経叢</p> <p>[到達目標] 仙骨神経叢からの分枝と走行、分布領域の理解。 [備考] 教科書P. 252～P. 255を学修する。</p>
第23講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 仙骨神経叢</p> <p>[到達目標] 仙骨神経叢からの分枝と走行、分布領域の理解。 [備考] 教科書P. 252～P. 255を学修する。</p>
第24講	<p>末梢神経系 1 (脊髄神経) 陰部神経叢とデルマトーム</p> <p>[到達目標] 陰部神経叢からの分枝の走行と分布領域の理解。 [備考] 教科書P. 255～P. 256を学修する。 臨床的に重要なデルマトームを全て理解する。</p>
第25講	<p>自律神経 (交感神経・副交感神経)</p> <p>[到達目標] 交感神経と副交感神経との違いについて理解する。 [備考] 教科書P. 256～P. 259を学修する。 交感神経の分布領域と走行。副交感神経の特徴。</p>
第26講	<p>感覚器 1 (外皮と視覚)</p> <p>[到達目標] 外皮の構造と感覚受容器の分布。視覚器の構造。 [備考] 教科書P. 261～P. 266を学修する。</p>
第27講	<p>感覚器 3 (視覚と聴覚)</p> <p>[到達目標] これまでの講義内容全般について説明できる。 [備考] 教科書P. 266～P. 270を学修する。 視覚器全体の構造と、聴覚器全体の構造を理解する。</p>
第28講	<p>感覚器 4 (聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚)</p> <p>[到達目標] 内耳の構造と味覚器、嗅覚器の特徴的な構造を理解する。 [備考] 教科書P. 270～P. 274を学修する。 特に内耳における、聴覚と平衡覚の構造について。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>この科目で取得すべき内容は非常に多い。事前に次回授業範囲を教科書で下調べを行い、あらかじめ疑問点を見つけ出しておく (予習65分)。講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。 さらに復習として、授業内容をノートにまとめ直すことなどにより理解を深める (復習65分)。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版 7800円 (+税) ※シラバス中の教科書のページはこの書籍のページを示す。講義はこの図書に沿って進める。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーン M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円 (+税) ※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用する。より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p>前期期末試験 (中枢神経系) 及び後期期末試験 (末梢神経系と感覚器) の2度に分けて試験を行い、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。受験資格はその試験範囲の講義に3/5以上の出席を満たすものとする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成賛 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日17:30-18:30</p>
備考	<p>② 「当該教科とディプロマ ・ ポリシーとの関連」 : ◎ー 1</p>
	<p>柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
石橋 重良			
添付ファイル			

授業目標	人体の構造を理解することは医学の領域では最も基本的なことになります。解剖学IVでは、1年次に取りこぼした解剖学の概論、骨・関節・筋の内容を復習していきます。とくに柔道整復師が必要とする骨・関節・筋を何度でも繰り返し学修することで解剖学的知識を十分に身に着けることを目標とします。
授業計画	<p>第1講目 解剖学の基礎 到達目標：体の方向、細胞、組織、発生について説明できる。 授業内容：教科書P1～16を学修する。 アクティブラーニング：なし</p> <p>第2講目 骨の総論、筋の総論 到達目標：骨の形状・構造・発生・連結、筋の形態・補助装置を説明できる。 授業内容：教科書P21～28、70～76を学修する。 アクティブラーニング：なし</p> <p>第3講目 骨の各論1 到達目標：脊柱、胸郭、上肢骨について説明できる。 授業内容：教科書P28～46を学修する。 アクティブラーニング：なし</p> <p>第4講目 骨の各論2 到達目標：下肢骨、頭蓋骨について説明できる。 授業内容：教科書P46～70を学修する。 アクティブラーニング：なし</p> <p>第5講目 筋の各論1 到達目標：頭部・体幹の筋について説明できる。 授業内容：教科書P76～92を学修する。 アクティブラーニング：なし</p> <p>第6講目 筋の各論2 到達目標：上肢の筋について説明できる。 授業内容：教科書P92～107を学修する。 アクティブラーニング：なし</p> <p>第7講目 筋の各論3 到達目標：下肢の筋について説明できる。 授業内容：教科書P107～122を学修する。 アクティブラーニング：なし</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	一度学習してきた内容ではありますが、記憶の薄い部分も多々あると思います。知識を身に着けるには繰り返し復習することが必要です。授業前には必ず当日の内容を前もって見直し疑問点があれば書き出しておく（予習65分）。講義により疑問が解消されなければ、質問することで疑問の解消に努める。講義の内容は自分自身の言葉でまとめ直し、記憶の定着に努める（復習65分）。
教科書	「解剖学」第2版 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版株式会社
参考書	「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 監訳 坂井 建雄、松村 譲児 株式会社 医歯薬出版
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価の方法についての詳細は授業時に説明を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：石橋重良 研究室：8号館講師室 オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	石橋重良：施術所での臨床業務に従事し、その経験に基づいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	授業目的 本講義では解剖学Ⅱで学んだ脈管系・内臓器系について、復習を中心に人体構造について理解を深めることを目的とする。
授業計画	<p>1回目 内臓学概論・消化器系1 [到達目標] 内臓器の一般的構造について説明し、消化器系の口腔から肛門までを説明する。 [備考] 管腔構造の各部位での特徴性について説明する。</p> <p>2回目 消化器系2&lt;脳・脊髄&gt; [到達目標] 消化器の付属器官の構造について説明する。 [備考] 肝臓、膵臓、胆嚢の構造と機能。</p> <p>3回目 呼吸器系&lt;脳神経&gt; [到達目標] 鼻腔から肺までの構造について説明する。 [備考] 上気道と下気道の構造の特徴性と違いについて説明。肺の微細構造とその特徴。</p> <p>4回目 泌尿器系 [到達目標] 尿の生成構造から排尿までの形態。 [備考] 尿を生成する腎臓の組織的特徴、尿管からが外尿道孔まで。</p> <p>5回目 生殖器系 [到達目標] 男女の生殖器の形態の違い。 [備考] 精子の生成と精路について卵子の生成と排卵まで。</p> <p>6回目 脈管器系 1 [到達目標] 脈管系の総論から心臓の構造 [備考] 動脈と静脈、毛細血管の構造的違いについて。心臓の構造について、</p> <p>7回目 脈管器系 2、理解度チェック [到達目標] 動脈系と静脈系、そしてリンパ系について。 [備考] 動脈系と静脈系の走行の違いについて</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に次回授業範囲を上記参考書で下調べを行い、講義中には必要箇所を速やかにメモし、ノートを作成することが重要となる。 また授業後にはノート、配布プリントを見直し、不備な箇所を参考書あるいはテキスト等を参考に訂正あるいは補充しておくように努めて欲しい。憶えなくてはならない医学用語がたくさんあるので、試験前の駆け込み勉強では到底カバーできないので、その日の講義内容についてはその日のうちに復習することを積み上げていくことにより目標に達することができる。 配布プリントを用いた復習（約90分程度）を目途として繰り返し学習が必要となる。
教科書	「解剖学」第2版 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 7800円（+税） 岸 清・石塚 寛 編
参考書	「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店 7800円（+税） F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳
成績評価	全ての講義に出席することを前提に、指示する内容に従って小テストを実施して評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岡田成賛 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜・木曜放課後（17:30～19:00）
備考	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1
	柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
鳴瀬 善久・星 伴路			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【講義概要】</b> 解剖学実習では解剖学講義で学んだ内容を、組織学実習および骨実習を通して、顕微鏡で観察し、あるいは自ら骨を手で触れることによって体験的に知識を深め、より立体的にイメージできるよう解剖学知識を定着させる。</p> <p><b>【講義目標】</b> (1) 組織学実習では、プレパラードで神経組織、筋組織（横紋筋、平滑筋、心筋）、骨組織、軟骨組織について観察、スケッチすることにより、運動学に必要な骨、軟骨、筋、神経組織を説明できることを目標とする。 (2) 骨学実習では本で学んだ骨の名称、部分名の他に、他の骨との連結を手にとって組み立て、骨のスケッチを通して理解し、説明できることを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 組織解剖 1 顕微鏡の使い方とプレパラート [到達目標] 顕微鏡の各部分とその調整について説明できる。 [備考] 顕微鏡の各部の正しい使用法とプレパラート観察。スケッチ法。</p> <p>2回目 組織解剖 2 上皮組織（上皮組織と皮膚） [到達目標] 上皮組織、外皮組織とその付属器について説明できる。 [備考] 一般的な各種上皮の違いと外皮については付属器（特に受容器）の構造と分布を理解する。</p> <p>3回目 組織解剖 3 筋組織A（骨格筋） [到達目標] 横紋筋組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 喉頭の組織構成（喉頭軟骨、喉頭筋）。骨格筋（横断、縦断）。</p> <p>4回目 組織解剖 4 筋組織B（平滑筋・心筋） [到達目標] 横紋筋以外の筋組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] その他の筋群、平滑筋、心筋の違いを再確認しておく。</p> <p>5回目 組織解剖 5 神経組織 [到達目標] 大脳と脊髄の神経組織の細胞群を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 脳・脊髄の組織構造。神経細胞と神経膠細胞の特徴。</p> <p>6回目 組織解剖 6 軟骨・骨組織（硝子軟骨、弾性軟骨） [到達目標] 軟骨組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 各種軟骨組織を観察し、その違いが認識できる。</p> <p>7回目 組織解剖 7 軟骨・骨組織（線維軟骨、石灰化骨） [到達目標] 骨・軟骨組織を正しく観察し、スケッチできる。 [備考] 石灰化骨（研磨標本）と脱灰標本で骨層板と骨小腔、骨細管を観察。線維軟骨組織を観察し、その違いが認識できる。</p> <p>8回目 組織解剖 8 総復習 [到達目標] これまでの実習で使用した組織を見て、どのような組織か説明できる。 [備考] これまで学修した各組織の違いが認識できる。</p> <p>9回目 骨学 1 体幹（椎骨、上肢帯：鎖骨と肩甲骨、胸骨、肋骨） [到達目標] 椎骨・上肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 椎骨・上肢骨の名称と特徴、骨各部の名称等。各骨間の関節の名称と特徴および運動様式。肋骨、胸骨の特徴および胸郭。</p> <p>10回目 骨学 2 上肢（自由上肢：上腕骨から手の骨まで） [到達目標] 自由上肢の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 自由上肢と体幹との連結、運動様式等。</p> <p>11回目 骨学 3 下肢（下肢帯：寛骨、大腿骨から足の骨まで） [到達目標] 下肢・下肢帯の骨の名称、部分名称、連結と運動について説明でき、スケッチできる。 [備考] 下肢骨の名称と特徴、骨各部の名称。下肢骨間の関節の名称と特徴および運動様式。</p> <p>12回目 骨学 4 頭部A（頭蓋骨内外面：外頭蓋底、内頭蓋底） [到達目標] 頭蓋を構成する骨について説明でき、スケッチできる。 [備考] 骨連結、関節、縫合などを中心とする。</p> <p>13回目 骨学 5 頭部B（頭蓋骨の孔、裂孔そこを通るもの） [到達目標] 頭蓋骨に開く孔、裂孔などを説明でき、スケッチできる。 [備考] 孔、裂孔を通るものや付着する筋肉、靭帯などを含む。</p> <p>14回目 骨学 6 骨学実習総復習 [到達目標] 全身の骨を全て組み立て説明できる。 [備考] 頭蓋を構成する骨をはじめ、全身の骨を自ら組み立てて、全身を再構成する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>組織学実習では、配布するテキストの各項目に掲げた課題を中心に各構造物の特徴、機能等説明できるようにしておく（30分程度）。</p> <p>また骨学実習では骨模型の重要箇所について自分達で調べる。骨の形、部位名だけでなく、その部位にはどのような筋が起始あるいは停止するのか、孔・溝にはどのようなものが通るのか等も調べておく。</p>

	<p>注意点：各講義では自分たちが調べてきた内容について、グループディスカッションや班員同士の質問タイムで積極的に自ら学修を進める（アクティブラーニング）。そのためには骨の外観から内部構造、通るものや、組織構成は運動器系・神経系・内臓系人体構造学における基礎知識を一度、復習して総括しておけば、実習のよい予習となる（1時間程度）。</p>
教科書	骨学実習、組織学実習共にテキストを配布する。
参考書	<p>3つの解剖学講義で使用した教科書、柔道整復学校協会教科書は参考となるので、必ず持参すること。  「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーン M. J. ティモンズ M. P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円  「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 8190円</p>
成績評価	<p>組織学実習については各実習項目におけるスケッチによって評価し、骨学実習に於いては実習中のスケッチとミニ試問によって評価する。  どれか1つでも不合格の場合は、居残りとなりスケッチを再提出とする。それでも不合格の者は他日に補習をすることになる（この場合は再試験となり、再試料が必要となる。）。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 鳴瀬 善久  研究室 : 1号館2階 教授室  メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00</p> <p>担当教員名 : 星 伴路  研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室  メールアドレス : t_hoshi@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 水・木曜日 放課後(できれば事前に口頭またはMelly等で空き時間を確認してください)</p>
備考	<p>①実務経験の有無：実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに講義を行う。  ②この授業とディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2</p>
	<p>必修実習のため基本的に欠席は認めない。理由なく欠席した者、諸手続き（病欠の場合には診断書等）を行わずに欠席したものは、以後の出席を認めず、履修取り消しとなり、単位は与えられない。また理由のある者については事前に鳴瀬まで申し出て補習等の時間を確保すること。</p>
	<p>[授業形態]アクティブラーニング有り  グループごとに分かれて実習を行うが、自由時間ではない。大声で騒ぐもの、スマホで遊ぶものは即座に退場を命ずることになる。その場合、履修取り消しとなる。</p>
	<p>本実習は解剖学実習であるので、実習中には高い倫理規範を適用される。従って、機器、サンプル、模型等を乱暴に扱ったり、それを以て遊具に模す、あるいは放置して帰宅するなどの不逞の行いがあった者は大幅減点か履修取り消しとなるので、真剣に取り組むこと。  実習中は白衣を着用すること。組織実習においては、色鉛筆を用意すること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：この授業では、生理学Ⅰと生理学Ⅱで学んだ生命維持に必須な植物性機能について、復習を中心としながら、疾患を学ぶ臨床系の各授業の理解を進めるための応用力を高めることを目的とする。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を全身に運搬する血液・循環機能、換気とガス交換の仕組み、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収、体液の恒常性維持に必須の腎機能、体温を一定に保つための体温調節機能等について、理解をして説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎 到達目標：細胞の機能、物質移動について説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 1-7を熟読する。</p> <p>第2回 体液と血液 到達目標：体液と血液の区分、およびそれらの機能について説明ができる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 9-10, 115-132を熟読する。</p> <p>第3回 循環1 到達目標：心臓の特徴とその機能について説明ができる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 139-145を熟読する。</p> <p>第4回 循環2 到達目標：血圧、血管系の機能と循環器系の調節について説明ができる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 145-157を熟読する。</p> <p>第5回 呼吸 到達目標：肺による換気とガス交換の機能、および呼吸の調節について説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 159-170を熟読する。</p> <p>第6回 消化と吸収、および栄養と代謝 到達目標：各消化管における消化と吸収の特徴、肝臓の機能、エネルギー代謝、食物と栄養について説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 197-214, 183-195を熟読する。</p> <p>第7回 腎機能と体液の調節、体温、および骨の生理 到達目標：腎臓における尿生成の特徴、排尿、体液の調節、酸塩基平衡の維持、体温とその調節、骨のカルシウム代謝について説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする 備考：教科書p. 171-182, 215-222, 136-138を熟読する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習130分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習130分）
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修、彼末一之 編集（南江堂）
参考書	特になし
成績評価	事前に提示する内容に従って作成したレポート（80%）と小テスト（20%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30～18:30
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

講義科目名称： 生理学IV

授業コード： 3J212

英文科目名称： Physiology IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：この授業では、生理学Ⅱで学んだ動物性機能について、復習を中心としながら、疾患を学ぶ臨床系の各授業の理解を進めるための応用力を高めることを目的とする。</p> <p>到達目標：動物性機能として神経系の機能、筋の機能、内分泌の機能、生殖の機能、感覚の機能について、理解をして説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 筋肉の機能 到達目標：筋肉の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第2回 神経の機能① 到達目標：神経の基本的機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第3回 神経の機能② 到達目標：内臓機能の調節、運動の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第4回 内分泌の機能① 到達目標：内分泌とその調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第5回 内分泌の機能② 到達目標：内分泌の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第6回 感覚の生理学 到達目標：特殊感覚・体性感覚について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：ホームワークとして本講義の内容の確認テストを配布する。</p> <p>第7回 まとめ 到達目標：第1回～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：演習（アクティブラーニングあり）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前に各講義項目を調べて当該ページを熟読する（予習130分） 講義ノートを整理し、授業で配布した確認プリントを行う（復習130分）</p>
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修，根来英雄・貴邑富久子 著（南江堂）
参考書	「イラストでまなぶ生理学（第3版）」田中越郎 著（医学書院） 「人体の正常構造と機能(改訂第3版)」坂井建雄・河原克雅 編集（日本医事新報社）
成績評価	事前に提示する内容に従って作成したレポート（100%）にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田中健吾 研究室：8号館4F講師室 オフィスアワー：水曜日17:30～18:30</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
林 知也・田中 健吾・児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	講義で得た知識を基に、生命体としてのヒトの機能について学生自身が実験し、データを記録する。得られた結果からそれぞれの機能を分析的・統合的に考察することにより、各臓器・組織の機能、およびそれらの調節機能に関する知識を深めると共に、いかにすれば結果から必要な情報を引き出せるかを理解する。また、科学実験におけるレポートの意味と書き方と重要性を理解する。 具体的には設定された実習項目について1回1項目ずつ担当教員の指導の下に実習を行い、各テーマについて、グループ内で相互に実験者と被験者を経験できるようにする。実習項目および、それに関連する内容を実験実施前と後に討論し、1項目ごとにレポートを作成する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・ミニ講義（「循環・呼吸」と「代謝」の項目） 到達目標：実習の目的、内容を把握し、実習実施にあたっての注意事項を確認する。ミニ講義を実施し、知識の確認を行う。 備考：配布の実習書を熟読する。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 オリエンテーション・ミニ講義（「誘発筋電図」と「脳波」の項目） 到達目標：実習の目的、内容を把握し、実習実施にあたっての注意事項を確認する。ミニ講義を実施し、知識の確認を行う。 備考：配布の実習書を熟読する。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第4回 循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第5回 循環・呼吸の実習 到達目標：実習によって心電図、血圧、ならびに肺容量の測定法を理解し、得られたデータを基に心電図、血圧、ならびに肺容量の意味を理解する。また、運動におけるそれらの変化についても理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを基に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第6回 代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第7回 代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第8回 代謝の実習 到達目標：安静時と運動時のエネルギー代謝に関するデータを測定し、そのデータを基に運動時におけるエネルギー代謝の変化を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第9回 誘発筋電図の実習 到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第10回 誘発筋電図の実習</p>

	<p>到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第11回 誘発筋電図の実習</p> <p>到達目標：測定パラメーターを変えながら誘発筋電図を測定し、そこで得られたデータを基に伸張反射の回路を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第12回 脳波の実習</p> <p>到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第13回 脳波の実習</p> <p>到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第14回 脳波の実習</p> <p>到達目標：実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。必要に応じて口頭試問を実施し、理解を深める。 備考：実習前は配布の実習書を熟読した上で、必要な「人体機能」の知識を参考書等にて再確認する。実習後は得られたデータを元に内容を確認しながら、レポートを作成する。 アクティブラーニングの有無：あり</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布する実習書を熟読し、その内容が理解できるように、必要な知識を参考書等にて確認する。（予習35分） 各実習後にデータを整理し、必要な事項を参考書等で確認し、実習内容を確実に理解した上でレポートを作成する。（復習35分）
教科書	2021年度生理学実習書、明治国際医療大学生理学教室 編
参考書	生理学テキスト 第8版、大地陸男 著、文光堂 標準生理学 第8版、小澤瀨司、福田康一郎 総編集、医学書院 ギャノン生理学 原書25版、岡田泰伸 他 訳、丸善 コスタンゾ明解生理学 原書第6版、林 俊宏、高橋倫子 監訳、エルゼビア・ジャパン
成績評価	実習態度(10%)、口頭試問(10%)、レポート(80%)の採点により判定する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 林(知)教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 田中健吾 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_tanaka@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 児玉香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

講義科目名称： スポーツ生理学概論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
林 知也・児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	小児期から青年期の発育に関して、スキヤモンの発育曲線、骨・骨格筋などの発育の特徴、循環機能・呼吸機能などの発達の特徴、発育期の運動不足、過運動の影響などの説明ができるようにする。また、競技者の生理的特徴を理解するために、骨、筋肉、循環、呼吸などの生体諸機能が、運動時ではどのように変化するのかわ、生理学的観点から説明ができるようし、トレーニングによる筋・心肺機能、神経機構、姿勢調節能力の変化を説明できるようにする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、成長に伴う身体や運動能力の発達(1) 到達目標：小児期から青年期の発育曲線、骨・骨格筋の発育の特徴を説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 成長に伴う身体や運動能力の発達(2) 到達目標：小児期から青年期の循環機能・呼吸機能の発達の特徴、発育期の運動不足・過運動の影響、歩行・走行機能の発達、持久力の発達について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 運動と骨格筋・神経系 到達目標：筋のATP産生系、エネルギー源、筋線維の種類、運動単位の動員、サイズの原理、筋の収縮様式について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第4回 運動と循環・呼吸 到達目標：運動時の血圧変化、スポーツ心臓、最大酸素摂取量、換気性作業閾値、酸素借、EPOCについて説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第5回 競技者の生理的特徴(1) 到達目標：トレーニングによる筋・心肺機能の変化、トレーニングによる反射の変化について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第6回 競技者の生理的特徴(2) 到達目標：トレーニングによる姿勢調節能力の変化、眼球運動と姿勢制御について説明できる。 備考：教科書、ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第7回 まとめ 到達目標：第1～6回までの学習範囲を理解した上で説明できる。 備考：事前に提示された課題に対して、説明ができるようにすること。 アクティブラーニングの有無：有 事前に配布した課題に対してフィードバックを行う</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習130分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習130分）
教科書	「生理学(改訂第4版)」 全国柔道整復学校協会 監修、彼末一之 編集（南江堂）
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学、スポーツ生理学関連の本
成績評価	期末試験の結果（80%）と小テストの結果（20%）にて評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 児玉香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
柔道整復学科	30時間	講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 衛生・公衆衛生の目的および衛生行政 [到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>第2回 衛生統計と疫学 [到達目標] わが国の衛生統計の現状と変化・公衆衛生の問題点について理解する。 疫学の意義を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第3回 疾病の予防と健康管理 [到達目標] プライマリー・ヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第4回 生活習慣病と老人保健 [到達目標] 生活習慣に由来する危険因子について理解する。 高齢者保健の現状と問題点について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第5回 母子保健 [到達目標] 妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。 母子保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第6回 学校保健 [到達目標] 学校保健に関わる現状と課題について理解する。 学校保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第7回 精神保健、産業保健 [到達目標] 精神保健に関わる現状と課題について理解する。 産業保健に関わる現状と課題について理解する。 労働衛生行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第8回 中間試験（第1回～第7回）、試験解説 [到達目標] 第1回～7回講義内容（主に確認問題で問われた内容）を理解・修得する [授業形態] アクティブラーニング有（中間試験（50分）、解答の解説（50分））</p> <p>第9回 人間の環境・環境の把握とその評価、気圏の環境と健康 [到達目標] 環境とは何かを理解する。 地球環境の形成過程と現状の問題点について理解する。 環境汚染の成因について理解する。 環境の把握と評価方法について理解する。 気圏環境と健康、気候の健康への影響、大気汚染について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>第10回 水圏の環境と健康</p>

	<p>[到達目標] 水圏環境と健康、上水および下水、水質汚濁について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第11回 土壌環境と健康、廃棄物</p> <p>[到達目標] 土壌環境と健康、土壌汚染について理解する。 廃棄物処理の現状と問題点、廃棄物と環境汚染について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第12回 公害、放射線障害</p> <p>[到達目標] 公害の歴史と現状、公害による健康被害について理解する。 電離放射線障害について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第13回 感染症の予防と対策</p> <p>[到達目標] 微生物の分類、感染症成立における宿主・寄生体・感染経路について理解する。 滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点について理解する。 感染症法、予防接種法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回講義内容の小テスト、解答の解説）</p> <p>第14回 期末試験（第9回～第13回）・試験解説</p> <p>[到達目標] 第9回～13回講義内容（主に確認問題で問われた内容）を理解・修得する [授業形態] アクティブラーニング有（期末試験（50分）、解答の解説（50分））</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（35分程度）</li> <li>2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。</li> <li>3. 確認問題を解いて理解を深めること。（2. 3併せて35分程度）</li> <li>4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。</li> </ol>
教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第6版（公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修）
参考書	「Simple step series 公衆衛生」高橋茂樹 西基（海馬書房） 「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「衛生試験法・注解」（日本薬学会） 「シンプル公衆衛生学2021」（南江堂） 「わかりやすい公衆衛生学（第4版）」（ヌーベルヒロカワ）
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は中間試験45%、期末試験45%と小テスト10%で行い、60点以上を合格とする。 出席が6割（第1回～第7回：5回以上、第9回～第13回：3回以上）に満たない者は中間試験および期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日13:00-13:50
備考	この科目とディプローマポリシーとの関連：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子			
柔道整復学科	30時間	講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要]</p> <p>病理学は、解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するのかについて学びます。</p> <p>講義の前に予習として「事前課題」を出しますので、作成し提出してください。</p> <p>講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために、講義の最後に今日の講義範囲内の確認問題を使ったテストを行いますので、それを利用し授業時間外学習として課題ノートを作成します。また、講義内容についてのフィードバックペーパーや講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは・疾病について</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>病理学で学ぶこと・疾病についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（病因①）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第2回 病因①（内因）</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>病因①（内因）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（先天性異常）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第3回 先天性異常</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>先天性異常についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（病因②）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第4回 病因②（外因）</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>病因②（外因）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（生物学的外因と感染症）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第5回 生物学的外因と感染症</p>

第6回	<p>[到達目標・学習目標] 生物学的外因と感染症についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（炎症）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>炎症</p> <p>[到達目標・学習目標] 炎症についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（免疫異常とアレルギー）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p>
第7回	<p>免疫異常・アレルギー</p> <p>[到達目標・学習目標] 免疫異常・アレルギーについての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④次回の中間試験に向け、「病理学とは」から「免疫異常・アレルギー」までの事前課題や課題ノートを使い復習しておく。</p> <p>中間試験と試験解説</p>
第8回	<p>[到達目標・学習目標] 「病理学とは」から「免疫異常・アレルギー」までの範囲の試験で合格点を取る。 わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 中間試験とともにフィードバックペーパーを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはメリーで返信するか次回の講義でクラス内に共有する。</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。 ②次の講義（循環障害①）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>循環障害①</p>
第9回	<p>[到達目標・学習目標] 循環障害①についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（循環障害②）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>循環障害②</p>
第10回	<p>[到達目標・学習目標] 循環障害②についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（細胞傷害）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>細胞傷害（退行性病変・代謝障害）</p>
第11回	<p>[到達目標・学習目標] 細胞傷害（退行性病変・代謝障害）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話）</p>

	<p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]  ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。  ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。  ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。  ④講義前には、次の講義（進行性病変）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>進行性病変  [到達目標・学習目標]  進行性病変についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。  [授業形態]  アクティブラーニング（対話）  フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]  ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。  ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。  ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。  ④講義前には、次の講義（腫瘍①）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>腫瘍①  [到達目標・学習目標]  腫瘍①についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。  [授業形態]  アクティブラーニング（対話）  フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]  ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。  ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。  ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。  ④講義前には、次の講義（腫瘍②）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>腫瘍②  [到達目標・学習目標]  腫瘍②についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。  [授業形態]  アクティブラーニング（対話）  フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]  ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。  ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。  ③次回の期末試験に向け、「循環障害①」から「腫瘍②」までの事前課題や課題ノートを使い復習しておく。</p> <p>期末試験と試験解説  [到達目標・学習目標]  「循環障害①」から「腫瘍②」までの範囲の試験で合格点を取る。  [授業形態]  アクティブラーニング（対話）  期末試験とともにフィードバックペーパーを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはメリーで返信する。  [備考]  ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（30分）  ①次の講義範囲の教科書を読み事前課題を作成し予習しておく。  ②前回の講義で出された「宿題」をやっておく。</p> <p>復習（30分）  ①配布プリントや教科書を参考にノートに「今日のまとめ」をまとめる。  ②講義時間の最後に行う「確認問題」をノートに貼って解説をつける（課題ノート）。</p> <p>わからないことは、「フィードバックペーパーやアンケート用紙に記入する」、「メリーやメールで聞く」、「教員に直に聞きに行く」などとして、必ず解消しておいてください。</p>
教科書	「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）
参考書	「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版） 「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 第6版」大橋 健一他著（医学書院） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹緒（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版）
成績評価	定期試験（中間・期末）80%、事前課題と小テストと課題ノート10%、平常点（フィードバックペーパー含む）10%より総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00
備考	①「各学科の資格に関する実務経験の有無」 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験をもとに「病気の原因や成り立ちについて」授業をすすめる。

	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義(対面、状況により遠隔)	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標 (授業内容・到達目標)</p> <p>【授業内容】主に内科領域の診断学について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。</p> <p>単純な骨折と思っていたら、背景に重大な悪性腫瘍が存在していた、という様な事態は、現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科的診断方法につき方法別にそのポイントが列挙できるようにしましょう。</li> <li>2. 代表的な臨床症状を説明することができるようにしましょう。</li> <li>3. 主要な疾患の主要徴候のを説明することができるようにしましょう。</li> <li>4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。</li> </ol>
授業計画	<p>1回目 診察の意義、診察の進めかた</p> <p>【到達目標】 診察の意義、診察の進めかたについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 教科書 p 1－5までの予習し授業に臨みましょう。</p> <p>2回目 医療面接の意義と方法、視診の意義と方法</p> <p>【到達目標】 医療面接の意義と方法について説明できる。 視診の意義と方法について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 6－9までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3回目 体格・体型、体位・姿勢、肥満とやせ、精神状態</p> <p>【到達目標】 体格・体型、体位・姿勢、肥満とやせ、精神状態について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 9－12までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4回目 異常運動、歩行</p> <p>【到達目標】 異常運動および歩行について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 13－18までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5回目 皮膚の状態、頭部・顔面部の視診</p> <p>【到達目標】 皮膚の状態について説明できる。 頭部・顔面部の視診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 18－24までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6回目 頸部、胸部、腹部、背部・腰部、上肢の視診</p> <p>【到達目標】 部、胸部、腹部、背部・腰部、四肢の視診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】</p>

7回目	<p>小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 25-32までを予習し授業に臨みましょう。 下肢の視診、打診、聴診</p> <p>【到達目標】 下肢の視診、打診、聴診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 32-41までを予習し授業に臨みましょう。</p>
8回目	<p>腹部の聴診、触診</p> <p>【到達目標】 腹部の聴診の意義について説明できる。 各部位の触診について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 42-50までを予習し授業に臨みましょう。</p>
9回目	<p>腹部の触診、生命徴候（体温、血圧）</p> <p>【到達目標】 腹部の触診について説明できる。 生命徴候（体温、血圧）とその検査法について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 50-57までを予習し授業に臨みましょう。</p>
10回目	<p>生命聴講（脈拍、呼吸）、感覚検査</p> <p>【到達目標】 生命徴候（脈拍、呼吸）とその検査法について説明できる。 感覚検査の意義と方法について説明できる。 表在感覚・深部感覚について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 57-64までを予習し授業に臨みましょう。</p>
11回目	<p>複合感覚の検査、反射検査、表在反射</p> <p>【到達目標】 複合感覚の検査について説明できる。 反射の種類、意義と注意事項について説明できる。 表在反射について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 64-68までを予習し授業に臨みましょう。</p>
12回目	<p>深部反射、病的反射、クローヌス</p> <p>【到達目標】 深部反射、病的反射、クローヌスについて説明できる。 発熱、出血傾向、リンパ節腫瘍、意識異常について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 69-73までを予習し授業に臨みましょう。</p>
13回目	<p>自律神経反射、代表的な臨床症状（発熱、出血傾向）</p> <p>【到達目標】 自律神経反射 発熱、出血傾向、リンパ節腫瘍、意識異常について説明できる。 チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、やせについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 74-79までを予習し授業に臨みましょう。</p>
14回目	<p>まとめおよび試験</p> <p>【到達目標】 診察の概要を説明できる。 診察各論の各項目を説明できる。</p> <p>【授業形態】 試験と問題の解説およびグループワークを行います。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p>

	<p style="text-align: center;"><b>【備考】</b> 教科書 p 1－79を予習し試験に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。</p> <p>(2)復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなし記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。</p> <p>予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。</p> <p>復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて35分程度調べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	「一般臨床医学 第3版」（公社）全国柔道整復学校協会 監修／奈良信雄・稲瀬直彦 ほか著（医歯薬出版）
参考書	The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 <a href="http://merckmanual.jp/mmpej/index.html">http://merckmanual.jp/mmpej/index.html</a> 」 X線画像等も無料で見ることができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	定期試験(90%)および前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行い(10%)その結果により評価します。小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。定期試験の正解および解説は掲示板等に提示しフィードバックします。また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。そうなった場合、評価方法を若干変更する場合があります。
担当教員の基本情報	担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日午前11:00～12:00
備考	①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「診断学」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎－1、○－2

講義科目名称： 内科学

授業コード：

英文科目名称： Internal Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業内容】</b> 主に内科領域（呼吸器・循環器・消化器・内分泌器）の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と違って、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明することができるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。</p>
授業計画	<p>1 リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ <b>【到達目標】</b> リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼについて説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 教科書 p 79－86までの予習し授業に臨みましょう。 教科書 p 99－103までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>2 浮腫、肥満、やせ、生命徴候の測定 <b>【到達目標】</b> 浮腫、肥満、やせについて説明できる。 生命徴候の測定について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 86－94までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3 生理機能検査、呼吸器疾患（総論） <b>【到達目標】</b> 主な生理機能検査について説明できる。 呼吸器疾患に特有な症状について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 94－101までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4 呼吸器疾患1（かぜ症候群、インフルエンザ、急性・慢性気管支炎、肺炎、肺結核、気管支喘息、COPD） <b>【到達目標】</b> かぜ症候群、インフルエンザ、急性・慢性気管支炎、肺炎、肺結核、気管支喘息、COPDについて説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 101－109までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5 呼吸器疾患2（肺癌、肺血栓塞栓症、気胸） <b>【到達目標】</b> 肺癌、肺血栓塞栓症、気胸について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 109－114までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6 循環器疾患1（総論、うっ血性心不全、虚血性心疾患） <b>【到達目標】</b> 呼吸器疾患の主な症状について説明できる。 うっ血性心不全、虚血性心疾患について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 114－119までを予習し授業に臨みましょう。</p>

	<p>7 循環器疾患2 (心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、大動脈疾患、末梢動脈の疾患)  <b>【到達目標】</b>  心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、大動脈疾患、末梢動脈の疾患について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 1 9 - 1 2 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>8 循環器疾患3 (静脈疾患、不整脈)、消化器疾患1 (総論)  <b>【到達目標】</b>  静脈疾患、不整脈について説明できる。  消化器疾患の主要徴候について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 2 6 - 1 3 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>9 消化器疾患2 (消化管疾患)  <b>【到達目標】</b>  腹部の触診について説明できる。  生命徴候 (体温、血圧) とその検査法について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 3 2 - 1 3 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>10 消化器疾患3 (胃癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎、大腸癌、虫垂炎)  <b>【到達目標】</b>  胃癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎、大腸癌、虫垂炎について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 3 6 - 1 4 1 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>11 消化器疾患4 (イレウス、肝胆膵疾患)  <b>【到達目標】</b>  イレウス、肝胆膵疾患について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 4 1 - 1 4 6 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>12 消化器疾患4 (自己免疫性肝障害、脂肪肝、肝硬変、肝癌)  <b>【到達目標】</b>  自己免疫性肝障害、脂肪肝、肝硬変、肝癌について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 4 6 - 1 5 0 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>13 消化器疾患5 (胆石症、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌、急性・慢性膵炎、膵癌、腹膜疾患)  <b>【到達目標】</b>  胆石症、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌、急性・慢性膵炎、膵癌、腹膜疾患について説明できる。  <b>【授業形態】</b>  主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。  <b>【備考】</b>  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 5 0 - 1 5 6 までを予習し授業に臨みましょう。  小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。  教科書 p 1 8 2 - 1 8 5</p> <p>14 まとめおよび試験  <b>【到達目標】</b>  診察各論の各項目を説明できる。  呼吸器、循環器、消化器疾患の各疾患を説明できる。  <b>【授業形態】</b>  試験と問題の解説およびグループワークを行います。  <b>【備考】</b>  教科書 p 7 9 - 1 5 6 を予習し試験に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	時間外の学習 (準備学習等) について (1) 解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。 (2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなし記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。 復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて35分程度調べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。

教科書	全国柔道整復学校協会監修、奈良信夫・吉澤靖之・椎名晋一著 “一般臨床医学（改訂第3版）”（医歯薬出版）
参考書	The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 <a href="http://merckmanual.jp/mmpej/index.html">http://merckmanual.jp/mmpej/index.html</a> 」 X線画像等も無料で見る ことができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	成績評価および留意事項 定期試験(90%)および前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行い(10%)その結果により評価します。 小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。 定期試験の正解および解説は最終授業でフィードバックします。
担当教員の基本情報	担当教員の基本事項 担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日午前11:00～12:00
備考	①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「内科学」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
@			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>観血的治療としての外科学の基礎を総論と各論に分けて理解する。近年の外科学の進歩は目を見張るものがある。この半世紀に外科系の臨床医学は手術、麻酔、消毒、輸液等の進歩で飛躍的に発展を遂げた。しかし、外科学において普遍的に押さえておくべきポイントがある。前半の総論は外科学の基本である損傷、炎症、外科的感染症などについて、後半の各論は臓器別に外科的治療を解説する。講義へ積極的に参加し、幅広い医学的知識をもつことをこの講義の目標とする。</p> <p>外科学の講義は基礎医学（解剖学・生理学・病理学など）と臨床医学（内科学）の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点をメモし、教科書や参考書に戻って、再確認することが大切です。国家試験に出題される外科分野の問題は、たとえば、救急蘇生がその例で、新しい知識、考え方が要求されています。大規模災害やAEDの登場で、一般人の知識レベルが格段に上がっている中で、医療に携わる者として、必要不可欠な知識をしっかり学んでいただきたい。</p>
授業計画	<p>1回目 外科学概論 損傷と創傷（熱傷を含む） 糸井啓教授 外科学概論、損傷と創傷（機械的、非機械的損傷）について、その病態と治療を学ぶ。とくに熱傷を理解する。「創」と「傷」の違いを理解する。 授業時間外学習の指示等：外科とは何か予習する。創傷、特に熱傷について復習する。受験ポイントマスター(103-110, 135-138)</p> <p>2回目 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌 神山教授 炎症の原因・症状、感染症の概念を理解する。外科的感染症の治療（外科的処置）を理解する。無菌法、消毒法の実際を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：消毒法について予習する。外科的処置、消毒法について復習する。受験ポイントマスター(111-116)</p> <p>3回目 腫瘍の診断と治療、外科的栄養管理 糸井啓教授 腫瘍の検査法と治療法（手術・化学、放射線療法）を学ぶ。栄養管理（輸液・経腸栄養）を学び、栄養サポートチーム(NST)の意義を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍の診断と治療ならびに栄養管理（輸液・経腸栄養）について、予習する。受験ポイントマスター(117-126, 128-132)</p> <p>4回目 ショック、出血と止血法、輸血法、心肺蘇生法 神山教授 ショックの概念・分類を学ぶ。ショックに対する心肺蘇生法、一次救命処置を、AEDを含めて理解する。出血に対する止血法、輸血法を学ぶ。あわせて移植医療を理解する。 授業時間外学習の指示等：AEDについて予習する。心肺蘇生法、一次救命処置、輸血法、移植医療を復習する。受験ポイントマスター(126-131, 145-151)</p> <p>5回目 消化器外科の外科治療と内視鏡手術 糸井啓教授 消化器癌（食道癌・胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌・胆嚢癌など）の外科治療を学ぶ。とくに胃癌の外科手術を理解する。最新の腹腔鏡手術を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍について予習する。受験ポイントマスター(117-126) 消化器癌の外科治療を復習する。受験ポイントマスター(31-42, 135-138)</p> <p>6回目 急性腹症（腹部外傷を含む）の診断と治療 糸井啓教授 腹部外傷を含めた腹部外科疾患から急性腹症の診断と治療、とくに腸閉塞、腹膜炎について、学ぶ 授業時間外学習の指示等：配布したプリントをもとに、手術が必要な疾患を復習する。受験ポイントマスター(31-42, 170-172)</p> <p>7回目 胸部外傷と呼吸器外科 糸井啓教授 胸部外傷（気胸・血胸）の胸腔ドレナージなどの外科的処置を理解する。肺癌の診断、治療を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：気胸について予習する。胸部外傷、気胸・血胸の病態と治療を復習する。受験ポイントマスター(42-46, 161-165)</p> <p>8回目 血管外科と内分泌外科（乳腺疾患） 神山教授 血管疾患の外科治療 大動脈瘤・動脈閉塞症・静脈疾患の外科治療について理解する。 内分泌外科では乳腺疾患の外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：受験ポイントマスター(169-170, 166,) 定期試験 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめとして筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>外科学の総論・各論について 外科学では学ぶ項目が多岐に及ぶため、まとめの講義を設定しませんが、講義では適時まとめのプリントを配布します。そして、授業内容の理解度を確認するために、講義の重要な事項を試験問題の形式で提示します。これを解くことで、講義への理解を深めてください。それでも解決できない場合は、講義終了後やオフィスアワーに質問をしてください。</p>
教科書	<p>「外科学概論、改訂第4版 炭山嘉伸編（全国柔道整復学校協会監修）」（南江堂） 「受験ポイントマスター 柔道整復編 執筆小委員会編著」（医道の日本社）絶版</p>
参考書	<p>「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 洵編（金芳堂）絶版 「標準外科学」第14版 小柳 仁編（医学書院） 「国民衛星の動向2016/2017」（厚生労働統計協会）</p>

成績評価	定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 糸井 啓純  研究室 : 附属病院2階教授室  メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 神山 順  研究室 : 附属病院2階医局  メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	糸井啓純：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。 神山順：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏・萬代 綾子・岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	脳神経外科学および神経内科学があつかう神経疾患について学習する。神経症候、診察法、様々な検査法を学んだうえで、腫瘍、血管障害、外傷、先天異常、変性疾患、脱髄疾患、感染性疾患などについて学ぶ。学ぶ目的は、患者さんが訴える症状をそのままの症状として聞くのではなく、神経系の解剖学的、生理機能の理解の上立って、それらの症状を理解できるようになることである。また、疾患によって生じる神経脱落症状を少しでも抑える内科的治療、外科的治療の必要性とその限界、さらには神経脱落症状に伴って必要となるリハビリテーションの役割を理解できるようになることである。
授業計画	<p>1 神経疾患概説、神経学的診察法 柔道整復における神経筋疾患のかかわりについて、解剖、生理の復習とともに神経診断学の手法を学ぶ</p> <p>2 神経局在徴候と頭痛、めまいなどの神経疾患に伴う症状 脳・脊髄の機能局在と障害、頭痛や眩暈との問診の重要性、不随運動とは</p> <p>3 患脳神経疾患の画像診断 画像診断の特徴と重要性を理解する</p> <p>4 脳腫瘍、頭部外傷 脳腫瘍の症状、診断、治療について理解する。頭部外傷の特徴、骨折、脳震盪、頭蓋内出血、びまん性軸索損傷などの病態と治療について理解する</p> <p>5 脳血管障害：出血性疾患 出血性脳血管障害および閉塞性脳血管障害(脳梗塞)の症状、診断、治療について理解する。</p> <p>6 神経筋疾患 認知症、パーキンソン病などの変性疾患、筋疾患、感染症、末梢神経障害などの病態、症候、診断、治療について理解する</p> <p>7 補足とまとめ 全般的な補足とまとめを行い、理解度を評価する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	神経解剖学、神経生理学についての理解が必要であり、進行に応じて配付資料や教科書や参考書の該当内容を復習、予習をすること。
教科書	『チーム医療従事者のための臨床医学全科』渡邊 決・山村義治 他(金芳堂) 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	標準神経病学 水野美邦・栗原照幸編集 医学書院 ニュースタダード脳神経外科学 生塩之敬・種子田護・山田和雄 三和書店
成績評価	定期試験、出席により評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 樋口敏宏 研究室 : 病院1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、17-18時
備考	樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事、その実務経験をもとに授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

講義科目名称： 整形外科学

授業コード：

英文科目名称： Orthopaedic Surgery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏・池内隆治・秋津 知宏			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	種々の運動器の疾患・障害・外傷を学ぶ 運動器の傷害に対する整形外科的診察法・治療法を知る 運動器疾患の患者にとって最良の治療法を理解する 柔道整復学と整形外科学それぞれの傷害に対する適応性が理解できるようになる
授業計画	<p>1回目      ガイダンス、整形外科について、運動器の基礎知識 [到達目標] 1. 授業の進め方と内容理解の方策を把握する 2. 整形外科の意義と内容・項目を知る 3. 運動器の基礎知識を整理する 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※運動器に関する解剖学的用語を予習しておくこと（30分）</p> <p>2回目      整形外科的診察法 [到達目標] 1. 身体の構造的観察法を学ぶ（姿勢、四肢、体幹） 2. 身体の機能的観察法を学ぶ（歩行状態、関節可動性、筋力、反射所見） 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※身体計測の起点となる解剖学的部位を予習しておくこと（30分）</p> <p>3回目      整形外科的検査法 [到達目標] 1. 整形外科で用いられている検査機器について、それぞれの検査目標、検査内容、特徴などを学ぶ 2. 病態観察に応じた検査法を知る 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※種々の検査法の概略について予習しておくこと（30分）</p> <p>4回目      整形外科的治療法、スポーツ整形外科総論 [到達目標] 1. 整形外科における種々の治療法を知る 2. 疾患や損傷に応じた手術法や治療機器を学ぶ 3. スポーツによって生じやすい傷害について学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※種々の治療法の概略について予習しておくこと（30分） ※※代表的なスポーツ傷害について予習しておくこと（30分）</p> <p>5回目      整形外科学・各論について・疾患別各論：感染性疾患 [到達目標] 1. 講義の概要と進め方を理解する 2. 感染性疾患の種類・原因・症状・検査法・診断法・治療法等を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※感染性疾患の概略について予習しておくこと（30分）</p> <p>6回目      疾患別各論：骨および軟部腫瘍 [到達目標] 1. 骨および軟部腫瘍の種類・原因・症状・検査法等を学ぶ 2. 骨および軟部腫瘍の診断法・治療法等を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※骨の解剖学的構造を復習しておくこと（30分）</p> <p>7回目      疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患 [到達目標] 1. 非感染性軟部・骨関節疾患に属する疾患を学ぶ 2. 非感染性軟部・骨関節疾患に属する疾患概念・症状・診断法・治療法を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※関節の構造を周知しておくこと（30分）</p>

	8回目	疾患別各論：全身性骨・軟部疾患 [到達目標] 1. 全身性骨・軟部疾患の定義を確認する 2. 全身性骨・軟部疾患の種類・疾患概念・症状・検査法またはX線像・治療法を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※全身各部位の骨の名称・区分を周知しておくこと（30分）
	9回目	疾患別各論：骨端症、四肢循環障害 [到達目標] 1. 骨端症の定義・種類・症状またはX線像、治療法を学ぶ 2. 四肢循環障害の疾患概念・症状・診断法・治療法・予防法を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※四肢、体幹部の脈管について周知しておくこと（30分）
	10回目	疾患別各論：神経・筋疾患、神経麻痺と絞扼神経障害、腕神経叢損傷、分娩麻痺 [到達目標] 1. 神経麻痺と絞扼神経障害の疾患概念・症状・診断法・治療法・予防法を学ぶ 2. 腕神経叢損傷・分娩麻痺等の疾患概念・症状・診断法・治療法・予防法を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※脊髄神経の構成・機能について周知しておくこと（30分）
	11回目	疾患別各論：神経・筋疾患、全身性の神経・筋疾患 [到達目標] 1. 全身性の神経・筋疾患の疾患概要を学ぶ 2. 脊髄腫瘍の疾患概念・症状・診断法・治療法・予防法を学ぶ 3. 脊髄損傷の疾患概念・症状・診断法・治療法・予防法を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※脊髄の構造・機能について周知しておくこと（30分）
	12回目	疾患別各論：頸部、肩甲帯および上肢の疾患 [到達目標] 1. 頸部・肩・肩甲帯、上腕・肘関節、前腕、手関節、手・手指の疾患概要を理解する 2. 頸部・肩・肩甲帯、上腕・肘関節、前腕、手関節、手・手指の損傷に対する整形外科的治療法を知る 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※各部位の機能解剖について周知しておくこと（30分）
	13回目	疾患別各論：腰部、骨盤および下肢の疾患 [到達目標] 1. 腰部、骨盤・股関節、大腿・膝関節、下腿・足関節、足・足趾の損傷について学ぶ 2. 腰部、骨盤・股関節、大腿・膝関節、下腿・足関節、足・足趾の損傷の整形外科的治療法を学ぶ 講義形態：講義 アクティブラーニングの有無：無し [備考] ※各部位の機能解剖について周知しておくこと（30分）
	14回目	授業成果の確認・評価 [到達目標] 1. 講義内容に対する理解度を知る 2. 確認・評価方法：柔道整復師国家試験に準じた筆記試験とする 3. 整形外科学（総論・各論）の授業で育んだ知識を医療人として十分に活用できるように努力する
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること（予習復習等） 各セクションごとにプリントを配布するので、それぞれの疾患・損傷の病態等を整理・区別する（復習）	
教科書	「整形外科学」改訂第4版 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 松下 隆・福林 徹・田淵健一著（南江堂）	
参考書	「標準整形外科学 第14版」井樋栄二著（医学書院）	
成績評価	評価方法と評価割合（試験90%、その他授業態度・質問に対する呼応状況など10%評価する）	
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : 附属病院1F・MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17時～18時</p> <p>担当教員名 : 池内 隆治 研究室 : 8号館4階研究室 メールアドレス : t_ikeuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月15:00-16:00 前もつてのアポを望みます</p> <p>担当教員名 : 秋津 知宏 研究室 : 8号館4F講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>	

備考	樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事、その実務経験をもとに授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
松本 和久			
柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義/対面	
添付ファイル			

授業目標	前年度修得した解剖学の知識を柔道整復師の臨床に活用するために、柔道整復師が臨床で遭遇する疾患を例にとり、机上の解剖学が現実の臨床ではどのように見えるのかを理解し、その構造と機能が正常であるか否かを判断できるようにする。
授業計画	<p>1回目</p> <p>鎖骨  [ 到達目標 ]  鎖骨骨折や肩鎖関節脱臼など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、鎖骨に付着する筋および付着部位、肩鎖関節、胸鎖関節の正常な位置などを説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：柔道整復学・理論編」 p 183-190、 p 261-264、「教科書：運動学」 p 78-86を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>2回目</p> <p>肩甲骨  [ 到達目標 ]  肩甲骨骨折や肩胛板損傷など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、肩甲骨に付着する筋および付着部位、肩甲上腕関節の正常な位置などを説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：柔道整復学・理論編」 p 190-192、 p 265-269、「教科書：運動学」 p 78-86を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>3回目</p> <p>上腕骨  [ 到達目標 ]  上腕骨近位端骨折や上腕骨骨幹部骨折など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、上腕骨に付着する筋および付着部位などを説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：柔道整復学・理論編」 p 192-204、「教科書：運動学」 p 87-89を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>4回目</p> <p>肘頭  [ 到達目標 ]  肘頭骨折や肘関節脱臼など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、肘頭に付着する筋および付着部位、肘関節、近位橈尺関節の正常な位置などを説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：柔道整復学・理論編」 p 217-218、 p 271-275、「教科書：運動学」 p 87-94を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>5回目</p> <p>前腕  [ 到達目標 ]  前腕骨幹部骨折や遠位橈尺関節脱臼など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、前腕に付着する筋および付着部位、近位橈尺関節、遠位橈尺関節の正常な位置などを説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>

6回目	<p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 222-238、 p 276、「教科書：運動学」p 87-94を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>手</p> <p>[ 到達目標 ] 橈骨遠位端骨折や中手骨骨折など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、手部に付着する筋および付着部位、遠位橈尺関節、手根骨の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>
7回目	<p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 239-261、 p 276-285、「教科書：運動学」p 95-113を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>骨盤・股関節</p> <p>[ 到達目標 ] 骨盤骨折や大腿骨頸部骨折など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、骨盤・大腿骨に付着する筋および付着部位、仙腸関節、股関節の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>
8回目	<p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 318-328、 p 368-374、「教科書：運動学」p 114-124を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>大腿</p> <p>[ 到達目標 ] 大腿骨骨幹部骨折や膝蓋骨骨折など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、大腿部を走行する筋および付着部位、膝関節、膝蓋大腿関節の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>
9回目	<p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 329-338、 p 375-379、 p 391-400「教科書：運動学」p 125-130を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>下腿</p> <p>[ 到達目標 ] 下腿骨骨折やコンパートメント症候群など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、下腿を走行する筋および付着部位、脛腓関節の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>
10回目	<p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 183-190、 p 261-264、「教科書：運動学」p 125-130を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>足部</p> <p>[ 到達目標 ] 足根骨骨折や足関節捻挫など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、足部に付着する筋および付着部位、足関節、足根骨の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>
11回目	<p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「教科書：柔道整復学・理論編」 p 358-367、 p 407-418、「教科書：運動学」p 131-145を熟読しておくこと (予習35分)。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>顔・顎</p> <p>[ 到達目標 ] 頭蓋骨骨折や顎関節脱臼など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、顔面に付着する筋および付着部位、顎関節の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>

	12回目	<p>頸部</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>頸椎骨折や頸部捻挫など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、頸部に付着する筋および付着部位、頸椎椎間関節の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：柔道整復学・理論編」 p 154-159、p 171-178、「教科書：運動学」p 151-160を熟読しておくこと(予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること(復習35分)。</p>
	13回目	<p>胸部・腰部</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>肋骨骨折や肋間筋損傷など柔道整復師の臨床で遭遇する疾患を例にあげ、胸部・腰部に付着する筋および付着部位、胸椎椎間関節、腰椎椎間関節の正常な位置などを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容を、実際に自分または友人の身体を触知し、その感想を自らの言葉で表現し授業終了時に提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「教科書：柔道整復学・理論編」 p 144-152、p 159-166、「教科書：運動学」p 161-172を熟読しておくこと(予習35分)。</p> <p>講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること(復習35分)。</p>
	14回目	<p>復習</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>これまで学んだ柔道整復師に必要な運動機能解剖学の知識を自らの言葉で説明できる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：講義内容を確認する試験を実施し、修得状況を確認するとともに、不十分な内容については再度講義する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>これまで学修した教科書のポイントを再度確認する(予習35分)。</p> <p>確認試験で不明確だった部分を再度、教科書にて確認する(復習35分)。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。(予習35分)</p> <p>履修した内容を自らの身体、および友人、家族の身体を用いて反復学習を行うこと。</p> <p>また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。(復習35分)</p>	
教科書	<p>解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版</p> <p>運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版</p> <p>柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂</p>	
参考書	特になし	
成績評価	最終講義において修学試験を実施し評価する(100%)。	
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：松本 和久</p> <p>研究室：8号館4階教授室</p> <p>メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日16:00-17:00</p>	
備考	35年間本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。	
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」	
	◎ー1	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
川村 茂			
添付ファイル			

授業目標	肩関節部周辺および上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生機序、症状や治療法（判断、整復、固定、後療）に関して教授する。本講義を通して、肩関節部周辺および上肢の疾患に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、柔道整復師として適切な処置を行なうための知識修得を目標とする。
授業計画	<p>第1回目 肩関節損傷の確認と治療 【内容・到達目標】 肩関節損傷の確認と治療について、総論の範囲を含め基本となる治療方針・治療体系に関して理解する。  【授業時間外学修の指示】 整復学総論 I（骨折）および整復学総論 II（脱臼・軟損）の範囲を予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第2回目 鎖骨の骨折 ① 【内容・到達目標】 鎖骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 教科書 柔道整復学（理論編）P220～225  【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の損傷から、その後療法にまで予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第3回目 鎖骨の骨折 ② 【内容・到達目標】 鎖骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 教科書 柔道整復学（理論編）P220～225  【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第4回目 鎖骨の脱臼 ① 【内容・到達目標】 鎖骨部の脱臼（胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼）の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 胸鎖関節脱臼 ・ 肩鎖関節脱臼 教科書 柔道整復学（理論編）P225～228  【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法にまで予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第5回目 鎖骨の脱臼 ② 【内容・到達目標】 鎖骨部の脱臼（胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼）の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 胸鎖関節脱臼 ・ 肩鎖関節脱臼 教科書 柔道整復学（理論編）P225～228  【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法にまで予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第6回目 肩甲骨の骨折 【内容・到達目標】 肩甲骨骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 体部骨折（肩甲棘を含む） ・ 上・下角骨折 ・ 関節窩骨折</p>

	<p>教科書 柔道整復学（理論編）P228～233</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩甲骨部の損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第7回目 上腕骨近位部の骨折 ① 【内容・到達目標】 上腕骨近位部の骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 結節上骨折（骨頭骨折、解剖頸骨折） ・ 結節下骨折（外科頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折、結節部貫通骨折） ・ 骨端線離開 教科書 柔道整復学（理論編）P233～239</p> <p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第8回目 上腕骨近位部の骨折 ② 【内容・到達目標】 上腕骨近位部の骨折の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 結節上骨折（骨頭骨折、解剖頸骨折） ・ 結節下骨折（外科頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折、結節部貫通骨折） ・ 骨端線離開 教科書 柔道整復学（理論編）P233～239</p> <p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第9回目 肩関節脱臼 ① 【内容・到達目標】 肩関節脱臼の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 前方脱臼（烏口下脱臼、鎖骨下脱臼） ・ 後方脱臼（肩峰下脱臼、棘下脱臼） ・ 下方脱臼（腋窩脱臼、関節窩下脱臼） ・ 上方脱臼（烏口突起上脱臼） 教科書 柔道整復学（理論編）P239～245</p> <p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第10回目 肩関節脱臼 ② 【内容・到達目標】 肩関節脱臼の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 前方脱臼（烏口下脱臼、鎖骨下脱臼） ・ 後方脱臼（肩峰下脱臼、棘下脱臼） ・ 下方脱臼（腋窩脱臼、関節窩下脱臼） ・ 上方脱臼（烏口突起上脱臼） 教科書 柔道整復学（理論編）P239～245</p> <p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨近位部の損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第11回目 肩関節周辺の軟部組織損傷 ① 【内容・到達目標】 肩関節周辺の軟部組織損傷の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。 ・ 腱板断裂 ・ 長頭腱損傷 ・ ベネット損傷 ・ SLAP損傷 ・ インピンジメント症候群 ・ リトルリーガー肩 ・ 動揺性肩関節（loos shoulder） ・ 神経傷害 ・ 五十肩 教科書 柔道整復学（理論編）P245～256</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節周辺の軟部組織損傷から、その後療法までを予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>第12回目 肩関節周辺の軟部組織損傷 ② 【内容・到達目標】</p>
--	--

	<p>肩関節周辺の軟部組織損傷の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腱板断裂</li> <li>・ 長頭腱損傷</li> <li>・ ベネット損傷</li> <li>・ SLAP損傷</li> <li>・ インピンジメント症候群</li> <li>・ リトルリーガー肩</li> <li>・ 動揺性肩関節 (loos shoulder)</li> <li>・ 神経傷害</li> <li>・ 五十肩</li> </ul> <p>教科書 柔道整復学 (理論編) P245～256</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節周辺の軟部組織損傷から、その後療法までを予習 (45分間) 講義内容に関して復習 (45分間) しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第13回目 肩関節周辺の軟部組織損傷 ③</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節周辺の軟部組織損傷の発生機序、分類、症状、治療法、後療法に関して理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腱板断裂</li> <li>・ 長頭腱損傷</li> <li>・ ベネット損傷</li> <li>・ SLAP損傷</li> <li>・ インピンジメント症候群</li> <li>・ リトルリーガー肩</li> <li>・ 動揺性肩関節 (loos shoulder)</li> <li>・ 神経傷害</li> <li>・ 五十肩</li> </ul> <p>教科書 柔道整復学 (理論編) P245～256</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節周辺の軟部組織損傷から、その後療法までを予習 (45分間) 講義内容に関して復習 (45分間) しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p> <p>第14回目 まとめ・総合復習 筆記試験による評価 いままでの授業内容を総復習する。 その後、筆記試験を行なう。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	シラバスの指示に従い予習 (45分間) し、講義内での要点を復習 (45分間) しておくこと。 確認テストを実施した場合には、その内容を復習しておくこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修: (社) 全国柔道整復学校協会 南江堂</li> <li>・ 柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修: (社) 全国柔道整復学校協会 南江堂</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準整形外科学 (医学書院)</li> <li>・ 解剖学 第2版 監修: (社) 全国柔道整復学校協会 南江堂</li> </ul>
成績評価	出席基準を満たした者についてペーパー試験を実施し評価する (100%) 。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 川村 茂</p> <p>研究室 : 8号館4階准教授室</p> <p>メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業の直後</p>
備考	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	<p>本科目におけるDPの位置づけ</p> <p>①知識・理解 - ◎</p> <p>⑤思考・判断 - ○</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
泉 晶子			
添付ファイル			

授業目標	この科目では、上腕骨近位端部から肘関節、前腕周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、上腕骨の骨折① 【内容・到達目標】 上腕骨骨幹部骨折について理解することができる 教科書P199～P204  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、整復学Ⅰの範囲、特に総論 骨折部分と整復学Ⅰの上腕骨近位端部の範囲の復習をしておくこと。 授業範囲の予習をしておくこと	
	第2回	上腕骨の骨折② 【内容・到達目標】 上腕骨骨幹部骨折について理解することができる 教科書P199～P204  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、整復学Ⅰの範囲、特に総論 骨折部分と整復学Ⅰの上腕骨近位端部の範囲の復習をしておくこと。 第1回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第3回	上腕骨の骨折③ 【内容・到達目標】 上腕骨顆上骨折について理解することができる 教科書P204～P213  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。 第2回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第4回	上腕骨の骨折④ 【内容・到達目標】 上腕骨顆上骨折について理解することができる 教科書P204～P213  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。 第3回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第5回	上腕骨の骨折⑤ 【内容・到達目標】 上腕骨顆上骨折について理解することができる 教科書P213～P217  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。 第4回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第6回	肘関節の脱臼① 【内容・到達目標】 肘関節脱臼について理解することができる 教科書P271～P276  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第5回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第7回	肘関節の脱臼② 【内容・到達目標】 肘関節脱臼について理解することができる 教科書P271～P276  【備考】（授業時間外学習の指示等） 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第6回の授業内容を復習しておくこと	

	<p>授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第8回 前腕骨の骨折①  <b>【内容・到達目標】</b>  前腕骨近位端部骨折について理解することができる  教科書P217～P222</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。  第7回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第9回 前腕骨の骨折②  <b>【内容・到達目標】</b>  前腕骨近位端部骨折について理解することができる  教科書P217～P222</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。  第8回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第10回 前腕骨の骨折③  <b>【内容・到達目標】</b>  前腕骨骨幹部骨折について理解することができる  教科書P222～P230</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。  第9回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第11回 前腕骨の骨折④  <b>【内容・到達目標】</b>  前腕骨骨幹部骨折について理解することができる  教科書P222～P230</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。  第10回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第12回 肘関節の軟部組織損傷①  <b>【内容・到達目標】</b>  肘関節の軟部組織損傷について理解することができる  教科書P299～P308</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。  第11回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第13回 肘関節の軟部組織損傷②  <b>【内容・到達目標】</b>  肘関節の軟部組織損傷について理解することができる  教科書P299～P308</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。  第12回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第14回 肘関節の軟部組織損傷③  <b>【内容・到達目標】</b>  肘関節の軟部組織損傷について理解することができる  教科書P299～P308</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等）  総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。  第13回の授業内容を復習しておくこと  授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習（20分）・復習（25分）してくること。授業後は、配付資料・教科書を精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応すること。授業開始毎に前回の授業の確認テストを行う。確認テストの点数は成績に反映されるため、自習して臨むこと。
教科書	・柔道整復学（理論編） 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第5版南江堂
参考書	・解剖学 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 第2版
成績評価	出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。また単元ごとに確認テストを行い、その成績も加味して総合評価とする。確認テストが期限内に提出されなかった場合、授業に欠席したとみなすため注意すること。平常点（確認テスト、授業出席）20%、試験80%で総合評価する。

担当教員の基本情報	泉晶子：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2
備考	

講義科目名称： 整復学Ⅲ（上肢系）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
泉 晶子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、前腕遠位端部から手関節、指関節周辺の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学ぶ。各疾患の概要、症状、治療法の知識を深く理解することを目的とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、前腕骨の骨折① 【内容・到達目標】 手関節部の損傷、前腕骨遠位端部骨折(コーレス骨折)について理解することができる 教科書P304～P310  【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論(特に骨折部分)の復習をしておくこと。 授業範囲の予習をしておくこと	
	第2回	前腕骨の骨折② 【内容・到達目標】 前腕骨遠位端部骨折(スミス骨折、 Barton骨折)について理解することができる 教科書P310～P312  【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論(特に骨折部分)の復習をしておくこと。 第1回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第3回	アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。 手根骨部の骨折① 【内容・到達目標】 舟状骨骨折について理解することができる 教科書P213～P215  【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論(特に骨折部分)の復習をしておくこと。 第2回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第4回	アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。 手根骨部の骨折② 【内容・到達目標】 三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨骨折について理解することができる 教科書P315～P318  【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。 第3回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第5回	アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。 手関節部の脱臼① 【内容・到達目標】 遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、月状骨脱臼、月状骨周囲脱臼について理解することができる 教科書P318～P321  【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第4回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと	
	第6回	アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。 手関節部の解剖と機能、中手骨部の骨折① 【内容・到達目標】 手・手部の解剖と機能について理解することができる 中手骨部の骨折(頭部から骨幹部まで)について理解することができる 教科書P325～P332	

第7回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折部分の範囲の復習をしておくこと。 第6回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>中手骨部の骨折②、手根中手関節の脱臼</p> <p>【内容・到達目標】 ベネット骨折、ローランド骨折手根中手関節脱臼について理解することができる 教科書P330～P333</p>
第8回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折・脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第6回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>指骨の骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 指骨の骨折(基節骨骨折、中節骨骨折)について理解することができる 教科書P334～P337</p>
第9回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折・脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第7回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>指骨の骨折②、中手指節関節の脱臼</p> <p>【内容・到達目標】 末節骨骨折について理解することができる 中手指節関節の脱臼について理解することができる 教科書P337～P341</p>
第10回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 骨折・脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第8回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>指節間関節の脱臼①</p> <p>【内容・到達目標】 指節間関節の脱臼について理解することができる 教科書P341～P344</p>
第11回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 脱臼部分の範囲の復習をしておくこと。 第9回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>手部・指部の軟部組織損傷①</p> <p>【内容・到達目標】 腱・靭帯の損傷について理解することができる 教科書P344～P348</p>
第12回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。 第10回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>手部・指部の軟部組織損傷②</p> <p>【内容・到達目標】 手指部の変性疾患および変形について理解することができる 教科書P348～P350</p>
第13回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。 第11回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>総復習</p> <p>【内容・到達目標】</p>

	<p>第1回～13回の内容について理解することができる 教科書P304～P350</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 総論、特に総論 軟部組織損傷部分の範囲の復習をしておくこと。 第12回の授業内容を復習しておくこと 授業範囲の予習をしておくこと</p> <p>アクティブラーニング：小テストは学生同士で採点し合い、出来ていない箇所を互いにフィードバックする。また授業担当者に提出し、授業担当者はそれを確認する。</p> <p>第14回 総復習</p> <p>【内容・到達目標】 第1回～13回の内容について理解することができる 教科書P304～P350</p> <p>第15回 軟部組織損傷部分 第1回～13回の内容について、総復習を行う。 第1回～13回の内容について、筆記試験を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)してくる。授業後は、配付資料・教科書を精読し、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ質問するなど対応すること。</p> <p>授業開始毎に前回の授業の確認テストを行う。 確認テストの点数は成績に反映されるため、自習して臨むこと。</p>
教科書	・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第6版南江堂
参考書	・解剖学 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 第2版
成績評価	<p>出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。また単元ごとに確認テストを行い、その成績も加味して総合評価とする。</p> <p>確認テストが期限内に提出されなかった場合、授業に欠席したとみなすため注意すること。</p> <p>平常点(確認テスト、授業出席)20%、試験80%で総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>保健医療学部 柔道整復学講座 泉晶子 e-mail:a_izumi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後、またはメールにて随時</p>
備考	<p>泉晶子：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p> <p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	柔道整復師が扱う骨盤部から膝部の領域における損傷について、発生機序、原因、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導などを習得することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 大腿骨近位端部骨折 ①</p> <p>【授業目標】骨盤骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  【授業目標】大腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  【授業概要】大腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】大腿骨近位端部周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 大腿骨近位端部骨折</p> <p>【授業目標】大腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  【授業概要】大腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】大腿骨近位端部周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 股関節脱臼</p> <p>【授業目標】股関節脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  【授業概要】股関節脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】股関節周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングなし</p> <p>4回目 股関節の軟損 ②（ペルテス病、大腿骨頭すべり症他）</p> <p>【授業目標】股関節の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、説明できる。  【授業概要】股関節の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】股関節周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 股関節の軟損 ①（鼠径部痛、弾発股、梨状筋症候群）</p> <p>【授業目標】股関節の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、説明できる。  【授業概要】股関節の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】股関節周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 大腿骨骨幹部骨折</p> <p>【授業目標】大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  【授業概要】大腿骨骨幹部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】大腿骨骨幹部周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 大腿部の軟損（大腿部打撲、肉ばなれ、骨化性筋炎）</p> <p>【授業目標】大腿部の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、説明できる。  【授業概要】大腿部の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】大腿部周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第8回 大腿骨遠位端部骨折</p> <p>【授業目標】大腿骨骨遠位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  【授業概要】大腿骨骨遠位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  【準備学習】大腿骨遠位端部周辺の構造を予習予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第9回 下腿骨近位端部骨折</p> <p>【授業目標】下腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・</p>

<p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p>	<p>方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  <b>【授業概要】</b> 下腿骨近位端部骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  <b>【準備学習】</b> 下腿骨近位端部周辺の構造を予習予習しておく。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>膝蓋骨骨折  <b>【授業目標】</b> 膝蓋骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  <b>【授業概要】</b> 膝蓋骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  <b>【準備学習】</b> 膝蓋骨部周辺の構造を予習予習しておく。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>膝蓋骨脱臼  <b>【授業目標】</b> 膝蓋骨脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  <b>【授業概要】</b> 膝蓋骨脱臼の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  <b>【準備学習】</b> 膝蓋骨周辺の構造を予習予習しておく。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>膝関節の軟損②  <b>【授業目標】</b> 膝関節の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、説明できる。  <b>【授業概要】</b> 膝関節の軟部組織損傷の症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  <b>【準備学習】</b> 膝関節周辺の構造を予習予習しておく。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>骨盤骨骨折  <b>【授業目標】</b> 骨盤骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について説明できる。  <b>【授業概要】</b> 骨盤骨骨折の分類、症状、施術目的・方法、鑑別疾患、症状、施術目的・方法、鑑別診断、施術上の注意ならびに生活指導について、その概要を説明できる。  <b>【準備学習】</b> 骨盤部周辺の構造を予習予習しておく。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>総合評価（まとめ）  本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。</p>
<p>教科書</p>	<p>柔道整復学・理論編 改訂版第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)</p>
<p>参考書</p>	<p>柔道整復学・実技編 改訂版第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)</p>
<p>成績評価</p>	<p>出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。  学年末試験を80%程度とする。  授業時に行う小テストの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 棚原 勝平  研究室 : 8号館4階・講師室  メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 授業終了時1時間</p>
<p>備考</p>	<p>棚原 勝平：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
<p></p>	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-2</p>
<p></p>	<p></p>
<p></p>	<p></p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
棚原 勝平・中川 達雄			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	前半：1年次に学習した身体の構造に対し、より理解を深めるために、ストレッチを通じて学習する。また、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復術の業務範囲における各種傷害に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。 後半：		
授業計画	第1回	徒手療法の概念と種類、ストレッチの概念と種類 【内容・到達目標】 徒手療法、ストレッチを行う上での基本的な概念と種類について理解することができる  【備考】（授業時間外学習の指示等） 解剖学 骨筋の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第2回	スタティックストレッチ① 【内容・到達目標】 肩関節周囲のペアスタティックストレッチについて理解することができる  【備考】（授業時間外学習の指示等） 解剖学 骨筋の範囲の復習をしておくこと 第1回の授業内容の復習をしておくこと アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第3回	スタティックストレッチ② 【内容・到達目標】 上腕・前腕周囲のペアスタティックストレッチについて理解することができる  【備考】（授業時間外学習の指示等） 解剖学 骨筋の範囲の復習をしておくこと 第2回の授業内容の復習をしておくこと アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第4回	スタティックストレッチ③ 【内容・到達目標】 股関節周囲のペアスタティックストレッチについて理解することができる  【備考】（授業時間外学習の指示等） 解剖学 骨筋の範囲の復習をしておくこと 第3回の授業内容の復習をしておくこと アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第5回	スタティックストレッチ④ 【内容・到達目標】 大腿・下腿周囲のペアスタティックストレッチについて理解することができる  【備考】（授業時間外学習の指示等） 解剖学 骨筋の範囲の復習をしておくこと 第4回の授業内容の復習をしておくこと アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第6回	まとめ 【内容・到達目標】 第1回から第6回までの授業範囲の評価を行う。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 予習：股関節周辺の解剖・体表解剖 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第7回	モーション・パルペーション① 【内容・到達目標】 徒手療法とは何か。これから学ぶ徒手療法、手技療法についての基礎的知識を理解することができる。 股関節の触診、モーション・パルペーションにおける注意事項の理解と検査技術を修得することができる。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 復習：股関節周辺の解剖・体表解剖について復習しておく 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 回旋検査 P56-59 アクティブラーニングなし	
	第8回	モーション・パルペーション② 【内容・到達目標】 股関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法を修得することができる	

第9回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  復習：股関節回旋検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく  予習：四肢のモーション・パルペーション(上巻) 内/外転検査 P60-63  アクティブラーニングなし  モーション・パルペーション③</p> <p>【内容・到達目標】  股関節内/外転検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法を修得することができる</p>
第10回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  復習：股関節内/外転検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく  予習：四肢のモーション・パルペーション(上巻) 屈曲検査 P52-53  アクティブラーニングなし  モーション・パルペーション④</p> <p>【内容・到達目標】  股関節屈曲検査とその治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第11回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  復習：股関節屈曲検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく  予習：四肢のモーション・パルペーション(上巻) 伸展検査 P54-55  アクティブラーニングなし  モーション・パルペーション⑤</p> <p>【内容・到達目標】  股関節伸展検査とその治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第12回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  復習：股関節伸展検査とマイクロ・モービリゼーションを実技復習しておく  予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P2-39  予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P16-21  アクティブラーニングなし  モーション・パルペーション⑥</p> <p>【内容・到達目標】  肩関節の触診、モーション・パルペーションにおける注意事項、臨床に使える肩関節可動域検査を修得することができる  肩関節屈曲および伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第13回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  復習：肩関節の屈曲・伸展検査とモービリゼーションを実技復習しておく  予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P26-27  予習：四肢のモーション・パルペーション(下巻) 肩関節 P28-31  予習：肩関節周囲の筋肉  アクティブラーニングなし  モーション・パルペーション⑦</p> <p>【内容・到達目標】  肩関節内外転検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる  肩関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションを修得することができる</p>
第14回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)  復習：第8回から14回の内容を復習しておくこと  アクティブラーニングなし</p> <p>まとめと評価  第8回から14回までの内容を実技試験・筆記試験を行い評価する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)してこよう。
教科書	・機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明 ・機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄、監：青木隆明
参考書	指定なし。
成績評価	実技試験を行い評価する。中間評価50%、期末評価50%として総合評価する。 実技の授業を行う際にはKCの着用を原則とし、着用がない場合は授業態度の項目から減点するので注意すること。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中川達雄 メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間  担当教員名 : 棚原勝平 研究室 : 8号館4階講師室 オフィスアワー : 講義終了後の1時間
備考	棚原勝平：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2 ○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習/対面	
添付ファイル			

授業目標	前年度修得した解剖学の知識を柔道整復師の臨床に活用するために、現実の人体がどのように動いているのかを分析し、解剖学的な因子がどのように影響しているかを判断できるようになる。		
授業計画	1回目	<p>オリエンテーション：前期に習得した「運動機能解剖学」の知識・技術について復習と、それをもとにした「機能解剖学実習」の目的を説明できる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師の臨床に必要な静的観察能力が、前期の「運動機能解剖学」であり、それをもとに「機能解剖学実習」では、動的観察力を習得するが、その意義を自分の言葉で説明することができる。</p> <p>〔授業形態〕</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示）</p> <p>前期に習得した「運動機能解剖学」の知識・技術について復習しておく（予習35分）。機能解剖学実習が必要な理由を、自分の言葉でまとめておく（復習35分）。</p>	
	2回目	<p>基本動作について：基本動作について理解し、基本動作の構成要素と阻害因子を的確に判断できるようになる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>動的観察力を習得するために、基本動作について理解し、基本動作の構成要素と阻害因子を的確に判断できるようになる。</p> <p>〔授業形態〕</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示）</p> <p>自分の言葉でまとめた「機能解剖学実習」が必要な理由を見直し、必要に応じて加筆しておく（予習35分）。基本動作の構成要素と阻害因子を自分の言葉でまとめておく（復習35分）。</p>	
	3回目	<p>仮説と検証について：基本動作を分析するために、基本動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>基本動作を分析するために、基本動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>〔授業形態〕</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示）</p> <p>自分の言葉でまとめた基本動作の構成要素と阻害因子について復習しておく（予習35分）。基本動作を分析する上で重要な仮説と検証の手法について、自分の言葉でまとめておく（復習35分）。</p>	
	4回目	<p>正常な寝返りについて：寝返り動作を分析するために、寝返り動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>寝返り動作を分析するために、寝返り動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>〔授業形態〕</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示）</p> <p>自分の言葉でまとめた仮説と検証の手法について復習しておく（予習35分）。正常な寝返り動作を実施するために必要な運動要素とその阻害因子について、自分の言葉でまとめておく（復習35分）。</p>	
	5回目	<p>寝返りの動作分析1：寝返り動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>寝返り動作を分析するために、寝返り動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>〔授業形態〕</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記</p>	

	<p>述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 自分の言葉でまとめた正常な寝返り動作を実施するために必要な運動要素とその阻害因子について復習しておく (予習35分)。 Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p>
6回目	<p>寝返りの動作分析2: Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較し、正常と異常が的確に判断できるようになる。</p> <p>[到達目標] Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較し、正常と異常が的確に判断できるようになる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について復習しておく (予習35分)。</p>
7回目	<p>Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>正常な起き上がりについて: 起き上がり動作を分析するために、起き上がり動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>[到達目標] 起き上がり動作を分析するために、起き上がり動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 寝返り動作の動作分析方法を復習しておく (予習35分)。</p>
8回目	<p>起き上がり動作の正常について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>起き上がりの動作分析1: 起き上がり動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>[到達目標] 起き上がり動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 自分の言葉でまとめた起き上がり動作について復習しておく (予習35分)。</p>
9回目	<p>Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>起き上がりの動作分析2: Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較し、正常と異常が的確に判断できるようになる。</p> <p>[到達目標] Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較し、正常と異常が的確に判断できるようになる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について復習しておく (予習35分)。</p>
10回目	<p>Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>正常な立ち上がりについて: 立ち上がり動作を分析するために、立ち上がり動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>[到達目標] 立ち上がり動作を分析するために、立ち上がり動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について復習しておく (予習35分)。</p>
11回目	<p>Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>立ち上がり動作の正常について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>立ち上がりの動作分析1: 立ち上がり動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>[到達目標] 立ち上がり動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p>

	<p>きを的確に判断できるようになる。</p> <p>[ 授業形態 ]          アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)          自分の言葉でまとめた立ち上がり動作について復習しておく (予習35分)。          Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>12回目          立ち上がりの動作分析 2 : Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較し、正常と異常が的確に判断できるようになる。</p> <p>[ 到達目標 ]          Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較し、正常と異常が的確に判断できるようになる。</p> <p>[ 授業形態 ]          アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)          Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について復習しておく (予習35分)。          Stick Pictureから導いた各相における各関節の動きを正常値と比較する方法を、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>13回目          正常な歩行について：歩行動作を分析するために、歩行動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。</p> <p>[ 到達目標 ]          歩行動作を分析するために、歩行動作の正常について理解し、仮説と検証の手法を用いて、正常と異常の差を的確に判断できるようになる。 [ 授業形態 ]</p> <p>14回目          アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)          「寝返り動作」、「起き上がり動作」、「立ち上がり動作」について復習しておく (予習35分)。          歩行動作の正常について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p> <p>歩行動作分析：歩行動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>[ 到達目標 ]          歩行動作を構成する相を理解し、Stick Pictureを用いて描写し、各相における各関節の動きを的確に判断できるようになる。</p> <p>[ 授業形態 ]          アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)          自分の言葉でまとめた歩行動作について復習しておく (予習35分)。          Stick Pictureを用いた各相における各関節の動きの算出方法について、自分の言葉でまとめておく (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>授業計画に則り、授業内容の項に関する解剖学の教科書および資料を熟読しておくこと。(予習35分)          履修した内容を自らの身体、および友人、家族の身体を用いて反復学習を行うこと。(復習35分)</p>
教科書	<p>解剖学 改訂第2版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 医歯薬出版          運動学 改訂第3版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 医歯薬出版          柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 南江堂</p>
参考書	特になし
成績評価	<p>講義直後の提出物 (50%) により評価する。          提出物の評価は、講義内容の要約 (項目と概要) が3/4以上記載されていれば優、3/4未満1/2以上であれば良、1/2未満1/4以上であれば可、1/4未満は不可と評価する。          最終講義において修学状況を試験にて確認し、その結果 (50%) により評価し、修学できていない部分は再度、講義する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：松本 和久          研究室：8号館4階教授室          メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー：水曜日16:00-17:00</p>
備考	<p>35年間、病院に勤務し、その病院のリハビリテーションセンターにおける実務経験をもとに「運動機能解剖学実習」についての授業をすすめる。</p>
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」          ◎ー1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
川村 茂			
添付ファイル			

授業目標	肩関節部周辺および上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生機序、症状や治療法（判断、整復、固定、後療）に関して教授する。本実習を通して、肩関節部周辺および上肢の疾患に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、柔道整復師として適切な処置を行なうための知識を理解・実践する。
授業計画	<p>第1回目      オリエンテーション・鎖骨の骨折 ①  <b>【内容・到達目標】</b>  鎖骨骨折の知識を復習し、座位整復法と座位固定法（背側8字帯）に関して理解・実践する。</p> <p><b>【授業時間外学修の指示】</b>  鎖骨部の損傷から、その後療法までを予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P220～225  講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング   ： 有</p> <p>第2回目      鎖骨の骨折 ②  <b>【内容・到達目標】</b>  鎖骨整復台を使用した整復法・固定法に関して理解・実践する。  鎖骨整復台を使用した背側8字帯が実践できる。</p> <p><b>【授業時間外学修の指示】</b>  鎖骨部の損傷から、その後療法までを予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P220～225  講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング   ： 有</p> <p>第3回目      肩関節前方脱臼の整復・固定①  <b>【内容・到達目標】</b>  肩関節脱臼の整復法と固定法について理解する。  肩関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。</p> <p><b>【授業時間外学修の指示】</b>  肩関節の脱臼から、その後療法までを予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P239～243  講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング   ： 有</p> <p>第4回目      肩関節前方脱臼の整復・固定②  <b>【内容・到達目標】</b>  肩関節脱臼の整復法と固定法について理解する。  肩関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。</p> <p><b>【授業時間外学修の指示】</b>  肩関節の脱臼から、その後療法までを予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P239～243  講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング   ： 有</p> <p>第5回目      肩鎖関節脱臼 ①  <b>【内容・到達目標】</b>  鎖骨骨折の整復法と固定法（デゾー包帯）について復習する。  肩鎖関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。</p> <p><b>【授業時間外学修の指示】</b>  鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P225～228  講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング   ： 有</p> <p>第6回目      肩鎖関節脱臼 ②  <b>【内容・到達目標】</b>  肩鎖関節脱臼の知識を復習し、整復法・固定法を理解・実践する。  ヴェルポー包帯、ジュール包帯に関して理解・実践する。</p> <p><b>【授業時間外学修の指示】</b>  鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P225～228</p>

第7回目	<p>講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>肩鎖関節脱臼 ③</p> <p>【内容・到達目標】 肩鎖関節脱臼の整復法・固定法（ジュール包帯変法）を理解・実践する。 ヴェルポー包帯、ジュール包帯に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 鎖骨部の脱臼から、その後療法までを予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P225～228 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p>
第8回目	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>上腕骨外科頸骨折 ①</p> <p>【内容・到達目標】 上腕骨外科頸骨折の整復法および固定法を理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨外科頸骨折から、その後療法にまで予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P233～236 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p>
第9回目	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>上腕骨外科頸骨折 ②</p> <p>【内容・到達目標】 「上腕骨外科頸骨折 ①」の知識を復習し、上腕骨外科頸骨折の整復法および固定法を理解・実践する。 外科頸内転型骨折における外転副子固定（実技編P85～86）について理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 上腕骨外科頸骨折から、その後療法にまで予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P233～236 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p>
第10回目	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>肩関節部の軟部組織損傷 ①</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、その病態把握に関して理解・実践する。 徒手検査法に関して理解・実践する。</p> <p>臨床徒手検査法 ペインフルアークサイン ドロップアームサイン ヤーガソンテスト スピードテスト インピンジメントサイン ハイアークサイン リフトオフテスト に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節部の軟部組織損傷から、その後療法にまで予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P243～256 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p>
第11回目	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>肩関節部の軟部組織損傷 ②</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、その病態把握に関して理解・実践する。 徒手検査法に関して理解・実践する。</p> <p>臨床徒手検査法 ペインフルアークサイン ドロップアームサイン ヤーガソンテスト スピードテスト インピンジメントサイン ハイアークサイン リフトオフテスト に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肩関節部の軟部組織損傷から、その後療法にまで予習（45分間） 教科書 柔道整復学（理論編）P243～256 講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p>
第12回目	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>肩関節部の軟部組織損傷 ③</p> <p>【内容・到達目標】 肩関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、その病態把握に関して理解・実践する。 徒手検査法に関して理解・実践する。</p>

	<p>臨床徒手検査法  ペインフルアークサイン  ドロップアームサイン  ヤーガゾンテスト  スピードテスト  インピンジメントサイン  ハイアークサイン  リフトオフテスト  に関して理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】  肩関節部の軟部組織損傷から、その後療法にまで予習（45分間）  教科書 柔道整復学（理論編）P243～256  講義内容に関して復習（45分間）しておくこと。</p> <p>第13回目  アクティブラーニング：有  まとめ・総合復習  いままでの授業内容を総復習する。  その後、実技試験・口頭試問を行なう。</p> <p>第14回目  アクティブラーニング：有  まとめ・評価  いままでの授業内容を総復習する。  その後、実技試験・口頭試問を行なう。</p> <p>アクティブラーニング：有</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	シラバスの指示に従い予習（45分間）し、講義内での要点を復習（45分間）しておくこと。 実習の要点を中心に復習しておくこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂</li> <li>・ 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準整形外科学（医学書院）</li> <li>・ 解剖学 第2版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂</li> </ul>
成績評価	出席基準を満たした者について実技試験および口頭試問を実施し評価する（80%）。 確認テスト（口頭試問と実技）を講義の中間に実施し評価する（20%）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：川村 茂  研究室：8号館4階 准教授室  メールアドレス：s_kawamura@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー：授業の直後</p> <p>担当教員名：児玉 香菜絵  研究室：8号館4階 講師室  メールアドレス：k_kodama@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー：授業の直後</p>
備考	<p>本科目におけるDPの位置づけ  ②思考・判断 - ◎  ⑤技能・表現 - ○</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
秋津 知宏・児玉香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、柔道整復師が診る上で重要な肘関節周辺の外傷である骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・上肢包帯法 上肢(肩関節・肘関節)における基本の包帯法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肩関節・肘関節における包帯法を実施することができる。 【準備学習について】 肩関節・肘関節の基本包帯法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第2回	<p>上腕骨骨幹部骨折① 上腕骨骨幹部骨折における整復法を学び、上腕骨骨幹部骨折における固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折における整復法・固定法(ミッテルドルフ三角副子固定)を実施することができる。 【準備学習について】 上腕骨骨幹部骨折における固定法(ミッテルドルフ三角副子固定)について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第3回	<p>上腕骨骨幹部骨折② 上腕骨骨幹部骨折における整復法、固定法(クラーメル副子固定)について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折における整復法・固定法(クラーメル副子)を実施することができる。 【準備学習について】 上腕骨骨幹部骨折における整復法・固定法(クラーメル副子)について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第4回	<p>肘頭骨折 肘頭骨折における整復法、固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘頭骨折における整復法、固定法を行う事ができる。 【準備学習について】 肘頭骨折における整復法、固定法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第5回	<p>肘関節の骨折の固定法 第1～4回の内容を復習し、上腕骨骨幹部骨折、肘頭骨折における固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折、肘頭骨折における固定法を実施することができる。 【準備学習について】 上腕骨骨幹部骨折、肘頭骨折について第1～4回の授業をまとめ予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第6回	<p>肘関節脱臼① 肘関節脱臼における診察、整復法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘関節脱臼(後方脱臼)における診察、背臥位での整復法を実施することができる。 【準備学習について】 肘関節脱臼における診察、整復法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第7回	<p>肘関節脱臼② 肘関節脱臼における固定法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘関節脱臼における固定法を実施することができる。 【準備学習について】 肘関節脱臼における固定法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第8回	<p>肘内障、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折 肘内障、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折についての診察、整復を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 肘内障、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折における診察、整復法を実施することができる。 【準備学習について】 肘関節、上腕骨顆上骨折、橈骨近位端部骨折における診察、整復法について予習しておく。 【授業形態】実習(アクティブラーニング)</p>	
	第9回	<p>肘関節部の脱臼 第6～8回の内容を復習し、肘関節部の脱臼における診察、整復法、固定法について実技を交えて学ぶ。</p>	

	<p>【到達目標】 肘関節脱臼、肘内障の診察、整復法、固定法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 肘関節脱臼、肘内障について第6～8回の授業をまとめ予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>第10回 肘関節内側側副靭帯損傷 肘関節内側側副靭帯損傷における診察、徒手検査、治療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 肘関節内側側副靭帯損傷における診察、徒手検査（内反動揺性テスト、外反動揺性テスト）、治療法を行う事が出来る。</p> <p>【準備学習について】 肘関節内側側副靭帯損傷における診察、徒手検査、治療法について予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>第11回 テニス肘 テニス肘など肘関節部の軟部組織損傷について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 テニス肘など肘関節軟部組織損傷における診察、徒手検査、治療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 テニス肘における診察、徒手検査、治療法について予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>第12回 肘部管症候群、前骨間神経麻痺 肘部管症候群や前骨間神経麻痺など肘関節周辺の神経損傷について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 肘関節の神経損傷の診察、徒手検査を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 肘部管症候群、前骨間神経麻痺における診察、徒手検査について予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>第13回 肘関節部の軟部組織損傷 第10～12回の内容を復習し、肘関節部の軟部組織損傷の診察、徒手検査、治療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 肘関節の軟部組織損傷の診察、徒手検査、治療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 肘関節軟部組織損傷における診察、徒手検査、治療法について第10～12回の授業をまとめ予習をしておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p> <p>第14回 整復学Ⅱ実習の内容に関するまとめと定期試験</p> <p>肘関節部の骨折、脱臼、軟部組織損傷における診察、整復法、徒手検査、固定法、治療法についてまとめを行い、総合的に評価（実技試験）を行う。</p> <p>【到達目標】 肘関節部の骨折、脱臼、軟部組織損傷における診察、徒手検査、整復法、固定法、治療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】 第1～13回までの内容に関して復習し理解して定期試験に臨む。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習100分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習100分）。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編）
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第6版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編）
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。 学年末試験を80%程度とする。 授業時に行う小テストの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 秋津 知宏 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t.akitsu@meiji-s.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時</p> <p>担当教員名 : 児玉 香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時</p>
備考	秋津 知宏：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 児玉 香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
宮越 亮典・濱口 夏花			
柔道整復学科	30時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	整復学Ⅲで学んだ内容の整復法、固定法、合併症などについて知識を習得し、診察・整復・固定の手順を把握することを目的とする。また、整復法や固定法が実践できるようになる。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション、コース骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 コース骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 概要の復習と厚紙副子の作成、整復法①</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 コース骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第2回	<p>コース骨折②</p> <p>【内容・到達目標】 コース骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 整復法②、熱可塑性副子の作成</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 コース骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第3回	<p>コース骨折③</p> <p>【内容・到達目標】 コース骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 診察から整復、固定までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 コース骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第4回	<p>スミス骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 スミス骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 スミス骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第5回	<p>スミス骨折②、舟状骨骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 スミス骨折と舟状骨骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 スミス骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 舟状骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 スミス骨折、舟状骨骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第6回	<p>舟状骨骨折②、ベネット骨折①</p> <p>【内容・到達目標】 舟状骨骨折とベネット骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 舟状骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ ベネット骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学理論編 舟状骨骨折、ベネット骨折の項目について予習しておくこと。 復習(45分)：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>	
	第7回	<p>ベネット骨折②、中手骨骨幹部骨折①</p>	

	<p><b>【内容・到達目標】</b> ベネット骨折と中手骨骨幹部骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 ベネット骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 中手骨骨幹部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 ベネット骨折、中手骨骨幹部骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 中手骨骨幹部骨折②、中手骨頸部骨折①</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 中手骨骨幹部骨折、中手骨頸部骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 中手骨頸部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 中手骨骨幹部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 中手骨骨幹部骨折、中手骨頸部骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 中手骨頸部骨折②、指骨骨折①</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 中手骨頸部骨折、指骨骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 中手骨頸部骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 指骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 中手骨頸部骨折、指骨骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 指骨骨折②</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 指骨骨折の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 指骨骨折：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 指骨骨折の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 PIP関節脱臼（背側脱臼）、第1MP関節脱臼（背側脱臼）</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> PIP関節脱臼（背側脱臼）、第1MP関節脱臼（背側脱臼）の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 PIP関節脱臼（背側脱臼）：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 第1MP関節脱臼（背側脱臼）：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 第1MP関節脱臼（背側脱臼）の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 ロッキングフィンガー、指側副靭帯損傷</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> ロッキングフィンガー、指側副靭帯損傷の概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 ロッキングフィンガー：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ 指側副靭帯損傷：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 ロッキングフィンガー、指側副靭帯損傷の項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。 マレットフィンガー</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> マレットフィンガーの概要について理解し、整復法・固定法を実践することができる。 マレットフィンガー：概要の復習と整復法、固定法までの一連の流れを学ぶ</p> <p><b>【備考】（授業時間外学習の指示等）</b> 予習（45分）：柔道整復学理論編 マレットフィンガーの項目について予習しておくこと。 復習（45分）：実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

	<p>第14回 総復習</p> <p>【内容・到達目標】 第1回から第14回までの内容を理解し、整復法・固定法を実践することができる。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分): 柔道整復学理論編 マレットフィンガーの項目について予習しておくこと。 復習(45分): 実技編の教科書、授業中のメモなど注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング: 学生同士でペアを組み整復法や固定法を練習しながら、走行の正確さや、より適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>技術は反復練習により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。</p> <p>予習(45分): シラバスから授業で行う範囲を確認し、配布したプリントを基に自主練習を行う。</p> <p>復習(45分): 授業で行った内容を確認しながら、自主練習を行う。</p>
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版: 柔道整復学校協会監修
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第6版: 柔道整復学校協会監修
成績評価	<p>期末試験として実技試験を行い評価する。</p> <p>授業中はKCと名札の着用を原則とし、着用していない場合は実習態度の項目から減点対象とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>宮越亮典 【場所】8号館4階・講師室 【オフィスアワー】授業後1時間</p> <p>濱口夏花 【場所】8号館4階・講師室 【アドレス】n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp 【オフィスアワー】授業後1時間</p>
備考	<p>宮越亮典: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p> <p>濱口夏花: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
苗村 建慈			
配当学科：柔道整復学科	時間数：45時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本学附属病院外来の診療各科において、医師の診察、診断と治療の過程を見学し、現代医学的診療法および患者様に対する接し方、対応の仕方を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。</p> <p>また、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士など、病院内における医療スタッフの業務を見学し、理解するとともに附属施設（臨床検査部などの中央診療施設等）も見学し、臨床検査、放射線科に関する画像診断法などについても理解を深め、それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法を学ぶ。</p> <p>医師や他の医療スタッフと適切な連携ができるように、そのあり方を学び、各診療科や検査部門等において診断、治療の行程及び検査技術等の見修を行う。</p>
授業計画	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生を8班に班分けし、1班を2～3名編成しローテーションする。</li> <li>2. 午前9時20分までには8号館1階ロビーに集合し、出席確認をする。（時間厳守）</li> <li>3. 午前9時30分～午後13時00分の間で行う。</li> </ol> <p>出席状況</p> <p>「附属病院実習出席簿」の該当する期日欄に必ず担当教員の出席確認を受ける。  ※出席簿は全ての実習が終了した時点で実習簿より切り離し、レポートの最終ページに添付すること。</p> <p>レポート提出</p> <p>（1）提出要領</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① レポートは各診療科がはっきり分かるように区分して記載する。</li> <li>② 各見修内容別に市販のA4サイズの横書きレポート用紙（またはワープロ打ちでA4用紙に印刷）で各科1、200字程度にまとめ、表紙を必ず付けて提出すること。</li> <li>③ 提出期限について  別途案内をする。  ※欠席等で振替日に実習を行った者については3月17日（火）17時までとする。  提出先：6号館 学生受付</li> </ol> <p>なお、レポートの課題はオリエンテーション時に指示があった内容とし、単に教科書を写したものや他人のものを写したレポートは評価の対象とならないので注意すること。</p> <p>（2）記入する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各診療科においてレポート内容の指示がある場合はその内容について記入し、特に指示がない場合はオリエンテーションの課題内容を参考に実習で得られた知見を追記し、レポートを完成させてください。</li> <li>② レポート内容については評価後、書き直しを要求される場合がある。  また、書き直しの場合には、指定された期日までにレポートを再提出する。</li> </ol> <p>（3）レポート提出が必要な診療科及び担当教員</p> <p>内科（浅沼教授）、外科（糸井啓純教授）、整形外科（糸井恵教授）、脳神経外科・MR（樋口教授）、  眼科（山田教授）、泌尿器科（高羽准教授）、病理検査（後藤講師）、放射線科（北村技師長）</p> <p>各科における事前レポート課題内容</p> <p>&lt;内科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病について</li> <li>・慢性閉塞肺疾患について</li> <li>・高血圧・動脈硬化症について</li> </ul> <p>&lt;外科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胃がんについて</li> <li>・大腸がんについて</li> <li>・気胸について</li> <li>・急性虫垂炎について</li> </ul> <p>&lt;眼科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白内障について</li> <li>・緑内障について</li> <li>・近視、遠視、乱視の違いについて</li> </ul> <p>&lt;泌尿器科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前立腺肥大について</li> <li>・前立腺癌について</li> <li>・乏尿・閉尿、頻尿の症状と疑われる疾患について</li> </ul> <p>&lt;脳神経外科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳卒中について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳震盪について</li> <li>・意識障害の評価方法について</li> </ul> <p>&lt;病理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理検査（外科病理学について）</li> <li>・病理学における観察方法について</li> <li>・組織標本染色方法について</li> </ul> <p>&lt;放射線科・MR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レントゲン画像とCT画像の違いについて</li> <li>・MRIの原理とMRI画像（T1強調画像とT2強調画像の違い）について</li> </ul> <p>&lt;整形外科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関節リウマチについて</li> <li>・変形性関節症について</li> <li>・腰部ヘルニアについて</li> <li>・脊柱管狭窄症について</li> </ul> <p>その他</p> <p>見学する診療科の実習日変更、実習レポートの書き直しのための呼出等の連絡は、メール等にて行うので見落としのないように留意する。</p> <p>留意事項</p> <p>1. 携帯品</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 筆記用具（ボールペン、ノート等）のみとする。 ※ バッグ等は8号館の各自のロッカーに収納する。</li> <li>(2) 実習に必要なテキスト、参考書、プリント等</li> <li>(3) 実習簿は常に携帯する。</li> <li>(4) ネーム（病院内では必ず本学指定のネームをつける。）</li> </ol> <p>2. 服装及びマナー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「附属病院外来」における実習時は、必ず実習用白衣を着用し、ネクタイ等医療人としてふさわしい服装を着用すること。</li> <li>(2) ジーンズ、ジャージ、サンダル及び白衣・ケーシーの下に柄のあるシャツの着用等、ふさわしくない服装は禁じ、実習への参加は認めない。</li> <li>(3) 常に頭髪（髪型、茶髪）、爪、服装、男性の場合は髭を伸ばさず、清潔に保つこと。 頭髪のカラーはカラススケールの『6』以下であること。</li> <li>(4) 手指の消毒を怠らないように注意すること。</li> <li>(5) 特に疾患や病態などについては患者様の前で話さないこと。また「おはようございます」「お大事に」などの声かけはせずに会釈で済ませる。</li> <li>(6) 常に担当教員等の指示に従い、速やかに行動すること。</li> </ol> <p>3. その他注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 決められた時間は厳守する（遅れた場合は実習に参加できない）。</li> <li>(2) 実習施設内では学生は一切禁煙であるので注意する。</li> <li>(3) 体の不調等を起こした者は、直ちに担当教員にその旨を告げ指示に従う。</li> <li>(4) 備え付けの物品は大切に扱い、破損、紛失のないように心掛け、勝手に使用しない。</li> <li>(5) 使用した備品は、必ず元の場所へ返却する。</li> <li>(6) その他細部あるいは不明な点については担当教員等の指示に従う。</li> <li>(7) 医療人としての自覚を持ち、諸規則を厳守する。</li> <li>(8) やむを得ず実習を欠席する場合は、必ず事前に事務局教務担当まで連絡し欠席届を提出する（欠席理由を明確にする）。</li> <li>(9) 昼食時は、患者様等の利用を配慮し、病院のレストランは使用しない。</li> <li>(10) 実習中は、携帯電話を所持しない。</li> </ol>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習は単なる見学ではなく、臨床講義で学んだ知識が実際の臨床現場でいかに活用されているかを実感として学ぶ貴重な経験の場であるので、真摯な態度で臨まなければならない。各科を回ることになるが、事前課題学習として、該当する各科の講義で学んだ臨床的知識を復習して実習に臨むこと。
教科書	全国柔道整復学校協会監修教科書 一般臨床医学 第2版
参考書	指定なし
成績評価	出席回数を満たしていること。出席基準を満たした者に対して評価を行う。
担当教員の基本情報	内科（浅沼教授）、外科（糸井啓純教授）、整形外科（糸井恵教授）、脳神経外科・MR（樋口教授）、眼科（山中講師）、泌尿器科（高羽准教授）、病理検査（後藤講師）、放射線科（北村技師長）
備考	DPとの関連 5-◎ 3-○

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	健康とは心身共に健やかで活気に満ちた状態であり、複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るべきものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を身に付ける必要がある。この授業は、健康の三原則（栄養・運動・休養）について学び、健康と栄養のかかわりを理解し、健康に関連する生活習慣病を予防するための身体活動の質と量を理解する。また、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。		
授業計画	第1講	健康と生活習慣 [到達目標] からだにいいライフスタイルについて理解できる。 予習：健康と生活習慣について考える（45分） 復習：健康と生活習慣について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）	
	第2講	健康と飲酒・喫煙 [到達目標] お酒と健康的な付き合い方。喫煙は「百害あって一利なし」を科学的に理解できる。 予習：健康と飲酒・喫煙の影響について考える（45分） 復習：健康と飲酒・喫煙について学んだことを理解しておく（45分）	
	第3講	健康と体力 [到達目標] 健康と体力の関係について具体的に説明できる。 予習：健康とは何か考えてくる（45分） 復習：健康と体力の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第4講	健康づくりのための運動指針 [到達目標] 自分のエネルギー消費量を算出することができる。 予習：健康づくりとは何か考えてくる（45分） 復習：健康づくりで学んだ内容を日々の生活習慣に取り入れ実践する（45分）	
	第5講	「肥満とやせの評価」 [到達目標] 肥満とやせの判定について関心を持つことができる。 予習：BMI とその他の体脂肪量測定方法について調べておく（45分） 復習：肥満とやせの評価で学んだことを理解しておく（45分）	
	第6講	体力の特性 [到達目標] 「行動体力」と「防衛体力」を兼ね備えた基礎体力について考えることができる。 予習：体力とは何か考えてくる（45分） 復習：体力について学んだことを理解しておく（45分）	
	第7講	体力測定と体力の評価 [到達目標] 体力測定と体力の評価について理解できる。 予習：新体力テストの測定方法とその評価について調べておく（45分） 復習：新体力測定と体力の評価について学んだことを復習しておく（45分）	
	第8講	トレーニング論の基礎 [到達目標] トレーニングによる筋力への効果とその他の効果について考えることができる。 予習：今まで行ってきたトレーニング内容を振り返り、留意点をまとめておく（45分） 復習：トレーニング効果について復習しておく（45分）	
	第9講	体力の加齢変化 [到達目標] 体力の発育・発達と、加齢による体力の衰えについて解析できる。 予習：体力があるとはどのようなことか、またどのような方法で測定できるか考える（45分） 復習：自分の体力をさまざまな観点から評価してみる（45分）	
	第10講	健康と栄養 [到達目標] 栄養を考えた食事に関心を持つことができる。 予習：健康と栄養について考えてくる（45分） 復習：健康と栄養の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第11講	健康と運動 [到達目標] 健康と運動の関係が理解できる。 予習：運動は健康に良いといわれているが、科学的な根拠を考えておく（45分） 復習：健康と運動の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第12講	「栄養（食事）・運動・休養」のバランス [到達目標] 栄養・運動・休養、この順番の重要性について学習した内容を理解できる。 予習：栄養・運動・休養について考えておく（45分） 復習：栄養・運動・休養のバランスについて学習した内容を復習しておく（45分）	
	第13講	健康と薬物（ドーピング等） [到達目標] 健康を脅かす薬物についての危険性が理解できる。 予習：薬物について調べておく（45分） 復習：健康と薬物について学んだことを復習しておく（45分）	
	第14講	総括（定期試験） [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第13講をまとめて理解できる。	

	予習：第1講～第13講をまとめておく（45分） 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（45分）
授業時間外の学習（準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：村川増代 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	陸上競技は「走る・跳ぶ・投げる」が基礎となっている運動である。 ウォーミングアップ・ストレッチ・ミニハードル・ラダートレーニング・新体力測定・基本動作・ドリル・自重トレーニング等を実践し、知識や技術を習得させ計測につなげさせる。 またスポーツと身体の動きづくりに対する認識を深める事を目標とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス 健康スポーツ実習Ⅲの狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>2 ウォーミングアップ 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温をを上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。 予習：ウォーミングアップについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>3 動的ストレッチ 動的ストレッチ(ダイナミック)の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点(関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運動などetc)がある事を理解させ実践させる。 予習：動的ストレッチについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>4 ミニハードル・ラダートレーニング ミニハードル・ラダートレーニングを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。 予習：ミニハードル・ラダートレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>5 新体力テスト1 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」(握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび)を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>6 新体力テスト2 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」(50m走・ボール投げ)を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>7 自重トレーニング(体幹) 自分の体重(自重)を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても(意識・回数・インターバル)効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：体幹の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>8 自重トレーニング(全身) 自分の体重(自重)を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても(意識・回数・インターバル)効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：全身の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>9 短距離(基本・ドリル) 短距離走で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：短距離の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>10 100m走(計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習：100m走について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>11 跳躍(基本・ドリル) 跳躍競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：跳躍の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>

	12	走り幅跳 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:走り幅跳について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	13	投擲 (基本・ドリル) 投擲競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習:投擲の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	14	ボール投 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:ボール投について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	15	リレー種目 短距離で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させ、リレー種目についてルール・注意点を説明し実践させる。予習:動的リレーについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	授業態度50% 実技評価30% 授業の貢献度20%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考	DP「◎-1」	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
小川 豊清			
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。</li> <li>2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。</li> <li>3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。</li> <li>4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。</li> <li>5. 審判規定が理解できる。</li> <li>6. 柔道の歴史、柔道の理念、審判規定に準じた服装態度、礼法、受け身を理解し、国家試験問題に対応できる能力を身につける。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣がないので、スポーツウェアを持参してください。 1) 柔道の概要（歴史や理念）が理解できる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。</p> <p>第2回 柔道衣の着方・柔道の概要・礼法・受け身・立技・固技 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 後受け身ができる。 4) 立技（大外刈）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 5) 固技（袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第3回 礼法・受け身・立技・固技 1) 横受け身ができる。 2) 礼法（立礼、座礼）ができる。 3) 立技（背負投）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 4) 固技（縦四方固）の理解ができる。</p> <p>第4回 礼法・受け身・立技・固技 1) 前回り受け身ができる。 2) 立技（一本背負投）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（上四方固）の理解ができる。</p> <p>第5回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（大腰）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（逆袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第6回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（体落）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技（肩袈裟固）の理解ができる。</p> <p>第7回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（払腰）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技の掛け方が理解ができる。</p> <p>第8回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（膝車）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第9回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（支釣込足）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第10回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（大内刈）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第11回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（小内刈）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 絞技・関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第12回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p> <p>第13回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。</p>

	<p>第14回</p> <p>3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。          まとめ、理解度チェック          1) 礼法(立礼、座礼)ができる。          2) 受け身ができる。          3) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。          4) 固技の掛け方ができる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し(予習35分)、実技で学修した内容をまとめてください(復習35分)。</p>
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著(史資料出版協会)
成績評価	<p>授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回まで可とする)。          実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清          研究室 : 体育館・教員室          メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-1

講義科目名称： スポーツと社会

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の視点・論点から講義し、スポーツの社会的意義について学習する。また、スポーツと社会との関わりについて具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、健康等の観点から考察していく。さらに、現代の子ども社会における、子どものからだところの諸問題を理解し、子どものライフスタイルに適したあそび・運動・スポーツの必要性を理解し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション、スポーツの歴史と概念          [到達目標] 概念、歴史、スポーツについて理解できる。          予習：身近にあふれているスポーツとつく言葉を集めてみる。またスポーツの歴史について考える（45分）          復習：スポーツの歴史・概念について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第2講	<p>現代社会の特徴から見たスポーツの必要性          [到達目標] スポーツの必要性について理解できる。          予習：なぜ現代社会ではスポーツの必要性が問われているのか考える（45分）          復習：スポーツの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第3講	<p>地域におけるスポーツ振興          [到達目標] 我が国のスポーツ行政について考えることができる。          予習：スポーツ行政とは何か考えてくる（45分）          復習：スポーツ行政について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第4講	<p>総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義          [到達目標] 地域スポーツクラブの必要性について解析できる。          予習：なぜ現代社会では地域スポーツクラブの必要性が問われているのか考える（45分）          復習：地域スポーツクラブの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第5講	<p>地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」          [到達目標] 地域におけるスポーツクラブの組織と活動内容について考えることができる。          予習：地域におけるスポーツクラブの活動内容とは何か考えてくる（45分）          復習：地域におけるスポーツクラブの組織と活動内容について学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第6講	<p>社会の中のスポーツ          [到達目標] スポーツの産業化、地域生活とスポーツのあり方について解析できる。          予習：地域生活とスポーツの関係について考える（45分）          復習：スポーツの産業化、地域生活とスポーツの関係について学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第7講	<p>我が国のスポーツプロモーション          [到達目標] 我が国のスポーツプロモーションの課題とその展望について考えることができる。          予習：なぜ社会ではスポーツプロモーションの必要性が問われているのか考える（45分）          復習：我が国のスポーツプロモーションの課題と展望について学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第8講	<p>スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任          [到達目標] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理と責任について理解できる。          予習：スポーツ事故における危機管理体制の大切さを考える（45分）          復習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理体制について学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第9講	<p>発育発達期の子ども達の身体的特徴と多い怪我や病気          [到達目標] 発育発達期の子ども達の怪我や病気、安全管理について解析できる。          予習：発育発達期の怪我や病気、安全管理の大切さについて考える（45分）          復習：発育発達期の身体的特徴と多い怪我や病気、安全管理について学習内容を理解しておく（45分）</p>	
	第10講	<p>総合型地域スポーツクラブの育成と運営          [到達目標] 総合型地域スポーツクラブの背景と創設について考えることができる。          予習：地域密着型スポーツクラブの運営について考える（45分）          復習：地域密着型スポーツクラブの育成と運営について学習内容を理解しておく（45分）</p>	
	第11講	<p>「スポーツ組織のマネジメント」と「事業のマーケティング」          [到達目標] スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて理解できる。          予習：スポーツ組織のマネジメントとは何か考えておく（45分）          復習：スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて学習内容を見直す（45分）</p>	
	第12講	<p>オリンピックと経済          [到達目標] オリンピックと経済の関係について解析できる。          予習：オリンピックと経済の関係について考えておく（45分）          復習：オリンピックと経済の関係について学んだ内容を理解しておく（45分）</p>	
	第13講	<p>スポーツがもたらす経済効果          [到達目標] スポーツと経済の関係について理解できる。          予習：スポーツがもたらす経済効果について考えておく（45分）</p>	

	<p>第14講 復習：スポーツがもたらす経済効果について学習内容を理解しておく（45分）          総括（定期試験）          [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第13講をまとめて理解できる。          予習：第1講～第13講をまとめておく（45分）          復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（45分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-2。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学部：保健医療学部 柔道整復学科	時間数：30	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_3J238スポーツ心理学_柔整.xlsx			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> スポーツ心理学では、コーチングの基本である「より良い人間関係の構築」するのに必要な知識やスキル、自分自身を知り客観的に見つめることのできる知識やスキル、またスポーツが個人の人格形成に及ぼす効果、個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響すること、を学ぶ。さらに、スポーツへの動機づけやコーチングの評価などの原理・原則から具体的な方法論を学ぶ。</p> <p><b>【授業目標】</b> 授業内容を十分に理解し、実践知識として臨床・教育・スポーツ指導現場に有効活用できることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、スポーツ、コーチング、心理学、スポーツ心理学とは</p> <p><b>【到達目標】</b> 1) スポーツ心理学について概説できる。 2) スポーツの心理的効果について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p><b>【備考】</b>（予習項目） スポーツ、心理。教科書第1章1を熟読。</p> <p>第2講 対他者力を磨こう！-1：コミュニケーション・リーダーシップ・プレゼンテーションスキル</p> <p><b>【到達目標】</b> 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p><b>【備考】</b>（予習項目） コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル。教科書第1章4. 1～3を熟読。</p> <p>第3講 対他者力を磨こう！-2：ファシリテーションスキル、チームビルディング</p> <p><b>【到達目標】</b> 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 18) チームビルディングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p><b>【備考】</b>（予習項目） ファシリテーションスキル、チームビルディング。教科書第1章4. 4～5を熟読。</p> <p>第4講 対自己力を磨こう！：コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法</p> <p><b>【到達目標】</b> 13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 22) 自己分析、イメージトレーニング、心理的コンディションについて説明できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p><b>【備考】</b>（予習項目） コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法。教科書第1章5. を熟読。</p> <p>第5講 心のトレーニング-1：行動としてのスポーツ、動機づけ</p> <p><b>【到達目標】</b> 6) 内発的動機づけと外発的動機づけの違いが説明できる。 7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 19) バーンアウトについて説明できる。 20) 運動の参加継続について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメ</p>

第6講	<p>ントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動としてのスポーツ、動機づけ。教科書第2章4. 1～2 を熟読。</p> <p>心のトレーニング-2：メンタルマネジメント、他者観察</p> <p>【到達目標】</p> <p>13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 26) スポーツメンタルトレーニングについて説明できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） メンタルマネジメント、他者観察。教科書第2章4. 3～4. を熟読。</p>
第7講	<p>心のトレーニング-3：個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談</p> <p>【到達目標】</p> <p>12) コーチの指導条件が人間形成効果の促進・妨害するコーチの指導条件が説明できる。 13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談。教科書第1章4. 5～6を熟読。</p>
第8講	<p>心のトレーニング-4：運動感覚、運動学習</p> <p>【到達目標】</p> <p>9) 運動学習理論について説明できる。 10) モデリング（観察学習）や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方が説明できる。 11) 運動学習の制御について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習。教科書第1章4. 7～8 を熟読。</p>
第9講	<p>心のトレーニング-5：フィードバック、心理サポート・集中力</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 10) モデリング（観察学習）や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方が説明できる。 28) スポーツカウンセリングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） フィードバック、自己決定理論。教科書第1章4. 9～10. を熟読。</p>
第10講	<p>心のトレーニング-6：イメージトレーニング、あがり・プレッシャー・スランプ</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴、情動（緊張・不安）の状態が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク。教科書第1章4. 11～12. を熟読。</p>
第11講	<p>心のトレーニング-7：性格/自己概念、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 性格・自己概念、心理的コンディショニング。教科書第1章4. 13～14. を熟読。</p>
第12講	<p>心のトレーニング-8：その他、目標達成ツール等</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目）</p>

	<p>マンダラート、マインドマップ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第13講 スポーツ・運動における行動変容 【到達目標】 20) 運動の参加継続について説明できる。 21) 行動変容ステージが説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） セルフエフィカシー、行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第14講 レビュー：これまでの授業内容の総合的な復習（質問に答えて）と練習問題 【到達目標】 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） 授業内容で理解のできなかつた項目、疑問点を抜き出しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習35分）。理解できない箇所（事柄）があれば、参考書を熟読するか、小テストのコメントに記入すること。次の授業でフィードバックする。</li> <li>・ 講義資料（ハンドアウト）は、講義ノートと共に必ず整理すること。授業の復習は、必ず確実にすること（記憶に焼き付けられようように）（復習35分）。</li> <li>・ 試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。</li> </ul>
教科書	「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「勝負脳の鍛え方」林 成之著（講談社現代新書）</li> <li>2) 「スラムダンク勝利学」辻 秀一著（集英社）</li> <li>3) 「勝ちつづけるチームをつくる勝負強さの脳科学ーピットフォールの壁を破れ！ー」林 成之著（朝日新聞出版）</li> </ol>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①合格点：100点法により評価し、評価点が60点以上を合格とする。</li> <li>②評価点の算出・内訳：筆記試験 70%、小テスト 30%</li> <li>③再試験：筆記試験が60%未満の場合、筆記試験により再評価を行う。</li> <li>④アセスメントとフィードバック： アセスメント；試験・テスト結果、 フィードバック；試験・小テストの結果発表、小テストのコメントの質疑応答による双方向にて行う。</li> </ol>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学生諸君の都合の良い時間（要予約）。事前にメールで予約を取ってください。</p>
備考	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断、5. 技能・表現</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	人体の身体活動の基礎となる各種栄養素、および健康増進や疾病予防のための栄養学の基本を学習する。更にスポーツ活動に密着した具体的な食事のあり方を学習し、実践的な食事と関連付けて理解する。		
授業計画	第1講	スポーツと保健栄養学入門 [到達目標] 日本人の食生活の変遷を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第2講	栄養素の働き 糖質・脂質 [到達目標] 糖質、脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第3講	栄養素の働き たんぱく質 [到達目標] たんぱく質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第4講	栄養素の働き ビタミン [到達目標] ビタミンの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第5講	栄養素の働き ミネラル [到達目標] ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第6講	水分補給と熱中症 [到達目標] 水分の役割を理解し、水分補給の重要性を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第7講	日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド [到達目標] 日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドの概要を理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第8講	ウエイトコントロールと食事 [到達目標] ウエイトコントロールについて理解し、適切な食事摂取量、摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第9講	障害予防の食事 サプリメント [到達目標] スポーツにおける障害について理解し、適切な食事摂取方法、予防方法を把握する。 [授業形態] サプリメントについて理解し、正しい利用法を把握する。 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第10講	試合期の食事 [到達目標] 試合における必要な栄養素を理解し、適切な食事摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第11講	ライフステージと栄養 ジュニア期 [到達目標] ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第12講	ライフステージと栄養 シニア期 [到達目標] シニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第13講	アセスメント 食品衛生 [到達目標] 栄養指導に必要なアセスメントについて理解する。 安全な食事を供給するための食品衛生の知識を得る。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第14講	総括(評価を含む) [到達目標] 第1回目から第13回目までの内容について理解する。	

	<p>[授業形態] 講義終了後Googleフォームに解答し講義の重点を理解する。          [必要な準備] 配信した資料を用いて復習する。(60分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習：講義までに配信された資料の内容を確認する(30分)          復習：講義で新たに知りえた内容について考察する。Googleフォームの設問に解答する。</p>
教科書	指定なし。
参考書	<p>「栄養の基礎がわかる図解辞典」 中村丁次監修 成美堂出版          「スポーツ栄養学」 田中紀子/平野直美 編 (化学同人)</p>
成績評価	出席基準に達した者に対し、レポート提出にて評価する。(平常点20%、レポート評価80%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 桑原 彩          研究室 :          メールアドレス : a_kuwabara@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連          ◎-1, ○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
山本 岳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	信頼される医療従事者になるためには、人間を知ることが必要です。それを学ぶ手段の1つとして、心理学という分野が存在します。また最近では、社会状況の複雑化等により、ますますメンタルケアが必要であることが指摘されています。 そのことから本講義では、心理学の基礎を学びながら、医療従事者として今後出会うであろう患者へのメンタルケアの重要性を理解してもらうことを目的として講義を実施します。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション(授業方針、評価方法)、心理学とは何か？ [到達目標] 心理学はどのようなもので、どんな分野があり、どんな資格や検定があるのかについて理解する。(キーワード：心理学) [備考]</p> <p>第2講 基礎心理学(学習・知覚・認知とは) [到達目標] 心理学から見た学習や知覚、記憶の概要を理解する。(キーワード：学習心理学・知覚心理学・認知心理学) [備考]</p> <p>第3講 発達心理学(子どもから大人までのこころの発達と教育) [到達目標] 子どもから大人までのこころの発達の概要を理解する。(キーワード：発達心理学) [備考]</p> <p>第4講 臨床心理学(心理技法と精神症状)① [到達目標] 臨床現場で出会う可能性のあるこころの病気や障がいの概要を理解する。(キーワード：臨床心理学 精神症状) [備考]</p> <p>第5講 臨床心理学(心理技法と精神症状)② [到達目標] 臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。(キーワード：心理アセスメント) [備考]</p> <p>第6講 臨床心理学(心理技法と精神症状)③ [到達目標] 臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。(キーワード：心理療法) [備考]</p> <p>第7講 まとめ(評価含む) [到達目標] 第1講から第6講までのまとめ [備考]</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料を使い事前学習や事後学習をすることをお勧めします。 また余力のある受講者は、授業計画にある各キーワードを調べておくことも良い学習に繋がると思います。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。
教科書	特にありません。講義の進み具合で適宜資料を配布します。
参考書	1. 心理学概論(向井希宏・水野邦夫 編, ナカニシヤ出版) 2. 心理学 [第3版] (和田万紀 編 弘文堂)
成績評価	1. 心理学全般の知識(40点):定期試験(持込不可)を行います。試験範囲は全講義内容から問題を提示します。 2. 平常点(60点):出席カードを毎回提出してもらいます。 ①心理学とは何かを理解し、それを活用できる。 ②受講者という集団の一人として、そして医療従事者の卵として、他者を尊重・共感し、他者の話を傾聴できる。 ③授業に積極的に参加し、自ら質問や発言をする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 岳 (非常勤講師) 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー: 授業終了後
備考	講義は基本的にPower Pointを使用します。受講者は各自で適宜配布する資料にメモを取って受講するようにしてください。講義は講師と学生の双方向の関わりにより進めます。そのことから、講義をただ聞くという受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加する学生に受講してもらいたいと思います。

	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、医療・保健・看護にかかわる英語の基礎や基本を学習します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返し発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかりと把握しながら読み進むことなどを当面の目標にしましょう。さらに、医療現場で使用される英語の短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。
授業計画	<p>第1回 医学英語のオリエンテーション Human body (1)  [到達目標]  この科目の目標、内容等が理解できる。  [備考]  この科目に係わる基本的な学習方法、また解剖学をベースにした講義の説明します。</p> <p>第2回 医療分野の読み物 Human body (2)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第3回 医療分野の読み物 Human body (3)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第4回 復習 (1)  [到達目標]  人体の特徴と組織の重要性について、画像を用いて説明し、4大組織を理解する。  [備考]  power pointを使って、画像的に講義内容の解剖学的形態の説明をして、理解を進める。</p> <p>第5回 医療分野の読み物 Skeletal system (1)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第6回 医療分野の読み物 Skeletal system (2)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第7回 医療分野の読み物 Skeletal system (3)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第8回 医療分野の読み物 Muscular system (1)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第9回 医療分野の読み物 Muscular system (2)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第10回 医療分野の読み物 Muscular system (3)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第11回 復習 (2)  [到達目標]  本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。  [備考]  power pointを使って、画像的に講義内容の解剖学的形態の説明をして、理解を進める。</p> <p>第12回 医療分野の読み物 Circulatory system (1)</p>

	<p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第13回 医療分野の読み物 Circulatory system (2)</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第14回 医療分野の読み物 Circulatory system (3) 理解度チェック</p> <p>〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。</p> <p>〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20~30%、発言・発表と提出物 10~20%、定期試験 50~70% を考えています。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成替</p> <p>研究室 : 8号館4階教授室</p> <p>メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業後10分間</p>
備考	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1、○-5
	柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、医療・保健・看護にかかわる英語の基礎や基本を学習します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返し発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかりと把握しながら読み進むことなどを当面の目標にしましょう。さらに、医療現場で使用される英語の短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。		
授業計画	第1回	医学英語のオリエンテーション Human body (1) 〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。 〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また解剖学をベースにした講義の説明します。	
	第2回	医療分野の読み物 Human body (2) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第3回	医療分野の読み物 Human body (3) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第4回	復習 (1) 〔到達目標〕 人体の特徴と組織の重要性について、画像を用いて説明し、4大組織を理解する。 〔備考〕 power pointを使って、画像的に講義内容の解剖学的形態の説明をして、理解を進める。	
	第5回	医療分野の読み物 Skeletal system (1) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第6回	医療分野の読み物 Skeletal system (2) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第7回	医療分野の読み物 Skeletal system (3) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第8回	医療分野の読み物 Muscular system (1) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第9回	医療分野の読み物 Muscular system (2) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第10回	医療分野の読み物 Muscular system (3) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。	
	第11回	復習 (2) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 power pointを使って、画像的に講義内容の解剖学的形態の説明をして、理解を進める。	
	第12回	医療分野の読み物 Circulatory system (1)	

	<p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第13回 医療分野の読み物 Circulatory system (2)</p> <p>〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。</p> <p>〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>第14回 医療分野の読み物 Circulatory system (3) 理解度チェック</p> <p>〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。</p> <p>〔備考〕 ネイティブのリスニングの後に、解説と訳の説明をする。</p> <p>〔</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20~30%、発言・発表と提出物 10~20%、定期試験 50~70% を考えています。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成賛</p> <p>研究室 : 8号館4階教授室</p> <p>メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業後10分間</p>
備考	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1、○-5
	柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
坪倉 寛明			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	救急車到着前にバイスタンダーが応急処置を実施することは、傷病者の救命率及び機能予後の改善のためには重要である。 本授業では、傷病者に単に処置を実施できるようになるだけではなく、その処置が必要かどうかの判断、及び傷病の理解を深め、医療従事者として必要な応急手当を実施できることを目標とする。		
授業計画	1回	応急処置の必要性 [到達目標] 応急処置の必要性を理解する。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、誰もが実施可能な応急手当について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	2回	応急処置に必要な人体について（解剖・生理） [到達目標] 応急処置に必要な解剖・生理について理解する。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、循環器、呼吸器について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	3回	生命兆候・バイタルサインについて [到達目標] 基本的なバイタルサインについて理解し測定できる。 アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、バイタルサインの種類を調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	4回	止血の原理・三角巾の使用法 [到達目標] 出血による病態の変化を理解し止血法、三角巾の使用について理解し、実践できる。 授業形態：アクティブラーニング有（止血等応急手当実施後、フィードバックを行う） 予習：参考書・インターネット等を活用し、出血時の止血法について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	5回	骨折の固定の原理・処置法 [到達目標] 骨折に対しての固定法を理解し、段ボール等、日用品を用いた固定が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有（固定処置実施後、フィードバックを行う） 予習：参考書、インターネット等を活用し、骨折時の固定方法について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	6回	徒手搬送の原理と実技 [到達目標] 徒手搬送の種類を理解し、病態に対して適切な搬送法を理解し実践できる。 授業形態：アクティブラーニング有（症状に適した搬送方をデスカッションする） 予習：参考書、インターネット等を活用し、徒手搬送について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	7回	心肺蘇生法（窒息の解除を含む） [到達目標] AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有心肺蘇生実施後フィードバックを行う。 予習：参考書・インターネット等を活用し、窒息の解除法、心配蘇生法について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	8回	心肺蘇生法実技試験とフィードバック [到達目標] AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有（試験実施後フィードバックを行う） 予習：7回での講義・実技をもとに救急実習室において、先輩蘇生の訓練を行う。（30分） 復習：実技試験において指導を受けた内容を再度確認し訓練を実施する。（30分）	
	9回	小児の応急処置（小児の心肺蘇生を含む） [到達目標] 小児の救急疾患について理解し、心肺蘇生が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、小児特有の救急疾患について調べる。（30分） 復習：講義で学習した内容をまとめる。（30分）	
	10回	外傷（頭部外傷・脊椎損傷） [到達目標] 脊髄損傷・頭部外傷の病態について理解し、処置・対応を判断し実施できる。	

	<p>11回 授業形態：アクティブラーニング無  予習：参考書・インターネット等を活用し、脊椎損傷、頭部外傷について調べる。(30分)  復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)  外傷(全身固定)  [到達目標]  脊髄損傷に対する全身固定の重要性を判断し全身固定が実施できる。</p> <p>12回 授業形態：アクティブラーニング有(全身固定終了後、フィードバックを行う)  予習：参考書・インターネット等を活用し、全身固定が必要な症状と方法について調べる。(30分)  復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)  熱中症・低下体温症  [到達目標]  熱中症・低体温症の病態を理解し適切な手当が実施できる。</p> <p>13回 授業形態：アクティブラーニング無  予習：参考書・インターネット等を活用し、熱中症・低体温症を調べる。(30分)  復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)  大規模災害時における医療  [到達目標]  大規模災害時における医療について理解し、柔道整復師として災害時何が出来るかを考える力を身に付ける。</p> <p>14回 授業形態：アクティブラーニング無  予習：参考書・インターネット等を活用し、災害時における「自助・共助・公助」を調べる。(30分)  復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)  筆記試験 問題と解説  [到達目標]  医療従事者として救急時に必要な知識を有し、応急手当を実施できることを目標とする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	参考書、インターネットを活用し自主学習を実施する。
教科書	特になし。
参考書	<p>応急手当標準テキスト(東京法令出版)  JPTECガイドブック  よくわかるみんなの救急(大修館書店)  MCLS</p>
成績評価	<p>講義演習の4/5以上の出席  心肺蘇生法の合格  筆記試験60%  以上が成績評価の対象となる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 坪倉寛明  研究室 : 6号館2階 研究室  メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	坪倉寛明：消防士として現場経験37年、内救急救命士歴21年とJPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験及び知識をもとに講義、実技を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療は国民の健康に関わる事項であるため、公益性の高い業務です。そのため、医療業界のルールは法により厳格に定められています。柔道整復師として業務に従事する上で、その業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規等を理解することが必要であり、本講義の目標とします。
授業計画	<p>第1回 法律の基礎① 【到達目標】法の必要性を理解する 【授業内容】配布資料をもとに法について教授する。 【備考】アクティブラーニングあり</p> <p>第2回 法律の基礎② 【到達目標】法律用語を理解する 【授業内容】配布資料をもとに法律用語について教授する。 【備考】アクティブラーニングあり</p> <p>第3回 法の意義、法の体系 【到達目標】法の意義と役割、法の体系を理解する 【授業内容】教科書P1-3 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第4回 憲法 【到達目標】憲法の意義を理解する 【授業内容】教科書P154-155 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第5回 患者の権利、医療事故 【到達目標】患者の権利と医療従事者の義務を理解する 医療事故の定義を理解する 【授業内容】教科書P4-7 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第6回 個人情報保護に関する法律 【到達目標】個人情報の保護に関する法律を理解する 【授業内容】教科書P104-107 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第7回 身分法② 【到達目標】医師法、歯科医師法を理解する 【授業内容】教科書P47-56 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第8回 身分法① 【到達目標】医師法他を理解する 【授業内容】教科書P47-67 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第9回 身分法② 【到達目標】医療従事者の身分法の違いを理解する 【授業内容】教科書P47-67 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第10回 身分法③ 【到達目標】柔道整復師法を理解する 【授業内容】教科書P10-19, 24-27 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第11回 医療法 【到達目標】医療法を理解する 【授業内容】教科書P68-89 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第12回 診療所と接骨院 【到達目標】診療所と接骨院の違いを理解する 【授業内容】教科書P29-32, 68-89 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第13回 社会福祉関係法規、社会保険関係法規他 【到達目標】社会福祉・社会保険の関係法規を理解する 【授業内容】教科書P95-107 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第14回 まとめ 【到達目標】第1～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業内容】筆記試験（50分）＋講義（アクティブラーニングあり）（50分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）に	シラバスを参照し、次回の授業範囲の教科書を熟読する。また、授業内での疑問点は次回までに担当教員に質問する、調べる等の復習を行うこと。（各回の予習復習に必要な時間は各90分程度）

ついて	
教科書	「関係法規 2021年度版」公益財団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社
参考書	必要に応じて資料を配布する。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価方法は筆記試験とし、授業時間内に詳細について説明を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中健吾 研究室 : 8号館4階講師室 オフィスアワー : 水曜日17:30~18:30
備考	田中健吾 : 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	現代法は禁止・罰則のためだけのものではなく、社会における人の権利を守ることが目的であり、医療の分野においても、安心して安全な医療を享受・提供する上で法律を学ぶことは必要不可欠である。柔道整復師として業務に従事するうえで必要な柔道整復師法を理解することを目標とします。
授業計画	<p>第1回 柔道整復師法① 【到達目標】柔道整復師の免許資格要件を理解する 【授業内容】教科書P10-16 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第2回 柔道整復師法② 【到達目標】柔道整復師免許の交付について理解する 【授業内容】教科書P16-23 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第3回 柔道整復師法③ 【到達目標】柔道整復師の業務を理解する 【授業内容】教科書P24-28 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第4回 柔道整復師法④ 【到達目標】施術所の開設等の要件を理解する 【授業内容】教科書P29-32 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第5回 柔道整復師法⑤ 【到達目標】柔道整復師の広告制限について理解する 【授業内容】教科書P33-41 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第6回 柔道整復師法⑥ 【到達目標】柔道整復師と他の医療資格者の違いを理解する 【授業内容】教科書P47-53 【備考】アクティブラーニングなし</p> <p>第7回 まとめ 【到達目標】第1～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 【授業内容】筆記試験（50分）＋演習（アクティブラーニングあり）（50分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスを参照し、次回の授業範囲の教科書を熟読する。また、授業内での疑問点は次回までに担当教員に質問する、調べる等の復習を行うこと。（各回の予習復習に必要な時間は各90分程度）
教科書	「関係法規 2021年度版」公益財団法人全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社
参考書	必要に応じて資料を配布する。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価方法は筆記試験とし、授業時間内に詳細について説明を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：田中健吾 研究室：8号館4階講師室 オフィスアワー：水曜日17:30～18:30
備考	田中健吾：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

講義科目名称： 分子生物学概論

授業コード： 3J308

英文科目名称： Introduction to Molecular Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	近年の医学や科学での進歩は、分子生物学で得られた知見が大きく貢献しており、分子生物学の基礎知識がなければ医学や科学の成果を正しく理解することは難しい。 本講義では、医療・科学の様々な分野で明らかにされた重要な分子生物学的知見や分子生物学的手法の概要を解説する。本講義の内容を理解し、医学や科学を分子生物学の視点からも理解できるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回目 分子生物学の歴史 到達目標：分子生物学の歴史、手法、モデル生物について説明できる。</p> <p>第2回目 分子生物学の基礎知識（核酸） 到達目標：クロマチン、染色体の構造と複製・転写機構について説明できる。</p> <p>第3回目 分子生物学の基礎知識（タンパク質） 到達目標：タンパク質への翻訳機構とその調節について説明できる。</p> <p>第4回目 分子進化 到達目標：分子の視点で生物の進化や種分化を説明できる。</p> <p>第5回目 分子発生生物学 到達目標：分子の視点で生物の発生機構を説明できる。</p> <p>第6回目 免疫学・微生物学における分子生物学 到達目標：免疫学・微生物学における分子生物学について説明できる。</p> <p>第7回目 現代医療・科学における分子生物学 到達目標：分子生物学の知見を利用した現代医療及び科学の概要を説明できる。 [備考]-omics、クローン技術、再生医学、遺伝子組み換え、遺伝子多型、microRNA、創薬などに活用される分子生物学について紹介する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考書などを参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習130分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習130分）
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書	「細胞の分子生物学（Molecular Biology of the Cell 日本語版）」 B. Alberts 他；ニュートンプレス 「ウィーバー分子生物学」 Robert F. Weaver；化学同人 「分子生物学」柳田充弘・西田栄介・野田亮 編；東京化学同人
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 評価はレポートによって行なう。
担当教員の基本情報	担当教員名：千葉章太 研究室：5号館2階 メールアドレス：s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水、金曜日放課後
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義/遠隔・オンデマンド	
添付ファイル			

授業目標	前年度修得した運動機能解剖学・運動機能解剖学実習の知識を柔道整復師の臨床に活用するために、運動のメカニズムを理解し、傷害の発生機序、整復方法、固定方法、後療法へと適応できるようになる。
授業計画	<p>1回目 運動学の目的  [ 到達目標 ]  運動学を学ぶ目的を理解し、専門用語で著された動作解析の内容を自らの言葉で説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：専門用語を含んだ動作解析に関する50文字程度の文章の説明を、講義の内容をもとに自分の言葉で表現して提出し、その記述内容から、学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学」p1-12を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>2回目 身体運動と力学  [ 到達目標 ]  人体における単一機械構造、運動の法則、仕事と力学的エネルギーについて、内容を自らの言葉で説明することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：「運動学の目的」、「運動の表し方」、「身体運動と力学」の基本的用語とその意味を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学」p13-22を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>3回目 骨格筋の構造と機能  [ 到達目標 ]  骨格筋の構造と機能を理解し、その内容を自らの言葉で説明できるとともに、柔道整復師の治療範囲である筋挫傷のメカニズムやそれに対する処置・後療法を理解し応用することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：「骨格筋の構造と機能」、「筋疾患」、「筋疾患に対する柔道整復師としての後療法」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学」p32-40を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>4回目 神経の構造と機能  [ 到達目標 ]  神経の構造と機能および反射について理解し、その内容を自らの言葉で説明できるとともに、外傷によって生じる神経損傷に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：「神経の構造と機能」、「末梢神経損傷」、「神経疾患に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学」p41-45, p57-63を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>5回目 末梢神経損傷  [ 到達目標 ]  末梢神経損傷について理解し、その内容を自らの言葉で説明できるとともに、外傷によって生じる末梢神経損傷に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：「末梢神経損傷」、「末梢神経損傷に対する電気生理学検査」、「神経疾患に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学」p41-45を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p>

6回目	<p>中枢神経</p> <p>〔到達目標〕 中枢神経の構造と機能について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、中枢神経疾患によって生じる中枢神経症状に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：「中枢神経の構造と機能」、「中枢神経損傷」、「中枢神経疾患に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学 p 46-50を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
7回目	<p>随意運動1</p> <p>〔到達目標〕 随意運動のメカニズムについて理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、中枢神経疾患によって生じる中枢神経症状に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：「随意運動のメカニズム」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学 p 65-68を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
8回目	<p>随意運動2</p> <p>〔到達目標〕 随意運動のメカニズムについて理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、中枢神経疾患によって生じる中枢神経症状特に高次脳機能障害に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：「高次脳機能」、「高次脳機能障害」、「高次脳機能障害に対する柔道整復師としての対応」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学 p 65-68を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
9回目	<p>運動発達</p> <p>〔到達目標〕 「神経組織の成熟」、「乳幼児期の運動発達」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、乳幼児期に生じる疾患に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：「神経組織の成熟」、「乳幼児期の運動発達」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学 p 213-224を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
10回目	<p>姿勢 正常歩行</p> <p>〔到達目標〕 「姿勢に関する基本的用語」、「姿勢制御に関連するメカニズム」、「正常歩行」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷により生じる姿勢異常に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：「姿勢に関する基本的用語」、「姿勢制御に関連するメカニズム」、「正常歩行」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学 p 177-205を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
11回目	<p>歩行分析</p> <p>〔到達目標〕 「正常歩行の変化」、「異常歩行の見方」、「原因別による異常歩行」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷により生じる異常歩行に対して柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：「姿勢に関する基本的用語」、「姿勢制御に関連するメカニズム」、「正常歩行」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「教科書：運動学 p 206-212を熟読しておくこと（予習35分）。 講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること（復習35分）。</p>
12回目	<p>運動学習1</p> <p>〔到達目標〕 「学習」、「運動技能と運動能力」、「運動技能学習の過程」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷の後療法において柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕</p>

	<p>アクティブ・ラーニング有：「学習」、「運動技能と運動能力」、「運動技能学習の過程」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学 p 225-230を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>13回目  運動学習2  [ 到達目標 ]  「動機づけ」、「学習の転移」、「記憶」について理解し、その内容を自らの言葉で説明することができるとともに、外傷の後療法において柔道整復師の行うべき対応について理解し応用することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：「動機づけ」、「学習の転移」、「記憶」の基本的内容を理解できているか小テストを実施し、その結果から学生の理解している部分と理解できていない部分等を分析し、次の時間にフィードバックして双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：運動学 p 225-230を熟読しておくこと (予習35分)。  講義内容を確認しながら再度、上記教科書を熟読すること (復習35分)。</p> <p>14回目  運動学の応用  [ 到達目標 ]  13回の運動学に関する内容を自らの言葉で説明することができるとともに、柔道整復師の職業において行うべき対応について理解し応用することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：これまでの内容を試験にて評価し、学生の理解できていない部分をフィードバックする。  [備考] (授業時間外学習の指示)  「教科書：これまでの講義内容を再度確認しておくこと (予習35分)。  試験および試験後の講義内容を再度確認しておくこと (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。(予習35分) また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。(復習35分)
教科書	解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし
成績評価	最終講義において修学試験を実施し評価する (100%)。
担当教員の基本情報	担当教員名：松本 和久 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:00-17:00
備考	本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎ー1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
林 知也、森下大亮、松本和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習 講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本科目では老年科学と介護論について学修し、知識を深めるとともに、柔道整復師が介護の現場に必要な機能訓練に関わる高齢者のトレーニング方法を学び、実践できるようになることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・高齢者の生理学的特徴：林担当 【到達目標】 ・高齢者の生理学的特徴について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 高齢者の生理学的特徴について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：高齢者の生理学的特徴についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第2回	運動と加齢：林担当 【到達目標】 ・加齢による歩行機能、平衡機能等の変化について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：運動と加齢についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第3回	発達と老化の理解1：森下担当 【到達目標】 ・老年期の発達と成熟、及びエイジング理論について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：発達と老化の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第4回	発達と老化の理解2：森下担当 【到達目標】 ・高齢者と健康について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：発達と老化の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第5回	認知症の理解：森下担当 【到達目標】 ・認知症について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 認知症になると生活や家族にとってどのような障害がしょうじるのか授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：認知症の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第6回	柔道整復師と介護保険・介護保険制度：森下担当 【到達目標】 ・介護保険制度について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：柔道整復師と介護保険・介護保険制度についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。	
	第7回	介護の過程：森下担当 【到達目標】 ・介護の過程について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。 【備考】 自主学習の課題：介護の過程についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイ	

第8回	<p>ントを理解する。 高齢者介護とICF、介護予防と生活機能の向上：森下担当</p> <p>【到達目標】 ・高齢者介護とICF、介護予防と生活機能の向上について理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。</p> <p>【備考】 自主学習の課題：高齢者介護とICF、介護予防と生活機能の向上についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第9回	<p>介護予防・日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドローム：森下担当</p> <p>【到達目標】 ・介護予防・日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドローム。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 本授業の内容について授業の終盤に小グループでディスカッションを行う。</p> <p>【備考】 自主学習の課題：介護予防・日常生活支援総合事業、ロコモティブシンドロームについての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第10回	<p>高齢者自立支援の理解：森下担当</p> <p>【到達目標】 ・高齢者自立支援について理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>【備考】 自主学習の課題：高齢者自立支援の理解についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第11回	<p>機能訓練指導員と機能訓練1：松本担当</p> <p>【到達目標】 ・機能訓練指導員による機能訓練について理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>【備考】 自主学習の課題：機能訓練指導員と機能訓練についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第12回	<p>機能訓練指導員と機能訓練2：松本担当</p> <p>【到達目標】 ・機能訓練指導員の保持すべき知識・能力について理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>【備考】 自主学習の課題：機能訓練指導員と機能訓練についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第13回	<p>機能訓練で提供する運動と要点1：松本担当</p> <p>【到達目標】 ・器具を用いない運動について理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>【備考】 自主学習の課題：機能訓練で提供する運動と要点についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第14回	<p>機能訓練で提供する運動と要点2：松本担当</p> <p>【到達目標】 ・様々な器具を用いた運動について理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>【備考】 自主学習の課題：機能訓練で提供する運動と要点についての内容を教科書中心に読み、授業中に指示された重要ポイントを理解する。</p>
第15回	<p>総合復習（まとめ） 第1～14回で学んだ内容について筆記試験を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習35分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習35分）
教科書	1. 生理学 改訂第3版：追加資料 全国柔道整復学校協会監修 南江堂 2. 柔道整復師と機能訓練指導 全国柔道整復学校協会監修 南江堂
参考書	目で見てわかる最新介護術 著：北田信一 成美堂出版 ISBN-10: 4415321518 2016出版
成績評価	出席日数の基準を満たしている者に対して評価を行う。評価は学期末試験において100%の評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階林(知)教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の17:30～18:30</p> <p>担当教員名 : 森下大亮 オフィスアワー : 授業終了直後</p> <p>担当教員名 : 松本和久 研究室 : 8号館4階松本教授室</p>

	メールアドレス : k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の15:30~17:30
備考	ディプロマポリシーとの関連 : 「①-◎」 「⑤-○」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
竹内 孝治、石原 安信			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。各臓器の生理・疾患を説いた後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	<p>第1講 総論・薬理学の概念、末梢神経系作用薬：、自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 [到達目標] 薬理学の概念を説明できる。末梢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第2講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 1:麻酔薬、鎮痛薬、催眠薬、抗不安薬、気分障害治療薬、抗精神病薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第3講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 2:パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、アルツハイマー病治療薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第4講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 心臓・血管作用薬:高血圧、心不全、狭心症、不整脈の治療薬 [到達目標] 心臓・血管に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第5講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 ホルモン・内分泌系作用薬:糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、骨粗鬆症治療薬、生殖器系作用薬 [到達目標] ホルモン・生殖器系に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第6講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗炎症薬・呼吸器系作用薬:抗アレルギー薬、気管支喘息治療薬、消化器系作用薬:胃潰瘍治療薬、腸疾患治療薬 [到達目標] 炎症の機序とその治療に使われる薬の作用・副作用を説明できる。呼吸器、消化器に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第7講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬 [到達目標] 感染症・悪性腫瘍の発症機序とその治療に使われる薬の作用・副作用・作用メカニズムを説明できる。 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	教材(テキスト) 『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司 編集スーペール・ヒロカワ 随時、プリントを配布する。
参考書	『はじめての一步 イラスト薬理学』石井 邦雄 著 羊土社 授業中に適宜指示する。
成績評価	期末試験(80%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	分からないことかあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。
備考	担当教員名 :竹内孝治 研究室 :京都消化器疾患リサーチセンター メールアドレス:takeuchi@mb.kyoto-phu.co.jp

	オフィスアワー:随時 担当教員名 :石原安信 研究室 : メールアドレス: オフィスアワー:随時
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（対面／遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	現代医学に置いて外科手術の様に身体に取って大きな侵襲を加える処置は不可欠である。このような処置を安全に行う手段として、意識を取り痛みを抑え身体の安定を図る医療技術として麻酔科学は発展してきた。現代医学を理解する上で避けて通れない麻酔科学の概要を 代表的な薬剤の働きと病態生理学的背景を通して理解することが本講義の目標である。麻酔科学を元に発展して来た鎮痛法に関しても合わせて解説する。
授業計画	<p>1 総論 麻酔の意義、歴史、種類（全身麻酔と局所麻酔） 麻酔科関連領域（集中治療、ペインクリニック、緩和医療など）</p> <p>2 全身麻酔に用いる薬剤 全身麻酔薬、筋弛緩薬など</p> <p>3 全身管理に必要な生体監視装置（モニター） 意識消失時の危険 呼吸器系モニター、循環器系モニター、その他</p> <p>4 全身麻酔の実際① 術前のリスク評価と準備</p> <p>5 全身麻酔の実際② 術中の全身管理</p> <p>6 痛みのメカニズムと各種鎮痛薬、術後疼痛管理 痛みの伝達機構</p> <p>7 局所麻酔、理解度チェック 局所麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔 神経ブロック法など</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義ではレジメを配布しますが、講義を聞かずにそれだけを勉強するのは理解が難しく、また非効率的です。麻酔科学は、基礎では解剖学・生理学・薬理学、臨床では内科学や外科学とも深い関連があります。必ず授業計画の備考欄にあげた予習あるいは復習をしてくるようにしてください。
教科書	指定しない
参考書	標準麻酔科学(第6版) 医学書院
成績評価	講義の出席と定期試験により評価を行います。
担当教員の基本情報	
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-①, ○-②

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
柔道整復学科	30時間	講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> リハビリテーションとは“単に「歩く訓練」や「筋力トレーニング」を行うことである”という誤った理解をされることが多い。リハビリテーションとは、多くの職種が協力して患者が社会復帰し、新たな人生の再構築をするための「取り組み」の全てのことを指しており、柔道整復師もその一役を担う重要な職種である。したがって、柔道整復師を目指す諸君はリハビリテーションについて正しい理解をする必要があるとともに、患者が社会復帰するにあたって問題となっている理由を見つけ、それらを解決するための適切な方法を見出す能力を身につける必要がある。そのような背景のもと、授業計画にあるような内容を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①リハビリテーションとは？という問いに対して正しく答えることができる。 ②各疾患によって生じる「障害」の理解・分類・解決に導くための考え方を理解できる。 ③患者が社会復帰し、人生の再構築を図るために必要な社会制度について理解できる。 ④各単元の終了時には、その単元の内容を含む小テストに対して正しい解答を導き出すことができる。</p>
授業計画	<p>1回 リハビリテーションの概念と歴史，リハビリテーション医学の対象 [授業概要] リハビリテーションの概念と歴史，リハビリテーション医学について学習する。 [到達目標] リハビリテーションの概念と歴史，リハビリテーション医学について理解することができる。</p> <p>2回 リハビリテーション医学の基礎医学～障害学，治療学 [授業概要] リハビリテーション医学の基礎医学である障害学，治療学について学習する。 [到達目標] 障害学，治療学について理解することができる。</p> <p>3回 リハビリテーション医学の評価と診断 [授業概要] リハビリテーション医学の評価と診断について学習する。 [到達目標] リハビリテーション医学の評価と診断について理解することができる。</p> <p>4回 リハビリテーションの治療1 [授業概要] 理学療法について学習する。 [到達目標] 理学療法について理解することができる。</p> <p>5回 リハビリテーションの治療2 [授業概要] 作業療法，補装具，言語治療について学習する。 [到達目標] 作業療法，補装具，言語治療について理解することができる。</p> <p>6回 リハビリテーション医学に関わる関連職種と社会制度 [授業概要] リハビリテーション医学に関わる関連職種，社会制度について学習する。 [到達目標] リハビリテーション医学に関わる関連職種，社会制度について理解することができる。</p> <p>7回 リハビリテーションの実際1～脳卒中 [授業概要] 脳卒中の概念，障害について学習する。 [到達目標] 脳卒中の概念，障害について理解することができる。</p> <p>8回 リハビリテーションの実際2～脊髄損傷 [授業概要] 脊髄損傷に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 脊髄損傷に対するリハビリテーションについて理解することができる。</p> <p>9回 リハビリテーションの実際3～脳性麻痺（小児疾患） [授業概要] 小児疾患に対するリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 小児疾患に対するリハビリテーションについて理解することができる。</p> <p>10回 リハビリテーションの実際4～老人のリハビリテーション [授業概要] パーキンソン病などの老人に特有の疾患に対するリハビリテーションについて学習する。サルコペニア，フレイルなどの老人が有する病態について学習する。 [到達目標]</p>

	<p>パーキンソン病などの老人に特有の疾患に対するリハビリテーションについて理解する。サルコペニア、フレイルなどの老人が有する病態について理解する。</p> <p>リハビリテーションの実際5～心疾患、呼吸器疾患のリハビリテーション</p> <p>[授業概要] 心疾患、呼吸器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。</p> <p>[到達目標] 心疾患、呼吸器疾患に対するリハビリテーションについて理解する。</p> <p>リハビリテーションの実際6～運動器疾患のリハビリテーション</p> <p>[授業概要] 運動器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。</p> <p>[到達目標] 運動器疾患に対するリハビリテーションについて理解する。</p> <p>13回 1回～12回までの講義のまとめ</p> <p>[授業概要] 1回～12回までの講義内容について総まとめの復習を国家試験形式の問題を基に行う。</p> <p>[到達目標] 1回～12回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題の解答を導き出せる。</p> <p>14回 評価・総括</p> <p>[授業概要] 上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。 評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。</p> <p>[到達目標・学習目標] 評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	準備学習として、次の講義に該当する教科書の項目を予め熟読すること。(予習35分) 終了した講義の内容について、教科書の該当する項目を熟読すること。(復習35分) 解決しない場合は担当教員にメールで連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「リハビリテーション医学」全国柔道整復学校協会(監修) 栢森良二(編) (南江堂)
参考書	「リハビリテーション医学 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)」 安保雅博(監修) (羊土社) 「リハビリテーションビジュアルブック第2版」 落合慈之(監修) (学研メディカル秀潤社)
成績評価	第14回目の筆記試験の得点により評価する。得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名：木村篤史 研究室：なし(附属病院総合リハビリテーションセンター) メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する。
備考	①病院のリハビリテーションセンターにて理学療法士として25年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1, ○-2, ○-3 ③アクティブラーニングの有無：有り。具体的には、各単元時に課題に対する解答作成にあたり、自発的に問題解決に取り組む。 ④課題に対するフィードバックの方法：講義時間内に口頭にて実施する。

講義科目名称： 生活習慣病とその予防

授業コード： 3J314

英文科目名称： Lifestyle disease and its prevention

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症および期末試験 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指すが必要な点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習90分、復習90分）。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。 私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院 副病院長（併）内科部長 教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「生活習慣病とその予防」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治・池内 隆治・児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：講義(対面、状況により遠隔)	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標 (授業内容・到達目標)</p> <p>【授業内容】 柔道整復師はその臨床において、外傷・障害の鑑別診断が的確に行えなければなりません。そのためには柔道整復学の知識だけではなく、運動器疾患、さらには内科学・外科学・整形外科学などの臨床科目の理解を深めることが重要になります。</p> <p>本講義では、鑑別診断に必要な柔道整復学、臨床医学(外科学、整形外科学、内科学など)の臨床科目の理解を深めるとともに、診断学の基本的事項を体系的に講義します。加えて、鑑別診断には欠かせないX線、CT・MRI・超音波エコーなどの原理や画像解析も学んでいきます。</p> <p>近年、接骨院・整骨院での超音波エコーの普及が進んできました。しかし、超音波エコーの機器があっても、それを使って診断できなければ、自ずと使用頻度も減り、診断能力も低下してしまいます。それらの診断機器が有効に使用できることも、これからの柔道整復しにとって重要な能力になると思います。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科学における各疾患の概要について、説明することができるようにしましょう。</li> <li>1. 臨床医学における各疾患の概要について、説明することができるようにしましょう。</li> <li>2. 損傷に類似した症状を示す疾患について、理解し説明することができるようにしましょう。</li> <li>3. 病的骨折や脱臼についての判断や対応を理解し説明することができるようにしましょう。</li> <li>4. 医用画像を理解し、その概要を説明することができるようにしましょう。</li> <li>5. 柔道整復師国家試験における柔整理論、一般臨床医学、整形外科学の出題範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができるようにしましょう。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 (池内) 柔道整復師が取り扱う疾患の適否 (担当：池内)</p> <p>【到達目標】 柔道整復師が取り扱う疾患の適否を理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 1-8までを予習しましょう。</p> <p>第2回 (池内) 損傷に類似した症状を示す疾患 (内臓疾患、腰痛を伴う疾患) (担当：池内)</p> <p>【到達目標】 糖尿病の合併症および脂質異常症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 163-168までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第3回 (池内) 損傷に類似した症状を示す疾患 (腰痛の注意事項)、化膿性炎症、褥創 (担当：池内)</p> <p>【到達目標】 肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症について、正常と異常を理解し説明できる。 内分泌器およびホルモンの作用機序について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 168-176までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第4回 (池内) 血管障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷1 (担当：池内)</p> <p>【到達目標】 血管障害を伴う損傷について理解し説明できる。 末梢神経損傷を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 23-30までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第5回 (池内) 末梢神経損傷を伴う損傷2 (担当：池内)</p> <p>【到達目標】 末梢神経損傷を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p>

第6回 (池内)	<p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 30-36 までを予習し授業に臨みましょう。 脱臼骨折、外出血を伴う損傷1 (担当：池内)</p> <p><b>【到達目標】</b> 柔道整復師が取り扱う疾患の適否を理解し説明できる。 <b>【授業脱臼骨折について理解し説明できる。</b> 外出血がある場合の判断と対応について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 37-43 までを予習し授業に臨みましょう。 開放性骨折、開放性脱臼、外出血を伴う軟部組織損傷、病的骨折および脱臼 (担当：池内)</p>
第7回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 開放性骨折、開放性脱臼、外出血を伴う軟部組織損傷について理解し説明できる。 病的骨折および脱臼について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 43-51 までを予習し授業に臨みましょう。 意識を伴う損傷 (担当：池内)</p>
第8回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 意識を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 53-57 までを予習し授業に臨みましょう。 脊髄症状のある損傷 (担当：池内)</p>
第9回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 脊髄症状のある損傷について説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 59-66 までを予習し授業に臨みましょう。 呼吸運動障害を伴う損傷 (担当：池内)</p>
第10回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 呼吸運動障害を伴う損傷について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 67-72 までを予習し授業に臨みましょう。 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 30-36 までを予習し授業に臨みましょう。 内臓損傷の合併が疑われる損傷 (担当：池内)</p>
第11回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 内臓損傷の合併が疑われる損傷について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 73-77 までを予習し授業に臨みましょう。 高エネルギー外傷 (担当：池内)</p>
第12回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 高エネルギー外傷患者の判断と対応について説明できる。 放射線の概要が説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 79-81 までを予習し授業に臨みましょう。 超音波画像装置の概要 (担当：池内)</p>
第13回 (池内)	<p><b>【到達目標】</b> 超音波画像装置の概要 (担当：池内)</p>

第14回 (池内)	<p>【到達目標】 超音波画像装置の原理、特徴について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 1 2 1 - 1 3 2 までを予習し授業に臨みましょう。 まとめおよび定期試験 (担当: 池内)</p>
第15回 (宮坂)	<p>【到達目標】 1～13講義の内容を理解し、国家試験形式の問題に対応できる。</p> <p>【授業形態】 定期試験および問題解説 (講義形式)、グループワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書、施術の適応と医用画像の理解 p 1 - 8 1、p 1 2 1 - 1 3 2 に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。 代謝疾患 (糖尿病) (担当: 宮坂)</p>
第16回 (宮坂)	<p>【到達目標】 糖尿病について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 教科書 一般臨床医学 p 1 5 6 - 1 6 2 までを予習し授業に臨みましょう。 代謝疾患 (糖尿病の合併症、脂質異常症) (担当: 宮坂)</p>
第17回 (宮坂)	<p>【到達目標】 糖尿病の合併症および脂質異常症について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 1 6 3 - 1 6 8 までを予習し授業に臨みましょう。 代謝疾患 (肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症)、内分泌疾患 (概要) (担当: 宮坂)</p>
第18回 (宮坂)	<p>【到達目標】 肥満症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症について、正常と異常を理解し説明できる。 内分泌器およびホルモンの作用機序について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 1 6 8 - 1 7 6 までを予習し授業に臨みましょう。 内分泌疾患 (間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患) (担当: 宮坂)</p>
第19回 (宮坂)	<p>【到達目標】 間脳疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 1 7 6 - 1 8 2 までを予習し授業に臨みましょう。 内分泌疾患 (副腎皮質疾患、性腺疾患) (担当: 宮坂)</p>
第20回 (宮坂)	<p>【到達目標】 医用画像と一般撮影法について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 8 6 - 9 1 までを予習し授業に臨みましょう。 血液・造血管器疾患総論 (担当: 宮坂)</p>
第21回 (宮坂)	<p>【到達目標】 血液・造血管器疾患の主要徴候について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 1 8 5 - 1 8 7 までを予習し授業に臨みましょう。 血液・造血管器疾患各論 1 (担当: 宮坂)</p>
	<p>【到達目標】 赤血球疾患、白血球疾患の主な疾患について理解し説明できる。</p>

第22回 (宮坂)	<p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 188-195までを予習し授業に臨みましょう。 血液・造血管疾患各論 2 (担当：宮坂)</p>
第23回 (児玉)	<p>【到達目標】 リンパ系疾患、出血性素因、血漿蛋白異常について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 一般臨床医学 p 194-197までを予習し授業に臨みましょう。 医用画像の理解 (担当：児玉)</p>
第24回 (児玉)	<p>【到達目標】 放射線の概要、X線発生装置の概要、一般撮影法の概要について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 85-89までを予習し授業に臨みましょう。 X線撮影の実際 (担当：児玉)</p>
第25回 (児玉)	<p>【到達目標】 肩関節、肘関節、手関節、膝関節、足関節、股関節、体幹の各関節の撮影方法を理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 89-104までを予習し授業に臨みましょう。 画像のデジタル化、X線CTの概要 (担当：児玉)</p>
第26回 (児玉)	<p>【到達目標】 デジタル画像システムの理論と構造の概要を理解し説明できる。 X線CTの理論と構造の概要を理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 104-113までを予習し授業に臨みましょう。 磁気共鳴検査の概要 (担当：児玉)</p>
第27回 (宮坂)	<p>【到達目標】 MRIシステムの装置構成、原理、画像形成方法、各種撮影方法などを理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 113-121までを予習し授業に臨みましょう。 核医学検査の概要 (担当：宮坂)</p>
第28回 (宮坂)	<p>【到達目標】 核医学検査の概要について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 132-137までを予習し授業に臨みましょう。 まとめおよび定期試験 (担当：宮坂、児玉)</p>
第29回 (宮坂)	<p>【到達目標】 15～27回までの講義について理解し、それらの内容の国家試験形式問題が解ける。</p> <p>【授業形態】 定期試験および問題解説 (講義形式)、グループワークを実施します。</p> <p>【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書 施術の適応と医用画像の理解 p 59-137に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>時間外の学習 (準備学習等) について (1)解剖学、生理学、病理学、整形外科、一般臨床医学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなしで記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを</p>

	<p>確認して下さい。  予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。  復習：小テストにおいて不正解部分や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書などを用いて35分程度調べましょう。また次回的小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	(公社) 全国柔道整復学校協会監修 「一般臨床医学 (改訂第3版)」 (医歯薬出版) (公社) 全国柔道整復学校協会監修 「施術の適応と医用画像の理解」 (南江堂) (公社) 全国柔道整復学校協会監修 「整形外科学 (改訂第3版)」 (南江堂)
参考書	The Merck Manual (世界的に有名な医学テキスト) の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 <a href="http://merckmanual.jp/mmpej/index.html">http://merckmanual.jp/mmpej/index.html</a> 」 X線画像等も無料で見る ことができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	成績評価および留意事項 定期試験 (90%) および毎回授業ごと行う理解度確認テスト (10%) により評価します。 小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。 定期試験の正解および解説は試験時間終了後の授業時間内にフィードバックします。 尚、授業形態が状況により変更した場合、従来の理解度確認テストによる評価ができなくなる可能性があります。その際、評価法を若干変更する場合があります。
担当教員の基本情報	担当教員の基本事項 担当教員名： 宮坂卓治 (代表) 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日午前11:00～12:00  担当教員名： 児玉香菜絵 役職： 柔道整復学科 助教 研究室： 柔道整復学科棟4階講師室 メールアドレス： k_kodama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 授業終了後
備考	①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「臨床鑑別診断学総論」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
吉田勲生、田中健吾、川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行うことによって、既に学習した人体構造学、人体機能学、柔道整復学の科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復師国家試験の合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1回 人体構造学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、人体構造学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体構造学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第2～4 人体構造学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体構造学の内容を理解し、説明できる。 授業形態：事前に配布された課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。</p> <p>第5回 人体機能学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、人体機能学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体機能学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第6～8回 人体機能学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体機能学の内容を理解し、説明できる。 授業形態：事前に配布された課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。</p> <p>第9回 柔道整復学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、柔道整復学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。 到達目標：演習を通して、柔道整復学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第10～13回 柔道整復学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、各学生グループごとに配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。 到達目標：演習を通して、柔道整復学の内容を理解し、説明できる。 授業形態：事前に配布された課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。</p> <p>第14回 理解度チェック 到達目標：柔道整復師に必要な人体構造学、人体機能学、柔道整復学の重点ポイントを理解し、応用できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習35分） 当該授業で演習した内容について、十分に復習し、理解するようにする。（復習35分） 配布された演習問題については、各自理解するようにし、特にプレゼンテーションの分担が指示された問題については、他の学生が理解できるように周辺知識をしっかりと身につける。分からない点は、教科書、参考書を利用して理解を深め、それでも分からない点があれば質問等にて、積極的に解決すること。</p>
教科書	<p>「解剖学 第2版」 社団法人柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛 編（医歯薬出版） 「生理学 第3版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂） 「柔道整復学（理論編）改訂第6版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂）</p>
参考書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 期末試験（100%）で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：吉田 勲生 研究室：8号館4階 メールアドレス：isao@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：田中健吾 研究室：8号館4階</p>

	担当教員名：川村 茂 研究室：8号館4階
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2
	吉田勲生：23年間の実務経験に基づいて本講義の業務を行う。 田中健吾：実務経験に基づいて本講義の業務を行う。 川村 茂：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の業務を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習 演習/対面	
添付ファイル			

授業目標	関節評価法 I は、前年度履修した「運動機能解剖学」と「運動機能解剖学実習」の知識・技術を柔道整復師の臨床に活用するためにさらに磨きあげるためのものである。したがって授業目標は、外傷により生じる関節損傷のメカニズムを運動学により理解し、各関節の損傷に応じてどのような処置を行うのか、どのような後療法を行うのかなど、論理的に説明できかつ実践応用できることである。
授業計画	<p>1 回目</p> <p>オリエンテーション：「関節評価法 I」を履修する目的を理解し、2年次に修得した「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」の知識・技術を関係付けて理解し、説明できる。</p> <p>〔到達目標〕 本演習の目的を具体的に述べることができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく（予習35分）。 関節の評価方法の概要が説明できるようにまとめておく（復習35分）。</p> <p>2 回目</p> <p>肩関節の関節評価法：肩関節の運動学を理解し、肩関節のメカニズムから肩関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>〔到達目標〕 肩関節の関節評価法：肩関節の運動学を理解し、肩関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 肩関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における肩関節部分の内容を予習しておく（予習35分）。 肩関節の構造と外傷による肩関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。</p> <p>3 回目</p> <p>肘関節の関節評価法：肘関節の運動学を理解し、肘関節のメカニズムから肘関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>〔到達目標〕 肘関節の関節評価法：肘関節の運動学を理解し、肘関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 肘関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における肘関節部分の内容を予習しておく（予習35分）。 肘関節の構造と外傷による肘関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。</p> <p>4 回目</p> <p>前腕関節の関節評価法：前腕関節の運動学を理解し、前腕関節のメカニズムから前腕関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>〔到達目標〕 前腕関節の関節評価法：前腕関節の運動学を理解し、前腕関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 前腕関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における前腕関節部分の内容を予習しておく（予習35分）。 前腕関節の構造と外傷による前腕関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく（復習35分）。</p> <p>5 回目</p> <p>手関節の関節評価法：手関節の運動学を理解し、手関節のメカニズムから手関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>〔到達目標〕 手関節の関節評価法：手関節の運動学を理解し、手関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>〔授業形態〕</p>

	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 手関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における手関節部分の内容を予習しておく(予習35分)。 手関節の構造と外傷による手関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく(復習35分)。 手指関節の関節評価法：手指関節の運動学を理解し、手関節のメカニズムから手関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標] 手指の関節評価法：手指関節の運動学を理解し、手関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p>
6回目	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 手関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における手関節部分の内容を予習しておく(予習35分)。 手関節の構造と外傷による手関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく(復習35分)。</p> <p>股関節の関節評価法：股関節の運動学を理解し、股関節のメカニズムから股関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標] 股関節の関節評価法：股関節の運動学を理解し、股関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p>
7回目	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 股関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における股関節部分の内容を予習しておく(予習35分)。 股関節の構造と外傷による股関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく(復習35分)。</p> <p>膝関節の関節評価法：膝関節の運動学を理解し、膝関節のメカニズムから膝関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標] 膝関節の関節評価法：膝関節の運動学を理解し、膝関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p>
8回目	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 膝関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における膝関節部分の内容を予習しておく(予習35分)。 膝関節の構造と外傷による膝関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく(復習35分)。</p> <p>足関節の関節評価法：足関節の運動学を理解し、足関節のメカニズムから足関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標] 足関節の関節評価法：足関節の運動学を理解し、足関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p>
9回目	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 足関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における足関節部分の内容を予習しておく(予習35分)。 足関節の構造と外傷による足関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく(復習35分)。</p> <p>足部の関節評価法：足部の運動学を理解し、足部のメカニズムから足部の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標] 足部の関節評価法：足部の運動学を理解し、足部の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[授業形態]</p>
10回目	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 足部の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における足部部分の内容を予習しておく(予習35分)。 足部の構造と外傷による足部疾患のメカニズムについて、理解を深めておく(復習35分)。</p> <p>顎関節の関節評価法：顎関節の運動学を理解し、顎関節のメカニズムから顎関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標]</p>
11回目	<p>顎関節の関節評価法：顎関節の運動学を理解し、顎関節のメカニズムから顎関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[到達目標]</p>

	<p>顎関節の関節評価法：顎関節の運動学を理解し、顎関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>顎関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における顎関節部分の内容を予習しておく (予習35分)。</p> <p>顎関節の構造と外傷による顎関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p>
12回目	<p>頸椎椎間関節の関節評価法：頸椎椎間関節の運動学を理解し、頸椎椎間関節のメカニズムから頸椎椎間関節の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>頸椎椎間関節の関節評価法：頸椎椎間関節の運動学を理解し、頸椎椎間関節の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>頸椎椎間関節の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における頸椎椎間関節部分の内容を予習しておく (予習35分)。</p> <p>頸椎椎間関節の構造と外傷による頸部疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p>
13回目	<p>胸部・腰部の関節評価法：胸部・腰部の運動学を理解し、胸部・腰部のメカニズムから胸部・腰部の外傷の対処方法に応用することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>胸部・腰部の関節評価法：胸部・腰部の運動学を理解し、胸部・腰部の外傷によって生じる様々な症状とその対処方法に応用することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>胸部・腰部の解剖学・運動学の基本知識の学習と、柔道整復学・理論編における胸部・腰部部分の内容を予習しておく (予習35分)。</p> <p>胸部・腰部の構造と外傷による肩関節疾患のメカニズムについて、理解を深めておく (復習35分)。</p>
14回目	<p>まとめ：全ての関節の構造とメカニズムを理解し、全ての関節において生じる外傷性の疾患に対してその理論を応用した処置を想起することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>全ての関節の構造とメカニズムを理解し、全ての関節において生じる外傷性の疾患に対してその理論を応用した処置を想起することができる。 [ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：これまで学んだ各関節の構造とメカニズムおよび外傷性に生じる関節疾患との関連を試験にて確認し、その状況から学生の理解できていない部分を分析し、未修得の部分ならびに誤りやすい箇所の解説を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>各関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。</p> <p>各関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。(予習35分)</p> <p>また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。(復習35分)</p>
教科書	<p>解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版</p> <p>運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版</p> <p>柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂</p>
参考書	特になし
成績評価	最終講義において修学試験を実施し評価する (100%)。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：松本 和久</p> <p>研究室：8号館4階教室</p> <p>メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日16:00-17:00</p>
備考	35年間本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」
	◎ー1
	○ー5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習 演習/対面	
添付ファイル			

授業目標	関節評価法Ⅱでは、前期に修得した「関節評価法Ⅰ」の知識と技術を柔道整復師の実際の臨床で用いることができるように、さらに実践的な内容として角度計を用いた関節角度の評価方法を修学し、臨床に応用できるようにする。			
授業計画	1回目	<p>オリエンテーション：本演習は次年度の「臨床実習」を可能にするための知識・技術の習得を目的とし、2年次の「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」および三年前期の「関節評価法Ⅰ」の知識・技術を関係付けて理解し、説明できる。</p> <p>[ 到達目標 ] 本演習の目的を具体的に述べることができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「運動機能解剖学」「運動機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 関節の評価方法の概要が説明できるようにまとめておく(復習35分)。</p>	2回目	<p>肩関節の関節評価法(1)：肩関節の基本的な関節可動域の測定方法を模倣する。</p> <p>[ 到達目標 ] 肩関節の基本的な関節可動域の測定方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 肩関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。</p>
	3回目	<p>肩関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく(復習35分)。 肩関節の関節評価法(2)：肩関節の関節可動域を正確に調べる。</p> <p>[ 到達目標 ] 肩関節に関連する疾患の特徴を考慮して、肩関節の関節可動域を正確に調べることができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 肩関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。</p>	4回目	<p>正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく(復習35分)。 肘・前腕の関節の関節評価法(1)：肘・前腕の基本的な関節可動域の測定方法を模倣する。</p> <p>[ 到達目標 ] 肘・前腕に関連する疾患の特徴を考慮して、肘・前腕の基本的な関節可動域の測定方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 肘・前腕関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。</p>
	5回目	<p>肘・前腕関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく(復習35分)。 肘・前腕の関節の関節評価法(2)：肘・前腕の関節可動域を正確に調べる。</p> <p>[ 到達目標 ] 肘・前腕に関連する疾患の特徴を考慮して、肘・前腕の関節可動域を正確に調べることができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 肘・前腕関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。</p>		

6回目	<p>肘・前腕関節の関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>手関節の関節評価法（1）：手関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  [ 到達目標 ]  手関節の基本的な関節可動域を正確に模倣することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）  手関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。</p>
7回目	<p>手関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>手関節の関節評価法（2）：手関節の関節可動域を正確に調べる。  [ 到達目標 ]  手関節に関連する疾患の特徴を考慮して、手関節の関節可動域を正確に調べるすることができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）  手関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。</p>
8回目	<p>手関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>股関節の関節評価法（1）：股関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  [ 到達目標 ]  股関節の基本的な関節可動域を正確に模倣することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）  股関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。</p>
9回目	<p>股関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>股関節の関節評価法（2）：股関節の関節可動域を正確に調べる。  [ 到達目標 ]  股関節に関連する疾患の特徴を考慮して、股関節の関節可動域を正確に測定することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）  股関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。</p>
10回目	<p>股関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>膝関節の評価法（1）：膝関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  [ 到達目標 ]  膝関節の応用的な関節可動域を正確に測定することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）  膝関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。</p>
11回目	<p>膝関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>膝関節の評価法（2）：膝関節の関節可動域を正確に調べる。  [ 到達目標 ]  膝関節に関連する疾患の特徴を考慮して、膝関節の関節可動域を正確に測定することができる。  [ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）  膝関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。</p>
12回目	<p>膝関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>足関節評価法（1）：足関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  [ 到達目標 ]  足関節の基本的な関節可動域を正確に測定することができる。  [ 授業形態 ]</p>

	<p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 足関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。 足関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく (復習35分)。 足関節評価法 (2) : 足関節の関節可動域を正確に調べる。</p> <p>[ 到達目標 ] 足関節に関連する疾患の特徴を考慮して、足関節の関節可動域を正確に測定することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 足関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。 足関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく (復習35分)。 まとめ：全ての関節の関節可動域を正確に調べることができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 各関節に関連する疾患の特徴を考慮して、各関節の関節可動域を正確に測定することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：これまで学んだ各関節の関節評価法の修得状況を試験にて確認し、その状況から学生の理解できていない部分を分析し、未修得の部分ならびに誤りやすい箇所の解説を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 各関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。 各関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく (復習35分)。</p>
13回目	
14回目	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業計画に則り、授業内容の項に関する「柔道整復学・理論編」、「運動学」、「解剖学」の教科書を熟読しておくこと。(予習35分) また学修した内容を、教科書にて再度、熟読しておくこと。(復習35分)
教科書	解剖学 改訂第2版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 運動学 改訂第3版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 医歯薬出版 柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし
成績評価	最終講義において修学試験を実施し評価する (50%)。 授業内の実技において基本肢位、基本軸と移動軸、他動と自動および応用、正確さ、対象への配慮の5項目から評価する (50%)。
担当教員の基本情報	担当教員名：松本 和久 研究室：8号館4階教室 メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp
備考	35年間、病院に勤務し、その病院のリハビリテーションセンターにおける実務経験をもとに「関節評価法実習」についての授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎ー1 ○ー5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義(対面、状況により遠隔)	
添付ファイル			

授業目標	<p>(授業内容) 主に柔道整復学における下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について、臨床現場での体験も交え講義します。柔道整復の臨床において必要最低限の内容であり、様々な外傷・障害の診察や鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学修しましょう。</p> <p>(到達目標) 1. 下肢の主な骨折・脱臼・軟部組織損傷の原因、症状、鑑別診断、治療法を理解し説明することができるようにしましょう。 2. 保存療法の限界を知り、業務範囲の判別ができるようにしましょう。 3. 臨床の見地で骨、筋、関節の作用を理解できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における柔道整復学の出題範囲、出題形式、問題内容を理解し、正解を導く事ができるようにしましょう。</p>
授業計画	<p>第1回 膝関節の軟部組織損傷1 【到達目標】 半月板損傷、靭帯損傷について理解し説明できるようにしましょう。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 教科書 柔道整復学 p 401-404までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第2回 膝関節の軟部組織損傷2 【到達目標】 発育期の膝関節障害、脛骨靭帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節障害について理解し説明できるようにしましょう。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 柔道整復学 p 404-407までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第3回 膝関節の軟部組織損傷3 【到達目標】 膝周囲の関節包・滑液包の異常、注意すべき疾患について理解し説明できるようにしましょう。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 柔道整復学 p 408-410までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第4回 下腿部の損傷1 【到達目標】 下腿部の解剖と機能、下腿部骨幹部骨折、について理解し説明できるようにしましょう。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 柔道整復学 p 411-420までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第5回 下腿部の損傷2 【到達目標】 下腿部の軟部組織損傷について理解し説明できるようにしましょう。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 柔道整復学 p 421-422までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第6回 下腿部の損傷3 【到達目標】 下腿部の損傷における注意すべき疾患について理解し説明できるようにしましょう。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>

第7回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 2 3ー4 2 4 までを予習し授業に臨みましょう。 足関節部の損傷</p> <p>【到達目標】 解剖と機能・下腿骨遠位部の骨折について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第8回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 2 4ー4 3 1 までを予習し授業に臨みましょう。 足根骨部の骨折と脱臼</p> <p>【到達目標】 足根骨部の骨折と脱臼について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第9回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 3 2ー4 3 6 までを予習し授業に臨みましょう。 足関節の軟部組織損傷</p> <p>【到達目標】 足関節捻挫について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第10回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 3 6ー4 4 1 までを予習し授業に臨みましょう。 足・趾部の損傷</p> <p>【到達目標】 足根部の骨折について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第11回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 4 2ー4 4 6 までを予習し授業に臨みましょう。 中足骨・趾骨の骨折</p> <p>【到達目標】 中足骨・趾骨の骨折について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第12回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 4 7ー4 4 9 までを予習し授業に臨みましょう。 足根骨部の脱臼と軟部組織損傷、中足趾関節の脱臼</p> <p>【到達目標】 足根骨部の脱臼と軟部組織損傷、中足趾関節の脱臼、趾節間関節の脱臼について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第13回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 4 9ー4 5 2 までを予習し授業に臨みましょう。 足・趾部の軟部組織損傷</p> <p>【到達目標】 足・趾部の軟部組織損傷について理解し説明できるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。</p>
第14回	<p>教科書 柔道整復学 p 4 5 3ー4 5 7 までを予習し授業に臨みましょう。 総まとめ（定期試験を含む）</p> <p>【到達目標】 下肢の主な骨折・脱臼・軟部組織損傷の原因、症状、鑑別診断、治療法を理解し説明することができるようにしましょう。 保存療法の限界を知り、業務範囲の判別ができるようにしましょう。 臨床の見地で骨、筋、関節の作用を理解できるようにしましょう。 柔道整復師国家試験における柔道整復学の出題範囲、出題形式、問題内容を理解し、正解を導く事ができるようにしましょう。</p> <p>【授業形態】 定期試験および問題解説（講義形式）、グループワークを実施します。 状況によってオンラインの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書 柔道整復学 p 4 0 1ー4 5 7 に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。</p>

<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<p>(1)解剖学(骨学、筋学)の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。 (2)復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習:講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。 復習:小テストにおいて不正解部分や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書などを用いて35分程度調べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
<p>教科書</p>	<p>柔道整復学・理論編 改訂第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)</p>
<p>参考書</p>	<p>柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編) その他、必要に応じ適宜紹介いたします。</p>
<p>成績評価</p>	<p>定期試験(90%)および毎回授業ごと行う理解度確認テスト(10%)により評価します。 小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。 定期試験の正解および解説は試験時間終了後の授業時間内にフィードバックします。 また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。そうなった場合、評価方法を若干変更する場合があります。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名: 宮坂卓治 役職: 柔道整復学科教授 研究室: 柔道整復学科棟4階 メールアドレス: t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 火曜日午前11:00~12:00</p>
<p>備考</p>	<p>①自己が開設している接骨院での臨床経験をもとに「柔道整復学」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」:◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	頭部・顔面・脊椎に生じる骨折・脱臼・軟部組織損傷について理解し、それらに対する発生機序、症状、検査法、治療法などを習得することを目標とする。			
授業計画	第1回	オリエンテーション 顔面部の骨折① 【授業目標】 頭蓋骨骨折について説明できる。眼窩底破裂骨折について説明できる。上顎骨骨折について説明できる。 【授業概要】 頭蓋骨骨折について、その概要を説明できる。眼窩底破裂骨折について、その概要を説明できる。上顎骨骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】 頭蓋骨骨折、眼窩底破裂骨折、上顎骨骨折について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング無し		
	第2回	顔面部の骨折② 【授業目標】 第1回の内容についての小テストを行う。頬骨骨折について説明できる。鼻骨骨折について説明できる。下顎骨骨折について説明できる。 【授業概要】 頬骨骨折について、その概要を説明できる。鼻骨骨折について、その概要を説明できる。下顎骨骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第1回の内容について復習しておく。頬骨骨折、鼻骨骨折、下顎骨骨折について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		
	第3回	顔面部の脱臼 【授業目標】 第2回の内容についての小テストを行う。顎関節脱臼について説明できる。 【授業概要】 顎関節脱臼について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第2回の内容について復習しておく。顎関節脱臼について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		
	第4回	顔面部の軟部組織損傷① 【授業目標】 第3回の内容についての小テストを行う。外傷性顎関節損傷について説明できる。頭部や顔面部打撲について説明できる。 【授業概要】 外傷性顎関節損傷について、其の概要をを説明できる。頭部や顔面部打撲について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第3回の内容について復習しておく。外傷性顎関節損傷、頭部や顔面部打撲について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		
	第5回	顔面部の軟部組織損傷② 【授業目標】 第4回の内容についての小テストを行う。顎関節症について説明できる。 【授業概要】 顎関節症について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第4回の内容について復習しておく。顎関節症について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		
	第6回	胸部の骨折・軟部組織損傷 【授業目標】 第5回の内容についての小テストを行う。肋骨骨折について説明できる。胸骨骨折について説明できる。胸肋関節損傷について説明できる。肋間筋損傷について説明できる。胸・背部打撲について説明できる。 【授業概要】 肋骨骨折について、その概要を説明できる。胸骨骨折について、その概要を説明できる。胸肋関節損傷について、その概要を説明できる。肋間筋損傷について、その概要を説明できる。胸・背部打撲について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第5回の内容について復習しておく。肋骨骨折、胸骨骨折、胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸・背部打撲について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		
	第7回	脊椎部の骨折① 【授業目標】 第6回の内容についての小テストを行う。頸椎骨折について説明できる。胸椎骨折について説明できる。腰椎骨折について説明できる。 【授業概要】 頸椎骨折について、その概要を説明できる。胸椎骨折について、その概要を説明できる。腰椎骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第6回の内容について復習しておく。頸椎骨折、胸椎骨折、腰椎骨折について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		
	第8回	脊椎部の骨折② 【授業目標】 第7回の内容についての小テストを行う。頸椎骨折について説明できる。胸椎骨折について説明できる。腰椎骨折について説明できる。 【授業概要】 頸椎骨折について、その概要を説明できる。胸椎骨折について、その概要を説明できる。腰椎骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】 小テストを行うので第7回の内容について復習しておく。頸椎骨折、胸椎骨折、腰椎骨折について予習しておく。 【授業形態】 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）		

	<p>第9回 脊椎部の骨折③  【授業目標】第8回の内容についての小テストを行う。頸椎骨折について説明できる胸椎骨折について説明できる。腰椎骨折について説明できる。  【授業概要】頸椎骨折について、その概要を説明できる。胸椎骨折について、その概要を説明できる。腰椎骨折について、その概要を説明できる。  【準備学習】小テストを行うので第8回の内容について復習しておく。頸椎骨折、胸椎骨折、腰椎骨折について予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第10回 脊椎部の脱臼  【授業目標】第9回の内容についての小テストを行う。頸椎脱臼について説明できる。胸椎脱臼について説明できる。  【授業概要】頸椎脱臼について、その概要を説明できる。胸椎脱臼について、その概要を説明できる。  【準備学習】小テストを行うので第9回の内容について復習しておく。頸椎脱臼、胸椎脱臼について予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第11回 脊椎部の軟部組織損傷①  【授業目標】第10回の内容についての小テストを行う。頸部捻挫について説明できる。頸部の疾患について説明できる。  【授業概要】頸部捻挫について、その概要を説明できる。頸部の疾患について、その概要を説明できる。  【準備学習】小テストを行うので第10回の内容について復習しておく。頸部捻挫、頸部の疾患について予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第12回 脊椎部の軟部組織損傷②  【授業目標】第11回の内容についての小テストを行う。胸背部の軟部組織損傷について説明できる。腰部の軟部組織損傷について説明できる。  【授業概要】胸背部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。腰部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。  【準備学習】小テストを行うので第11回の内容について復習しておく。胸背部の軟部組織損傷、腰部の軟部組織損傷について予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第13回 脊椎部の軟部組織損傷③  【授業目標】第12回の内容についての小テストを行う。胸背部の軟部組織損傷について説明できる。腰部の軟部組織損傷について説明できる。  【授業概要】胸背部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。腰部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。  【準備学習】小テストを行うので第12回の内容について復習しておく。腰椎椎間板ヘルニアについて予習しておく。  【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>第14回 整復学VIについてのまとめ  【授業目標】第14回の内容についてのまとめとテストを行う。顔面部の損傷について記述する事が出来る。脊椎部の損傷について記述する事が出来る。骨盤骨骨折について記述する事が出来る。  【授業概要】顔面部の損傷について、その概要を記述する事が出来る。脊椎部の損傷について、その概要を記述する事が出来る。骨盤骨骨折について、その概要を記述する事が出来る。  【準備学習】テストを行うので第13回の内容について復習しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。 学年末試験を80%程度とする。 授業時に行う小テストの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 棚原 勝平 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間
備考	棚原 勝平：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では物理療法の種類、効果、使用方法、禁忌について学び、使用方法を正しく理解し、行えることを目標とする。		
授業計画	第1講義	<p>オリエンテーション・物理療法とは</p> <p>【授業概要】 物理療法の種類・分類について</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理療法の種類・分類について理解する。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第2講義	<p>温熱療法（湿性ホットパック）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温熱療法の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・温熱療法のホットパックの使用を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第3講義	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラフィン浴療法の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・温熱療法のホットパックの使用を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第4講義	<p>水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・水治療法（交代浴）・輻射熱療法（赤外線療法）の使用を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第5講義	<p>変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法）の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・変換熱療法（超音波治療器）・光線療法（レーザー療法）の使用を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第6講義	<p>寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器）</p> <p>寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器）効果、方法、禁忌について理解する。</p> <p>寒冷療法（アイスパック・クライオ治療器）の使用を正しく行うことができる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第7講義	<p>牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・牽引療法（頸椎牽引・腰椎牽引）の使用を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第8講義	<p>電気療法総論</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低・中・高周波電気療法の効果、方法、禁忌について理解する。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第9講義	<p>低・中・高周波電気療法</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手技療法の効果、方法、禁忌について理解する。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低・中・高周波電気療法の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・低・中・高周波電気療法を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <p>アクティブラーニングの有無：有り</p>	
	第10講義	<p>機能的電気刺激</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能的電気刺激の効果、方法、禁忌について理解する。</li> <li>・機能的電気刺激を正しく行うことができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p>	

	<p>第11講義 アクティブラーニングの有無：有り 機能的電気刺激と歩行① 【到達目標】 ・機能的電気刺激を歩行時に使用するため、歩行について理解することができる。</p> <p>第12講義 アクティブラーニングの有無：有り 機能的電気刺激と歩行② 【到達目標】 ・機能的電気刺激を歩行時に使用するため、歩行について理解することができる。</p> <p>第13講義 総合復習 アクティブラーニングの有無：有り 【到達目標】 1～12回までの内容を復習し、物理療法の理解を深めることを目的とする。 【授業形態】</p> <p>第14講義 理解度チェック アクティブラーニングの有無：有り 【到達目標】 授業内の筆記試験（60分間）を行い、授業内に筆記試験の解答解説を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業に復習や授業内課題をおおよそ60分程度行うこと。
教科書	柔道整復学・理論改定第6版 南江堂 柔道整復師のための医療安全学 共著：桜井康司、田淵健一、成瀬秀夫、山口竜彦
参考書	標準理学療法学 物理療法学 第4版 編集：綱本 和 医学書院
成績評価	出席基準を満たした者に評価を行う。評価は筆記試験（80%）、授業内課題（20%）によって総合的に評価をおこなう。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 奥田正作 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : renkon74@gmail.com オフィスアワー : 授業終了後
備考	ディプロマポリシーとの関連について「1-◎」「2-○」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
中川 達雄			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復施術の業務範囲における各種傷害に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p>&lt;教育概要&gt; 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形学を基礎とし、人体構造、特に四肢（下肢および上肢）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて四肢関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか鑑別診断を行い、考察を行う。次に、その診断に基づき、関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、マイクロ牽引法を教授する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 これから学ぶ徒手療法、手技療法についての基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p> <p>2回目 肘関節1：肘関節の触診実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：肘関節の解剖学</p> <p>3回目 肘関節2：肘関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節屈曲検査法とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの習得</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p> <p>4回目 肘関節3：肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘回旋検査P110-115</p> <p>5回目 肘関節4：肘関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘伸展検査P104-105</p> <p>6回目 肘関節5：肘関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確</p>

	<p>さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 肘関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘外/内方可動性検査P104-107、120-123</p>
7回目	<p>まとめ アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 1回目～6回目の授業についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） 予習：1回目から6回目までの授業内容</p>
8回目	<p>膝関節1：膝関節の解説、触診、可動域検査における注意事項 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節の解説、触診、可動域検査における注意事項の理解と検査技術の修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝屈曲検査P80-83</p>
9回目	<p>膝関節2：膝関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝伸展検査P84-87</p>
10回目	<p>膝関節3：膝関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節伸展検査と異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝回旋検査P88-95</p>
11回目	<p>膝関節4：膝関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝外/内方可動性検査P96-99</p>
12回目	<p>膝関節5：膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝P80-99</p>
13回目	<p>膝関節障害に対する膝関節検査法と治療法の総復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節障害のための関節可動性検査とその関連技術の修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：足関節捻挫の復習</p>

	<p>14回目 総復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 8回目～14回目の授業についての総括を行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習：8回目から14回目までの授業内容</p> <p>15回目 まとめ 【内容・到達目標】 8回目～14回目の授業についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習：8回目から14回目までの授業内容</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>シラバスを参考に、予習復習を行うように努める。</p> <p>1. 予習(45分)：授業予定である教科書内容を熟読すること。</p> <p>2. 復習(45分)：検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。</p>
教科書	<p>1. 四肢のモーション・パルペーション(上巻) 下肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p> <p>2. 四肢のモーション・パルペーション(下巻) 上肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p> <p>2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中川達雄 研究室 : メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	沖 和久：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業のディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、スポーツ障害との結びつきを理解する。 また、各関節の損傷や障害に対して行う手技について基本理念を理解し、技術の習得につなげる準備をする。
授業計画	<p>1回目 下腿～足関節の筋と運動・外傷と障害 下腿～足関節の機能解剖を理解し説明することができる。 シンスプリント、オスグッドシュラッター病、アキレス腱炎、足底腱膜炎について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 大腿～膝関節の筋と運動・外傷と障害 大腿～膝関節の機能解剖を理解し説明することができる。 チャーリーホース、グロインペイン、腸脛靭帯炎、鷲足炎について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 腰部～股関節の筋と運動・外傷と障害 腰部～股関節の機能解剖を理解し説明することができる。 腰椎椎間板ヘルニア、腰部の疲労骨折（腰椎分離症）について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>4回目 肩関節の機能解剖を理解する。 肩関節の筋と運動・外傷と障害を理解し説明することができる。 野球肩について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 肘関節の筋と運動・外傷と障害 肘関節の機能解剖を理解し説明することができる。 野球肘、テニス肘について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 女性のスポーツ障害 女性のスポーツ障害を理解し説明することができる。 疲労骨折について理解し、説明することができる。 アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 総合評価（まとめ） まとめと試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	機能解剖学は臨床において必要な知識であるため、事前学習（45分）、復習（45分）をしておくこと。
教科書	なし
参考書	教員の自作資料
成績評価	出席基準を充たした者に筆記または実技の評価を行う。 必要に応じて小テストを行う場合がある。
担当教員の基本情報	担当教員名：棚原勝平 研究室：8号館4階講師室 メールアドレス：s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2 ○-1
	施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>柔道整復師が扱う、骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷の診察法と柔道整復施術における整復法、固定法を実習を通して理解する。</p> <p>骨盤部から大腿部および膝部の領域における損傷に対する柔道整復術の適応と限界をみきわめ、医療人として適切な処置を講ずるための技能を修得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・下肢の関節可動域の測定  <b>【内容・到達目標】</b>          授業構造と授業進行方法・位置づけを学ぶ。          各授業の項目・内容の連繋、授業構成について理解することができる。          関節可動域(股関節・膝関節)の測定方法を理解し実践することができる。</p> <p><b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          総論の範囲の復習をしておくこと。</p> <p><b>【授業形態】</b>実習（アクティブラーニング）</p> <p>第2回 股関節脱臼1  <b>【内容・到達目標】</b>          股関節脱臼の症状・鑑別方法・整復方法(回転法)を理解し実践することができる。  <b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          整復学 股関節脱臼の範囲の復習をしておくこと。          第1回の授業内容を復習しておくこと。</p> <p><b>【授業形態】</b>実習（アクティブラーニング）</p> <p>第3回 股関節脱臼2  <b>【内容・到達目標】</b>          股関節脱臼の症状・鑑別方法・整復方法(牽引法・スティムソン法)を理解し実践することができる。  <b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          整復学 股関節脱臼の範囲の復習をしておくこと。          第2回の授業内容を復習しておくこと。</p> <p><b>【授業形態】</b>実習（アクティブラーニング）</p> <p>第4回 大腿骨骨折(大腿骨近位端部骨折、骨幹部骨折、遠位端部骨折)  <b>【内容・到達目標】</b>          大腿骨骨折(大腿骨近位端部骨折、骨幹部骨折、遠位端部骨折)の症状・鑑別方法・固定方法(金属副子固定)を理解し実践することができる。  <b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          整復学 大腿骨骨折(大腿骨近位端部骨折、骨幹部骨折、遠位端部骨折)の範囲の復習をしておくこと。          第3回の授業内容を復習しておくこと。</p> <p><b>【授業形態】</b>実習（アクティブラーニング）</p> <p>第5回 膝蓋骨骨折  <b>【内容・到達目標】</b>          膝蓋骨骨折の症状・鑑別方法・固定方法を理解し実践することができる。  <b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          整復学 膝蓋骨骨折(厚紙副子)の範囲の復習をしておくこと。          第4回の授業内容を復習しておくこと。</p> <p><b>【授業形態】</b>実習（アクティブラーニング）</p> <p>第6回 膝蓋骨脱臼  <b>【内容・到達目標】</b>          膝蓋骨脱臼の症状・鑑別方法・固定方法を理解し実践することができる。  <b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          整復学 膝蓋骨脱臼(リング副子)の範囲の復習をしておくこと。          第5回の授業内容を復習しておくこと。</p> <p><b>【授業形態】</b>実習（アクティブラーニング）</p> <p>第7回 膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼  <b>【内容・到達目標】</b>          膝蓋骨骨折・脱臼の固定方法(厚紙副子・リング副子)を理解し実践することができる。  <b>【備考】</b>(授業時間外学習の指示等)          整復学 膝蓋骨骨折・脱臼の範囲の復習をしておくこと。          第6回の授業内容を復習しておくこと。</p>

第8回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 下腿骨骨折(近位端・骨幹) 【内容・到達目標】 下腿骨骨折(近位端・骨幹)の症状・鑑別方法を理解し実践することができる。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 下腿骨骨折(近位端・骨幹)の復習をしておくこと。 第7回の授業内容を復習しておくこと。</p>
第9回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 膝関節脱臼 【内容・到達目標】 膝関節脱臼の症状・鑑別方法・整復法を理解し実践することができる。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 膝関節脱臼の復習をしておくこと。 第8回の授業内容を復習しておくこと。</p>
第10回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼 【内容・到達目標】 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼の固定方法(金属副子)を理解し実践することができる。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 下腿骨骨折(近位端・骨幹)、膝関節脱臼の復習をしておくこと。 第9回の授業内容を復習しておくこと。</p>
第11回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 股関節軟部組織損傷1 【内容・到達目標】 股関節軟部組織損傷の症状・徒手検査法を理解し実践することができる。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 股関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。 第10回の授業内容を復習しておくこと。</p>
第12回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 股関節軟部組織損傷2 【内容・到達目標】 股関節軟部組織損傷の症状・固定法(包帯)を理解し実践することができる。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 股関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。 第11回の授業内容を復習しておくこと。</p>
第13回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） 股関節軟部組織損傷3 【内容・到達目標】 股関節軟部組織損傷の症状・固定法(テーピング)を理解し実践することができる。 【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 股関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。 これまでの授業内容を復習しておくこと。</p>
第14回	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング） まとめと評価 【内容・到達目標】 整復学IV実習の内容を臨的に落とし込めるよう実践することができる 【備考】(授業時間外学習の指示等) これまでの授業内容を復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（各約45分程度）を行ってください。講義時 間で理解できない場合はすぐに質問しに来てください。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準を満たした者について、実技試験を行い評価します。
担当教員の基本情 報	担当教員名 : 棚原 勝平 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時
備考	棚原 勝平: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-2 ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
並川 一利、濱口 夏花			
柔道整復学科	30時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷（体幹含む）の中で、柔道整復師の業務範囲の判別・鑑別を行えるようになる。 保存療法の限界を知り、範疇の損傷についての処置を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・足関節捻挫（1） 足関節厚紙副子の作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・足関節損傷時の発生機序について復習しておく。 ・足関節損傷時の鑑別法を復習しておく。</p> <p>第2回 足関節捻挫（2） 足関節厚紙副子の作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・足関節損傷時の発生機序について復習しておく。 ・足関節損傷時の鑑別法を復習しておく。</p> <p>第3回 足関節捻挫（3） 足関節U字ギブスの作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・足関節損傷時の発生機序について復習しておく。 ・足関節損傷時の鑑別法を復習しておく。</p> <p>第4回 果部骨折（1） 果部骨折の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 果部骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・下腿の解剖を復習しておく。 ・果部骨折時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第5回 踵骨骨折 踵骨骨折の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 踵骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・足部の解剖を復習しておく。 ・踵骨骨折時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第6回 顎関節脱臼 顎関節脱臼の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】 顎関節脱臼の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・顎関節の解剖を復習しておく。 ・顎関節脱臼時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第7回 まとめ 【到達目標】 第1回～第6回までに修得した技術を実践することができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・第1回～第6回までに修得した技術が適切に実施できるよう練習を行うこと。</p>

	<p>第8回 中足骨骨折（1）</p> <p>中足骨骨折の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 中足骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・足部の解剖を復習しておく。  ・中足骨骨折時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第9回 中足骨骨折（2）</p> <p>中足骨骨折の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 中足骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・足部の解剖を復習しておく。  ・中足骨骨折時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第10回 足趾の骨折、脱臼</p> <p>足趾の骨折、脱臼の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 足趾の骨折、脱臼の徒手検査・後療法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・足部の解剖を復習しておく。  ・足趾の骨折、脱臼時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第11回 下肢軟部組織損傷の疾患：アキレス腱断裂</p> <p>下肢軟部組織損傷の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 下肢軟部組織損傷の徒手検査・後療法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・下腿の解剖を復習しておく。  ・下腿軟部組織損傷時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第12回 下肢軟部組織損傷の疾患：下腿三頭筋肉離れ</p> <p>下肢軟部組織損傷の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 下肢軟部組織損傷の徒手検査・後療法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・下腿の解剖を復習しておく。  ・下腿軟部組織損傷時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第13回 肋骨骨折</p> <p>肋骨骨折の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 肋骨骨折の徒手検査・後療法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・肋骨骨折の発生機序や症状について復習しておく。  ・骨折時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第14回 復習</p> <p>第8～32回の授業により習得した技術の確認・総復習をする。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・第8回～第13回までに修得した技術が適切に実施できるよう練習を行うこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>整復学V・VIで学習した外傷の発生機序や症状等を理解し、その整復法や固定法、後療法について教科書を熟読し、不明な点は授業内に理解できるよう努める。  各回の予習・復習はそれぞれ100分程度とする。</p>
教科書	<p>柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)  柔道整復学・理論編 改訂第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)</p>
参考書	<p>必要に応じてプリントを配布することがある。</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して実技試験を行い、評価を行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 並川 一利  オフィスアワー : 授業終了時1時間</p> <p>担当教員名 : 濱口 夏花  場 所 : 8号館4階・講師室  メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 授業終了時1時間</p>
備考	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5</p>

	並川 一利：施術所で臨床業務に従事していることから、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 濱口 夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
西口 和孝			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵまでで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。本科目の目的は、上肢に関する骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。		
授業計画	第1回	オリエンテーションおよび手指・手関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習① [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第2回	手指・手関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習② [到達目標] (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第3回	前腕部の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習 [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明) (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第4回	肘関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習① [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第5回	肘関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習② [到達目標] (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第6回	肘関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習③ [到達目標] (機能改善のための治療法)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第7回	上腕部の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習 [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明) (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第8回	肩関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習① [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第9回	肩関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習② [到達目標] (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第10回	肩関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習③ [到達目標] (機能改善のための治療法)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	
	第11回	肩鎖関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習① [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。 アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。	

	<p>第12回 肩鎖関節の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習②  [到達目標] (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等)  配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p> <p>第13回 頸部の損傷に対する柔整における臨床プロセスの実習  [到達目標] (病態、受傷機転・発生機序、評価・検査法、患者への説明) (損傷改善のための処置、治療法、治療計画の説明)を理解し実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等)  配布プリントや教科書で予習しておき、授業終了後に復習しておくこと。  アクティブラーニングの実施：ペアを組み互いの身体で実践し、互いでフィードバックする。</p> <p>第14回 理解度チェック  [到達目標] これまでの実習を踏まえて総復習を行ったうえ評価する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)していただくこと。 授業後は、配布資料・教科書をよく読み、わからない箇所は調べ、それでもわからなければ担当者に質問するなどの対応をすること。
教科書	・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第6版 ・柔道整復学(実技編) 社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第2版
参考書	授業時間内に必要に応じ、指示する。
成績評価	出席および授業態度を加味し、総合評価とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 西口和孝  メールアドレス : yoc.k5115@gmail.com  オフィスアワー : 授業終了時</p> <p>担当教員名 : 吉田勲生  研究室 : 8号館4階・講師室  メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。</p> <p>①各学科の資格に関する実務経験の有無：  西口 和孝 (ニングチ カズタカ) クリニックでの臨床業務に従事したのち、大阪市で開業。現在はアスリートへのケアを中心に業務。  その実務経験に基づいて本講義を行う。</p> <p>②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
樋口 正宏・児玉 香菜絵			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵ（学校協会柔道整復理論編の全内容）までで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を修得する。 本科目の目的は、膝関節、足関節における骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。			
授業計画	第1回	足関節軟部組織損傷に対する所見 【内容・到達目標】 足関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 足関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第2回	前距腓靭帯Ⅲ度損傷に対する固定 【内容・到達目標】 足関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 足関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。
	第3回	足関節果部骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 足関節果部骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 足関節果部骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第4回	足関節果部骨折SEFstageⅡに対する固定 【内容・到達目標】 足関節果部骨折SEFstageⅡに対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 足関節果部骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。
	第5回	腓骨尖端裂離骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 腓骨尖端裂離骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 腓骨尖端裂離骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第6回	腓骨尖端裂離骨折に対する固定 【内容・到達目標】 腓骨尖端裂離骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 腓骨尖端裂離骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。
	第7回	中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】（授業時間外学習の指示等） 整復学 中足骨・足根骨骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第8回	趾骨骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 趾骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。

第9回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 趾骨骨折の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>中足骨骨折・趾骨骨折に対する固定</p> <p>【内容・到達目標】            中足骨・趾骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第10回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 中足骨・趾骨骨折の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>アキレス腱断裂に対する所見・処置</p> <p>【内容・到達目標】            アキレス腱断裂に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第11回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 アキレス腱断裂の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>アキレス腱断裂に対する固定</p> <p>【内容・到達目標】            アキレス腱断裂に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第12回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 アキレス腱断裂の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>膝関節軟部組織損傷に対する所見</p> <p>【内容・到達目標】            膝関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第13回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 膝関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>膝関節側副靭帯・半月板損傷等に対する固定</p> <p>【内容・到達目標】            膝関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第14回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 膝関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>まとめおよび評価</p> <p>【内容・到達目標】            膝関節、足関節の傷害について理解し、きちんと固定することができる。            第1～13回までの授業の範囲のまとめを行い、総合的に評価(実技試験)を行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            第1～13回までの授業の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(90分)・復習(90分)してこよう。
教科書	柔道整復学(理論編)改訂第6版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
参考書	標準整形外科学第10版 監修：国分正一 医学書院 図解 四肢と脊椎の診かた 監訳者 野島元雄 医歯薬出版 図解 整形外科診察の進め方 監訳 小野啓郎 医学書院
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。評価は期末試験と授業時に行う小テストによる出席点を加味し、総合的に評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 樋口正宏 ヒグチ整骨院院長、非常勤講師 研究室 : 8号館4階非常勤講師室 オフィスアワー : 講義終了後の1時間  担当教員名 : 児玉香菜絵 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後の1時間
備考	樋口正宏：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 児玉香菜絵：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
中川 達雄・沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復術の業務範囲における腰部損傷に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p>&lt;教育概要&gt; 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する腰部の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形外科学を基礎とし腰部疾患の理学検査や、人体構造、特に体幹（骨盤・腰椎）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか把握し、考察を行う。次に、その検査結果に基づき、どのような施術法が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、筋弛緩法、マイクロ牽引法等を用い、腰部損傷に対する施術法を修得する。</p>
授業計画	<p>1回目            オリエンテーション、腰部周辺の鑑別触診 これから学ぶ腰部損傷に対する理学検査、徒手療法、手技療法についての概説と腰部周辺の鑑別触診を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習：骨盤と腰椎の解剖学 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>2回目            仙腸関節障害1：概要、理学検査 仙腸関節障害による腰痛の概要と理学検査を学ぶ。</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.82～89 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>3回目            仙腸関節障害2：仙腸関節触診 ギャッピング検査、PI腸骨、AS腸骨のスタティックパルペーション</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.82～89 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>4回目            仙腸関節障害3：腸骨モーションパルペーション PI腸骨、AS腸骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション（治療法）</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.90～94 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>5回目            仙腸関節障害4：腸骨モーションパルペーション IN腸骨、EX腸骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション（治療法）</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.107～113 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>6回目            仙腸関節障害5：仙骨モーションパルペーション 仙骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション（治療法）</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.130 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>7回目            椎間関節障害1：腰椎スタティックパルペーション 腰椎触診、スプリング検査</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.130～143</p>

8回目	<p>アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>椎間関節障害2：腰椎スタティックパルペーション 腰椎モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション(治療法)</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：筋筋膜性腰痛について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
9回目	<p>筋筋膜性腰痛 概要と触診、腸腰筋、腰方形筋等の弛緩法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：腰椎椎間板ヘルニアについて アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
10回目	<p>腰椎椎間板ヘルニア 腰椎椎間板ヘルニアの概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱管狭窄症について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
11回目	<p>脊柱管狭窄症 脊柱管狭窄症の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：腰椎分離すべり症について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
12回目	<p>腰椎分離すべり症 腰椎分離すべり症の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：梨状筋症候群について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
13回目	<p>梨状筋症候群 梨状筋症候群の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
14回目	<p>総まとめ</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
15回目	<p>評価 1回目から14回目までに学んだ項目について、実技による評価を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>1. 予習：授業予定である教科書内容を熟読すること。 2. 復習：検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)してくること。</p>
教科書	<p>1. 脊柱モーション・パルペーション 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー 2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	<p>筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中川達雄 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p> <p>担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : k_oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	<p>授業開始から30分以内を遅刻とする。以降の入室は欠席とする。遅刻は累積2回で欠席1回とする。</p>

	①各学科の資格に関する実務経験の有無： 中川達雄：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 沖 和久：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
吉田 勲生、沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】この授業では、既に習得した身体構造と身体における運動学を基に、スポーツ現場で遭遇する外傷・障害に対して、柔道整復師として実施可能なアプローチ方法を学び、技術を習得する。</p> <p>【到達目標】スポーツ選手（アスリート）に特有な外傷・障害の発生メカニズムを理解するとともにテーピング並びに早期現場復帰のための運動療法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節） 【到達目標】足関節部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】足関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>2回目 足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅰ 【到達目標】基本的な足関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>3回目 足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅱ 【到達目標】応用的な足関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足関節周囲に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>4回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部） 【到達目標】足部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】足部の機能解剖を述べることができる。</p> <p>5回目 足部のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】足部のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足部に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>6回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節） 【到達目標】膝関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】膝関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>7回目 膝関節のテーピングと運動療法の実践（膝関節Ⅰ） 【到達目標】基本的な膝関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】膝関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>8回目 膝関節のテーピングと運動療法の実践（膝関節Ⅱ） 【到達目標】応用的な膝関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】膝関節周囲に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>9回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（大腿部・腰） 【到達目標】大腿部・腰部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】大腿部・腰部の機能解剖を述べることができる。</p> <p>10回目 大腿部・腰部のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】大腿部・腰部のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】大腿部・腰部に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>11回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肘部・手関節） 【到達目標】肘部・手関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】肘部・手関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>12回目 肘部・手関節のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】肘部・手関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】肘部・手関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>13回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肩関節・他） 【到達目標】肩関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】肩関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>14回目 理解度チェック</p> <p>15回目</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載し、次の授業までに自習または教員に質問し、理解すること。また、[備考]を参考に次回授業で行われる各関節・周辺部位の機能解剖を理解しておくこと。（各回の予習および復習に必要な時間は1時間程度）
教科書	授業配布資料

参考書	柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。(筆記試験50%、実技試験50%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田 勲生  研究室 : 8号館4階  メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 沖 和久  研究室 : 8号館4階講師室  メールアドレス : oki@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-2、○-1
	吉田 勲生 : 応急救護での実務経験をもとに外傷・障害発生後の処置について授業をすすめる。 沖 和久 : 応急救護での実務経験をもとに外傷・障害発生後の処置について授業をすすめる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	柔道整復師の業務において問診と診察は重要な項目である。本科目ではOSCEを基に柔道整復師としての問診法、診察法を部位ごとに行う。問診、診察から得られた事項を施術録に記録するまでの一連の流れを学ぶ。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、問診の基本① 【内容・到達目標】 基本的な問診を実践することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：医療面接で学んだ内容を自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、言葉使いや姿勢などを互いにフィードバックする。	
	第2回	問診の基本② 【内容・到達目標】 問診で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：医療面接で学んだ内容を自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、言葉使いや姿勢などを互いにフィードバックする。	
	第3回	施術録の記載方法 【内容・到達目標】 施術録の記載方法について学び、診察のコツ修得する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：医療面接で学んだ内容を自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。	
	第4回	診察の環境 【内容・到達目標】 診察環境の整え方(室内環境、患者さんの状況など)について学び、実践することができる。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：医療面接で学んだ内容を自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。	
	第5回	歩行、全身状態の観察 【内容・到達目標】 歩行、全身状態の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：医療面接で学んだ内容を自主練習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。	
	第6回	上肢の観察① 【内容・到達目標】 上肢の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学で学んだ上肢の疾患について復習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。	
	第7回	上肢の観察② 【内容・到達目標】 上肢の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分)：柔道整復学で学んだ上肢の疾患について復習しておくこと。 復習(45分)：授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。	

	<p>第8回 上肢の観察③ 【内容・到達目標】 上肢の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分): 柔道整復学で学んだ上肢の疾患について復習しておくこと。 復習(45分): 授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング: 学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。</p> <p>第9回 下肢の観察① 【内容・到達目標】 下肢の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分): 柔道整復学で学んだ下肢の疾患について復習しておくこと。 復習(45分): 授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング: 学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。</p> <p>第10回 下肢の観察② 【内容・到達目標】 下肢の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分): 柔道整復学で学んだ下肢の疾患について復習しておくこと。 復習(45分): 授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング: 学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。</p> <p>第11回 下肢の観察③ 【内容・到達目標】 下肢の観察で得られる情報について学び、診察のコツ修得する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習(45分): 柔道整復学で学んだ下肢の疾患について復習しておくこと。 復習(45分): 授業中の注意点を基に復習しておくこと。 アクティブラーニング: 学生同士でペアを組み練習しながら、注意点を互いにフィードバックする。</p> <p>第12回 評価① 【内容・到達目標】 環境整備から診察終了まで一連の流れで実践できる。</p> <p>第13回 評価② 【内容・到達目標】 環境整備から診察終了まで一連の流れで実践できる。</p> <p>第14回 総括 【内容・到達目標】 評価①、②の振り返りを行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	問診や診察などの技術は反復により修得されるものである。そのためシラバスを参考に、予習復習を行うように努める。 予習(45分): シラバスから授業で行う範囲を確認し、配布したプリントを基に自主練習を行う。 復習(45分): 授業で行った内容を確認しながら、自主練習を行う。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学(理論編) 社団法人 全国柔道整復学校協会監修 改訂第6版 南江堂</li> <li>・柔道整復学 実技編 柔道整復学校協会監修</li> </ul>
参考書	授業中に適宜プリントを配布する。 著書として購入する必要はありませんが「実践・臨床推論 根拠に基づく柔道整復術を目指して 錦房株式会社」を参考にさせていただくと理解しやすい。
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。</p> <p>全ての授業が終了した後、レポート課題を行なういただき、その内容を評価する(80%)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療面接の目的と構造</li> <li>2. 質問法</li> <li>3. 初診患者および再診患者の情報収集</li> <li>4. 医療面接における傾聴を実現するテクニック</li> <li>5. 患者さんの「語り」を促進させる技法</li> </ol> <p>上記の記載事項と授業中に説明した内容、医療面接の動画に関するレポートを作成していただくレポートの作成方法については、授業中に解説する。 実習態度(20%程度)等も加味し総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 川村 茂 研究室 : 8号館4階准教授室 メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の夕方17:00以降</p>
備考	大木琢也: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 泉晶子: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-5、○2

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
石橋 良重・吉田 勲生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である軟部組織損傷を対象として、各軟部組織損傷発生時の診察から処置までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【授業目標】</p> <p>目標1：柔道整復学領域における軟部組織損傷の診察の流れを習得する。</p> <p>目標2：傷害部位や傷害の程度を知るための基本的な診察の流れと病態・傷害鑑別のための徒手検査法を習得する。</p> <p>目標3：身体の傷害部所および傷害の状況に応じた包帯法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 授業概要・オリエンテーション 診察手順について</p> <p>【到達目標】 診察手順である問診、視診、触診について実践できる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 オリエンテーションでは下記にの4項目について説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の構成</li> <li>2. 授業の目的・目標</li> <li>3. 授業の内容</li> <li>4. 成績・評価について説明する。</li> </ol> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>【予習および復習】 医療面接等の実施方法を確認する。</p> <p>2回目 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の整復について</p> <p>【到達目標】 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の診察および整復手順を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、鎖骨骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>3回目 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の固定について</p> <p>【到達目標】 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の固定方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、鎖骨骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第4講義 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復について</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨外科頸骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>第5講義 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）固定</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨外科頸骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>6回目 Colles 骨折（転位を有する骨折）整復</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、Colles 骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>7回目 Colles 骨折（転位を有する骨折）固定</p> <p>【到達目標】 Colles 骨折（転位を有する骨折）固定を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、Colles 骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>8回目 復習</p> <p>【到達目標】 1～7回目までの授業を復習し、理解を高める</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、今までの授業の振り返りをして復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>9回目 上腕骨骨幹部骨折の整復・固定</p> <p>【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨骨幹部骨折の整復方法について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>10回目 上腕骨骨幹部骨折三角筋附着部より遠位の固定</p> <p>【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折の固定の整復方法を実践することができる。</p>

	<p>11回目 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、上腕骨骨幹部骨折の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。 肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法～肩板損傷～</p> <p>第12講義 【到達目標】肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに肩板損傷について理解する。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肩腱板損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。 肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法～上腕二頭筋長頭腱(炎)損傷～</p> <p>第13講義 【到達目標】肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに上腕二頭筋長頭腱損傷について実践できる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、上腕二頭筋長頭腱(炎)損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。 総合復習1</p> <p>第14講義 【到達目標】第9～12回目までの授業で行った整復法・固定法、診察・徒手検査法を実践できる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。 総合復習2</p> <p>【到達目標】第1～12回目までの授業で行った整復法・固定法、診察・徒手検査法を実践できる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<p>整復学および整復学実習で習得した知識および技術を復習すること。また、シラバスの各回に記載されている【備考】を参照し、該当授業の外傷について教科書を熟読し理解しておくこと。 本科目受講に必要な予習・復習に必要な時間は各90分とする。</p>
<p>教科書</p>	<p>「柔道整復学・理論編 改訂第6版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）</p>
<p>参考書</p>	<p>「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂） 必要に応じて資料を配布する。</p>
<p>成績評価</p>	<p>1. 実技試験と口述を含めた実技および筆記による試験で評価する。 2. 合格基準はそれらの合計点数が60点以上の者とする。 3. 出席基準を満たした者に評価を行う。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名：石橋重良 研究室：8号館4F 非常勤講師室 メールアドレス：s_ishibashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p> <p>担当教員名：吉田勲生 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：isao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p>
<p>備考</p>	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目はスポーツ現場に赴きスポーツ外傷の応急処置の実際を見学する。また、スポーツ外傷・障害のためのケアを地域マラソン大会等の選手に行い、選手とコミュニケーションを取りながらケアの実践を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ外傷の応急処置の実践を理解することができる。</li> <li>・スポーツケアの方法を理解し、実践することができる。</li> <li>・スポーツ選手とコミュニケーションをとることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>実習概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹トライアスロン ケア実習 場所：南丹市八木町 運動公園 実習内容：大会参加選手へのケア（ストレッチ等）</li> <li>・丹羽ロードレース ケア実習 場所：丹羽自然公園 実習内容：大会参加選手へのケア（ストレッチ、大会前のウォーミングアップ指導）</li> <li>・亀岡マラソン大会 ケア実習 場所：亀岡運動公園 実習内容：大会参加選手へのケア（ストレッチ、大会前のウォーミングアップ指導）</li> <li>・兵庫県柔道大会 応急処置実習 場所：兵庫県 実習内容：大会での応急処置の補助 見学</li> <li>・奥伊吹スキー場 応急処置実習 場所：奥伊吹スキー場 実習内容：スキー場内 パトロール室横 応急処置の補助 見学</li> </ul> <p>全体オリエンテーションは4月の初旬に行い、各実習の1週間前にグループに分かれ実習前オリエンテーションを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習にて学んだ応急処置の方法やストレッチを復習しておくこと。
教科書	教科書指定なし
参考書	IDストレッチ：平野 幸伸（著），鈴木 敏和（著），鈴木 重行（編集） 三輪書店 ISBN-13: 978-4895902397
成績評価	実習内評価（50%）、実習レポート（50%）によって評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>岡田成賛 宮坂卓治 川村茂 吉田勲生 沖和久 田中健吾 棚原勝平 濱口夏花 児玉香菜絵</p> <p>実習担当窓口：棚原勝平 メールアドレス：s_tanahara@meiji-u.ac.jp</p> <p>質問等あれば、上記のメールアドレスまたはメリーにて連絡ください。</p>
備考	実習簿をよく読み、実習中の服装、注意点を確認するようしておくこと。
	DPとの関連 2-◎ 4-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期・前期	3・4	2	必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では学外実習として接骨院における実習、老人介護施設における実習を行う。また、本学附属病院でのリハビリテーション科での実習を行う。</p> <p>授業目標</p> <p>《接骨院実習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接骨院での業務を把握することができる。</li> <li>・患者と施術者の医療面接、施術の方法を理解することができる。</li> <li>・症例報告を行うことができる。</li> </ul> <p>《老人介護施設》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の介護予防プログラムを理解することができる。</li> <li>・機能訓練指導員として役割、業務を理解することができる。</li> <li>・高齢者施設で働く介護業務を理解することができる。</li> <li>・高齢者施設の利用者の状態を把握することができる。</li> </ul> <p>《附属病院リハビリテーション》</p> <p>外傷・障害におけるリハビリテーションの方法を理解することができる。 脳卒中・片麻痺患者のリハビリテーションの方法を理解することができる。 リハビリテーション業務を把握することができる。</p>
授業計画	<p>オリエンテーション・実習内容・実習先</p> <p>本科目での実習は、クラスごとに班編成を行い、日時を指定し所定の施設で行う。 実習先は本学と連携する接骨院、福祉施設、本学附属病院でリハビリテーションの実習を行う。 なお、詳細内容に関してはオリエンテーション時に説明を行う。</p> <p>オリエンテーション概要</p> <p>オリエンテーションでは実習簿、実習日程表、実習出席表、記録簿を配布する。 また、実習前教育として事前課題を提示し、グループで学習させ、知識の確認を行う。</p> <p>実習先一覧</p> <p>接骨院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒグチ接骨院</li> <li>・安養堂接骨院</li> <li>・馬路・服部接骨院</li> <li>・長尾接骨院</li> <li>・宮越鍼灸院・整骨院</li> <li>・かもがわ鍼灸整骨院</li> <li>・今井接骨院</li> <li>・中村接骨院</li> <li>・まりたに鍼灸整骨院</li> </ul> <p>・老人福祉施設 はぎの里</p> <p>明治国際医療大学付属病院 リハビリテーション科</p> <p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 携帯品       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 筆記用具（ボールペン、ノート等）のみとする。 ※ バッグ等は8号館の各自のロッカーに収納する。</li> <li>(2) 実習に必要なテキスト、参考書、プリント等</li> <li>(3) 実習簿は常に携帯する。</li> <li>(4) ネーム（病院内では必ず本学指定のネームをつける。）</li> </ol> </li> <li>2. 服装について 各実習先での指示に従い、服装を既定する。 時計以外のアクセサリは全て外すようにすること。</li> </ol>
授業時間外の学習（準備学習等）に	実習前オリエンテーションにて事前学習の課題を提示する。各自で実習要項に沿って学修すること。

ついて	
教科書	柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編改訂第6版
参考書	全国柔道整復学校協会監修 競技者のための外傷予防 医歯薬出版 ISBN: 978-4-263-24160-8 柔道整復師と機能訓練指導: 機能訓練指導員養成テキスト 南江堂 ISBN: 978-4-524-25759-1
成績評価	実習を既定の時間修了した者に対して評価を行う。 実習内評価(50%)、実習レポート(50%)によって評価を行う。
担当教員の基本情報	実習担当窓口: 棚原勝平 メールアドレス: s_tanahara@meiji-u.ac.jp  質問等あれば、上記のメールアドレスまたはメリーにて連絡ください。
備考	DPとの関連 2-◎ 4-○
	実習簿をよく読み、実習中の服装、注意点を確認するようにしておくこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	実技（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、健康運動実践指導者の資格取得を目標とする。エアロビックダンスは、若い人を中心に子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる健康づくり運動として人気である。エアロビックダンスの特性を理解した上で、エアロビックダンスの基本的な技術を習得し、リズムに乗って仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として実践を中心とした授業を展開する。また、グループ指導能力の修得を通し、人間性と教養を身につけ医療人に求められているコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。さらに、自身のからだを知り、健康に対して意識を高めることで健康維持と体力向上のための橋掛かりとなることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。  [授業形態] 講義と実習  エアロビックダンスとは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 エアロビックダンスの特性と効果  [到達目標] リズミカルな全身運動の構成ポイントについて理解し、課題運動ができるようになる。  [授業形態] 講義と実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 エアロビックダンスの基本姿勢と動作  [到達目標] エアロビックダンスの基本姿勢やテンポ、動作を習得できる。  [授業形態] 実習  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 基本：ローインパクト①  [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンができるようになる。  [授業形態] 実習  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 基本：ローインパクト②  [到達目標] 基本姿勢でウォームアップの目的と内容（ステップ名）の説明を習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 基本：ローインパクト③  [到達目標] メインエクササイズの目的、強度調整、プログラミングを習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 基本：ローインパクト④  [到達目標] 筋コンデショニングの目的、内容を習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 基本：ローインパクト⑤  [到達目標] クールダウンの目的、内容、プログラミングを習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 チームエアロビックダンス①  [到達目標] グループワーク練習で規定の課題運動ができる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 チームエアロビックダンス②  [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンのカンパニオン方法を習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 チームエアロビックダンス③  [到達目標] グループワークでルーティーン練習ができる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 応用：プログラム作成①  [到達目標] グループ練習でコンビネーション作成ができる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 応用：プログラム作成②  [到達目標] エアロビックダンスにおける心拍数とステップの関係を理解できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第14講 グループ指導</p>

	<p>[到達目標] (実習のまとめ)。 第1講～第13講を 総括した 実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>実習内容を事前学習し (予習35分)、実習で体得した内容を図解でまとめる (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	資料を集め、エアロビックダンスの要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。 プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」 (公財) 健康・体力づくり事業財団
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席 (欠席は2回まで可とする)。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度 (探究心の総合評価) 30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。
	② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-2。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
堀 歩未			
配当学科：保健医療学部 柔道 整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	サッカーの基礎技術を身につけ、戦術やルールを理解し、安全に配慮しながらゲームができることを目標とする。 実習前半では、基礎技術を身につけ共通の戦術理解をはかるため全体での練習を行う。 後半は、チームごとのグループワークにおいて、個人及びチームの技術・戦術を向上させる練習を考え、試合の中で実践していくこととする。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス，基本技術の確認①（ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン等の基礎的なボール操作・動作を理解し習得する。</p> <p>第2講 基本技術の確認②（キック、トラップ、ドリブル、ターン、パス） チーム編成、ルール設定・理解、試しのゲーム [到達目標] ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン等の基礎的なボール操作・動作を理解し習得する。 ルールを理解し、ゲームの中で基礎技術を発揮する。</p> <p>第3講 パス及びパスワーク、チーム練習 [到達目標] パスの技術とそれに伴う個人戦術を理解し習得する。</p> <p>第4講 攻撃の技術と戦術、チーム練習 [到達目標] 攻撃の戦術（ポゼッション、ダイレクトプレー、速攻と遅攻等）を理解する。 局面を打開する技術と戦術（ドリブル、スルーパス、ワンツー等）を理解する。</p> <p>第5講 守備の戦術、守備の技術、チーム練習 [到達目標] 守備の戦術（プレスとリトリート、トランジション等）を理解する。 守備の技術と戦術（マークの方法、ボールの奪い方等）を理解する。</p> <p>第6講 前期リーグ戦① [到達目標] チーム戦術を考え実践する。 チームの成果と課題を出し合い、課題解決の練習を考える。</p> <p>第7講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第8講 前期リーグ戦② [到達目標] チーム戦術を考え実践する。 チームの成果と課題を確認し、チームとしてのまとめをする。</p> <p>第9講 チーム再編成、ルール設定・理解 チーム練習、練習試合 [到達目標] チーム戦術を考え試合に向けての練習を行う。</p> <p>第10講 後期リーグ戦① [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第11講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第12講 後期リーグ戦② [到達目標] チーム戦術を考え試合の中で実践する。 チームの成果と課題を出し合い、課題解決の練習を考える。</p> <p>第13講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第14講 後期リーグ戦③、まとめ [到達目標] チーム戦術を考え試合の中で実践する。 チームの成果と課題を確認し、チームとしてのまとめをする。 授業の振り返り・まとめをする。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業終了後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前に予習を行うこと(予習30分)。また、実技で学修した内容をまとめてください(復習30分)。
教科書	指定しない。
参考書	指定しない。
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回まで可とする)。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度(探究心の総合評価)30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 堀 歩未 メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後に受け付ける
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームごとにグループワークを行い、実習カード(戦術・成果・課題等)を記入し提出する。</li> <li>・ケガ防止・安全管理の観点から、長い爪やピアス・指輪・ネックレス等の装飾品を着けての受講は認めない。</li> <li>また、肩より長い髪は束ねた上で参加すること。</li> <li>・運動に適した服装・屋内シューズを着用すること。</li> <li>・水筒(水分)等を持参し、適宜水分摂取する等の自己管理を行うこと。</li> </ul>
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_3J336スポーツ医学基礎_柔整. xlsx			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するための科目である。</p> <p><b>【授業目標】</b> スポーツ医・科学とトレーニング科学の基本的な考え方と理論体系を習得することを目的とする。スポーツ医・科学では、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピングを、トレーニング科学では、トレーニングの基本的な考え方・理論体系、体力・スキルのトレーニングの原理原則、トレーニング計画を習得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 （担当：吉田行宏）ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理 <b>【到達目標】</b> 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。 2. スポーツと健康について理解し説明できる。 3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策 <b>【到達目標】</b> アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策 <b>【到達目標】</b> 女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。 スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防 <b>【到達目標】</b> スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法 <b>【到達目標】</b> コンディショニングの手法について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置)</p>

	<p><b>【到達目標】</b> 救急蘇生法について理解し説明できる。 外科的応急処置について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P297-310までを熟読しておくこと。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論</p>
7回目	<p><b>【到達目標】</b> 1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。 2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。 3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせることでトレーニング方法を設定することができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】</b>(予習項目) スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。教科書熟読：p. 132-139。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-2、トレーニング計画論</p>
8回目	<p><b>【到達目標】</b> 4) トレーニングを数年間、1年間、数ヶ月、数週間、1週間、1日という長期から短期までの時間資源の中で計画できる。 5) 試合当日の行動を戦略的に行うことができる。 6) 一連のトレーニングサイクルが適切であったか、さらによりよくするためにはどうすべきかに関する測定・評価・診断(アセスメント)を行うことができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】</b>(予習項目) トレーニング計画論、トレーニングと休養のバランス、他。教科書熟読：p. 139-155。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-1、身体のしくみと働き、体力を構成する要素体系他</p>
9回目	<p><b>【到達目標】</b> 7) 体力を構成する要素について、身体のしくみと働きを踏まえて体系的に説明できる。 8) 各自が実践するスポーツ種目に必要な体力の種類とそのバランスについて説明できる。 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】</b>(予習項目) 身体のしくみと働き、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、体力構成要素 教科書熟読：p. 156-178。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-2、体力トレーニングの原理・原則、種類</p>
10回目	<p><b>【到達目標】</b> 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 10) 筋力・パワートレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 11) 持久力トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 12) 柔軟性トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 13) 体力トレーニング手段の組み合わせ方が説明できる。 14) トレーニングの目標と課題、具体的な手段、実践内容や方法について考えて計画し、説明が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】</b>(予習項目) 体力トレーニングの原理・原則、トレーニングの種類。教科書熟読：p. 176-191。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-1、スポーツ技術・技能、スキルトレーニングの特徴など</p>
11回目	<p><b>【到達目標】</b> 15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。 16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】</b>(予習項目) スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書熟読：p. 192-196。</p>

	<p>12回目 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-2、スキル向上のメカニズム・効果  <b>【到達目標】</b>  17) 技術的な習熟・発達には大きく3つの段階があり、上達の過程でプラトーやスランプなどの現象が見られることが説明できる。 3133  18) 技術トレーニングの方法、全習法（協調的全習法）と分習法、集中法と分散法、負荷軽減法（アシステッド法）と超過負荷法（レジステッド法）、イメージトレーニング法などについて説明できる。 3134  19) 技術トレーニングの方法の実施する順序や組み合わせによる効果の違いが説明できる。 3135  20) トレーニングの心理面、技術面、体力面はそれぞれ独立したのではなく、相互に規定し合い、密接に関連し補完し合う関係にあることが説明できる。 3136  21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。  <b>【備考】</b>（予習項目）  スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p. 196-197。</p> <p>13回目 (担当：吉田行宏) アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割  <b>【到達目標】</b>  アンチドーピングについて理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p> <p>14回目 (担当：ゲストスピーカー) アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割  <b>【到達目標】</b>  アンチドーピングについて理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  アンチ・ドーピングに関わる専門家をゲストスピーカーとし、その現状について授業を行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・ 配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	トレーニングの科学（齊藤担当） 「トレーニング科学 最新エビデンス」 安部 孝編（講談社サイエンティフィク） 「スポーツでのばす健康寿命」 深代千之、安部孝編（東京大学出版会）
成績評価	出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。 ①合格点：各回の講義終了後に実施する小テスト(100点法)を集計して評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点が80点以上を優、70点～79点を良、60～69点を可とする。 ③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 13:50-16:40  担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間（要予約）。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。
備考	実務経験； 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。
	アクティブラーニング； 小テストのフィードバック及び授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
	ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択必修
担当教員			
吉田 行宏、斉藤 昌久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツ医学応用は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。また、今後開設される、健康とスポーツに関連する科目を理解するための基礎知識を習得する。</p> <p>特に、本科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p>
授業計画	<p>1回目 1. ガイダンス 2. 他者力を磨こう(1)  <b>【到達目標】</b> 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を知る。  2. 対他者力について理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>2回目 他者力を磨こう(2)  <b>【到達目標】</b> 対他者力について理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>3回目 スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス-  <b>【到達目標】</b> スポーツに関するガバナンスとコンプライアンスについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>4回目 1. スポーツ仲裁 2. スポーツ倫理  <b>【到達目標】</b> 1. スポーツに関する紛争とその仲裁について理解し、説明ができる。  2. スポーツに関する倫理について理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>5回目 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系(1)  <b>【到達目標】</b> スポーツにおけるトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>6回目 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系(2)  <b>【到達目標】</b> スポーツにおけるトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>7回目 体力のトレーニング(1)  <b>【到達目標】</b> 体力トレーニングに関する体の構造と機能について理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>8回目 体力のトレーニング(2)  <b>【到達目標】</b> 体力のトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>  テキストを読んで予習する。  特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。  小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p>

	<p>9回目 スキルトレーニング  <b>【到達目標】</b> スキルトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>10回目 心のトレーニング(1)  <b>【到達目標】</b> 心のトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>11回目 心のトレーニング(2)  <b>【到達目標】</b> 心のトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>12回目 コーチング環境の特徴  <b>【到達目標】</b> コーチングの環境について理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>13回目 スポーツ組織のマネジメント  <b>【到達目標】</b> スポーツ組織のマネジメントについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>14回目 障がい者とスポーツ  <b>【到達目標】</b> 障がい者とスポーツについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。</li> <li>・2021年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世間でのスポーツにおける関心がますます高まる。スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。</li> </ul>
教科書	「リファレンスブック」 (財)日本スポーツ協会編 (財)日本スポーツ協会)
参考書	特記無し
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席基準(3/5)を満たした者に単位を認める。</li> <li>・成績評価は講義ごとに実施する課題や小テストの内容に提出期限を加味し、総合的に評価(優、良、可、不可)とする。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏          経歴 : はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、鍼灸臨床歴19年、教員歴10年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。          研究室 : 附属鍼灸センター2F 教員室          メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 月曜日 13:50-16:40</p> <p>担当教員名 : 神内伸晃          研究室 : 6号館4F教員室          メールアドレス : n_jinnai@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 水曜日 18:00-19:00</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純          研究室 : 附属病院2F教授室          メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 齊藤昌久          研究室 : 6号館4F教員室          メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー :</p> <p>教員名 : 棚原勝平          メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー :</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連

	①知識・理解-○ ③関心・意欲-○

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）が言った言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する理解を深めるとともにその分野における実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第2講	体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。 予習：スポーツにおけるパワーの定義を調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第3講	トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。 予習：トレーニングの原理・原則を調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第4講	ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。 予習：ウォーミングアップ・クーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第5講	トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。 予習：体力要素別トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第6講	全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。 予習：全身持久力・酸素摂取能力・呼吸循環器・代謝能力について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第7講	筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。 予習：筋持久力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第8講	柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。 予習：柔軟性について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第9講	筋力トレーニング（目的別強度の目安） [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。 予習：筋力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第10講	筋力トレーニング（正しいトレーニングを実施するための負荷設定） [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。 予習：筋力トレーニング・負荷設定について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第11講	筋力トレーニング（効果的に行うための順序） [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。 予習：筋力トレーニングの順序について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第12講	トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標]	

	<p>第13講</p> <p>目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;①&gt;  予習: トレーニングプログラムについて調べておく。(35分)  復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)  トレーニングプログラムを作成するための要点②</p> <p>[到達目標]</p> <p>第14講</p> <p>目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;②&gt;  予習: トレーニングプログラムについて調べておく。(35分)  復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)  トレーニングプログラムを作成するための要点③</p> <p>[到達目標]</p> <p>目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;③&gt;  予習: トレーニングプログラムについて調べておく。(35分)  復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	授業態度50% 小テスト30% 授業の貢献度20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	DP「◎-1」「○-2」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	トレーニング論で学んだ科学的な理論と方法論をスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じたトレーニングを体験するとともにトレーニング計画を立案し、実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	ウォーミングアップとクーリングダウン① [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践。 予習：ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第2講	ウォーミングアップとクーリングダウン② [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践。 予習：ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第3講	各種トレーニングのための動き作り① [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 予習：主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第4講	各種トレーニングのための動き作り② [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 予習：主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第5講	柔軟性を高めるためのトレーニング [到達目標] 関節の可動域を広げる各種ストレッチの理解と実践。 予習：柔軟性を高めるトレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第6講	調整力を高めるためのトレーニング [到達目標] バランス感覚向上のためのトレーニングの理解と実践。 予習：バランス感覚向上のためのトレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第7講	全身持久力トレーニング [到達目標] 全身持久力トレーニングの実践。 予習：全身持久力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第8講	筋持久力トレーニング [到達目標] 筋持久力トレーニングの実践。 予習：筋持久力トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第9講	トレーニングルームの安全な使用法 [到達目標] トレーニング機器の安全管理および使用法について。 予習：トレーニング機器の安全管理および使用法について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第10講	トレーニングプログラムの立案と実践① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 予習：トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第11講	トレーニングプログラムの立案と実践② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 予習：トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第12講	トレーニングプログラムの立案と実践③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。	

	<p>予習: トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分)  復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)  トレーニングプログラムの立案と実践④</p> <p>[到達目標]  目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。  目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。</p> <p>予習: トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分)  復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)  トレーニングプログラムの立案と実践⑤</p> <p>[到達目標]  目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。  目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。  予習: トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分)  復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料により実施。
参考書	特に指定はなし。
成績評価	成績評価は、出席点を重視し、また、授業態度等を参考とした総合評価とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	DP「◎-2」「○-5」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標] 「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識させる。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標] 健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解する。 予習：それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解する。 予習：「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標] 体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解させる。 予習：「体力」区分とトレーニング法を整理しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標] マシントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解する。 予習：「自分流トレーニング法」を作成しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標] 体調のチェックの重要性・意義を理解する。 予習：体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標] 準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解する。 予習：フィットネス・エクササイズについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜子供1＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜子供2＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜中年＞＜高齢者1＞ 予習：中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜高齢者2＞＜女性1＞ 予習：女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜女性2＞＜障がい者＞ 予習：障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	

	<p>13回目      スポーツ相談の実際 [到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解する。 予習:スポーツ相談の留意事項を調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p> <p>14回目      体力測定と評価 [到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知る。 予習:体力測定結果の処理方法を調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学    ・運動生理学    ・身体運動学
教科書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ・Ⅱ） 宮下 充正 著；年齢に応じた運動のすすめくわかりやすい身体運動の科学＞
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名        : 三浦 重則（非常勤講師） オフィスアワー    : 講義終了後
備考	柔整:DP:「◎-2」 「○-1」 救急:DP:「◎-1」 「○-2-5」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習（対面／遠隔）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 本科目は大学の専任教員が行っている研究を基に卒業研究テーマを検討し、研究とは何か、論文とは何かということ学ぶ。</p> <p><b>【授業目標】</b> 卒業研究 I では「論文の調べ方」、「研究とは」ということを学び、調査・研究を行う上での予備研究を行うことを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1～10回 研究とは何か学ぼう</p> <p>概要 研究とは何か、過去の卒業論文や指導教員から配布された課題論文を読み、研究についての理解を深める。 テーマを指導教員の下でディスカッションを行い、決定する。研究倫理について学び、必ず、e-ラーニングによる倫理講習を受講すること</p> <p>目標 研究テーマを教員とディスカッションしながら決めることができる。 研究倫理を理解することができる</p> <p>第11～20回 論文とは何か学ぼう</p> <p>概要 論文の検索方法を学び、論文の読み方を学ぶ。</p> <p>目標 論文の検索方法を知り、インターネットで検索することができる。 論文の内容を正確に読むことができる。 論文を通して仮説検証の方法について理解することができる。</p> <p>第21～28回 研究準備をしよう</p> <p>概要 卒業研究テーマに基づいて、研究実施計画を作成する。また、研究機器、備品を準備し使用方法を学ぶ。調査研究ではアンケート等の作成を行う。</p> <p>目標 研究実施計画書を作成することができる。 研究機器や測定機器を安全に使用することができる。 調査研究ではアンケートを作成することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各ゼミで出された課題や論文についてまとめ、次のゼミまでに準備する。おおむね90分の学習時間を要する課題を与える。
教科書	教科書指定なし
参考書	論文・レポートの基本 著者：石黒圭・日本実業出版社・ ISBN: 4534049277 新版 論文の教室 レポートから卒論まで 著者：戸田山 和久 NHK出版 ISBN-13: 978-4140911945 ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方 著者：石井一成 ナツメ社 ISBN-13: 978-4816350573
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。各指導教員によって学習到達度を加味して評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員：岡田成賛 オフィスアワー：質問がある場合は事前にメールにて連絡をください。</p> <p>ゼミ担当教員：松本和久、宮坂卓治、斎藤昌久、池内隆治、林知也、川村茂、木村篤史 渡邊康晴、吉田勲生、田中健吾、</p>
備考	

講義科目名称： キャリア教育

授業コード： 3J401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲・西口 和孝			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
今西 二郎			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：遠隔授業（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。さらに、看護における統合医療の必要性についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること</li> <li>2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること</li> <li>3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること</li> <li>4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること</li> <li>5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること</li> </ol>
授業計画	<p>1回目 統合医療と補完・代替医療 [到達目標] 統合医療とは何かを理解し、その構成要素である補完・代替医療を理解し、概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 1-101</p> <p>2回目 漢方医学 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。さらに生薬と漢方方剤を理解する。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 6-13 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>3回目 サプリメント [到達目標] サプリメント、特定保健食品、栄養機能食品、機能性表示食品を理解し、サプリメントの有用性、副作用など概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 18-21</p> <p>4回目 植物療法 [到達目標] メディカル・アロマセラピーおよびハーブ療法を含む植物療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 27-29、38-40</p> <p>5回目 温泉療法 [到達目標] 温泉療法、温浴療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 43-48</p> <p>6回目 環境を利用した統合医療 [到達目標] 環境を利用した統合医療である森林療法、地形療法、スパセラピー、タラソセラピーなどを理解できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト）p. 48-54</p> <p>7回目 次世代型および健康創生型統合医療 7回目： [到達目標] 統合医療の将来、現行型、次世代型、健康創生型統合医療について概説できるようにする。また、統合医療についての受講者の考え方をまとめる [備考] 統合医療（テキスト）p. 108-133</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。</p>

教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015.
参考書	1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 今西二郎 研究室 : メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー :
備考	毎回、課題を与え、学生にそれについてのプレゼンテーションを行ってもらいなどのアクティブラーニングにより、講義内容の深化を図る。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-5, ○-2・4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択必修
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護の本質と看護活動の実際を学ぶ 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概要と概念構造について学習し「看護学」に対する基礎的知識を得る</p> <p>【到達目標】 看護学の基礎概念である人間、環境、健康、看護の概念と、看護援助の本質について理解できる 医療専門職としての看護の役割と看護活動の実際が理解できる 医療専門職との協働の仕方について考察を深めることができる</p>
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション [到達目標] ・救急救命学科にあつて看護学概論を学ぶ意義がわかる ・DVD「九死に一生」の視聴を通して、医療チームとしての医師・看護師・救急救命士等の役割を理解する [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>2回目 看護の本質 [到達目標] ・マーガレット・ミードの論文の読み合わせとディスカッションに参加することができる ・看護とは何か、看護の本質について考えることができる [授業形態] 講義形式+読み合わせ+ディスカッション</p> <p>3回目 看護の変遷（日本の看護・アメリカの看護） [到達目標] ・看護の歴史的発展過程と社会背景との関連がわかる ・看護を歴史・教育・制度の側面から理解することができる [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>4回目 変化している看護 [到達目標] ・疾患中心からヘルスプロモーションへ、施設内看護から地域基盤の看護へと変化する看護と、継続の必要性が分かる ・ノーマライゼーションの理念を理解することができる [授業形態] 講義形式</p> <p>5回目 看護実践の概念 [到達目標] ・F. ナイチンゲールと、V. ヘンダーソンについて知り、看護実践の概念が理解できる ・看護実践における看護技術の特徴を理解する ・看護技術における安全性・安楽性・自立支援を理解する [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>6回目 看護の機能と役割 [到達目標] ・F. ナイチンゲールと、V. ヘンダーソンについて知り、看護実践の概念が理解できる ・看護実践における看護技術の特徴を理解する ・看護技術における安全性・安楽性・自立支援を理解する [授業形態] 講義形式+映像視聴</p> <p>7回目 看護実践を支えるもの [到達目標] ・看護にかかわる制度・行政・労働環境の概要を理解する ・看護の教育・技能・組織など専門職としての要件の概要を理解する [授業形態] 講義形式</p> <p>8回目 チーム医療と看護 [到達目標] ・チーム医療の目的・意義を検討し、看護職の役割を理解する ・多職種専門職者の中でパートナーシップの関係を構築し活動を展開する連携・協同の意義を理解する [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>9回目 国際社会と健康 [到達目標] ・世界的なAIDS/HIV拡大の現状と看護の役割（スタンダードプリコーション成立）の関連を知ることができる ・わが国のAIDS医療体制（薬害エイズ、保障、サポート体制など）性感染症（B型肝炎含む）の現状がわかる ・エイズ・性感染症を予防するための予防教育の必要性が理解できる ・看護の活動範囲の広がりについて理解できる [授業形態] 講義形式（パワーポイント）+グループワーク</p> <p>10回目 看護の対象</p>

	<p>[到達目標] ・映画「折り梅」観賞を通して、看護の対象である個人・家族関係・社会資源について考えることができる [授業形態] 映像視聴+グループワーク 個人・家族・地域</p> <p>11回目</p> <p>[到達目標] ・総合体としての人間についての理解ができる ・健康とウェルネス、健康の概念について理解することができる ・家族とその機能について知り、家庭の価値について理解することができる ・地域を基盤に展開される看護について学ぶことができる [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>12回目</p> <p>看護実践の心理・社会的理解 [到達目標] ・自己と他者（看護ケアの質は看護する者の質や人間性に大きく左右される）について学ぶことができる ・ストレス/コーピング・ストレスマネジメント・ソーシャルサポートについて理解できる ・医療の現場におけるスピリチュアリティ、看護師の死生観について考えることができる [授業形態] 講義形式+ディスカッション</p> <p>13回目</p> <p>看護における倫理・法律 [到達目標] ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる ・保健師助産師看護師法について理解し、看護における役割を考えることができる [授業形態] 講義形式</p> <p>14回目</p> <p>医療安全 [到達目標] ・看護の責任と医療安全について考えることができる [授業形態] 講義形式+グループワーク</p> <p>15回目</p> <p>終講筆記試験 [到達目標] ・講義全体のまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる [授業形態] 筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	「看護学原論 改訂第3版」南江堂
参考書	1) 「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 2) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社 3) 「新版・看護の本質」現代社
成績評価	1) 授業への出席が全体の3/5以上であること 2) 筆記試験70%, 授業への参加度10%, レポート提出の内容20%を踏まえて評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 實江子 研究室 : 10号館 7階 706研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後に相談すること
備考	①京大病院の循環器内科勤務と市中病院の訪問看護ステーション勤務。その実務経験と25年間の看護教育経験をもとに看護学概論の授業を行う ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-2, ○-1, ○-3」

講義科目名称： 運動器外傷保存療法学総論

授業コード： 3J404

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： 総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した柔道整復学と現代医学系臨床科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～2回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第3～4回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」の内容に関する知識も確認する。</p> <p>第5～6回 柔道整復学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、柔道整復学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第7～8回 一般臨床医学の応用的知識の習得 到達目標：柔道整復師に必要な一般臨床医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第9～10回 外科学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、外科学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第11～12回 整形外科の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、整形外科の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第13回 リハビリテーション医学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、リハビリテーション医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第14回 理解度チェック</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習65分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習65分）
教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社） 「柔道整復師イエロー・ノート 臨床編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
参考書	「2020 第18回～第27回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）一〇七月頃刊行予定
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 前期は課題に対するレポートと小テスト（20%）、及び期末試験（80%）で評価する。</p> <p>(3) 後期は実力試験と期末試験の両方で評価する。実力試験受験に際しては、別途指示する基準を超えることを条件とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：○岡田成賛 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：木曜日 17：00～18：00</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、岡田が調整する。</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学、生理学、病理学を中心に演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：解剖学、生理学、病理学の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できるとともに、「臨床系総合演習」の内容とのリンクができること。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～10回 解剖学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の構造学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第11～20回 生理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第21～29回 病理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、病理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができ、「臨床系総合演習」の内容とリンクできるようにする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習65分) 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。(復習65分)
教科書	解剖学改訂第2版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24155-4 生理学改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-24029-6 病理学概論改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24158-5 ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6 イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2
参考書	「2021 第19回～第28回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」(学)明治東洋医学院編集委員会編集(医道の日本社)
成績評価	(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：沖 和久 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：水曜日 17:00～18:00</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、沖が調整する。</p>
備考	

講義科目名称： 基礎系総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学、生理学を中心とした基礎医学系科目と関係法規について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：基礎医学系科目と関係法規の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できるとともに、「臨床系総合演習」の内容とのリンクができること。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～5回 解剖学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の構造学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第6～10回 生理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第11～14回 病理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第15回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、「臨床系総合演習」の内容とどの程度リンクできているか確認する。</p> <p>第16～18回 解剖学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、解剖学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 生理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、生理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 病理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、病理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 運動学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、運動学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26, 27回 衛生学・公衆衛生学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、衛生学・公衆衛生学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第28, 29回 関係法規の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、関係法規の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができ、「臨床系総合演習」の内容とリンクできるようにする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習65分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習65分）
教科書	<p>解剖学改訂第2版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24155-4</p> <p>生理学改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-24029-6</p> <p>病理学概論改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24158-5</p> <p>運動学改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24157-8</p> <p>衛生学・公衆衛生学改訂第6版 南江堂 ISBN:978-4-524-26198-7</p> <p>関係法規 2021年版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24164-6</p> <p>ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6</p> <p>イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2</p>
参考書	「2021 第19回～第28回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。</p>

<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 沖 和久  研究室 : 8号館4階教授室  オフィスアワー : 水曜日 17:00~18:00</p> <p>オムニバス担当教員名 :  専門基礎, 専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので, 各先生方については, 授業終了後に質問すること。  なお, 他の時間が必要な場合は, 沖が調整する。</p>
<p>備考</p>	

講義科目名称： 傷害鑑別診断学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
並川 一利			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： 後療法技術学演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
奥田 正作			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	骨折・脱臼・打撲・捻挫における後療法の知識および技術を習得することを目的とする。		
授業計画	第1講	手技療法について 〔 授業概要 〕 手技療法における歴史的経緯について教授する。 〔 到達目標 〕 伝統医学である柔道整復における手技療法がどのような経緯で現在に至るのが説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 授業において提示された文献に目を通し、伝統医学の歴史的意味を復習する（180分）。	
	第2講	後療法の目的 〔 授業概要 〕 後療法の目的について教授する。 〔 到達目標 〕 後療法の目的について説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） ICF、機能障害と能力低下に関して復習する（180分）。	
	第3講	骨折の後療法 〔 授業概要 〕 骨折の後療法について教授する。 〔 到達目標 〕 骨折の分類とそれぞれに対する後療法について説明ができる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 運動学習のメカニズムについて復習しておく（180分）。	
	第4講	軟部組織損傷の後療法 〔 授業概要 〕 軟部組織損傷の後療法について教授する。 〔 到達目標 〕 軟部組織損傷の後療法について説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 筋、腱、神経、血管、皮膚それぞれの損傷に対する後療法を整理する（180分）。	
	第5講	物理療法 〔 授業概要 〕 物理療法について教授する。 〔 到達目標 〕 物理療法の適応と禁忌、それぞれの器機の使用方法が説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 物理療法の適応と禁忌を整理する（180分）。	
	第6講	基本的運動療法 〔 授業概要 〕 基本的運動療法について教授する。 〔 到達目標 〕 基本的運動療法について説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 基本的運動療法の目的・方法を復習する（180分）。	
	第7講	アスレチックトレーナーについて 〔 授業概要 〕 アスレチックトレーナーについて教授する。 〔 到達目標 〕 アスレチックトレーナーについて説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 欧米におけるアスレチックトレーナーと、競技者－医療者－コーチの関係を図示し解説を加えてまとめる（180分）。	
	第8講	痛みについて 〔 授業概要 〕 痛みについて教授する。 〔 到達目標 〕 痛みの内側系と外側系について説明できる。 〔備考〕（授業時間外学習の指示） 疼痛感作、体性機能不全についてまとめておく（180分）。	
	第9講	関節モビライゼーション 〔 授業概要 〕 関節モビライゼーションについて教授する。 〔 到達目標 〕 関節モビライゼーションについて説明できる。	

	<p>第10講</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 凹凸の法則、closed pack positionについてまとめておく (180分)。 PNFについて [ 授業概要 ] PNFについて教授する。 [ 到達目標 ] PNFについて説明できる。 [備考] (授業時間外学習の指示) 基本的な対角回旋運動を記憶し、復習する (180分)。</p> <p>第11講</p> <p>DYJOCについて [ 授業概要 ] DYJOCについて教授する。 [ 到達目標 ] DYJOCについて説明できる。 [備考] (授業時間外学習の指示) DYJOC理論の矛盾点についてまとめておく (180分)。</p> <p>第12講</p> <p>認知運動療法について [ 授業概要 ] 認知運動療法について教授する。 [ 到達目標 ] 認知運動療法について説明できる。 [備考] (授業時間外学習の指示) 脳の学習のメカニズムについてまとめ、DYJOCとの違いを整理しておく (180分)。</p> <p>第13講</p> <p>伝統的治療法について [ 授業概要 ] 伝統的治療法について教授する。 [ 到達目標 ] 伝統的治療法について説明できる。 [備考] (授業時間外学習の指示) 伝統的治療法の歴史的背景をまとめておく (180分)。</p> <p>第14講</p> <p>後療法の実際 [ 授業概要 ] 後療法の実際について教授する。 [ 到達目標 ] 後療法の実際について説明できる。 [備考] (授業時間外学習の指示) 後療法の実際の手順を整理してまとめておく (180分)。</p> <p>第15講</p> <p>まとめ 演習全体を通じて理解が不十分であった部分を再度教授する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義範囲について事前に教科書を熟読しておくこと。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	出席状況と授業中の態度 (50%)、講義直後の提出物 (50%) により総合評価する。
担当教員の基本情報	オフィスアワー : 講義日程が決まり次第、講義にて連絡する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
川村 茂			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	運動器疾患の画像診断としては、単純X線写真が広く普及している。詳細な画像診断にはCT、MRIが用いられている。しかしながら、機器の価格、検査料ともに高額であり、検査の待ち時間の長さや被曝の問題から短期間での繰り返し検査ができないのが現状である。近年、著しい技術開発により超音波画像診断装置がデジタル化され、高周波プローブが出現したことによって、CT、MRIを上回る高分解能画像が簡便に得られるようになってきた。さらに、本機器の特徴であるリアルタイム性を応用することで、運動器の損傷状態、動態、血流、組織弾性の評価が可能となってきた。本講では、柔道整復領域に普及しつつある超音波画像診断の有用性について、他の画像（単純X線画像、MRI画像など）と対比しながら教授する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  [ 授業概要 ]  様々な外傷・障害を想定した関節評価法、エコー観察、徒手検査法、整復法、指導管理など実際の臨床現場で役立つ知識・技能を総合的に学習する。また、運動器外傷・障害のエコー画像について読影ポイントの学習を交え、より実践的な診察・治療技術の向上を目的とする。  [ 到達目標 ]  授業の概要について理解し実践できる。  シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第2回 アクティブラーニング：有  肩関節の画像観察法（1）  [ 授業概要 ]  肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第3回 アクティブラーニング：有  肩関節の画像観察法（2）  [ 授業概要 ]  肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。肩関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  肩関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 結節間溝  ・ 長頭腱  ・ 大結節  ・ 小結節  ・ 肩甲下筋（肩関節を外旋して描出）  ・ 棘上筋腱板  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第4回 アクティブラーニング：有  肘関節の画像観察法（1）  [ 授業概要 ]  肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第5回 アクティブラーニング：有  肘関節の画像観察法（2）  [ 授業概要 ]  肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明</p>

第6回	<p>する。肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 橈骨頭（前腕回内・回外して描出）  ・ 上腕骨小頭（前面・後面アプローチ）  ・ 内側側副靭帯（前斜走靭帯）  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p> <p>肘関節の画像観察法 (1)  [ 授業概要 ]  肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
第7回	<p>肘関節の画像観察法 (2)  [ 授業概要 ]  肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 内側半月板（肘関節を屈曲・伸展して後方から描出）  ・ 膝蓋骨  ・ 膝蓋腱  ・ 脛骨粗面  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
第8回	<p>足関節の画像観察法 (1)  [ 授業概要 ]  足関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  足関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
第9回	<p>足関節の画像観察法 (2)  [ 授業概要 ]  足関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。足関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  足関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  足関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 前距腓靭帯（ATFL）前方に引き出ししながら描出  ・ 腓骨下端  ・ 脛骨下端  ・ 二分靭帯（第4趾を長軸方向にたどり踵骨前方突起を描出）  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
第10回	<p>手指・手関節の画像観察法 (1)  [ 授業概要 ]  手関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  手関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
第11回	<p>手指・手関節の画像観察法 (2)  [ 授業概要 ]</p>

	<p>手関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。手関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>手関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。</p> <p>手関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。</p> <p>[ 主な描出箇所 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各手根骨</li> <li>・ 各手指の関節部</li> <li>・ 橈骨（長軸）</li> <li>・ 橈骨（短軸・リスター結節と長母指伸筋腱）</li> <li>・ 手の舟状骨（手関節部橈側から尺屈させながら描出）</li> <li>・ 伸筋腱の第1区画（de Quervain's病と関連）</li> </ul> <p>[ 時間外学修の指示 ]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
第12回	<p>体幹・脊柱の画像観察法 (1)</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>体幹・脊柱に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>体幹・脊柱関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。</p> <p>[ 時間外学修の指示 ]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
第13回	<p>体幹・脊柱の画像観察法 (2)</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>体幹・脊柱に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。手関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>体幹・脊柱のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。</p> <p>体幹・脊柱のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。</p> <p>[ 主な描出箇所 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肋骨</li> <li>・ 胸骨</li> <li>・ 脊柱棘突起</li> <li>・ 脊柱起立筋</li> </ul> <p>[ 時間外学修の指示 ]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
第14回	<p>まとめ・総合復習 レポート作成の要点を指導</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>いままで講義した内容の総括</p> <p>肩関節部、肘関節部、膝関節部、足関節部、手指・手関節部、体幹・脊柱部に関するエコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を総括・復習する。各部のエコー描出・観察ルーティンを総括・復習する。レポートの作成要点に関して説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>肩関節部、肘関節部、膝関節部、足関節部、手指・手関節部、体幹・脊柱部のエコー描出・観察ルーティンの要点を理解・実践できる。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>参考資料などを使用して、事前に与えられたテーマについて予習すること。</p> <p>予習・復習ノートを作成して学習した事項を管理すること。</p> <p>ノートの提出義務はありません。</p>
教科書	<p>柔道整復学・理論編 改訂第6版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂</p>
参考書	<p>運動器のエコー観察症例集 著者：中村辰三、増田雅保、川村 茂 医歯薬出版</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。</p> <p>レポート課題での評価 = 100%</p> <p>授業中に教授した実習内容に関し、それをまとめて卒後も臨床上役立つ資料として完成させる。</p> <p>レポート作成の素材として画像が必要な場合には、授業中に写真撮影して、そのデータを使用してもよい。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 川村 茂</p> <p>研究室 : 8号館 4F 講師室</p> <p>メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	<p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること。</p> <p>ノートの提出義務はありませんが、チェックや指導を行う場合があります。</p>
	<p>本科目におけるDPの位置づけ</p> <p>◎思考・判断 - ○</p>

講義科目名称： 伝承整復術演習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	本授業は柔道整復術における伝統的な技法である整復法、固定法、後療法について学び、技術の応用力を養うことを目的とする。
授業計画	<p>第1-2講義 泥湿布の作成 【到達目標】 柔道整復師が昔から使用している泥湿布を作成し、各部位に湿布を貼付し、市販の湿布と違いを体験する。シップの作成方法を理解し、シップの効果を理解することを目的とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第3-4講義 すだれ副子の作成 【到達目標】 柔道整復師が昔から使用していたすだれ副子を作成しすだれ副木の使用方法を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第5-6講義 テーピング療法 【到達目標】 柔道整復師やスポーツトレーナーが臨床・スポーツ現場で使用しているキネシオテープの使用方法、効果注意点を学び、テーピングの使用方法を理解することを目的とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第7-8講義 厚紙副子の各種使用方法 【到達目標】 厚紙を副子を用いた各部位への使い方を学び、正しく固定時に装着できるようになることを目標とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第9-10講義 コーレス骨折の整復法と固定方法1 【到達目標】 柔道整復師が昔から行っているコーレス骨折の整復方法と固定方法について学び、整復と固定の基礎ができることを目標とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第11-12講義 鎖骨骨折の整復と固定 【到達目標】 伝統的な鎖骨骨折の整復方法を学び、その後リング固定についての方法を学ぶ。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第13-14講義 柔道整復における手技療法 【到達目標】 柔道整復師が昔からおこなってきた手技療法や世界で行われている手技療法を学び、手技療法の基本的な考え方や方法を学び、じっせんできることを目標とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内に課題を出すため、その課題に沿って復習を行う。
教科書	授業内にプリントを配布するため教科書指定はしない。
参考書	参考書の指定なし
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。レポート課題（100%）によって総合評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワー：授業終了後1時間 場所：8号館4F講師室または非常勤講師室
備考	長尾敦彦：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 ディプロマポリシーとの関連「③-⑤」、

講義科目名称： 臨床セミナー

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
吉田 勲生			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、臨床現場で柔道整復師またはスポーツトレーナーとして活躍している方を招き、教員が行っている柔道整復における施術のひとつである整復、固定方法について教授する。また、スポーツ現場で実践的に効果の高いトレーニング方法や身体ケアの方法を教授する。</p> <p>本科目では、臨床現場で大切な知識や学びとは何かを把握し、1～3年次で学んだ内容から発展させた知識を得ることを目的とする。</p> <p>本科目では講義の中で小グループにわかれ、アクティブラーニングを主体とした学びを展開する。各授業では教員からの課題や質問を自ら考え、グループ内でワークを行う。</p>
授業計画	<p>第1-2講義 外傷予防のためのトレーニング：担当東田 本授業では外傷予防の重要性を理解し、スポーツ選手に実際に行っているトレーニング方法を教授する。 【到達目標】 外傷予防プログラムの知識を理解できる。 外傷予防のトレーニング方法を行うことができる。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。 【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p> <p>第3-4講義 整形外科：担当永田 本授業では外傷予防の重要性を理解し、整形外科に関する内容を教授する。 【到達目標】 整形外科に関する内容を理解できる。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。 【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p> <p>第5-6講義 腰痛の診断と治療：担当三好 本授業では外傷予防の重要性を理解する。 【到達目標】 外傷予防プログラムの知識を理解できる。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。 【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p> <p>第7-8講義 外傷予防のためのトレーニング：担当袖野 接骨院やスポーツ選手に実際に行っている姿勢改善トレーニングを教授する。 【到達目標】 異常姿勢について理解できる。 姿勢改善のトレーニング方法を行うことができる。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。 【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内で学んだ内容をおおむね60分ほど復習し、レポート課題作成時間にあてる。
教科書	授業内の配布プリントを使用する。
参考書	柔道整復理論第6版
成績評価	各授業内容において得られた知識をまとめ、レポートとして提出する。

	評価は出席率を満たした者に対して評価を行い、レポートにより評価（100%）を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田勲生 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の18:30~19:30  担当教員名 : 永田裕人 三好雄二 袖野建 東田孝昭 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後の1時間
備考	ディプロマポリシーとの関連 : 「③-②」 「④-①」

講義科目名称： 臨床系総合演習 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：既に学習した柔道整復学について演習を通して理解を深める。 到達目標：柔道整復学の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～29回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができるとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」で学んだ内容についても説明することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習65分) 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。(復習65分)
教科書	<p>柔道整復学・実技編改訂第2版 南江堂 ISBN:978-4-524-25034-9 柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂 ISBN:978-4-524-25943-4 ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6 イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2</p>
参考書	「2021 第19回～第28回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」(学) 明治東洋医学院編集委員会編集(医道の日本社)
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。 (2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 17:00～18:00</p> <p>オムニバス担当教員名 : 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、沖が調整する。</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2</p>

講義科目名称： 臨床系総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
沖 和久			
配当学科：柔道整復学科	時間数：60時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した柔道整復学と現代医学系臨床科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～15回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第16回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」の内容に関する知識も確認する。</p> <p>第17～19回 一般臨床医学の応用的知識の習得 到達目標：柔道整復師に必要な一般臨床医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 外科学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、外科学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 整形外科の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、整形外科の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 リハビリテーション医学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、リハビリテーション医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26～29回 柔道整復学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、柔道整復学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 まとめ 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができるのと同時に、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」で学んだ内容についても説明することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習65分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習65分）
教科書	<p>柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂 ISBN:978-4-524-25943-4</p> <p>柔道整復学・実技編改訂第2版 南江堂 ISBN:978-4-524-25034-9</p> <p>一般臨床医学改訂第3版 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-24159-2</p> <p>リハビリテーション医学改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-24123-1</p> <p>外科学概論改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-26475-9</p> <p>整形外科改訂第4版 南江堂 ISBN:978-4-524-25944-1</p> <p>ブルー・ノート 基礎編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1459-6</p> <p>イエロー・ノート 臨床編 メジカルビュー社 ISBN:978-4-7583-1460-2</p>
参考書	「2021 第19回～第28回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 実力試験と期末試験の両方で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：沖 和久 研究室：8号館4階教授室 オフィスアワー：月曜日 17：00～18：00</p> <p>オムニバス担当教員名： 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、沖が調整する。</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2


開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
秋津 知宏・濱口 夏花			
柔道整復学科	30時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼を対象として、各外傷発生時の診察から処置までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【授業目標】</p> <p>目標1：柔道整復学領域に外傷性骨折・脱臼の診察から整復までの流れを行うことができる。</p> <p>目標2：骨折や脱臼の患者に対する基本的な固定処置を行い、固定後の確認を行うことができる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・第5中手骨頸部骨折の固定</p> <p>【到達目標】 第5中手骨頸部骨折の固定の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、第5中手骨頸部骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>2回目 ☆肋骨骨折の固定</p> <p>【到達目標】 肋骨骨折の固定を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、肋骨骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>3回目 肩関節前方脱臼の整復</p> <p>【到達目標】 肩関節前方脱臼の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、肩関節前方脱臼について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>4回目 肩関節前方脱臼の固定</p> <p>【到達目標】 肩関節前方脱臼の固定を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、肩関節前方脱臼の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>5回目 まとめ①</p> <p>【到達目標】 1～4回目までの各骨折の整復法および固定法を習得し、模擬患者と助手を使用して診察から整復・固定までの一連動作を適切に実施することが可能である。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、各骨折の整復法・固定法について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>6回目 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の整復</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、肘関節脱臼について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>7回目 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の固定</p> <p>【到達目標】 肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の固定の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、肘関節脱臼の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>8回目 肘内障の整復</p> <p>【到達目標】 肘内障の整復の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、肘内障について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>9回目 手第2指PIP関節背側脱臼の固定</p> <p>【到達目標】 手第2指PIP関節背側脱臼の整復・固定を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、手第2指PIP関節背側脱臼について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>10回目 包帯法①</p> <p>【到達目標】 基本包帯の目的を理解し適切に施行することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>11回目 包帯法②</p> <p>【到達目標】 冠名包帯や特殊包帯の目的を理解し適切に施行することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>

	<p>12回目 まとめ②  【到達目標】6～11回目までの各骨折の整復法・固定法を習得し、模擬患者と助手を使用して診察から整復・固定までの一連動作を適切に実施することが可能である。  【授業形態】実技形式  【備考】本授業までに、各骨折の整復法・固定法について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>13回目 総合復習①  【到達目標】1～11回目までの各外傷の整復法を習得し、模擬患者と助手を使用して診察から整復、整復後からの固定までの一連動作を適切に実施することが可能である。  【授業形態】実技形式  【備考】本授業までに、各骨折の整復法について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>14回目 総合復習②  【到達目標】1～11回目までの各外傷の固定を習得し、模擬患者と助手を使用して診察から整復、整復後からの固定までの一連動作を適切に実施することが可能である。  【授業形態】実技形式  【備考】本授業までに、各骨折の固定法について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	整復学および臨床整復学実習で習得した知識および技術を復習すること。また、シラバスの各回に記載されている【備考】を参照し、該当授業の外傷について教科書を熟読し理解しておくこと。本科目受講に必要な予習・復習に必要な時間は各100分とする。
教科書	「柔道整復学・理論編 改訂第6版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 必要に応じて資料プリントを配布する。
参考書	「標準整形外科学」（医学書店） 必要に応じて資料プリントを配布する。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価は実技・口述試験とする。 ※必要に応じて筆記試験を追加する。
担当教員の基本情報	担当教員名：秋津 知宏 研究室：8号館4F 講師室 オフィスアワー：授業終了後1時間  担当教員名：濱口 夏花 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後  ほか
備考	秋津知宏：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 濱口夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
秋津 知宏・濱口 夏花			
柔道整復学科	30時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である軟部組織損傷を対象として、各軟部組織損傷発生時の診察から処置までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【授業目標】</p> <p>目標1：柔道整復学領域における軟部組織損傷の診察の流れを習得する。</p> <p>目標2：傷害部位や傷害の程度を知るための基本的な診察の流れと病態・傷害鑑別のための徒手検査法を習得する。</p> <p>目標3：身体の傷害部所および傷害の状況に応じた包帯法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～大腿部打撲・肉ばなれ損傷～  【到達目標】 大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくにハムストリングス損傷について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、ハムストリングス損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>2回目 大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～大腿四頭筋損傷・ハムストリングス損傷～  【到達目標】 大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに大腿四頭筋損傷について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、大腿四頭筋損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>3回目 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法～膝関節側副靭帯損傷～  【到達目標】 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに膝関節側副靭帯損傷について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、膝関節側副靭帯損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>4回目 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法～膝関節十字靭帯損傷～  【到達目標】 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに膝関節十字靭帯損傷について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、膝関節十字靭帯損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>5回目 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法～膝関節半月板靭帯損傷～  【到達目標】 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに膝関節半月板靭帯損傷について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、膝関節半月板靭帯損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>6回目 膝部軟部組織損傷のテーピング固定～膝関節内側副靭帯損傷～  【到達目標】 膝部軟部組織損傷のテーピングを使用した固定を実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、膝部軟部組織損傷のテーピング固定の方法について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>7回目 下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～下腿三頭筋損傷～  【到達目標】 下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、下腿三頭筋損傷について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、下腿三頭筋損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>8回目 下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～アキレス腱断裂～  【到達目標】 下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、アキレス腱断裂について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、アキレス腱断裂について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>9回目 足関節の外側側副靭帯損傷の診察と検査方法  【到達目標】 足関節の外側側副靭帯損傷の診察と検査方法について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、足関節の外側側副靭帯損傷について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>10回目 足関節の外側側副靭帯損傷の固定方法～局所副子固定・テーピング固定  【到達目標】 足関節の外側側副靭帯損傷の固定方法、局所副子固定・テーピング固定について実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、足関節の外側側副靭帯損傷の固定方法について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>

	<p>11回目 下腿骨幹部骨折の固定法  【到達目標】 下腿骨骨幹部骨折の固定方法を実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 本授業までに、下腿骨骨幹部骨折について復習を行っておく。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>12回目 まとめ  【到達目標】 1～11回目までの授業で行った内容を実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 1～11回目までの授業で行った外傷の診察および類似疾患との鑑別が実施できるよう復習を行う。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>13回目 総合復習1  【到達目標】 第1～5回目までの授業で行った内容を一連の動作で実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 1～5回目までの授業で行った外傷の診察および類似疾患との鑑別が実施できるよう復習を行う。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>14回目 総合復習2  【到達目標】 第6～11回目までの授業で行った徒手検査を実践できる。  【授業形態】 実技形式  【備考】 6～11回目までの授業で行った外傷の診察および類似疾患との鑑別が実施できるよう復習を行う。  【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>整復学および整復学実習で習得した知識および技術を復習すること。また、シラバスの各回に記載されている【備考】を参照し、該当授業の外傷について教科書を熟読し理解しておくこと。  本科目受講に必要な予習・復習に必要な時間は各100分とする。</p>
教科書	<p>「柔道整復学・理論編 改訂第6版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）  「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）  「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人全国柔道整復学校協会（南江堂）</p>
参考書	<p>必要に応じて資料を配布する。</p>
成績評価	<p>1. 実技試験と口述を含めた実技および筆記による試験で評価する。  2. 合格基準はそれらの合計点数が60点以上の者とする。  3. ただし規定の出席日数に満たない者は評価の対象とはしない。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：秋津 知宏  研究室：8号館4F 講師室  オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：濱口 夏花  研究室：8号館4F 講師室  メールアドレス：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー：授業終了後</p>
備考	<p>秋津知宏：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。  濱口夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5</p>

講義科目名称： スポーツバイオメカニクス

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、スポーツにおけるパフォーマンスを科学的に分析し説明するための知見および技術を習得することを授業目標とする。
授業計画	<p>第1回 スポーツバイオメカニクスとは 【到達目標】 ・しなやかな動作の説明できる。 ・スキルについて説明できる。 ・反射と随意運動の説明できる。 ・ベクトルの計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第2回 動きを数値化する並進運動：速度，加速度，移動距離 【到達目標】 ・立位，歩行，走行の説明できる。 ・速度，加速度，移動距離の計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第3回 並進運動の力学：ニュートンの運動方程式，力積，着地時の衝撃吸収 【到達目標】 ・テコの原理について説明できる。 ・ニュートンの法則の説明ができる。 ・力積の計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第4回 回転運動の力学：角速度，角加速度，角変位，ハンマー投げ 【到達目標】 ・角速度，角加速度，角変位の計算ができる。 ・関節トルク，慣性モーメント，（遠心力）の説明ができる。 ・変化球の正体（マグヌス力）の説明ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第5回 流体力学：風をとらえる（抵抗，揚力），水のねばりけ（粘性），摩擦 【到達目標】 ・風をとらえる抵抗と揚力の説明ができる。 ・水のねばりけ粘性の説明ができる。 ・摩擦の説明ができる。 【授業形態】 確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第6回 効果的な筋力トレーニング について，試験試験 【到達目標】 ・筋腱複合体の説明ができる。 ・効率的なトレーニングの説明できる。 ・第5回までの講義内容を総合的に理解できる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第7回 総括 【到達目標】 ・講義全体を振り返り，スポーツバイオメカニクスを総合的に判断し説明することができる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義の項目に対して参考書を読み予習（約130分程度）すること，講義の後，配布プリントや参考書を用い復習（約130分程度）すること
教科書	特に指定しない。
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 金子 公有 杏林書院 スポーツ動作の科学—バイオメカニクスで読み解く 深代 千之 東京大学出版会
成績評価	試験（100%）により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 赤澤 淳 研究室 : 5号館3階研究室 オフィスアワー : 授業の終了後1時間
備考	DPとの関連「◎-1」


開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	実技（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。さて、生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習 水中運動とは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 応用：プログラム作成 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>

	<p>第14講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。          プールにおける実践指導⑥          [到達目標]（実習のまとめ）。第1講～第13講を総括した実践指導ができるようになる。          [授業形態] 実習（グループワークをする）          実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体カづくり事業財団
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。プールで実施する時は、水着の準備をする。 ② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、◎-3、◎-5、○-4

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏			
添付ファイル			
授業目標	脳神経外科学および神経内科学があつかう神経疾患について学習する。神経症候、診察法、様々な検査法を学んだうえで、腫瘍、血管障害、外傷、先天異常、変性疾患、脱髄疾患、感染性疾患などについて学ぶ。学ぶ目的は、患者さんが訴える症状をそのままの症状として聞くのではなく、神経系の解剖学的、生理機能の理解の上立って、それらの症状を理解できるようになることである。また、疾患によって生じる神経脱落症状を少しでも抑える内科的治療、外科的治療の必要性とその限界、さらには神経脱落症状に伴って必要となるリハビリテーションの役割を理解できるようになることである。		
授業計画	<p>1 神経疾患概説、神経学的診察法 柔道整復における神経筋疾患のかかわりについて、解剖、生理の復習とともに神経診断学の手法を学ぶ</p> <p>2 神経局在徴候と頭痛、めまいなどの神経疾患に伴う症状 脳・脊髄の機能局在と障害、頭痛や眩暈との問診の重要性、不随運動とは</p> <p>3 患脳神経疾患の画像診断 画像診断の特徴と重要性を理解する</p> <p>4 脳腫瘍 脳腫瘍の症状、診断、治療について理解する</p> <p>5 脳血管障害：出血性疾患、 出血性脳血管障害および閉塞性脳血管障害(脳梗塞)について理解する</p> <p>6 頭部外傷 頭部外傷の特徴、骨折、脳震盪、頭蓋内出血、びまん性軸索損傷などの病態と治療について理解する</p> <p>7 神経筋疾患 認知症、パーキンソン病などの変性疾患、筋疾患、感染症、末梢神経障害などの病態、症候、診断、治療について理解する</p> <p>8 捕捉とまとめ</p>		
授業時間外の学習 (準備学習等)について	神経解剖学、神経生理学についての理解が必要であり、進行に応じて配付資料や教科書や参考書の該当内容を復習、予習をすること。		
教科書	『チーム医療従事者のための臨床医学全科』渡邊 決・山村義治 他 (金芳堂) 必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	標準神経病学 水野美邦・栗原照幸編集 医学書院 ニュースタダード脳神経外科学 生塩之敬・種子田護・山田和雄 三和書店		
成績評価	定期試験、出席により評価する		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 樋口敏宏 研究室 : 病院 1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、17-18時		
備考	樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事、その実務経験をもとに授業を進める。		
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏			
添付ファイル			

授業目標	整形外科学は運動器の医学であり、柔道整復学と関連しているところが存在する。整形外科学で取り扱う部位としては脊柱・骨盤・四肢で、対象とする組織は骨・関節・筋・靭帯・腱・脊髄・神経であり、これらの組織の外傷・障害・炎症・腫瘍などについて診断・治療・研究をすすめていく学問である。 整形外科学各論においては、運動器の種々の損傷・障害について教授され、医療人として、適切な処置を講ずるための知識を修得することを目標とする。
授業計画	<p>1回目 講義概要、整形外科各論について、疾患別各論：感染性疾患 1. 講義の概要と授業のすすめ方を理解する。 2. 感染性疾患の種類・原因・症状・検査・診断・治療法等を学ぶ。</p> <p>2回目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍 1. 骨および軟部腫瘍の種類・原因・症状・検査を学ぶ。 2. 骨および軟部腫瘍の診断・治療法等を学ぶ。</p> <p>3回目 疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患 1 1. 非感染性軟部・骨関節疾患に属する疾患を学ぶ。 2. 非感染性軟部・骨関節疾患の疾患概念・症状・診断・治療を学ぶ。 ※関節の構造について予習しておくこと。</p> <p>4回目 疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患 2 1. 非感染性軟部・骨関節疾患に属する疾患を学ぶ。 2. 非感染性軟部・骨関節疾患の疾患概念・症状・診断・治療を学ぶ。 ※関節の構造について予習しておくこと。</p> <p>5回目 疾患別各論：全身性骨・軟部疾患 1. 全身性骨・軟部疾患の定義を学ぶ。 2. 全身性骨・軟部疾患の種類・疾患概念・症状・検査またはX線像・治療を学ぶ。 ※骨の部位別障害について予習しておくこと。</p> <p>6回目 疾患別各論：骨端症、四肢循環障害 1. 骨端症の種類・疾患概念・症状・検査またはX線像・治療を学ぶ。 2. 四肢循環障害の疾患概念・症状・診断・予防法・治療等を学ぶ。 ※四肢・体幹部の脈管について予習しておくこと。</p> <p>7回目 疾患別各論：神経・筋疾患、神経麻痺と絞扼神経障害、腕神経叢損傷、分娩麻痺 1. 神経麻痺と絞扼神経障害の疾患概念・症状・診断・治療等を学ぶ。 2. 腕神経叢損傷、分娩麻痺等の疾患概念・症状・診断・治療等を学ぶ。 ※脊髄神経について予習しておくこと。</p> <p>8回目 疾患別各論：神経・筋疾患、全身性の神経・筋疾患 1. 全身性の神経・筋疾患の疾患概要を知る。 2. 脊髄腫瘍の疾患概念・症状・診断・治療等について学ぶ。 3. 脊髄損傷の疾患概念・症状・診断・治療等について学ぶ。 ※脊髄について予習しておくこと。</p> <p>9回目 まとめ 1 1. 感染性疾患・骨および軟部腫瘍および非感染性軟部・骨関節疾患、全身性骨・軟部疾患、神経・筋疾患の原因、症状、鑑別診断、施術目的・方法、施術上の注意ならびに生活指導等の理解度を確認する。 ※上記疾患について習熟しておくこと。</p> <p>10回目 身体部位別各論：体幹、肩甲帯および上肢の疾患 1；頸部、胸部、腰部、肩・肩甲帯、上腕の損傷 1. 頸部・胸部・腰部、肩・肩甲帯、上腕の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 頸部・胸部・腰部、肩・肩甲帯、上腕の損傷について学ぶ。 ※頸部・胸部・腰部、肩・肩甲帯、上腕の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>11回目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患 2；肘関節、前腕、手関節、手・手指の損傷 1. 肘関節、前腕、手関節、手・手指の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 肘関節、前腕、手関節、手・手指の損傷について学ぶ。の損傷について学ぶ。 ※肘関節、前腕、手関節、手・手指の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>12回目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 1；骨盤・股関節、大腿・膝関節の損傷 1. 骨盤・股関節、大腿・膝関節の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 骨盤・股関節、大腿・膝関節の損傷について学ぶ。 ※骨盤・股関節、大腿・膝関節の機能解剖について予習しておくこと。</p> <p>13回目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患 2；下腿・足関節、足・足趾の損傷 1. 下腿・足関節、足・足趾の損傷に対する整形外科的治療法を知る。 2. 下腿・足関節、足・足趾の損傷について学ぶ。 ※下腿・足関節、足・足趾の機能解剖について予習しておくこと。 3. 体幹、肩甲帯および上肢、骨盤および下肢の疾患について理解度を確認する。</p> <p>14回目 まとめ 2 1. 体幹、肩甲帯および上肢、骨盤および下肢の疾患における損傷および疾患の成因、症状、</p>

	<p>診断、治療等の 習熟度を認める。  ※身体部位における損傷および疾患について習熟しておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>各授業計画の項目内に※印で示す予習内容を記載している。  また授業後においては教授内容の予習・復習(約60分程度)をおこなうものとする。</p>
教科書	<p>整形外科学 改訂第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂</p>
参考書	<p>「標準整形外科学 第12版」 内田淳正 監修(医学書院)  「柔道整復学・理論編 第5版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(南江堂)  「解剖学 第2版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(医歯薬出版)</p>
成績評価	<p>成績評価は、所定の授業出席数を満たした者を対象として、筆記試験(中間試験と前期末試験)で評価する。  合格点は60点以上とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 樋口敏宏  研究室 : 病院1階MRセンター  メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日、17-18時</p> <p>担当教員名 : 池内 隆治  研究室 : 8号館4F講師室  メールアドレス :  オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>樋口敏宏: 本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連  ◎-1、○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）が言った言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する理解を深めるとともにその分野における実践研究の方法とその基礎について学習する。
授業計画	<p>第1講 トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。</p> <p>第2講 体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。</p> <p>第3講 トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。</p> <p>第4講 ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。</p> <p>第5講 トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。</p> <p>第6講 全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。</p> <p>第7講 筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。</p> <p>第8講 柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。</p> <p>第9講 筋力トレーニング（目的別強度の目安） [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。</p> <p>第10講 筋力トレーニング（正しいトレーニングを実施するための負荷設定） [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。</p> <p>第11講 筋力トレーニング（効果的に行うための順序） [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;①&gt;</p> <p>第13講 トレーニングプログラムを作成するための要点② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;②&gt;</p> <p>第14講 トレーニングプログラムを作成するための要点③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;③&gt;</p> <p>第15講 トレーニングプログラムを作成するための要点④ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;④&gt;</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	筆記試験による評価とする。（ただし、授業態度および欠席時数等により、減点対象になる場合がある。）

担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階 (非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標] 「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識させる</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標] 健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解する</p> <p>[備考] それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解する</p> <p>[備考] 「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標] 体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解させる</p> <p>[備考] 「体力」区分とトレーニング法を整理しておく</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標] マシーントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解する</p> <p>[備考] 「自分流トレーニング法」を作成しておく</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標] 体調のチェックの重要性・意義を理解する</p> <p>[備考] 体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標] 準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解する</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる&lt;子供1&gt;</p> <p>[備考] 子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる&lt;子供2&gt;</p> <p>[備考] 子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる&lt;中年&gt;&lt;高齢者1&gt;</p> <p>[備考] 中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる&lt;高齢者2&gt;&lt;女性1&gt;</p> <p>[備考] 女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p>	

	<p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる&lt;女性2&gt;&lt;障がい者&gt;</p> <p>[備考] 障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく スポーツ相談の実際</p> <p>[到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解する</p> <p>[備考] スポーツ相談の留意事項を調べておく 体力測定と評価</p> <p>[到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知る</p> <p>[備考] 体力測定結果の処理方法を調べておく 総括（まとめ）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学 ・運動生理学 ・身体運動学
教科書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ・Ⅱ） 宮下 充正 著；年齢に応じた運動のすすめ<わかりやすい身体運動の科学>
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則（非常勤講師） オフィスアワー : 講義終了後
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
各指導教員			
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 本科目は本学の専任教員が行っている研究を基に卒業研究テーマを検討し、研究とは何か、論文とは何かということ学ぶ。</p> <p><b>【授業目標】</b> 卒業研究 I では「論文の調べ方」、「研究とは」ということを学び、調査・研究を行う上での予備研究を行うことを目的とする。</p>
授業計画	<p>第 1 ～ 1 0 回 研究とは何か学ぼう</p> <p>概要 研究とは何か、過去の卒業論文や指導教員から配布された課題論文を読み、研究についての理解を深める。 テーマを指導教員の下でディスカッションを行い、決定する。研究倫理について学び、必ず、e-ラーニングによる倫理講習を受講すること</p> <p>目標 研究テーマをディスカッションを通して決めることができる。 研究倫理を理解することができる</p> <p>第 1 1 ～ 2 0 回 論文とは何か学ぼう</p> <p>概要 論文の検索方法を学び、論文の読み方を学ぶ。</p> <p>目標 論文の検索方法を知り、インターネットで検索することができる。 論文の内容を正確に読むことができる。 論文を通して仮説検証の方法について理解することができる。</p> <p>第 2 1 ～ 3 0 回 研究準備をしよう</p> <p>概要 卒業研究テーマに基づいて、研究実施計画を作成する。また、研究機器、備品を準備し使用方法を学ぶ。調査研究ではアンケート等の作成を行う。</p> <p>目標 研究実施計画書を作成することができる。 研究機器や測定機器を安全に使用することができる。 調査研究ではアンケートを作成することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各ゼミで出された課題や論文についてまとめ、次のゼミまでに準備する。おおむね 9 0 分の学習時間を要する課題を与える。
教科書	教科書指定なし
参考書	論文・レポートの基本 著者：石黒圭・日本実業出版社・ ISBN: 4534049277 新版 論文の教室 レポートから卒論まで 著者：戸田山 和久 NHK出版 ISBN-13: 978-4140911945 ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方 著者：石井一成 ナツメ社 ISBN-13: 978-4816350573
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。各指導教員によって学習到達度を加味して評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員：岡田成賛 メールアドレス：s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：質問がある場合は事前メールにて連絡をください。
備考	ゼミ担当教員：岡田成賛、松本和久、宮坂卓治、斎藤昌久、池内隆治、林知也、川村茂、木村篤史 渡邊康晴、神内伸晃、吉田勲生、泉晶子、大木琢也、児玉香菜絵、濱口夏花
	DPとの関連 3-○ 4-○

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛、宮坂 卓治			
添付ファイル			

授業目標	<p>&lt;泌尿器科&gt; 腎、上部尿路、下部尿路、男性生殖器の各疾患について十分に理解し、専門医と適切に連携することによって当該疾患の診療に参加することができる鍼灸師を養成することを目的とする。</p> <p>&lt;皮膚科&gt; 皮膚の解剖学、生理学、症候学、および湿疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、熱傷、凍傷、皮膚感染症などの皮膚疾患について十分に理解し、専門医と適切に連携することによって当該疾患の診療に参加することができる鍼灸師を養成することを目的とする。</p> <p>&lt;眼科&gt; 眼及び周辺組織の解剖学的、組織学的構造とその機能を理解する。 代表的な眼科疾患の病態生理と治療を理解する。 全身疾患の眼合併症、コメディカルとして接する眼科疾患を学ぶ。</p> <p>&lt;歯科&gt; 鍼灸治療の対象となる頭痛や頸肩部痛の原因が、口腔疾患にあることも多い。 従って、歯科疾患を理解し、鍼灸治療の適応と方法を修得する。</p> <p>&lt;耳鼻科&gt;</p>
授業計画	<p>第1講 泌尿器科 [授業概要] 泌尿器解剖学、生理学、症候学、検査法 [到達目標] 泌尿生殖器の解剖学、生理学、泌尿器症候学、検査法について理解できる。</p> <p>第2講 皮膚科 [授業概要] 皮膚の解剖学、生理学、症候学、主な皮膚疾患 [到達目標] 皮膚の解剖学、生理学、症候学、および湿疹、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、熱傷、凍傷、皮膚感染症などの主な皮膚疾患について理解できる。</p> <p>第3講 眼科 [授業概要] 診断・治療に関する総論 [到達目標] 加齢に伴う眼疾患、視機能(解剖・神経支配や麻痺・斜視など)、全身疾患との関連(移植免疫・ぶどう膜炎)について理解できる。</p> <p>第4講 眼科 [授業概要] 診断・治療に関する各論 [到達目標] 眼光学(屈折・眼鏡など)、角膜結膜疾患、水晶体疾患、緑内障、後眼部疾患(網膜疾患など)について理解できる。</p> <p>第5講 歯科 [授業概要] 口腔解剖、顎関節解剖、歯周炎と全身疾患、顎関節症 [到達目標] 主な口腔病変を知り、顎関節症に対する鍼治療を修得する。</p> <p>第6講 聴覚、中耳、内耳、平衡覚 [授業概要] 聴覚概論、聴器解剖、聴覚生理 中耳疾患および伝音難聴の診断と治療 内耳疾患および感音難聴の診断と治療 平衡覚概論 めまいと平衡障害 [到達目標]</p> <p>第7講 鼻アレルギー、副鼻腔、外傷 [授業概要] 鼻アレルギーの基礎と臨床 鼻副鼻腔の解剖・生理と疾患 鼻出血・顎顔面外傷 [到達目標]</p> <p>第8講 女性生殖器の解剖と生理、婦人科疾患 [授業概要] 女性生殖器の解剖と生理、婦人科疾患と検査、治療 [到達目標] 1. 女性生殖器を列挙し、その働きを説明できる。 2. 女性ホルモンのフィードバック機構を理解し、説明できる。 3. 子宮癌、子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症について説明できる。 4. 月経困難症、月経前症候群、月経不順、更年期障害について説明できる。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	頻度が高く泌尿器科的に重要な疾患について、事前に理解しておくこと。 特に排尿障害に該当する膀胱、前立腺疾患は鍼灸治療の対象ともなるため、よく学習すること。  泌尿器科、皮膚科、眼科、歯科、耳鼻咽喉科、婦人科 の各授業後には合計30時間程度復習して知識を整理し、不明な部分は調べたり質問によって解決する。
教科書	『眼科疾患Note: 病気がわかる!カルテもわかる!』 加藤 浩晃 著 (メディカ出版)
参考書	なし
成績評価	筆記試験により評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高羽夏樹 (泌尿器・皮膚科)  研究室 : 泌尿器科学  メールアドレス : n_takaha@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 授業終了後、木曜日14:00-15:00</p> <p>担当教員名 : 山田 潤 (眼科)  研究室 : 附属病院2階  メールアドレス : j_yamada@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 9:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 大藪秀昭 (歯科)  研究室 : 附属病院2階  メールアドレス : h_oyabu@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 金曜日 15:30~16:30</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 (婦人科)  研究室 : 附属鍼灸センター2階  メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日13:00~17:00</p> <p>担当教員名 : 坂口博史 (耳鼻咽喉科)  研究室 : 非常勤講師室 (6号館1階)  メールアドレス :  オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 安田誠 (耳鼻咽喉科)  研究室 : 非常勤講師室 (6号館1階)  メールアドレス :  オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
秋津知宏、神内伸晃、濱口夏花			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である軟部組織損傷を対象として、各軟部組織損傷発生時の診察から処置までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【授業目標】</p> <p>目標1：柔道整復学領域における軟部組織損傷の診察の流れを習得する。</p> <p>目標2：傷害部位や傷害の程度を知るための基本的な診察の流れと病態・傷害鑑別のための徒手検査法を習得する。</p> <p>目標3：身体の傷害部所および傷害の状況に応じた包帯法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 【前期】 授業概要・オリエンテーション 診察手順について 【到達目標】 診察手順である問診、視診、触診について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 オリエンテーションでは下記にの4項目について説明する。 1. 授業の構成 2. 授業の目的・目標 3. 授業の内容 4. 成績・評価について説明する。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。 【予習および復習】 医療面接等の実施方法を確認する。</p> <p>2回目 【前期】 ☆肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法～肩板損傷～ 【到達目標】 肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに肩板損傷について理解する。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、肩腱板損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>3回目 【前期】 ☆肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法～上腕二頭筋長頭腱(炎)損傷～ 【到達目標】 肩関節の軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに上腕二頭筋長頭腱損傷について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、上腕二頭筋長頭腱(炎)損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>4回目 【前期】 ☆肘関節の軟部組織損傷の診察と検査方法～内・外側上顆炎・肘側副靭帯損傷～ 【到達目標】 肘関節の軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに内・外側上顆炎・肘側副靭帯損傷について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、内・外側上顆炎・肘側副靭帯損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>5回目 【前期】 ☆大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～ハムストリングス損傷～ 【到達目標】 大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくにハムストリングス損傷について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、ハムストリングス損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>6回目 【前期】 ☆大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～大腿四頭筋損傷～ 【到達目標】 大腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに大腿四頭筋損傷について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、大腿四頭筋損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>7回目 【前期】 総合復習（1～6回目まで） 【到達目標】 1～6回目までの授業で行った内容を実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 1～6回目までの授業で行った外傷の診察および類似疾患との鑑別が実施できるよう復習を行う。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>8回目 【前期】 ☆膝部軟部組織損傷の診察と検査方法～膝関節側副靭帯損傷～ 【到達目標】 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに膝関節側副靭帯損傷について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、膝関節側副靭帯損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>9回目 【前期】 ☆膝部軟部組織損傷の診察と検査方法～膝関節十字靭帯損傷～ 【到達目標】 膝部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに膝関節十字靭帯損傷について実践できる。 【授業形態】 実技形式 【備考】 本授業までに、膝関節十字靭帯損傷について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>

10回目	<p>【前期】☆膝部軟部組織損傷の診察と検査方法～膝関節半月板靭帯損傷～</p> <p>【到達目標】膝部軟部組織損傷の診察と検査方法、とくに膝関節半月板靭帯損傷について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、膝関節半月板靭帯損傷について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
11回目	<p>【前期】☆膝部軟部組織損傷のテーピング固定～膝関節内側側副靭帯損傷～</p> <p>【到達目標】膝部軟部組織損傷のテーピングを使用した固定を実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、膝部軟部組織損傷のテーピング固定の方法について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
12回目	<p>【前期】総合復習（8～13回目まで）</p> <p>【到達目標】第8～13回目までの授業で行った徒手検査を実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
13回目	<p>前期】総合復習（8～13回目まで）</p> <p>【到達目標】第8～13回目までの授業で行った診察を実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】8～13回目までの授業で行った外傷の診察および類似疾患との鑑別が実施できるよう復習を行う。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
14回目	<p>【前期】総合復習（8～13回目まで）</p> <p>【到達目標】第8～13回目までの授業で行った内容を一連の動作で実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】8～13回目までの授業で行った外傷の診察および類似疾患との鑑別が実施できるよう復習を行う。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
15回目 (1)	<p>【後期】下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～下腿三頭筋損傷～</p> <p>【到達目標】下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、下腿三頭筋損傷について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、下腿三頭筋損傷について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
16回目 (2)	<p>【後期】下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法～アキレス腱断裂～</p> <p>【到達目標】下腿部軟部組織損傷の診察と検査方法、アキレス腱断裂について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、アキレス腱断裂について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
17回目 (3)	<p>【後期】☆足関節の外側側副靭帯損傷の診察と検査方法</p> <p>【到達目標】足関節の外側側副靭帯損傷の診察と検査方法について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、足関節の外側側副靭帯損傷について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
18回目 (4)	<p>【後期】☆足関節の外側側副靭帯損傷の固定方法～局所副子固定・テーピング固定</p> <p>【到達目標】足関節の外側側副靭帯損傷の固定方法、局所副子固定・テーピング固定について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、足関節の外側側副靭帯損傷の固定方法について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
19回目 (5)	<p>【後期】頸部の軟部組織損傷の診察と検査・固定方法～頸椎ヘルニア～</p> <p>【到達目標】頸部の軟部組織損傷の診察と検査・固定方法、頸椎ヘルニアについて実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、頸椎ヘルニアについて復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
20回目 (6)	<p>【後期】頸部の軟部組織損傷の診察と検査～胸郭出口症候群～</p> <p>【到達目標】頸部の軟部組織損傷の診察と検査、胸郭出口症候群について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、胸郭出口症候群について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
21回目 (7)	<p>【後期】腰部の軟部組織損傷の診察と検査検査～腰部ヘルニア・椎間関節症・筋筋膜性腰痛症～</p> <p>【到達目標】腰部の軟部組織損傷の診察と検査検査、とくに腰部ヘルニア・椎間関節症・筋筋膜性腰痛症について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、腰部ヘルニア・椎間関節症・筋筋膜性腰痛症について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
22回目 (8)	<p>【後期】腰部の軟部組織損傷の診察と検査検査・固定法～仙腸関節症～</p> <p>【到達目標】腰部の軟部組織損傷の診察と検査検査・固定法、仙腸関節症について実践できる。</p> <p>【授業形態】実技形式</p> <p>【備考】本授業までに、仙腸関節症について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
秋津知宏、神内伸晃、濱口夏花、三澤圭吾、石橋重良			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼を対象として、各外傷発生時の診察から処置までの一連動作を適切に実施することを可能にするための科目である。</p> <p>【授業目標】</p> <p>目標1：柔道整復学領域に外傷性骨折・脱臼の診察から整復までの流れを行うことができる。</p> <p>目標2：骨折や脱臼の患者に対する基本的な固定処置を行い、固定後の確認を行うことができる。</p>
授業計画	<p>1回目 授業概要・オリエンテーション 診察手順について</p> <p>【到達目標】 診察手順である問診、視診、触診について実践できる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 オリエンテーションでは下記にの4項目について説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の構成</li> <li>2. 授業の目的・目標</li> <li>3. 授業の内容</li> <li>4. 成績・評価について説明する。</li> </ol> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>【予習および復習】 医療面接等の実施方法を確認する。</p> <p>2回目 ☆鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の整復について</p> <p>【到達目標】 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の診察および整復手順を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、鎖骨骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>3回目 ☆鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の固定について</p> <p>【到達目標】 鎖骨骨折（転位を有する定型的鎖骨骨折）の固定方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、鎖骨骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>4回目 ☆上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復について</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨外科頸骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>5回目 ☆上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）固定</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨外科頸骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>6回目 ☆Colles 骨折（転位を有する骨折）整復</p> <p>【到達目標】 上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、Colles 骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>7回目 ☆Colles 骨折（転位を有する骨折）固定</p> <p>【到達目標】 Colles 骨折（転位を有する骨折）固定を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、Colles 骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>8回目 上腕骨骨幹部骨折の整復</p> <p>【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折の整復の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨骨幹部骨折について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>9回目 ☆上腕骨骨幹部骨折の固定について</p> <p>【到達目標】 上腕骨骨幹部骨折の固定の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p> <p>【備考】 本授業までに、上腕骨骨幹部骨折の固定について復習を行っておく。</p> <p>【アクティブラーニング】 有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>10回目 第5中手骨頸部骨折の整復</p> <p>【到達目標】 第5中手骨頸部骨折の整復の整復方法を実践することができる。</p> <p>【授業形態】 実技形式</p>

11回目	<p>【備考】本授業までに、第5中手骨頸部骨折について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>☆第5中手骨頸部骨折の固定</p> <p>【到達目標】第5中手骨頸部骨折の固定の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、第5中手骨頸部骨折の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
12回目	<p>下腿骨骨幹部骨折の整復</p> <p>【到達目標】下腿骨骨幹部骨折の整復の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、下腿骨骨幹部骨折について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
13回目	<p>☆下腿骨骨幹部骨折の固定</p> <p>【到達目標】下腿骨骨幹部骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、下腿骨骨幹部骨折の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
14回目	<p>☆肋骨骨折の固定</p> <p>【到達目標】肋骨骨折の固定を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肋骨骨折の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
15回目	<p>骨折の整復における総復習</p> <p>【到達目標】1～14回目までの各骨折の整復法を習得し、模擬患者と助手を使用して診察から整復までの一連動作を適切に実施することが可能である。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、各骨折の整復法について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
16回目	<p>骨折の固定における総復習</p> <p>【到達目標】1～14回目までの各骨折の固定法を習得し、模擬患者と助手を使用して整復後の固定から固定後の診察までの一連動作を適切に実施することが可能である。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、各骨折の固定法について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
17回目	<p>肩鎖関節上方脱臼の整復</p> <p>【到達目標】肩鎖関節上方脱臼の整復実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肩鎖関節上方脱臼について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
18回目	<p>肩鎖関節上方脱臼の固定（テープ固定）</p> <p>【到達目標】肩関節前方脱臼の整復実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肩鎖関節上方脱臼の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
19回目	<p>肩関節前方脱臼の整復</p> <p>【到達目標】上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肩関節前方脱臼について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
20回目	<p>肩関節前方脱臼の固定</p> <p>【到達目標】肩関節前方脱臼の固定を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肩関節前方脱臼の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
21回目	<p>肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の整復</p> <p>【到達目標】上腕骨外科頸骨折（転位を有する外転型骨折）の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肘関節脱臼について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
22回目	<p>肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の固定</p> <p>【到達目標】肘関節脱臼（両前腕骨後方脱臼）の固定の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肘関節脱臼の固定について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
23回目	<p>肘内障の整復</p> <p>【到達目標】肘内障の整復の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、肘内障について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
24回目	<p>手第2指PIP関節背側脱臼の整復・固定</p> <p>【到達目標】手第2指PIP関節背側脱臼の整復・固定を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、手第2指PIP関節背側脱臼について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
25回目	<p>股関節後方脱臼の整復・固定</p> <p>【到達目標】股関節後方脱臼の整復・固定を実践することができる。</p>

	<p>【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、股関節後方脱臼について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>26回目 膝蓋骨外脱臼の整復・固定 【到達目標】膝蓋骨外脱臼の整復・固定の整復方法を実践することができる。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、膝蓋骨外脱臼について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>27回目 脱臼の整復における総復習 【到達目標】17～25回目までの各脱臼の整復法を習得し、模擬患者と助手を使用して診察から整復までの一連動作を適切に実施することが可能である。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、各骨折の整復法について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p> <p>28回目 脱臼の固定における総復習・筆記試験 【到達目標】17～25回目までの各脱臼の固定法を習得し、模擬患者と助手を使用して整復後の固定から固定後の診察までの一連動作を適切に実施することが可能である。 【授業形態】実技形式 【備考】本授業までに、各骨折の固定法について復習を行っておく。 【アクティブラーニング】有：各グループで術者、患者および助手役を分担し模擬診察を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>整復学および整復学実習で習得した知識および技術を復習すること。また、シラバスの各回に記載されている【備考】を参照し、該当授業の外傷について教科書を熟読し理解しておくこと。 本科目受講に必要な予習・復習に必要な時間は各90分とする。</p>
教科書	<p>「柔道整復学・理論編 改訂第5版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 必要に応じて資料プリントを配布する。</p>
参考書	<p>「標準整形外科学」（医学書店） 「包帯固定学 改訂第2版」公益社団法人柔道整復学校協会（南江堂） 必要に応じて資料プリントを配布する。</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。 評価は実技・口述試験（中間：40%、期末：40%）と筆記試験（20%）により評価を行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：秋津 知宏 研究室：8号館4F 講師室 オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：神内 伸晃 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：n_jinnai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p> <p>担当教員名：濱口 夏花 研究室：8号館4F 講師室 メールアドレス：n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後</p> <p>ほか</p>
備考	<p>秋津知宏：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 神内伸晃：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 濱口夏花：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
岡田 成賛 他			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学、生理学を中心に基礎医学系科目と関係法規について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：基礎医学系科目と関係法規の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できるとともに、「臨床系総合演習」の内容とのリンクができること。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～7回 解剖学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の構造学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第8～14回 生理学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体の機能学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 備考：事前に配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行うこと。</p> <p>第15回 前期のまとめ 到達目標：柔道整復師に必要な解剖学と生理学の基本的な内容を、総合的に説明することができる。</p> <p>第16回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、「臨床系総合演習」の内容とどの程度リンクできているか確認する。</p> <p>第16～18回 解剖学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、解剖学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 生理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、生理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 運動学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、運動学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 病理学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、病理学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26, 27回 衛生学・公衆衛生学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、衛生学・公衆衛生学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第28, 29回 関係法規の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、関係法規の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 後期のまとめ 到達目標：基礎医学系科目と関係法規に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができ、「臨床系総合演習」の内容とリンクできるようにする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習65分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習65分）
教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社） 「柔道整復師イエロー・ノート 臨床編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
参考書	「2020 第18回～第27回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会編集（医道の日本社）ー7月頃発行予定
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 前期は課題に対するレポートと小テスト（20%）、及び期末試験（80%）で評価する。</p> <p>(3) 後期は実力試験と期末試験の両方で評価する。実力試験受験に際しては、別途指示する基準を超えることを条件とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 17:00～18:00</p> <p>オムニバス担当教員名 :</p>

	専門基礎，専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので，各先生方については，授業終了後に質問すること。 なお，他の時間が必要な場合は，林（知）が調整する。
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
岡田 成賛 他			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した柔道整復学と現代医学系臨床科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目の柔道整復師国家試験合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1～14回 柔道整復学の基本的な復習 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な柔道整復学の内容を総合的に理解するための基盤を構築する。 授業形態：課題に対する対話の方式によるアクティブラーニングあり。 授業時間外学習の指示：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第15回 前期のまとめ 到達目標：柔道整復師に必要な柔道整復学の基本的な内容を、総合的に説明することができる。</p> <p>第16回 知識の確認（確認テストとその解説） 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容がどの程度習得できているか確認するとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」の内容に関する知識も確認する。</p> <p>第17～19回 一般臨床医学の応用的知識の習得 到達目標：柔道整復師に必要な一般臨床医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第20, 21回 外科学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、外科学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第22, 23回 整形外科の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、整形外科の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第24, 25回 リハビリテーション医学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、リハビリテーション医学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第26～29回 柔道整復学の応用的知識の習得 到達目標：演習を通して、柔道整復学の総合的な知識を確認し、柔道整復師にとって必要な応用的知識を習得する。</p> <p>第30回 後期のまとめ 到達目標：柔道整復学と現代医学系臨床科目に関する柔道整復師国家試験レベルの内容を説明することができるとともに、それら科目のベースとなる「基礎系総合演習」で学んだ内容についても説明することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習65分） 各講義後、教科書と参考書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習65分）
教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社） 「柔道整復師イエロー・ノート 臨床編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
参考書	「2020 第18回～第27回 徹底攻略 国家試験過去問題集 柔道整復師用」（学）明治東洋医学院編集委員会 編集（医道の日本社） ー7月頃刊行予定
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 前期は課題に対するレポートと小テスト（20%）、及び期末試験（80%）で評価する。</p> <p>(3) 後期は実力試験と期末試験の両方で評価する。実力試験受験に際しては、別途指示する基準を超えることを条件とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇林 知也 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 17:00～18:00</p> <p>オムニバス担当教員名 : 専門基礎、専門領域の各ユニット・講座の担当教員が分担するので、各先生方については、授業終了後に質問すること。 なお、他の時間が必要な場合は、林（知）が調整する。</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	必修
担当教員			
岡田 成賛			
添付ファイル			

授業目標	<p>学外臨床実習は、在学中に就業体験や臨床体験などの学習を行うことにより、高い職業意識を育成することを目的とするものであるが、その具体的な実習内容は次の通りである。</p> <p>1) 実際の臨床の場における患者さんや患者心理の洞察と患者さんに接する心構え、医療関係職としてのマナー等を習得する。  2) 接骨院実習、整形外科病院・医院実習、高齢者福祉施設において、柔道整復臨床を適切に行うことができる技能を見学し、知識を高めること。  3) 接骨院、整形外科病院・医院の地域医療における役割を学ぶこと。  4) 接骨院、整形外科病院・医院外来における機器・備品等の配置や設備空間の有効利用を学ぶこと。  ※ 具体的な実習日程、実習の心構え等は、実習のオリエンテーション時に説明する。</p>
授業計画	<p>オリエンテーション・実習内容・実習先  本科目での実習は、クラスごとに班編成を行い、日時を指定し所定の施設で行う。  実習先は本学と連携する接骨院、整形外科医院・病院、福祉施設である。  なお、詳細内容に関してはオリエンテーション時に説明を行う。</p> <p>オリエンテーション概要  オリエンテーションでは実習簿、実習日程表、実習出席表、記録簿を配布する。  また、実習前教育として事前課題を提示し、グループで学習させ、知識の確認を行う。</p> <p>実習先一覧</p> <p>接骨院  ・ヒグチ整骨院  ・安養堂接骨院  ・タケダ整骨院  ・馬路・服部整骨院  ・長尾接骨院  ・山本整骨院</p> <p>整形外科  ・永田整形外科  ・古東整形外科</p> <p>福祉施設  ・老人福祉施設 はぎの里</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各施設での実習課題や見学してわからなかったことなどを次の実習までにまとめておくこと。おおよそ90分の予習復習が必要である。
教科書	指定しない。
参考書	<p>標準整形外科 医学書院  柔道整復理論 第6版 南江堂  根拠からわかる介護技術の基本 著前川美智子 中央法規出版  ※各担当教員が実習レポートのための参考書などを指示する場合がある。</p>
成績評価	<p>8. 成績評価  (1) 出席基準を満たした者について評価する  (2) 実習終了後、出席票ならびに指定された提出物等を提出する。  (3) 指定された提出物、出席状況、実習状況、実習態度等によって総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員：岡田成賛  メールアドレス：s_okada@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー：質問がある場合は事前にメールにて連絡をください。</p>
備考	DPとの関連 3-◎ 4-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
中川 達雄、泉 晶子			
添付ファイル			

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復術の業務範囲における腰部損傷に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p>&lt;教育概要&gt; 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する腰部の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形外科学を基礎とし腰部疾患の理学検査や、人体構造、特に体幹（骨盤・腰椎）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか把握し、考察を行う。次に、その検査結果に基づき、どのような施術法が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、筋弛緩法、マイクロ牽引法等を用い、腰部損傷に対する施術法を修得する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション、腰部周辺の鑑別触診 これから学ぶ腰部損傷に対する理学検査、徒手療法、手技療法についての概説と腰部周辺の鑑別触診を学ぶ。</p> <p>[備考] 予習：骨盤と腰椎の解剖学 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>2回目 仙腸関節障害1：概要、理学検査 仙腸関節障害による腰痛の概要と理学検査を学ぶ。</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.82～89 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>3回目 仙腸関節障害2：仙腸関節触診 ギャッピング検査、PI腸骨、AS腸骨のスタティックパルペーション</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.82～89 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>4回目 仙腸関節障害3：腸骨モーションパルペーション PI腸骨、AS腸骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション(治療法)</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.90～94 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>5回目 仙腸関節障害4：腸骨モーションパルペーション IN腸骨、EX腸骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション(治療法)</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.107～113 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>6回目 仙腸関節障害5：仙骨モーションパルペーション 仙骨モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション(治療法)</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.130 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>7回目 椎間関節障害1：腰椎スタティックパルペーション 腰椎触診、スプリング検査</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱モーションパルペーションP.130～143</p>

8回目	<p>アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p> <p>椎間関節障害2：腰椎スタティックパルペーション 腰椎モーションパルペーション(検査法)とモービリゼーション(治療法)</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：筋筋膜性腰痛について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
9回目	<p>筋筋膜性腰痛 概要と触診、腸腰筋、腰方形筋等の弛緩法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：腰椎椎間板ヘルニアについて アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
10回目	<p>腰椎椎間板ヘルニア 腰椎椎間板ヘルニアの概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：脊柱管狭窄症について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
11回目	<p>脊柱管狭窄症 脊柱管狭窄症の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：腰椎分離すべり症について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
12回目	<p>腰椎分離すべり症 腰椎分離すべり症の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：梨状筋症候群について アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
13回目	<p>梨状筋症候群 梨状筋症候群の概要と理学検査、手技療法</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
14回目	<p>総まとめ</p> <p>[備考] ワークシートの提出 予習：授業範囲の復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、触診位置の正確さや適切な圧などを互いにフィードバックする。</p>
15回目	<p>評価 1回目から14回目までに学んだ項目について、実技による評価を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>1. 予習：授業予定である教科書内容を熟読すること。 2. 復習：検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(45分)・復習(45分)してくること。</p>
教科書	<p>1. 脊柱モーション・パルペーション 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー 2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	<p>筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中川達雄 研究室 : メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー :  担当教員名 : 泉 晶子 研究室 : メールアドレス : a_izumi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
備考	<p>中川達雄：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>

	泉晶子：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 ディプロマポリシーとの関連：◎ー2、○ー5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
樋口 正宏、泉 晶子			
添付ファイル			

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵ（学校協会柔道整復理論編の全内容）までで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を修得する。 本科目の目的は、膝関節、足関節における骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。			
授業計画	第1回	足関節果部骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 足関節果部骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 足関節果部骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第2回	足関節果部骨折SEFstageⅡに対する固定 【内容・到達目標】 足関節果部骨折SEFstageⅡに対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 足関節果部骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。
	第3回	腓骨尖端裂離骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 腓骨尖端裂離骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 腓骨尖端裂離骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第4回	腓骨尖端裂離骨折に対する固定 【内容・到達目標】 腓骨尖端裂離骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 腓骨尖端裂離骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。
	第5回	中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 中足骨・足根骨骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第6回	中足骨骨折に対する固定 【内容・到達目標】 中足骨・足根骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 中足骨・足根骨骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。
	第7回	趾骨骨折に対する所見・整復 【内容・到達目標】 趾骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。  【備考】(授業時間外学習の指示等) 整復学 趾骨骨折の範囲の復習をしておくこと。 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。	第8回	趾骨骨折に対する固定 【内容・到達目標】 趾骨骨折に対する所見・整復について理解し、実践する。

第9回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 趾骨骨折の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            アキレス腱断裂に対する所見・処置</p> <p>【内容・到達目標】            アキレス腱断裂に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第10回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 アキレス腱断裂の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            アキレス腱断裂に対する固定</p> <p>【内容・到達目標】            アキレス腱断裂に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第11回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 アキレス腱断裂の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            膝関節軟部組織損傷に対する所見</p> <p>【内容・到達目標】            膝関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第12回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 膝関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            膝関節側副靭帯・半月板損傷等に対する固定</p> <p>【内容・到達目標】            膝関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第13回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 膝関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            足関節軟部組織損傷に対する所見</p> <p>【内容・到達目標】            足関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第14回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 足関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            前距腓靭帯Ⅲ度損傷に対する固定</p> <p>【内容・到達目標】            足関節軟部組織損傷に対する所見・整復について理解し、実践する。</p>
第15回	<p>【備考】(授業時間外学習の指示等)            整復学 足関節軟部組織損傷の範囲の復習をしておくこと。            アクティブラーニング：学生同士でペアを組み練習しながら、持ち手や適切な圧などを互いにフィードバックする。            評価            授業で作成した固定具を巻軸包帯でモデルに装着し、評価を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。シラバスを参考に、教科書の授業範囲を予習(90分)・復習(90分)してこよう。
教科書	柔道整復学(理論編)改訂第5版 社団法人柔道整復学校協会 南江堂
参考書	標準整形外科学第10版 監修：国分正一 医学書院 図解 四肢と脊椎の診かた 監訳者 野島元雄 医歯薬出版 図解 整形外科診察の進め方 監訳 小野啓郎 医学書院
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。評価は期末試験と出席点を加味し、総合的に評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 樋口正宏 ヒグチ整骨院院長、非常勤講師 研究室 : 8号館4階非常勤講師室 オフィスアワー : 講義終了後の1時間  担当教員名 : 泉晶子 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : a_izumi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後の1時間
備考	樋口正宏：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 泉晶子：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○5

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
神内 伸晃 五反田重雄 宮越亮典			
添付ファイル			

授業目標	本授業は柔道整復術における伝統的な技法である整復法、固定法、後療法について学び、技術の応用力を養うことを目的とする。
授業計画	<p>第1-2講義 泥湿布の作成 【到達目標】 柔道整復師が昔から使用している泥湿布を作成し、各部位に湿布を貼付し、市販の湿布と違いを体験する。シップの作成方法を理解し、シップの効果を理解することを目的とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第3-4講義 すだれ副子の作成 【到達目標】 柔道整復師が昔から使用していたすだれ副子を作成しすだれ副木の使用方法を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第5-6講義 テーピング療法 【到達目標】 柔道整復師やスポーツトレーナーが臨床・スポーツ現場で使用しているキネシオテープの使用方法、効果注意点を学び、テーピングの使用方法を理解することを目的とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第7-8講義 厚紙副子の各種使用方法 【到達目標】 厚紙を副子を用いた各部位への使い方を学び、正しく固定時に装着できるようになることを目標とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第9-10講義 コーレス骨折の整復法と固定方法1 【到達目標】 柔道整復師が昔から行っているコーレス骨折の整復方法と固定方法について学び、整復と固定の基礎ができることを目標とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第11-12講義 鎖骨骨折の整復と固定 【到達目標】 伝統的な鎖骨骨折の整復方法を学び、その後リング固定についての方法を学ぶ。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第13-14講義 柔道整復における手技療法 【到達目標】 柔道整復師が昔からおこなってきた手技療法や世界で行われている手技療法を学び、手技療法の基本的な考え方や方法を学び、じっせんできることを目標とする。 【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り</p> <p>第15講義 総合復習（まとめ） 【到達目標】 第1回～第14回までの講義・演習で学んだことについておさらいをする。 また、授業の内容についてまとめた課題レポートの作成を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内に課題を出すため、その課題に沿って復習を行う（おおむね60分の復習）。
教科書	授業内にプリントを配布するため教科書指定はしない。
参考書	参考書の指定なし
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。授業課題の評価（40%）、レポート課題（60%）によって総合評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワー：授業終了後1時間 場所：8号館4F講師室または非常勤講師室
備考	ディプロマポリシーとの関連「③-◎」、


開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業内容】</b> 接骨院経営の現状から将来性について具体事例を示してわかりやすく展開します。また、柔道整復師の療養費（受領委任取扱いなど）も理解できるようにします。さらに施術録の記載方法、支給申請書の書き方、労災や交通事故における請求方法についての概要が理解できるようにします。 反転授業、グループワーク、グループディスカッションなどのアクティブラーニングを主体に授業を進めていきます。協働的な学修を通じて、自分の考えをまとめ、議論できる能力を身につけることが期待できます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 接骨院経営の現状や将来性について理解しましょう。 2. 接骨院業務における療養費について、理解し説明することができるようにしましょう。 3. 施術録や療養費申請書の記載について理解し説明できるようにしましょう。 4. 交通事故や労災の療養費や申請方法の概要について理解し説明できるようにしましょう。 5. 柔道整復師国家試験における「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」の出題範囲の出題形式や問題内容を正しく理解し、正解を導く事ができるようにしましょう。</p>
授業計画	<p>1回目 接骨院経営の現状 1 <b>【到達目標】</b> 接骨院経営の現状を理解し、説明できる。 <b>【授業形態】</b> 反転授業の説明、パソコンとインターネットを用いて課題を遂行する。 <b>【備考】</b> 教科書は使用しません。大学のパソコンを使用しての授業となります。</p> <p>2回目 接骨院経営の現状 2 <b>【到達目標】</b> 接骨院経営の現状について理解を深める。 <b>【授業形態】</b> 反転授業とグループワークを行います。 <b>【備考】</b> 前回授業で調べたことや家庭学習で得られた知識を基にグループディスカッションし、ディスカッションした内容をまとめてもらいます。</p> <p>3回目 接骨院経営の現状と未来 <b>【到達目標】</b> 接骨院経営の現状と未来について理解し、説明できる。 <b>【授業形態】</b> グループ単位の発表およびディスカッション <b>【備考】</b> これまで調べグループ内でディスカッションした内容をグループ単位で発表してもらいます。その発表内容について全員でディスカッションします。</p> <p>4回目 療養費制度の概要 <b>【到達目標】</b> 現物給付と現金給付の相違を理解し説明できる。 療養費の支給条件を説明できる。 受領委任払いと償還払いについて説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 教科書 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 p 1 9－2 4 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5回目 療養費の推移、療養費の算定 <b>【到達目標】</b> 療養費の推移について理解できる。 療養費の算定方法について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 p 2 4－3 2 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6回目 施術録と一部負担金、労災と交通事故の請求 <b>【到達目標】</b> 施術録の記載事項を理解できる。 患者一部負担金について説明できる。 交通事故と労災の療養費請求の概要が理解できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p>

7回目	<p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 p 33-48までを予習しましょう。 まとめおよび定期試験</p> <p>【到達目標】 柔道整復師の療養費について説明できる。</p> <p>【授業形態】 定期試験および問題解説（講義形式）、グループワークを実施します。</p> <p>【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 p 19-48に記載されている内容と授業 ノートを復習し授業に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	<p>(1)反転授業については、課題を提示します。事前に確認し予習してください。 (2)講義形式の授業では復習が重要です。ノートは講義の板書やスライドを書き写すのではなく、自分の言葉で 噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語 句を事前に調べておくのも良い方法です。 復習：小テストにおいて不正解部分や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書などを用いて35分程度調 べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	(公社)全国柔道整復学校協会監修 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 (医歯薬出版)
参考書	特にありませんが、必要に応じて紹介したいと思います。
成績評価	定期試験(50%)、2回行う理解度確認テスト(5%)およびレポート(45%)により評価します。 定期試験の正解および解説は試験時間終了後の授業時間内にフィードバックします。
担当教員の基本情 報	<p>担当教員の基本事項 担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日午前11:00~12:00</p>
備考	<p>①担当教員自身柔道整復師であり、昭和19年開業の接骨院の三代目として現在接骨院を経営しております。 その経験と実績を生かし、より具体的な例を挙げ授業を展開していきます。</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目はスポーツ現場に赴きスポーツ外傷の応急処置の実際を見学する。また、スポーツ外傷・障害のためのケアを地域マラソン大会等の選手に行い、選手とコミュニケーションを取りながらケアの実践を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ外傷の応急処置の実践を理解することができる。</li> <li>・スポーツケアの方法を理解し、実践することができる。</li> <li>・スポーツ選手とコミュニケーションをとることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>実習概要 本実習では下記の大会および、施設で実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南丹トライアスロン ケア実習 場所：南丹市八木町 運動公園 実習内容：大会参加選手へのケア（ストレッチ等）</li> <li>・丹羽ロードレース ケア実習 場所：丹羽自然公園 実習内容：大会参加選手へのケア（ストレッチ、大会前のウォーミングアップ指導）</li> <li>・亀岡マラソン大会 ケア実習 場所：亀岡運動公園 実習内容：大会参加選手へのケア（ストレッチ、大会前のウォーミングアップ指導）</li> <li>・兵庫県柔道大会 応急処置実習 場所：兵庫県 実習内容：大会での応急処置の補助 見学</li> <li>・奥伊吹スキー場 応急処置実習 場所：奥伊吹スキー場 実習内容：スキー場内 パトロール室横 応急処置の補助 見学</li> </ul> <p>全体オリエンテーションは4月の初旬に行い、各実習の1週間前にグループに分かれ実習前オリエンテーションを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習にて学んだ応急処置の方法やストレッチを復習しておくこと。
教科書	教科書指定なし
参考書	IDストレッチ：平野 幸伸（著），鈴木 敏和（著），鈴木 重行（編集） 三輪書店 ISBN-13: 978-4895902397
成績評価	実習内評価（50%）、実習レポート（50%）によって評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>岡田成賛 宮坂卓治 川村茂 沖和久 神内伸晃 吉田勲生 泉晶子 大木琢也 児玉香菜絵 棚原勝平 濱口夏花</p> <p>実習担当窓口：神内伸晃 泉晶子 メールアドレス：n_jinnnai@meiji-u.ac.jp a_izumi@meiji-u.ac.jp</p> <p>質問等あれば、上記のメールアドレスまたはメリーにて連絡ください。</p>
備考	実習簿をよく読み、実習中の服装、注意点を確認するようにしておくこと。
	DPとの関連 2-◎ 4-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
赤澤 淳、神内 伸晃			
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、スポーツにおけるパフォーマンスを科学的に分析し説明するための知見および技術を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション/スポーツバイオメカニクスとは 野球の投球動作について 【到達目標】 スポーツバイオメカニクスについての意義を理解し、本授業における野球の投球動作について理解することを目的とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の課題を少人数によるグループワークを通して投球動作の理解を深める。	
	第2回	サッカーの蹴る動作について 【到達目標】 サッカーにおける蹴る動作についてスポーツバイオメカニクスの観点から理解すること目的とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の課題を少人数によるグループワークを通して蹴る動作の理解を深める。	
	第3回	跳躍動作 【到達目標】 跳躍動作についてスポーツバイオメカニクスの観点から理解すること目的とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の課題を少人数によるグループワークを通して跳躍動作の理解を深める。	
	第4回	呼吸とスポーツバイオメカニクス 【到達目標】 呼吸と運動動作についてスポーツバイオメカニクスの観点から理解すること目的とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の課題を少人数によるグループワークを通して呼吸と運動の理解を深める。	
	第5回	スポーツ動作と空気抵抗 【到達目標】 スポーツ競技において風力によって競技成績が大きく影響することがある。本授業ではスポーツと風力、空気抵抗の関わりについてスポーツバイオメカニクスの観点から理解すること目的とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の課題を少人数によるグループワークを通して空気抵抗とスポーツと競技の理解を深める。	
	第6回	ラケット競技における打つについて 【到達目標】 野球のバットをもつての打つ、テニスやバドミントン、卓球における打つの本質をスポーツバイオメカニクスを通して理解すること目的とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の課題を少人数によるグループワークを通してラケット競技の打つについて理解を深める。	
	第7回	授業まとめ 第1～6回の授業の復習を行い、各授業で行った内容を説明できることを目標とする。 【授業形態】：アクティブ・ラーニング：有 授業内の復習課題を少人数によるグループワークを通してお互いで説明し理解を深める。小テストを行い、授業内容の確認を行う。	
	第8回	トレーニングにおける筋肥大と筋力増強 到達目標： ・スポーツバイオメカニクスの概要を説明できる ・筋腱複合体について説明できる。 ・筋肥大、筋力増強、そして筋疲労について説明できる。 授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	力学の基礎と応用	

	<p>到達目標：  ・ベクトルを計算できる。  ・姿勢を維持するのに必要な力を計算できる。  ・テコの原理で速く走れることが説明できる。  授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第10回  立位，歩行，走行におけるヒトの特徴</p> <p>到達目標：  ・立位，歩行，走行の特徴をそれぞれ説明できる。  ・速度，加速度，移動距離が計算できる。  授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第11回  ヒトの運動におけるエネルギー</p> <p>到達目標：  ・身体運動のガソリンについて説明できる。  ・運動に必要なエネルギーが計算できる。  ・運動連鎖の法則を説明できる。  授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第12回  スポーツにおける衝撃の吸収と速さの変化</p> <p>到達目標：  ・着地時の衝撃吸収について説明できる  ・球技における空気抵抗について説明できる。  ・フィギュアスケートにおけるスピンについて説明できる。  授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第13回  試験及びまとめ</p> <p>到達目標：全体的な概要の説明ができる。  授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第14回  総括  到達目標：講義全体を振り返り，スポーツバイオメカニクスを総合的に判断し説明することができる。  授業形態：確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義の項目に対して参考書を読み予習(約130分程度)すること。講義の後，配布プリントや参考書を用い復習(約130分程度)すること
教科書	特に指定しない。
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 金子 公宥 杏林書院 スポーツ動作の科学ーバイオメカニクスで読み解く 深代 千之 東京大学出版会
成績評価	前半7コマ (50%)，後半7コマ (50%)により評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 赤澤 淳  研究室 : 8号館4階講師室  オフィスアワー : 授業の終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 神内伸晃  研究室 : 8号館4階講師室  メールアドレス : n_jinnai@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 授業の終了後1時間</p>
備考	DPとの関連「◎-1」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛 他			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、臨床現場で柔道整復師またはスポーツトレーナーとして活躍している方を招き、教員が行っている柔道整復における施術のひとつである整復、固定方法について教授する。また、スポーツ現場で実践的に効果の高いトレーニング方法や身体ケアの方法を教授する。</p> <p>本科目では、臨床現場で大切な知識や学びとは何かを把握し、1～3年次で学んだ内容から発展させた知識を得ることを目的とする。</p> <p>本科目では講義の中で小グループにわかれ、アクティブラーニングを主体とした学びを展開する。各授業では教員からの課題や質問を自ら考え、グループ内でワークを行う。</p>		
授業計画	第1講義	<p>JICA草の根技術協力事業パートナー型日本伝統治療（柔道整復術）における活動をとおして：担当五反田</p> <p>【到達目標】 日本柔道整復師会が行ったJICA草の根技術協力事業パートナー型日本伝統治療（柔道整復術）における活動の内容を知り、これからの柔道整復師として世界の医療と国際的な活動はどのようなことかを理解することを目標とする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり この授業で行った内容を通して柔道整復師と国際医療について小グループでディスカッションを行う。</p> <p>【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p>	
	第2講義	<p>レントゲン画像による読影方法：担当五反田</p> <p>【到達目標】 柔道整復師が臨床現場で遭遇する外傷のレントゲン画像の読影方法を学び、レントゲン画像をみるためのポイントを理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり この授業で行った内容を通してレントゲン画像を小グループで見てもポイントを把握するためワークを行う。</p> <p>【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p>	
	第3講義	<p>腰痛の診断と治療：担当山村</p> <p>【到達目標】 急性腰痛における診察のポイントと治療法について学び、理解することを目標とする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：無し</p> <p>【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p>	
	第4講義	<p>膝痛の診断と治療担当山村</p> <p>【到達目標】 外傷性膝疾患における診察のポイントと治療法について学び、理解することを目標とする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：無し</p> <p>【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p>	
	第5-6講義	<p>外傷予防のためのトレーニング1：担当松本</p> <p>本授業では外傷予防の重要性を理解し、スポーツ選手に実際に行っているトレーニング方法を教授する。</p> <p>【到達目標】 外傷予防プログラムの知識を理解できる。 外傷予防のトレーニング方法を行うことができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。</p> <p>【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成のための準備を行う。</p>	
	第7-8講義	<p>外傷予防のためのトレーニング2：担当袖野</p> <p>接骨院やスポーツ選手に実際に行っている姿勢改善トレーニングを教授する。</p> <p>【到達目標】 異常姿勢について理解できる。 姿勢改善のトレーニング方法を行うことができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：あり 授業で学んだトレーニング方法をペアで実践し、効果を考える。</p> <p>【備考】 自主学習の課題：授業内容をまとめ課題レポート作成</p>	

	のための準備を行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業内で学んだ内容をおおむね60分ほど復習し、レポート課題作成時間にあてる。
教科書	授業内の配布プリントを使用する。
参考書	柔道整復理論第5版 標準整形外科
成績評価	各授業内容において得られた知識をまとめ、レポートとして提出する。 評価は出席率を満たした者に対して評価を行い、レポートにより評価(100%)を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岡田成賛 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業日の18:30~19:30  担当教員名 : 五反田重夫 袖野建 山村徳三 松本健二 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後の1時間
備考	ディプロマポリシーとの関連: 「③-◎」 「④-○」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択
担当教員			
岩内 和也、齊藤 昌久			
配当学部：保健医療学部 柔道整復学科	時間数：30時間	授業形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス2H423_ジュニアスポーツの指導の実際 I _柔整_齊藤・岩内.xlsx			

授業目標	スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。 本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、 (1)概論① [到達目標] 子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解し説明できる。</p> <p>第2講 (1)概論② [到達目標] 前時の理解を基に、ジュニアスポーツ指導員の役割と求められる資質について説明できる。</p> <p>第3講 (2)コーチング① [到達目標] ジュニア期のコーチングの目指すもの、発達に応じたコーチングについて理念を理解し説明できる。</p> <p>第4講 (2)コーチング① [到達目標] ジュニア期のコーチングにおける留意点について説明できる。</p> <p>第5講 (3)体力 [到達目標] ①発育期の体格の変化、体力の変化や特徴を理解し説明できる。 ②体力テストのねらいや種類、その活用について理解する。</p> <p>第6講 (4)動きの発達 [到達目標] 発育期における動きの発達について、その機序と特徴を理解し、発達段階に応じた効果的かつ適切な運動指導ができる知識を習得する。</p> <p>第7講 (5)心理① [到達目標] 幼少年期の運動との出会いが持つ意味、子どもの人格的・認知的・社会的発達と運動遊びの関係を知る。</p> <p>第8講 (5)心理② [到達目標] 運動遊びが子どもの心に及ぼす影響について基礎的知識の理解を通して、運動遊びの指導ができる。</p> <p>第9講 (6)栄養① [到達目標] 生涯の健康づくりの基礎となる栄養・食事摂取の考え方と正しい食習慣を獲得するための栄養教育方法を学ぶ。</p> <p>第10講 (6)栄養② [到達目標] 栄養・食事面の課題に対して具体的な対処ができる指導力を身につける。</p> <p>第11講 (7)スポーツ医学① [到達目標] スポーツに関連する外傷や障害の発生原因や背景を学ぶ。</p> <p>第12講 (7)スポーツ医学② [到達目標] 安全で科学的なトレーニング方法について理解し実践できる。</p> <p>第13講 (8)女性とスポーツ① [到達目標] 女性の身体的・体的特徴、起こり得る諸問題、月経に関する基礎知識を深める。</p> <p>第14講 (8)女性とスポーツ② [到達目標] 女性としての健康に配慮したスポーツ活動への参加について、適切な指導ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義のタイトルを事前学習（予習35分）するとともに、受講後に学習したことをまとめる（復習35分）。
教科書	公益財団法人日本スポーツ協会

	「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
参考書	特定の参考書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
成績評価	4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価方法と評価割合（試験50%、小テスト・レポート30%、受講状況20%）
担当教員の基本情報	担当教員名： 齊藤 昌久 / 岩内和也 研究室： 齊藤（8号館4階 研究室） / 岩内（6号館1階 非常勤講師室） メールアドレス： ma_saito@meiji-u.ac.jp / オフィスアワー： 授業開始前及び授業終了後に受け付ける
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1、 ○-2
	担当の岩内和也先生は、永年にわたり府立高等学校の保健体育の教員をし、教科指導以外にもスポーツ（サッカー）のコーチングも行ってこられた。この豊かな指導経験をもとに「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ・Ⅱ」について実習指導を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
岩内 和也、齊藤 昌久			
配当学科：保健医療学部 柔道整復学科_救命 合同	時間数：30時間	授業形態：演習（対面/オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス2H424_ジュニアスポーツの指導の実際Ⅱ_柔整_齊藤・岩内.xlsx			

授業目標	<p>「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ」では、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ」で学んだ内容を基に実際にどのように指導すればよいのかを実技を通して学んでいく。</p> <p>併せて、指導に際しての事前準備、指導計画の立案、指導実践、指導内容について学び、自分自身の指導の評価と改善、応用実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>また、総まとめとして、実際の指導現場（ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等）で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験する（体験実習）。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、授業（実習）の進め方について [到達目標] 授業（実習）のすすめ方を理解する</p> <p>第2講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（1） [到達目標] ジュニア期における運動遊びの価値について理解し説明できる。</p> <p>第3講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（2） [到達目標] 発達段階に応じた運動遊びの選択ができる。</p> <p>第4講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（3） [到達目標] 発達段階に応じたスポーツの選択ができる。</p> <p>第5講 スポーツ指導における運動遊びの活用について [到達目標] スポーツ指導における運動遊びの活用場面、活用方法について理解する。</p> <p>第6講 アイスブレイクの必要性について（1） [到達目標] アイスブレイクの必要性について理解し説明できる。</p> <p>第7講 アイスブレイクの必要性について（2） [到達目標] スポーツの指導現場で使えるアイスブレイク的具体例を作成することができる。</p> <p>第8講 運動遊びをアレンジする必要性について [到達目標] 運動遊びをアレンジする必要性とその方策について理解し説明できる。</p> <p>第9講 指導プログラムの作成について [到達目標] 指導プログラムの作成手順、留意点を理解し指導プログラムを作成できる。</p> <p>第10講 プログラムの指導実践について [到達目標] 指導実践を行う際の留意点（ねらい、観察、働きかけ）を理解し説明できる。</p> <p>第11講 指導内容の評価方法について [到達目標] 指導内容の振り返り手順について理解し説明できる。</p> <p>第12講 ジュニアスポーツ指導体験実習（1） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。</p> <p>第13講 ジュニアスポーツ指導体験実習（2） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。</p> <p>第14講 まとめ [到達目標] 授業のまとめとなる「レポート」を作成する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習として、教科書のタイトルに示した内容について、事前学習をする。（予習35分） 事後学習として、授業内容や実践・作成したプログラムについてまとめる。（復習35分）
教科書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
参考書	特定の参考書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
成績評価	(1) 4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

	(2) 授業取状況及び出席状況：50%    プログラム作成・発表：30%    指導体験実習、レポート：20%
担当教員の基本情報	担当教員名： 齊藤昌久 / 岩内和也 研究室： 齊藤（8号館4階 研究室） / 岩内（6号館1階 非常勤講師室） メールアドレス： ma_saito@meiji-u.ac.jp / オフィスアワー： 授業開始前及び授業終了後に受け付ける
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1、 ○-2
	担当の岩内和也先生は、永年にわたり府立高等学校の保健体育の教員をし、教科指導以外にもスポーツ（サッカー）のコーチングも行ってこられた。この豊かな指導経験をもとに「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ・Ⅱ」について実習指導を行う。

講義科目名称： 卒業研究Ⅱ

授業コード： 2H425

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
岡田 成賛			
添付ファイル			

授業目標	<p>概要 本科目では卒業研究Ⅰに引き続き、各担当教員の指導の下に研究テーマを掘り下げ、調査研究・実験研究などを行い、卒業論文を完成させ、1年間の成果としてまとめる。</p> <p>目標 研究テーマに基づいた仮説を個人またはグループで研究結果から検討し、考察するまでの過程を導き出せることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1～30回 調査研究・ヒトを対象とした研究をしてみよう</p> <p>概要 卒業研究Ⅰで行った内容をベースとして研究を行い、卒業論文を完成させる。</p> <p>目標 1) 対象者に対してインフォームドコンセントを実施することができる。 2) 測定方法を理解し、安全に研究を行うことができる。 3) 研究結果をまとめることができる 4) 卒業論文を作成することができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各指導教員の指導の下、論文や研究結果内容をまとめる
教科書	なし
参考書	<p>論文・レポートの基本 著者：石黒圭・日本実業出版社・ISBN: 4534049277</p> <p>新版 論文の教室 レポートから卒論まで 著者：戸田山 和久 NHK出版 ISBN-13: 978-4140911945</p> <p>ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方 著者：石井一成 ナツメ社 ISBN-13: 978-4816350573</p>
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。各指導教員によって学習到達度を加味して評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員：岡田成賛 メールアドレス：s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：質問がある場合は事前にメールにて連絡をください。</p> <p>ゼミ担当教員：岡田成賛、松本和久、宮坂卓治、斎藤昌久、池内隆治、林知也、川村茂、木村篤史 渡邊康晴、神内伸晃、吉田勲生、泉晶子、大木琢也、児玉香菜絵、濱口夏花</p>
備考	DPとの関連 3-◎ 4-○
	関連学会や研修会等の参加は各ゼミの担当教員と相談し決めること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション～医療の歴史 イントロダクションとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第8回 まとめ 第1回～第7回の講義のまとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。</p>
教科書	なし(講義でプリントを配布します)
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	<p>担当者：北小路博司 研究室：非常勤講師室 メールアドレス： オフィスアワー：講義終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：柔道整復学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、体育・スポーツの基礎的概念について解説し、体育科学・スポーツ科学の基礎的知識を学びながら、体育・スポーツについて、その基礎的概念や科学的な知識をより深く体系的に理解するための能力を育成する。また、それに従い体育・スポーツの目標論を検討しながら、スポーツ原理について体系的に学習し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 「原理」の概念 本授業内容の方向付け  [到達目標] 「原理」の基礎概念について理解できる。  予習：身近にあふれている「原理」と名の付く言葉を集めてくる（60分）  復習：「原理」について学んだことを復習しておく（60分）</p> <p>第2講 体育とスポーツ（1）  [到達目標] 体育とスポーツの違いについて理解できる。  予習：体育とは何か。またスポーツとは何か考えておく（60分）  復習：体育とスポーツの違いについて学習内容を復習しておく（60分）</p> <p>第3講 体育とスポーツ（2）  [到達目標] 体育・スポーツにおける哲学的解釈を理解できる。  予習：体育・スポーツにおける「哲学」とは何かを考えてくる（60分）  復習：原理の哲学的解釈について復習しておく（60分）</p> <p>第4講 身体教育の歴史を「原理」的に解析  [到達目標] 体育原理とスポーツ原理を対比できる。  予習：「体育原理」と「スポーツ原理」の違いを明確にしてくる（60分）  復習：本時で学んだ両者の違いを対比表でまとめてくる（60分）</p> <p>第5講 スポーツ科学  [到達目標] スポーツ科学を原理的に分析できる。  予習：スポーツ科学の現状を調べてくる（60分）  復習：スポーツ科学発展の歴史について、古代から近代までの年表を作成する（60分）</p> <p>第6講 スポーツの概念とその歴史  [到達目標] 遊びから競技への発展過程を原理的に解釈できる。  予習：現在の各種スポーツが、競技種目として完成されるまでの経緯を調べてくる（60分）  復習：各種スポーツ競技が完成されていった過程を時系列に並べ、一覧表を作成する（60分）</p> <p>第7講 文化としてのスポーツ  [到達目標] 「伝統的な競技」から「競技スポーツ」への発展について考えることができる。  予習：古代から近代までの伝統的競技が、競技スポーツに発展した事例を調べる（60分）  復習：古代からの伝統競技と近代スポーツ競技の完成経緯がわかる年表を作成する（60分）</p> <p>第8講 オリンピック（1） オリンピックの歴史  [到達目標] 古代オリンピックと近代オリンピックを対比できる。  予習：古代オリンピックと近代オリンピックの歴史を調べてくる（60分）  復習：オリンピックの歴史年表を作成する（60分）</p> <p>第9講 オリンピック（2）  [到達目標] オリンピックと経済の関係について「原理」の側面から分析できる。  予習：オリンピックにおける経済効果が注目され始めた時代背景を調べてくる（60分）  復習：古代と現代で、オリンピック大会の在り方がどのように変わっていったか時系列にまとめる（60分）</p> <p>第10講 ドーピングの哲学  [到達目標] ドーピングの哲学について「原理」の立場から分析できる。  予習：なぜドーピングに走るのか、その背景を事例ごとに時系列にまとめてくる（60分）  復習：ドーピングすることに追い込まれた選手の心理的背景を一覧表にして整理する（60分）</p> <p>第11講 スポーツマンシップとフェアプレイ  [到達目標] スポーツマンシップとフェアプレイを「原理的」に分析できる。  予習：スポーツマンシップとフェアプレイについて、話題になった事例を集めてくる（60分）  復習：スポーツマンシップが無くなると、競技はどうなるのかまとめる（60分）</p> <p>第12講 コーチング、スポーツ指導者におけるスポーツ原理とは  [到達目標] スポーツにおける指導者の在り方について考えることができる。  予習：「いいコーチ」と「わるいコーチ」の、実際にあった事例を集めてくる（60分）  復習：コーチングの原理的解釈について理解したことをまとめる（60分）</p> <p>第13講 「女性とスポーツ」の原理  [到達目標] 近代科学と女性のスポーツ活動について解析できる。  予習：女性が参加しやすくなったスポーツ社会背景を科学的な視点から調べてくる（60分）  復習：科学の発展と女性のスポーツ活動の活性化を対比してまとめておく（60分）</p> <p>第14講 総括（定期試験）  [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第13講をまとめて理解できる。  予習：第1講～第13講をまとめておく（60分）</p>

	復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（60分）
授業時間外の学習 （準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-2。

講義科目名称： 分子生物学

授業コード： 2H301

英文科目名称： Molecular Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
添付ファイル			

授業目標	近年の医学や科学での進歩は、分子生物学で得られた知見が大きく貢献しており、分子生物学の基礎知識がなければ医学や科学の成果を正しく理解することは難しい。 本講義では、医療・科学の様々な分野で明らかにされた重要な分子生物学的知見や分子生物学的手法の概要を解説する。本講義の内容を理解し、医学や科学を分子生物学の視点からも理解できるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回目 分子生物学の歴史 到達目標：分子生物学の歴史、手法、モデル生物について説明できる。</p> <p>第2回目 分子生物学の基礎知識（核酸） 到達目標：クロマチン、染色体の構造と複製・転写機構について説明できる。</p> <p>第3回目 分子生物学の基礎知識（タンパク質） 到達目標：タンパク質への翻訳機構とその調節について説明できる。</p> <p>第4回目 分子進化 到達目標：分子の視点で生物の進化や種分化を説明できる。</p> <p>第5回目 分子発生生物学 到達目標：分子の視点で生物の発生機構を説明できる。</p> <p>第6回目 免疫学・微生物学における分子生物学 到達目標：免疫学・微生物学における分子生物学について説明できる。</p> <p>第7回目 現代医療・科学における分子生物学 到達目標：分子生物学の知見を利用した現代医療及び科学の概要を説明できる。 [備考]-omics、クローン技術、再生医学、遺伝子組み換え、遺伝子多型、microRNA、創薬などに活用される分子生物学について紹介する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考書などを参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習130分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習130分）
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書	「細胞の分子生物学（Molecular Biology of the Cell 日本語版）」 B. Alberts 他；ニュートンプレス 「ウィーバー分子生物学」 Robert F. Weaver；化学同人 「分子生物学」柳田充弘・西田栄介・野田亮 編；東京化学同人
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 評価はレポートによって行なう。
担当教員の基本情報	担当教員名：千葉章太 研究室：5号館2階 メールアドレス：s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水、金曜日放課後
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：柔道整復学科	30時間	講義形態：講義(対面、状況により遠隔)	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業内容】</b> 主に内科領域（呼吸器・循環器・消化器・内分泌器）の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と違って、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明できるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。</p>
授業計画	<p>1 リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ <b>【到達目標】</b> リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼについて説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 <b>【備考】</b> 教科書 p 79-86 までの予習し授業に臨みましょう。 3. 胃癌の分類（早期、進行）、病因と進展様式、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し、説明できる。</p> <p>2 浮腫、肥満、やせ、生命徴候の測定 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 86-94 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3 生理機能検査、呼吸器疾患（総論） <b>【到達目標】</b> 主な生理機能検査について説明できる。 呼吸器疾患に特有な症状について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 94-101 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4 呼吸器疾患1（かぜ症候群、インフルエンザ、急性・慢性気管支炎、肺炎、肺結核、気管支喘息、COPD） <b>【到達目標】</b> かぜ症候群、インフルエンザ、急性・慢性気管支炎、肺炎、肺結核、気管支喘息、COPDについて説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 101-109 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5 呼吸器疾患2（肺癌、肺血栓塞栓症、気胸） <b>【到達目標】</b> 肺癌、肺血栓塞栓症、気胸について説明できる。 <b>【授業形態】</b> 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。 <b>【備考】</b> 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 109-114 までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6 循環器疾患1（総論、うっ血性心不全、虚血性心疾患） <b>【到達目標】</b> 呼吸器疾患の主な症状について説明できる。 うっ血性心不全、虚血性心疾患について説明できる。 <b>【授業形態】</b></p>

7	<p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 114-119までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>循環器疾患2（心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、大動脈疾患、末梢動脈の疾患）</p> <p>【到達目標】 心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、大動脈疾患、末梢動脈の疾患について説明できる。</p> <p>【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p>
8	<p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 119-126までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>循環器疾患3（静脈疾患、不整脈）、消化器疾患1（総論）</p> <p>【到達目標】 静脈疾患、不整脈について説明できる。 消化器疾患の主要徴候について説明できる。</p>
9	<p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 126-131までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>消化器疾患2（消化管疾患）</p> <p>【到達目標】 腹部の触診について説明できる。 生命徴候（体温、血圧）とその検査法について説明できる。</p>
10	<p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 132-136までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>消化器疾患3（胃癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎、大腸癌、虫垂炎）</p> <p>【到達目標】 胃癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虚血性大腸炎、大腸癌、虫垂炎について説明できる。</p>
11	<p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 136-141までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>消化器疾患4（イレウス、肝胆膵疾患）</p> <p>【到達目標】 イレウス、肝胆膵疾患について説明できる。</p>
12	<p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 141-146までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>消化器疾患4（自己免疫性肝障害、脂肪肝、肝硬変、肝癌）</p> <p>【到達目標】 自己免疫性肝障害、脂肪肝、肝硬変、肝癌について説明できる。</p>
13	<p>主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p> <p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 146-150までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>消化器疾患5（胆石症、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌、急性・慢性膵炎、膵癌、腹膜疾患）</p> <p>【到達目標】 胆石症、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、総胆管癌、急性・慢性膵炎、膵癌、腹膜疾患について説明できる。</p>
14	<p>【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 150-156までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>まとめおよび試験</p> <p>【到達目標】 診察各論の各項目を説明できる。 呼吸器、循環器、消化器疾患の各疾患を説明できる。</p> <p>【授業形態】 試験と問題の解説およびグループワークを行います。 状況によってオンデマンドの授業となる場合があります。</p>

	<p>【備考】 教科書 p 79-156を予習し試験に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。 (2) 復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなし記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。 予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。 復習：小テストにおいて不正解や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書を用いて35分程度調べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	全国柔道整復学校協会監修、奈良信夫・吉澤靖之・椎名晋一著 “一般臨床医学（改訂第3版）”（医歯薬出版）
参考書	The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 <a href="http://merckmanual.jp/mmpej/index.html">http://merckmanual.jp/mmpej/index.html</a> 」 X線画像等も無料で見る ことができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	<p>成績評価および留意事項 定期試験(90%)および前回の講義内容の小テストを毎回授業ごとに行い(10%)その結果により評価します。 小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。 定期試験の正解および解説は掲示板等に提示しフィードバックします。 また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。そうなった場合、評価方法を若干変更する場合があります。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日午前11:00～12:00</p>
備考	<p>備考 ①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「内科学」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
糸井 啓純			
添付ファイル			

授業目標	<p>観血的治療としての外科学の基礎を総論と各論に分けて理解する。近年の外科学の進歩は目を見張るものがある。この半世紀に外科系の臨床医学は手術、麻酔、消毒、輸液等の進歩で飛躍的に発展を遂げた。しかし、外科学において普遍的に押さえておくべきポイントがある。前半の総論は外科学の基本である損傷、炎症、外科的感染症などについて、後半の各論は臓器別に外科的治療を解説する。講義へ積極的に参加し、幅広い医学的知識をもつことをこの講義の目標とする。</p> <p>外科学の講義は基礎医学（解剖学・生理学・病理学など）と臨床医学（内科学）の知識を前提としています。しかし、他の講義も同時に進むため、未だ学んでいない事項が出てくるかもしれません。このような場合、分からない点をメモし、教科書や参考書に戻って、再確認することが大切です。国家試験に出題される外科分野の問題は、たとえば、救急蘇生がその例で、新しい知識、考え方が要求されています。大規模災害やAEDの登場で、一般人の知識レベルが格段に上がっている中で、医療に携わる者として、必要不可欠な知識をしっかり学んでいただきたい。</p>
授業計画	<p>1回目 外科学概論 損傷と創傷（熱傷を含む） 糸井啓教授 外科学概論、損傷と創傷（機械的、非機械的損傷）について、その病態と治療を学ぶ。とくに熱傷を理解する。「創」と「傷」の違いを理解する。 授業時間外学習の指示等：外科とは何か予習する。創傷、特に熱傷について復習する。受験ポイントマスター(103-110, 135-138)</p> <p>2回目 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌 神山教授 炎症の原因・症状、感染症の概念を理解する。外科的感染症の治療（外科的処置）を理解する。無菌法、消毒法の実際を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：消毒法について予習する。外科的処置、消毒法について復習する。受験ポイントマスター(111-116)</p> <p>3回目 腫瘍の診断と治療、外科的栄養管理 糸井啓教授 腫瘍の検査法と治療法（手術・化学、放射線療法）を学ぶ。栄養管理（輸液・経腸栄養）を学び、栄養サポートチーム(NST)の意義を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍の診断と治療ならびに栄養管理（輸液・経腸栄養）について、予習する。受験ポイントマスター(117-126, 128-132)</p> <p>4回目 ショック、出血と止血法、輸血法、心肺蘇生法 神山教授 ショックの概念・分類を学ぶ。ショックに対する心肺蘇生法、一次救命処置を、AEDを含めて理解する。出血に対する止血法、輸血法を学ぶ。あわせて移植医療を理解する。 授業時間外学習の指示等：AEDについて予習する。心肺蘇生法、一次救命処置、輸血法、移植医療を復習する。受験ポイントマスター(126-131, 145-151)</p> <p>5回目 消化器外科の外科治療と内視鏡手術 糸井啓教授 消化器癌（食道癌・胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌・胆嚢癌など）の外科治療を学ぶ。とくに胃癌の外科手術を理解する。最新の腹腔鏡手術を理解する。 授業時間外学習の指示等：腫瘍について予習する。受験ポイントマスター(117-126) 消化器癌の外科治療を復習する。受験ポイントマスター(31-42, 135-138)</p> <p>6回目 急性腹症（腹部外傷を含む）の診断と治療 糸井啓教授 腹部外傷を含めた腹部外科疾患から急性腹症の診断と治療、とくに腸閉塞、腹膜炎について、学ぶ 授業時間外学習の指示等：配布したプリントをもとに、手術が必要な疾患を復習する。受験ポイントマスター(31-42, 170-172)</p> <p>7回目 胸部外傷と呼吸器外科 糸井啓教授 胸部外傷（気胸・血胸）の胸腔ドレナージなどの外科的処置を理解する。肺癌の診断、治療を学ぶ。 授業時間外学習の指示等：気胸について予習する。胸部外傷、気胸・血胸の病態と治療を復習する。受験ポイントマスター(42-46, 161-165)</p> <p>8回目 血管外科と内分泌外科（乳腺疾患） 神山教授 血管疾患の外科治療 大動脈瘤・動脈閉塞症・静脈疾患の外科治療について理解する。 内分泌外科では乳腺疾患の外科的治療について理解する。 授業時間外学習の指示等：受験ポイントマスター(169-170, 166,) 定期試験 講義で学んだ事項の理解度を評価する。講義全体のまとめとして筆記試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>外科学の総論・各論について 外科学では学ぶ項目が多岐に及ぶため、まとめの講義を設定しませんが、講義では適時まとめのプリントを配布します。そして、授業内容の理解度を確認するために、講義の重要な事項を試験問題の形式で提示します。これを解くことで、講義への理解を深めてください。それでも解決できない場合は、講義終了後やオフィスアワーに質問をしてください。</p>
教科書	<p>「外科学概論、改訂第4版 炭山嘉伸編（全国柔道整復学校協会監修）」（南江堂） 「受験ポイントマスター 柔道整復編 執筆小委員会編著」（医道の日本社）絶版</p>
参考書	<p>「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 洵編（金芳堂）絶版 「標準外科学」第14版 小柳 仁編（医学書院） 「国民衛星の動向2016/2017」（厚生労働統計協会）</p>

成績評価	定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井 啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00  担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
未定			
添付ファイル			

授業目標	現代医学に置いて外科手術の様に身体に取って大きな侵襲を加える処置は不可欠である。このような処置を安全に行う手段として、意識を取り痛みを抑え身体の安定を図る医療技術として麻酔科学は発展してきた。現代医学を理解する上で避けて通れない麻酔科学の概要を、代表的な薬剤の働きと病態生理学的背景を通して理解することが本講義の目標である。麻酔科学を元に発展して来た鎮痛法に関しても合わせて解説する。
授業計画	<p>1 総論 麻酔の意義、歴史、種類（全身麻酔と局所麻酔） 麻酔科関連領域（集中治療、ペインクリニック、緩和医療など）</p> <p>2 全身麻酔に用いる薬剤 全身麻酔薬、筋弛緩薬など</p> <p>3 全身管理に必要な生体監視装置（モニター） 意識消失時の危険 呼吸器系モニター、循環器系モニター、その他</p> <p>4 全身麻酔の実際① 術前のリスク評価と準備</p> <p>5 全身麻酔の実際② 術中の全身管理</p> <p>6 痛みのメカニズムと各種鎮痛薬、術後疼痛管理 痛みの伝達機構</p> <p>7 局所麻酔 局所麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔 神経ブロック法など</p> <p>8 まとめ（評価含む）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義ではレジメを配布しますが、講義を聞かずにそれだけを勉強するのは理解が難しく、また非効率的です。麻酔科学は、基礎では解剖学・生理学・薬理学、臨床では内科学や外科学とも深い関連があります。必ず授業計画の備考欄にあげた予習あるいは復習をしてくるようにしてください。
教科書	指定しない
参考書	標準麻酔科学(第6版) 医学書院
成績評価	講義の出席と定期試験により評価を行います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 野村 麻由子 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : m_nomura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 12:00-13:00
備考	

講義科目名称： リハビリテーション医学

授業コード： 2H307

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
柔道整復学科		講義 対面	
添付ファイル			

授業目標	2年次に習得した「機能解剖学」、「機能解剖学実習」の知識・技術を基に、関節に異常を来す原因を運動学的に評価し、治療に結びつけることができるための手順を模倣できるようになる。		
授業計画	1回目	<p>オリエンテーション：柔道整復師として前年度の「機能解剖学」、「機能解剖学実習」から関節の評価・治療へと発展するために、何故関節評価法が必要なのか説明できるようになる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>柔道整復師として前年度の「機能解剖学」、「機能解剖学実習」から関節の評価・治療へと発展するために、何故関節評価法が必要なのかを説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>前年度習得した「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。</p> <p>関節評価法が必要な理由をまとめる (復習35分)。</p>	
	2回目	<p>関節運動の基本：“一般化と一時的に誇張された”関節の基本的な動きを説明できるとともに、“一般化と一時的に誇張された”ことを考慮した関節の動きについて模倣することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>“一般化と一時的に誇張された”関節の基本的な動きと、“一般化と一時的に誇張された”ことを考慮した関節の動きについて説明することができ、かつ自らの身体で実施し、模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。</p> <p>「関節」は“一般化と一時的に誇張された”概念を含んでいることを理解し、臨床においては柔軟な解釈が必要であることを基本的な関節運動を通じて反復学習を行っておく (復習35分)。</p>	
	3回目	<p>肘関節の関節評価法1：回旋運動を含む肩関節と前腕に挟まれた肘関節の単純な動きを評価することから、関節評価法の基礎を説明することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>回旋運動を含む肩関節と前腕に挟まれた肘関節は運動軸を誤りやすい関節であることを理解し、その対処方法を説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。</p> <p>肘関節の運動軸を円滑に操作することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく (復習35分)。</p>	
	4回目	<p>肘関節の関節評価法2：回旋運動を含む肩関節と前腕に挟まれた肘関節の単純な動きを評価することから、関節を評価する方法を模倣することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>回旋運動を含む肩関節と前腕に挟まれた肘関節は運動軸を誤りやすい関節であることを理解し、その対処方法を考慮して実施し、適切な関節の状態に操作することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。</p> <p>肘関節の運動軸を円滑に操作することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく (復習35分)。</p>	
	5回目	<p>肘・前腕・手関節の関節評価法1：前腕の回旋運動は容易に制限されやすく、可動性の高い手関節の代償に依存する関節である。これらの特徴を踏まえて関節を評価する方法の手順を説明することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>肘・前腕・手関節の関連を踏まえた関節評価法の基礎を理解し、その対処方法を説明することができる。</p>	

6 回目	<p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 肘・前腕・手関節の関連を円滑に把握することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく(復習35分)。</p> <p>肘・前腕・手関節の関節評価法2：前腕の回旋運動は容易に制限されやすく、可動性の高い手関節の代償に依存する関節である。これらの特徴を踏まえた関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 肘・前腕・手関節の関連を踏まえた関節軸を的確に把握し、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 どのような対象であっても肘・前腕・手関節の関連の運動軸を誤らないように、複数の対象で教授された技術を反復学習しておく(復習35分)。</p>
7 回目	<p>膝関節の関節評価法1：回旋運動を含む股関節と下腿に挟まれた膝関節の単純な動きを評価することから、関節を評価する方法を説明することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 回旋運動を含む股関節と下腿に挟まれた膝関節は運動軸を誤りやすい関節であることを理解し、その対処方法を説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 膝関節の運動軸を円滑に把握することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく(復習35分)。</p>
8 回目	<p>膝関節の関節評価法2：回旋運動を含む股関節と下腿に挟まれた膝関節の単軸の運動軸を的確に把握し、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業概要 ] 回旋運動を含む股関節と下腿に挟まれた膝関節の単純な動きを評価することから、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 どのような対象であっても膝関節の運動軸を誤らないように、複数の対象で教授された技術を反復学習しておく(復習35分)。</p>
9 回目	<p>膝・下腿・足関節の関節評価法1：足関節は回旋を伴う下腿と膝関節の影響を大きく受けることから、これら膝・下腿・足関節の関連性を考慮した関節の評価方法を説明することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 膝・下腿・足関節の関連性を考慮した関節評価法の基礎を理解し、その対処方法を説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 膝・下腿・足関節の関連性を考慮した運動軸を円滑に把握することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく(復習35分)。</p>
1 0 回目	<p>膝・下腿・足関節の関節評価法2：足関節は回旋を伴う下腿と膝関節の影響を大きく受けることから、これら膝・下腿・足関節の関連性を考慮した関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 膝・下腿・足関節の関連性を考慮した運動軸を的確に把握し、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく(予習35分)。 どのような対象であっても膝・下腿・足関節の運動軸を誤らないように、複数の対象で教授された技術を反復学習しておく(復習35分)。</p>
1 1 回目	<p>股関節の関節評価法1：深部に位置する股関節の複雑な動きを評価することから、関節の評価方法を説明することができる。</p>

	<p>[ 到達目標 ]  深部に位置し複雑な動きをする股関節は運動軸を誤りやすい関節であることを理解し、その対処方法を説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)  「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。  股関節の運動軸を円滑に把握することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく (復習35分)。  股関節の関節評価法2：深部に位置する股関節の複雑な動きを評価することから、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]  深部に位置し複雑な動きをする股関節の運動軸を的確に把握し、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)  「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。  どのような対象であっても股関節の運動軸を誤らないように、複数の対象で教授された技術を反復学習しておく (復習35分)。</p> <p>1 2 回目</p> <p>1 3 回目</p> <p>1 4 回目</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)  「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。  肩関節の運動軸を円滑に把握することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく (復習35分)。  肩関節の関節評価法2：多くの関節から形成される肩関節の最も複雑な動きを評価することから、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]  多くの関節から形成される肩関節の運動軸を的確に把握し、関節の評価方法を模倣することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)  「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく (予習35分)。  どのような対象であっても肩関節の運動軸を誤らないように、複数の対象で教授された技術を反復学習しておく (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義範囲について事前に前年度の資料ならびに解剖学教科書を熟読しておくこと (35分)。 講義後、各関節の運動軸を円滑に操作することができるように、対処方法をシュミレーションしながら反復学習しておく (35分)。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：(社) 全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	講義直後の提出物 (100%) により評価する。 提出物の評価は、講義内容の要約 (項目と概要) が3/4以上記載されていれば優、3/4未満1/2以上であれば良、1/2未満1/4以上であれば可、1/4未満は不可と評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：松本 和久 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:00-17:00
備考	35年間、病院に勤務し、その病院のリハビリテーションセンターにおける実務経験をもとに「関節評価法」についての授業をすすめる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
柔道整復学科		実習 対面	
添付ファイル			

授業目標	本実習では、前年度履修した「機能解剖学実習」と前期に履修した「関節評価法」および「後療法技術学演習」の知識・技術を用いて、関節傷害により生じる可能性のある関節障害を予測し予防する、あるいは生じた関節障害を改善するための手法を選択する判断基準となる関節可動域測定が実施できるよう、対象者に触れ適切な肢位をとらせ、角度計を適切に操作して、関節の可動域を調べることができる。
授業計画	<p>1回目</p> <p>オリエンテーション：本実習は次年度の「臨床実習」を可能にするための知識・技術の習得を目的とし、前期の「関節評価法」、「後療法技術学演習」の知識・技術を関係付けて理解し、説明できる。</p> <p>〔到達目標〕 本実習の目的を具体的に述べることができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 「機能解剖学」「機能解剖学実習」の知識・技術について復習しておく（予習35分）。 関節の評価方法の概要が説明できるようにまとめておく（復習35分）。</p> <p>2回目</p> <p>肩関節の関節評価法（1）：肩関節の基本的な関節可動域の測定方法を模倣する。</p> <p>〔到達目標〕 肩関節の基本的な関節可動域の測定方法を模倣することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 肩関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。 肩関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>3回目</p> <p>肩関節の関節評価法（2）：肩関節の関節可動域を正確に調べる。</p> <p>〔到達目標〕 肩関節の関節可動域を正確に調べることができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 肩関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。 正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>4回目</p> <p>肘・前腕の関節の関節評価法（1）：肘・前腕の基本的な関節可動域の測定方法を模倣する。</p> <p>〔到達目標〕 肘・前腕の基本的な関節可動域の測定方法を模倣することができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 肘・前腕関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。 肘・前腕関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく（復習35分）。</p> <p>5回目</p> <p>肘・前腕の関節の関節評価法（2）：肘・前腕の関節可動域を正確に調べる。</p> <p>〔到達目標〕 肘・前腕の関節可動域を調べることができる。</p> <p>〔授業形態〕 アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>〔備考〕（授業時間外学習の指示） 肘・前腕関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく（予習35分）。 肘・前腕関節の関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく（復習</p>

6 回目	<p>35分)。  手関節の関節評価法(1)：手関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  〔到達目標〕  手関節の基本的な関節可動域を正確に模倣することができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  〔備考〕(授業時間外学習の指示)  手関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。  手関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく(復習35分)。</p>
7 回目	<p>手関節の関節評価法(2)：手関節の関節可動域を正確に調べる。  〔到達目標〕  手関節の関節可動域を調べることができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  〔備考〕(授業時間外学習の指示)  手関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。  手関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく(復習35分)。</p>
8 回目	<p>股関節の関節評価法(1)：股関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  〔到達目標〕  股関節の基本的な関節可動域を正確に模倣することができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  〔備考〕(授業時間外学習の指示)  股関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。  股関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく(復習35分)。</p>
9 回目	<p>股関節の関節評価法(2)：股関節の関節可動域を正確に調べる。  〔到達目標〕  股関節の応用的な関節可動域を正確に測定することができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  〔備考〕(授業時間外学習の指示)  股関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。  股関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく(復習35分)。</p>
10 回目	<p>膝関節の評価法(1)：膝関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  〔到達目標〕  膝関節の基本的な関節可動域を正確に測定することができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  〔備考〕(授業時間外学習の指示)  膝関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。  膝関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく(復習35分)。</p>
11 回目	<p>膝関節の評価法(2)：膝関節の関節可動域を正確に調べる。  〔到達目標〕  膝関節の応用的な関節可動域を正確に測定することができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。  〔備考〕(授業時間外学習の指示)  膝関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく(予習35分)。  膝関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく(復習35分)。</p>
12 回目	<p>足関節評価法(1)：足関節の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。  〔到達目標〕  足関節の基本的な関節可動域を正確に測定することができる。  〔授業形態〕  アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p>

	<p>トを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 足関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。 足関節の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく (復習35分)。 足関節評価法 (2) : 足関節の関節可動域を正確に調べる。 [ 到達目標 ] 足関節の応用的な関節可動域を正確に測定することができる。 [ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 足関節の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。 足関節の正確な関節可動域を正確に測定することが可能になるまで反復練習を行っておく (復習35分)。 1 4 回目 体幹の評価法: 体幹の基本的な関節可動域測定方法を模倣する。 [ 到達目標 ] 体幹の基本的な関節可動域を正確に測定することができる。 [ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有: 授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 体幹の解剖学・運動学的な基本知識の再学習と、関節評価法の内容を復習しておく (予習35分)。 体幹の関節可動域測定法の模倣練習を行っておく (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	1, 2年次に学んだ解剖学・運動学の再復習と3年前期に学んだ関節評価法の資料を熟読しておくこと。(予習35分) 履修した内容を自らの身体、および友人、家族の身体を用いて反復学習を行うこと。(復習35分)
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修: (社) 全国柔道整復学校協会 南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修: (社) 全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	授業内の実技において基本肢位、基本軸と移動軸、他動と自動および応用、正確さ、対象への配慮の5項目から評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名: 松本 和久 研究室: 8号館4階教授室 メールアドレス: k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日16:00-17:00
備考	35年間、病院に勤務し、その病院のリハビリテーションセンターにおける実務経験をもとに「関節評価法実習」についての授業をすすめる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
神内 伸晃			
添付ファイル			

授業目標	手関節・手指における骨折・脱臼・軟部組織損傷についての発生機序、症状、治療方法について学び、各外傷について理解することを目標とする。		
授業計画	第1講義	<p>授業オリエンテーション・前腕骨の骨折（コーレス骨折・スミス骨折）231～237ページ 本授業の概要と学習方法について説明を行う。その後、上記テーマについての授業を行う。 前腕骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第2講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第2講義	<p>前腕骨の骨折（ショーファー・バートン骨折）237～238ページ 前腕骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第3講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第3講義	<p>手根骨骨折（舟状骨骨折）239～243ページ 手根骨骨折（舟状骨骨折）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第4講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第4講義	<p>月状骨骨折とその他の手根骨骨折について 243～245ページ 月状骨骨折とその他の手根骨骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第5講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第5講義	<p>中手骨の骨折について 246～252ページ 中手骨の骨折における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第6講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第6講義	<p>基節骨・中節骨・末節骨の骨折（マレットフィンガー）について 252～261ページ 基節骨・中節骨・末節骨の骨折（マレットフィンガー）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第7講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第7講義	<p>手関節および手指部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼）について 276～279ページ 手関節および手指部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第8講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第8講義	<p>手根中手関節脱臼・中手指節関節脱臼について 279～283ページ 手根中手関節脱臼における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第9講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第9講義	<p>近位指節間（PIP）・遠位指節間（DIP）関節脱臼について 283～286ページ 近位指節間（PIP）・遠位指節間（DIP）関節脱臼における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>☆自主学習の課題について☆ 上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第10講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第10講義	<p>末梢神経障害（正中・橈骨・尺骨神経障害）について 305～308ページ 末梢神経障害（正中・橈骨・尺骨神経障害）における発生機序、症状、整復、固定について学び理解することを目的とする。</p> <p>上記タイトルにあるベ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。 ※第11講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p>	
	第11講義	<p>手関節および手指部の障害1（TFCC・ロッキングフィンガー、第1指の靭帯損傷）308～312ページ</p>	

	<p>手関節および手指部の障害（キーンバック病・ばね指・ドゥケルバン病）発生機序、症状、固定、後療法について学ぶ。  ☆自主学習の課題について☆  上記タイトルにあるペ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。  ※第12講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p> <p>手関節および手指部の障害2（キーンバック病・ばね指・ドゥケルバン病、末梢神経障害）について 313～315  キーンバック病・ばね指・ドゥケルバン病、末梢神経障害における発生機序、症状、固定、後療法について学び理解することを目的とする。  ☆自主学習の課題について☆  上記タイトルにあるペ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。  ※第13講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p> <p>手指における疾患・手指の変形を生じる疾患について 316～317ページ  手指の変形をきたす疾患における発生機序、症状、固定、後療法について学び理解することを目的とする。  ☆自主学習の課題について☆上記タイトルにあるペ教科書ページ内にある内容をしっかり読んで覚えること。  ※第14講義の授業初めに本講義の内容を元に4択問題の小テストを行う。</p> <p>第14講義 総合復習  本授業で行った内容について再度復習し、理解を深めることを目的とする。  ☆自主学習の課題について☆</p> <p>第15講義 総合評価（まとめ）  本授業で行った内容について評価・まとめを行う。</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>各分野の外傷または障害について理解する。授業内で理解できない部分を記載して次の授業までに自習または担当教員に質問を行い理解するようにする。次回の講義初めに小テストを行うので復習をおおむね1時間程度行い、内容をまとめておくことが大切である。</p>
<p>教科書</p>	<p>柔道整復学・理論編 全日本柔道整復学校協会編、南江堂 7665円（税込）</p>
<p>参考書</p>	<p>「標準整形外科学」第12版：著者 松野丈夫 医学書院</p>
<p>成績評価</p>	<p>出席基準を満たした者について、試験を行い評価する。  筆記試験80%、授業内小テスト20%の割合で100%の評価を行う。」</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>教員氏名：神内伸晃  研究室：8号館4階講師室  オフィスアワー：授業日の17：30～18：30</p>
<p>備考</p>	<p>施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>
<p></p>	<p>DPとの関連 1-◎ 2-○</p>
<p></p>	<p></p>
<p></p>	<p></p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
添付ファイル			

授業目標	この科目では、柔道整復師が診る上で重要な肘関節周辺の外傷である骨折、脱臼、軟部組織損傷について学び、疾患の概要、症状、治療法の知識を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・上腕骨外科頸骨折①</p> <p>上腕骨外科頸骨折における整復法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における整復法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における整復法について予習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第2回	<p>上腕骨外科頸骨折②</p> <p>第2回の上腕骨外科頸骨折における整復法について復習を行い、上腕骨外科頸骨折における固定法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における固定法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における固定法について予習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第3回	<p>上腕骨外科頸骨折③</p> <p>上腕骨外科頸骨折③</p> <p>第1、2回の上腕骨外科頸骨折における整復法、固定法について復習を行い、上腕骨外科頸骨折における後療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における後療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における後療法について予習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第4回	<p>上腕骨外科頸骨折④ 肘関節脱臼①</p> <p>上腕骨外科頸骨折における整復法、固定法について確認テストを行う。</p> <p>肘関節脱臼における整復法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>上腕骨外科頸骨折における整復法、固定法を行う事が出来る。</p> <p>肘関節脱臼における整復法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>小テストを行いフィードバックするので上腕骨外科頸骨折における整復法、固定法について復習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第5回	<p>肘関節脱臼②</p> <p>第4回の内容を復習し、肘関節脱臼におけるその他の整復法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>肘関節脱臼における整復法、固定法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>肘関節脱臼における整復法、固定法について予習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第6回	<p>肘関節脱臼③</p> <p>第4・5回の内容を復習し、肘関節脱臼における後療法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>肘関節脱臼における後療法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>肘関節脱臼における後療法について予習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第7回	<p>肘関節脱臼④ 橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折①）</p> <p>肘関節脱臼における整復法、固定法について確認テストを行う。</p> <p>橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における整復法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>肘関節脱臼における整復法、固定法を行う事が出来る。</p> <p>コーレス骨折における整復法を実施することができる。</p> <p>【準備学習について】</p> <p>小テストを行いフィードバックするので肘関節脱臼における整復法、固定法について復習しておく。</p> <p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）</p>	
	第8回	<p>橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折②）</p> <p>第7回の内容を復習し、橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における固定法について実技を交えて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p>	

第9回	<p>コーレス骨折における固定法を実施することができる。  <b>【準備学習について】</b>          コーレス骨折における整復法、固定法について予習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p> <p>橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折③）          第7・8回の内容を復習し、橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b>          コーレス骨折における後療法を実施することができる。  <b>【準備学習について】</b>          コーレス骨折における後療法について予習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
第10回	<p>橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折④） 肘内障①          橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における整復法、固定法について確認テストを行う。          肘内障における整復法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b>          橈骨遠位端部骨折（コーレス骨折）における整復法、固定法を行う事が出来る。  <b>【準備学習について】</b>          小テストを行いフィードバックするのでコーレス骨折における整復法、固定法について復習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
第11回	<p>肘内障② 肘関節部の軟部組織損傷①          肘内障における整復法について確認テストを行う。          肘関節部の軟部組織損傷の知識を復習し、理学検査、固定法、後療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b>          肘内障における整復法を行う事が出来る。          肘関節軟部組織損傷における徒手検査を実施することができる。  <b>【準備学習について】</b>          小テストを行いフィードバックするので肘内障における整復法について復習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
第12回	<p>肘関節部の軟部組織損傷②          肘関節の軟部組織損傷の知識を復習し、治療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b>          肘関節の軟部組織損傷の徒手検査、固定法を実施することができる。  <b>【準備学習について】</b>          肘関節軟部組織損傷における徒手検査、固定法について予習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
第13回	<p>肘関節部の軟部組織損傷③          第11、12回の内容を復習し、治療法について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b>          肘関節の軟部組織損傷の徒手検査、固定法を実施することができる。  <b>【準備学習について】</b>          肘関節軟部組織損傷における徒手検査、固定法について予習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
第14回	<p>肘関節部の軟部組織損傷④ 整復学Ⅱ実習の内容に関するまとめ①          肘関節部の軟部組織損傷における徒手検査、固定法について確認テストを行う。          上腕骨外科頸骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、における整復法、固定法についてまとめを行う。          肘内障における整復法についてまとめを行う。          肘関節の軟部組織損傷における徒手検査、固定法についてまとめを行う。  <b>【到達目標】</b>          整復学Ⅱ実習で行った内容を行う事が出来る。  <b>【準備学習について】</b>          小テストを行いフィードバックするので肘関節軟部組織損傷における徒手検査、固定法について復習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
第15回	<p>整復学Ⅱ実習の内容に関するまとめ②          上腕骨外科頸骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、における整復法、固定法についてまとめを行う。          肘内障における整復法についてまとめを行う。          肘関節の軟部組織損傷における徒手検査、固定法についてまとめを行う。  <b>【到達目標】</b>          整復学Ⅱ実習で行った内容を行う事が出来る。  <b>【準備学習について】</b>          整復学Ⅱ実習で学習した内容について復習をしておく。  <b>【授業形態】</b> 実習（アクティブラーニング）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編）
参考書	柔道整復学・理論編 改訂第5版（全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編）
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。 学年末試験を80%程度とする。 授業時に行う小テストの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 棚原 勝平 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時

	担当教員名 : 三澤 圭吾 場 所 : 8号館4階・非常勤講師室 オフィスアワー : 授業終了時1時間
備考	棚原 勝平：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
宮越 亮典 神内伸晃			
添付ファイル			

授業目標	整復学Ⅲで学んだ内容の整復法、固定法、合併症などについて知識を習得し、診察・整復・固定の手順を把握することを目的とする。また、実践的な固定法を行えるようにする。
授業計画	<p>第1回 講義概要の説明およびオリエンテーション・手関節の包帯包 【到達目標】 手関節部における包帯法の復習を行い、今後の授業で学ぶ固定法の基礎を身に付けることを目的とする。</p> <p>第2回 手関節周辺部の骨折（コーレス骨折）における整復法について 【到達目標】 コーレス骨折における診察手順、整復までの流れを学び、整復方法の技術を身に付ける。</p> <p>第3回 手関節周辺部の骨折（コーレス骨折）における固定方法および診察について 【到達目標】 コーレス骨折における固定技術を学び、予後、合併症、固定の確認方法を理解する。</p> <p>第4回 手根骨骨折（手の舟状骨）における診察および整復・固定について 【到達目標】 手根骨骨折（手の舟状骨）における診察および整復・固定の実施手順を学び、整復・固定技術を身に付ける。</p> <p>第5回 中手骨骨折における整復・固定方法および診察について 【到達目標】 中手骨骨折における診察から整復・固定までの流れを学ぶ。</p> <p>第6回 マレットフィンガーにおける整復・固定および診察について 【到達目標】 マレットフィンガーにおける診察から整復・固定までの流れを学ぶ。</p> <p>第7回 手・手根骨部における診察、整復および固定法について 【到達目標】 手・手根骨部における診察、整復および固定法についての流れを学び、整復・固定方法を身に付ける。</p> <p>第8回 手指の脱臼における整復・固定方法および診察について 【到達目標】 手指の脱臼における診察、整復および固定法についての流れを学び、整復・固定方法を身に付ける。</p> <p>第9回 第1指における靭帯損傷、骨折についての診察、整復および固定について 【到達目標】 第1指における靭帯損傷、骨折における診察から整復・固定までの流れを学ぶ。</p> <p>第10回 手・手指部に生じる腱・腱鞘炎についての診察方法について 【到達目標】 手・手指部に生じる腱・腱鞘炎についての診察方法（理学検査含む）や固定法について学ぶ。</p> <p>第11回 手関節・指関節に生じる変形病変についての診察方法について 【到達目標】 手関節・指関節に生じる変形病変についての診察方法を学ぶ。</p> <p>第12回 手指における神経損傷・障害についての診察方法について 【到達目標】 手指における神経損傷・障害についての診察方法（理学検査含む）について学ぶ。</p> <p>第13回 総合復習1 【到達目標】 手関節における骨折・脱臼・靭帯損傷の診察から固定までの流れについて把握し、患者への対応方法を学ぶ。</p> <p>第14回 総合復習2 【到達目標】 第1回～第12回まで実習で学んだ診察から固定までの流れを確認し、復習を行う</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業で行った内容をプリントやノートを見ながら確認し、施術手順や鑑別疾患について理解する。また、整復・固定の実技で学んだ内容は整復・固定法を復習しておくこと（おおよそ60分の復習を必要とする）。
教科書	授業時間内に授業プリントを配布するため教科書指定はしない。
参考書	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂 7000円
成績評価	出席率4/5以上の者に対して成績評価を行い実技試験によって評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員：宮越亮典 神内伸晃 オフィスアワー：授業日の放課後（17：30～18：30） 場所：8号館4F 講師室

備考	授業には必ずケーシー、名札を着用し固定材料ボックス（包帯ボックス）を持参すること。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
棚原 勝平			
添付ファイル			

授業目標	頭部・顔面・脊椎に生じる骨折・脱臼・軟部組織損傷について理解し、それらに対する発生機序、症状、検査法、治療法などを習得することを目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 顔面部の骨折① 【授業目標】頭蓋骨骨折について説明できる。眼窩底破裂骨折について説明できる。上顎骨骨折について説明できる。 【授業概要】頭蓋骨骨折について、その概要を説明できる。眼窩底破裂骨折について、その概要を説明できる。上顎骨骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】頭蓋骨骨折、眼窩底破裂骨折、上顎骨骨折について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニング無し	
	第2回	顔面部の骨折② 【授業目標】第1回の内容についての小テストを行う。頬骨骨折について説明できる。鼻骨骨折について説明できる。下顎骨骨折について説明できる。 【授業概要】頬骨骨折について、その概要を説明できる。鼻骨骨折について、その概要を説明できる。下顎骨骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第1回の内容について復習しておく。頬骨骨折、鼻骨骨折、下顎骨骨折について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第3回	顔面部の脱臼 【授業目標】第2回の内容についての小テストを行う。顎関節脱臼について説明できる。 【授業概要】顎関節脱臼について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第2回の内容について復習しておく。顎関節脱臼について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第4回	顔面部の軟部組織損傷① 【授業目標】第3回の内容についての小テストを行う。外傷性顎関節損傷について説明できる。頭部や顔面部打撲について説明できる。 【授業概要】外傷性顎関節損傷について、其の概要を説明できる。頭部や顔面部打撲について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第3回の内容について復習しておく。外傷性顎関節損傷、頭部や顔面部打撲について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第5回	顔面部の軟部組織損傷② 【授業目標】第4回の内容についての小テストを行う。顎関節症について説明できる。 【授業概要】顎関節症について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第4回の内容について復習しておく。顎関節症について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第6回	胸部の骨折・軟部組織損傷 【授業目標】第5回の内容についての小テストを行う。肋骨骨折について説明できる。胸骨骨折について説明できる。胸肋関節損傷について説明できる。肋間筋損傷について説明できる。胸・背部打撲について説明できる。 【授業概要】肋骨骨折について、その概要を説明できる。胸骨骨折について、その概要を説明できる。胸肋関節損傷について、その概要を説明できる。肋間筋損傷について、その概要を説明できる。胸・背部打撲について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第5回の内容について復習しておく。肋骨骨折、胸骨骨折、胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸・背部打撲について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第7回	脊椎部の骨折① 【授業目標】第6回の内容についての小テストを行う。頸椎骨折について説明できる。胸椎骨折について説明できる。腰椎骨折について説明できる。 【授業概要】頸椎骨折について、その概要を説明できる。胸椎骨折について、その概要を説明できる。腰椎骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第6回の内容について復習しておく。頸椎骨折、胸椎骨折、腰椎骨折について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第8回	脊椎部の骨折② 【授業目標】第7回の内容についての小テストを行う。頸椎骨折について説明できる。胸椎骨折について説明できる。腰椎骨折について説明できる。 【授業概要】頸椎骨折について、その概要を説明できる。胸椎骨折について、その概要を説明できる。腰椎骨折について、その概要を説明できる。 【準備学習】小テストを行うので第7回の内容について復習しておく。頸椎骨折、胸椎骨折、腰椎骨折について予習しておく。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）	
	第9回	脊椎部の骨折③	

	<p>【授業目標】第8回の内容についての小テストを行う。頸椎骨折について説明できる胸椎骨折について説明できる。腰椎骨折について説明できる。</p> <p>【授業概要】頸椎骨折について、その概要を説明できる。胸椎骨折について、その概要を説明できる。腰椎骨折について、その概要を説明できる。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第8回の内容について復習しておく。頸椎骨折、胸椎骨折、腰椎骨折について予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
第10回	<p>脊椎部の脱臼</p> <p>【授業目標】第9回の内容についての小テストを行う。頸椎脱臼について説明できる。胸椎脱臼について説明できる。</p> <p>【授業概要】頸椎脱臼について、その概要を説明できる。胸椎脱臼について、その概要を説明できる。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第9回の内容について復習しておく。頸椎脱臼、胸椎脱臼について予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
第11回	<p>脊椎部の軟部組織損傷①</p> <p>【授業目標】第10回の内容についての小テストを行う。頸部捻挫について説明できる。頸部の疾患について説明できる。</p> <p>【授業概要】頸部捻挫について、その概要を説明できる。頸部の疾患について、その概要を説明できる。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第10回の内容について復習しておく。頸部捻挫、頸部の疾患について予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
第12回	<p>脊椎部の軟部組織損傷②</p> <p>【授業目標】第11回の内容についての小テストを行う。胸背部の軟部組織損傷について説明できる。腰部の軟部組織損傷について説明できる。</p> <p>【授業概要】胸背部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。腰部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第11回の内容について復習しておく。胸背部の軟部組織損傷、腰部の軟部組織損傷について予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
第13回	<p>脊椎部の軟部組織損傷③</p> <p>【授業目標】第12回の内容についての小テストを行う。胸背部の軟部組織損傷について説明できる。腰部の軟部組織損傷について説明できる。</p> <p>【授業概要】胸背部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。腰部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第12回の内容について復習しておく。腰椎椎間板ヘルニアについて予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
第14回	<p>脊椎部の軟部組織損傷④</p> <p>【授業目標】第13回の内容についての小テストを行う。胸背部の軟部組織損傷について説明できる。腰部の軟部組織損傷について説明できる。</p> <p>【授業概要】胸背部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。腰部の軟部組織損傷について、その概要を説明できる。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第13回の内容について復習しておく。腰部脊柱管狭窄症について予習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
第15回	<p>整復学VIについてのまとめ</p> <p>【授業目標】第14回の内容についての小テストを行う。顔面部の損傷について記述する事が出来る。脊椎部の損傷について記述する事が出来る。骨盤骨折について記述する事が出来る。</p> <p>【授業概要】顔面部の損傷について、その概要を記述する事が出来る。脊椎部の損傷について、その概要を記述する事が出来る。骨盤骨折について、その概要を記述する事が出来る。</p> <p>【準備学習】小テストを行うので第14回の内容について復習しておく。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。
教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	柔道整復学・実技編 改訂版第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準（欠席届などの手続き重視）を満たした者に対して試験を実施する。 学年末試験を80%程度とする。 授業時に行う小テストの評価を20%程度の割合として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 棚原 勝平 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間
備考	棚原 勝平：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
吉田勲生 濱口夏花			
添付ファイル			

授業目標	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷を正しく理解する。柔道整復師の業務範囲の判別・鑑別を行えるようにする。保存療法の限界を知り、範疇の損傷についての処置を学ぶ。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・膝包帯</p> <p>膝関節の基礎包帯を復習し、応用包帯を学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 膝関節の応用包帯の技術を修得し、実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  <b>【備考】</b> 膝関節の基礎包帯における注意点を復習しておく。</p>	
	第2回	<p>膝関節の固定</p> <p>膝関節の厚紙副子の作成、副子使用での応用包帯、膝の徒手検査を実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b>  ・膝関節損傷時の鑑別法としての徒手検査を実施することができる。  ・膝関節損傷時の固定法を習得することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・膝関節損傷の発生機序を復習しておく。  ・膝関節損傷時の鑑別法を復習しておく。</p>	
	第3回	<p>足関節包帯</p> <p>足関節の基礎包帯を復習し、応用包帯について実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 足関節の応用包帯における整復法を実施することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 足関節の基礎包帯を復習しておく。</p>	
	第4回	<p>足関節の固定①</p> <p>足関節厚紙副子の作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・足関節損傷時の発生機序について復習しておく。  ・足関節損傷時の鑑別法を復習しておく。</p>	
	第5回	<p>足関節の固定②</p> <p>足関節U字ギプスの作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b>  ・足関節固定法を復習しておく。  ・固定材料の特性を復習しておく。</p>	
	第6回	<p>足関節の固定③</p> <p>足関節ギプスの作成、副子使用での応用包帯、足関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 第3～5回の授業で習得した足関節固定法を復習しておく。</p>	
	第7回	<p>固定法、応用包帯、徒手検査の復習</p> <p>膝関節、足関節の副子使用での応用包帯、徒手検査を復習  <b>【到達目標】</b> 膝関節、足関節損傷時の鑑別法、固定法を習得することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 第1～6回の授業内容を復習し、第7回の授業までに疑問点をまとめておく。</p>	
	第8回	<p>徒手検査①</p> <p>膝関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。  <b>【到達目標】</b> 膝関節損傷時の鑑別法、徒手検査法を習得することができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。  <b>【備考】</b></p>	

	<p>・膝関節周囲の解剖を復習しておく。 ・膝関節徒手検査法を復習しておく。</p> <p>第9回 徒手検査② 膝関節の徒手検査を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】膝関節損傷時の鑑別法、徒手検査法を習得することができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】膝関節徒手検査法を復習しておく。</p> <p>第10回 徒手検査③ 足関節、その他の徒手検査を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】足関節、その他の損傷時の鑑別法、徒手検査法を習得することができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・足関節の解剖を復習しておく。 ・足関節、その他の徒手検査法を復習しておく。</p> <p>第11回 徒手検査④ 足関節、その他の徒手検査を実技を交えて学ぶ。 【到達目標】足関節、その他の損傷時の鑑別法、徒手検査法を習得することができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】足関節、その他の徒手検査法を復習しておく。</p> <p>第12回 下肢軟部組織損傷の後療法 下肢軟部組織損傷の疾患の診かた・後療法について実技を交えて学ぶ。 【到達目標】下肢軟部組織損傷の徒手検査・後療法を実施することができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・下腿の解剖を復習しておく。 ・下腿軟部組織損傷時の発生機序を復習しておく。</p> <p>第13回 まとめ① 第8～12回の授業により習得した技術の確認・復習をする。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】膝関節、足関節鑑別法、固定法、徒手検査を復習しておく。</p> <p>第14回 まとめ② 第1～12回の授業により習得した技術の確認・総復習をする。 【授業形態】アクティブラーニング有 ・実技授業では、様々な患者に対応できるようグループやペアを変えながら実技を実施し、お互いに評価しフィードバックを行う。 【備考】 ・膝関節、足関節鑑別法、固定法、徒手検査を復習しておく。 ・全授業の範囲をふり返り、疑問点をまとめておく</p> <p>第15回 評価 本実習の内容について実技試験を実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(各約45分程度)を行ってください。講義時内で理解できない場合はすぐに質問しに来てください。
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
参考書	柔道整復学・理論編 改訂版第5版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準を満たした者について、実技試験を行い評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田 勲生 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p> <p>担当教員名 : 濱口 夏花 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : n_hanaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p>
備考	吉田 勲生: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
大木琢也、棚原勝平			
添付ファイル			

授業目標	<p>体幹部（頭部・顔面・脊椎）の領域における損傷について、柔道整復師が扱う傷害に対する観察（診察）方法ならびに傷害に応じた施術（治療）方法および生活指導などを実技を通して教授する。</p> <p>授業目標は、体幹部の領域における損傷に対して柔道整復術の適否をみきわめ、医療人として適切な処置を施す技能を修得することを目標とする。</p>		
授業計画	授業1	<p>ガイダンス・基礎知識の確認</p> <p>授業の進行動態を理解する。</p> <p>頭部・顔面部の解剖学的構造と機能を理解する。</p>	
	授業2	<p>頭部・顔面の損傷（顎関節脱臼）の診察法・治療法①</p> <p>顎関節脱臼の分類・発生機序・症状等を復習するとともに、診察・所見ならびに治療法（整復法・固定法）を体得する。</p> <p>顎関節の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業3	<p>頭部・顔面の損傷（顎関節脱臼）の診察法・治療法②</p> <p>顎関節脱臼の分類・発生機序・症状等を復習するとともに、診察・所見ならびに治療法（整復法・固定法）を体得する。</p> <p>顎関節の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業4	<p>頭部・顔面の損傷（顎関節症）の診察法・治療法</p> <p>顎関節症の分類や症状等を復習するとともに、咀嚼筋障害に対する治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。</p> <p>顎関節周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業5	<p>頸部の損傷（頸部捻挫：寝違え、むちうち損傷ほか）の診察法・治療法①</p> <p>頸部捻挫の分類や症状等を復習するとともに、頸部捻挫を分類・鑑別するための診察法（理学検査：知覚、反射、筋力等）を体得する。</p> <p>頸部捻挫の分類や症状に応じた、治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。</p> <p>頸椎周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業6	<p>頸部の損傷（頸部捻挫：寝違え、むちうち損傷ほか）の診察法・治療法②</p> <p>頸部捻挫の分類や症状等を復習するとともに、頸部捻挫を分類・鑑別するための診察法（理学検査：知覚、反射、筋力等）を体得する。</p> <p>頸部捻挫の分類や症状に応じた、治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。</p> <p>頸椎周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業7	<p>頸部の疾患（胸郭出口症候群）の診察法・治療法①</p> <p>胸郭出口症候群の分類や症状等を復習するとともに、胸郭出口症候群を分類・鑑別するための診察法を体得する。</p> <p>胸郭出口症候群の分類や症状に応じた、治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。</p> <p>胸郭出口周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業8	<p>頸部の疾患（胸郭出口症候群）の診察法・治療法②</p> <p>胸郭出口症候群の分類や症状等を復習するとともに、胸郭出口症候群を分類・鑑別するための診察法を体得する。</p> <p>胸郭出口症候群の分類や症状に応じた、治療法（手技療法、物理療法等）を体得する。</p> <p>胸郭出口周辺の解剖学的構造を予習しておくこと。</p>	
	授業9	<p>胸部の損傷（肋骨骨折・肋軟骨骨折）の診察法・治療法①</p> <p>肋骨骨折・肋軟骨骨折の発生機序、骨折転位および症状等を復習するとともに、肋骨骨折・肋軟骨骨折の治療法特に固定法を体得する。</p> <p>胸郭の解剖学的構造・機能を予習しておくこと。</p>	
	授業10	<p>胸部の損傷（肋骨骨折・肋軟骨骨折）の診察法・治療法②</p> <p>肋骨骨折・肋軟骨骨折の発生機序、骨折転位および症状等を復習するとともに、肋骨骨折・肋軟骨骨折の治療法特に固定法を体得する。</p> <p>胸郭の解剖学的構造・機能を予習しておくこと。</p>	
	授業11	<p>腰部の損傷（軟部組織損傷：関節性・靭帯性・筋・筋膜性等）に対する診察法・治療法</p> <p>腰部軟部組織損傷について、患者の年齢、症状、所見等から病態を鑑別・分類できる知識と技能を養う。</p> <p>腰部軟部組織損傷に対する非観血的治療法として、腰痛体操をとりあげ、その手法を習熟する。</p> <p>腰部の筋・関節・靭帯を主に解剖学的構造を予習しておく。</p>	
	授業12	<p>腰部の疾患（腰部椎間板ヘルニア等）に対する診察法・治療法</p> <p>腰部椎間板ヘルニアの鑑別診断に用いる徒手検査法ならびに腰部椎間板ヘルニアの高位診断に用いられる検査法（神経学的検査法：脊髄神経の分節性知覚領域、徒手筋力検査法、反射所見等）を習得する。</p> <p>腰部椎間板ヘルニアの症状に応じた治療法（手技療法、物理療法等）を習得する。</p> <p>神経学的検査法の判定法を予習しておくこと。</p>	
	授業13	<p>総復習</p> <p>これまで行ってきた範囲の総復習を行う。</p>	

	<p>授業14・15 評価</p> <p>これまで行ってきた範囲の評価を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>身体各部の構造すなわち解剖学的知識、特に授業ですすめていく頭部・顎関節部から頸部、胸部および腰部の領域の身体構造を理解するために、授業前に解剖学書などで必ず予習(約45分程度)を行うこと。</p>
教科書	<p>「柔道整復学・理論編 第5版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(南江堂)</p> <p>「柔道整復学・実技編 第2版」(社)全国柔道整復学校協会 監修(南江堂)</p>
参考書	<p>「標準整形外科学 第12版」 内田淳正 監修(医学書院)</p>
成績評価	<p>成績評価は、所定の授業出席回数を充たした者に対して、実技試験を行う(80%評価)。 また、授業態度等(20%評価)を加味し総合評価とし、60%以上の得た者を合格とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 大木 琢也 場 所 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : t_ohgi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p> <p>担当教員名 : 棚原 勝平 研究室 : 8号館4階・講師室 メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了時1時間</p>
備考	<p>大木 琢也: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 棚原 勝平: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
松本 和久			
添付ファイル			

授業目標	この科目では、骨折・脱臼、軟部組織損傷における後療法を実施できるための知識および技術を理解し、状況に応じて適応と禁忌を的確に判断・実施できるようになる。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション：後療法の概要について説明できる。</p> <p>[ 到達目標 ] 後療法の概要について説明できる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 教科書の柔道整復師の歴史、後療法の項について熟読しておくこと (予習35分)。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる (復習35分)。</p>	
	第2回	<p>後療法の目的：後療法の目的について事例をあげて具体的に説明することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 後療法を実施する目的を、事例をあげて具体的に説明できる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 教科書のICIDHの項について熟読しておくこと (予習35分)。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる (復習35分)。</p>	
	第3回	<p>骨折の後療法：骨折によって生じる一次障害と二次障害を理解し、それぞれに対する適切な後療法を選択・判断することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 骨折によって生じる一次障害と二次障害を理解し、それぞれに対する適切な後療法を選択・判断することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 教科書の骨折の項について熟読しておくこと (予習35分)。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる (復習35分)。</p>	
	第4回	<p>軟部組織損傷の後療法：軟部組織損傷によって生じる一次障害と二次障害を理解し、それぞれに対する適切な後療法を選択・判断することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 軟部組織損傷によって生じる一次障害と二次障害を理解し、それぞれに対する適切な後療法を選択・判断することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 教科書の軟部組織損傷の項について熟読しておくこと (予習35分)。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる (復習35分)。</p>	
	第5回	<p>物理療法について：後療法の一つである物理療法について理解し、その適応と禁忌を的確に実施することができる。</p> <p>[ 到達目標 ] 後療法の一つである物理療法について理解し、その適応と禁忌を的確に実施することができる。</p> <p>[ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示) 教科書の物理療法の項について熟読しておくこと (予習35分)。</p>	

第6回	<p>授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>基本的運動療法について：伝統的な運動療法について理解し、その特徴に応じて対象を選択的に確に実施することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>伝統的な運動療法について理解し、その特徴に応じて対象を選択的に確に実施することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）</p> <p>教科書の運動療法の項について熟読しておくこと（予習35分）。</p>
第7回	<p>授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>アスレチックトレーニングについて：アスレチックリハビリテーション、アスレチックトレーニング、アスレチックトレーナーのそれぞれの意味を理解し、説明することができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>アスレチックリハビリテーション、アスレチックトレーニング、アスレチックトレーナーのそれぞれの意味を理解し、説明することができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）</p> <p>教科書のアスレチックトレーニングの項について熟読しておくこと（予習35分）。</p>
第8回	<p>授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>痛みについて：後療法の妨げとなる痛みの、発生機序、対処法等について説明でき、かつ適切な対応ができる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>後療法の妨げとなる痛みの、発生機序、対処法等について説明でき、かつ適切な対応ができる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）</p> <p>教科書の痛みの項について熟読しておくこと（予習35分）。</p>
第9回	<p>授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>関節モビライゼーションについて：手技療法のひとつである関節モビライゼーションの治療機序、適応と禁忌等について説明でき、かつ適切に実施できる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>手技療法のひとつである関節モビライゼーションの治療機序、適応と禁忌等について説明でき、かつ適切に実施できる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）</p> <p>教科書の関節モビライゼーションの項について熟読しておくこと（予習35分）。</p>
第10回	<p>授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>Proprioceptive Neuromuscular Facilitation (PNF)について：神経筋促通手技（PNF）の歴史、適応と禁忌等について説明でき、かつ適切に実施できる。</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>下肢（股関節および腰部）における後療法の実際について教授する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>神経筋促通手技（PNF）の歴史、適応と禁忌等について説明でき、かつ適切に実施できる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）</p> <p>教科書の柔道整復師の歴史、後療法の項について熟読しておくこと（予習35分）。</p>
第11回	<p>授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>Dynamic Joint Control (DYJOC)について：動的関節制御法（DYJOC）の適応と禁忌等について説明でき、かつ適切に実施できる。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>動的関節制御法（DYJOC）の適応と禁忌等について説明でき、かつ適切に実施できる。</p> <p>[ 授業形態 ]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考]（授業時間外学習の指示）</p>

	<p>第12回 教科書のDYJOCの項について熟読しておくこと（予習35分）。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。 認知運動療法について：脳科学の基礎とそれに基づく認知運動療法について説明でき、かつ適切に実施できる。 [ 到達目標 ] 脳科学の基礎とそれに基づく認知運動療法について説明でき、かつ適切に実施できる。 [ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の認知運動療法の項について熟読しておくこと（予習35分）。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>第13回 伝統的後療法について：伝統的な後療法について説明でき、かつ適切に実施できる。 [ 到達目標 ] 伝統的な後療法について説明でき、かつ適切に実施できる。 [ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の伝統的後療法の項について熟読しておくこと（予習35分）。 授業において教科書に記載されていない部分を整理し、教科書に書き込む等によりまとめる（復習35分）。</p> <p>第14回 後療法の実際：実際の症例に対して、様々な後療法をどのように選択し、実施するのかを具体的に説明することができる。 [ 到達目標 ] 実際の症例に対して、様々な後療法をどのように選択し、実施するのかを具体的に説明することができる。 [ 授業形態 ] アクティブ・ラーニング有：授業で何を学んだかを授業終了時に提出物として提出する。その記述内容から、学生の興味を持っている部分と理解できていない部分等を分析し、提出物にコメントを付けて返却したり、次の時間にフィードバックしたりして、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） これまでの授業でまとめた資料を熟読しておくこと（予習35分）。 授業内容をまとめ、臨床で使用できるように分類して整理する（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業計画に則って、教科書の履修する部分を熟読しておくこと。（予習35分） 履修した内容を、起こりうる臨床場面を想定しながら自らの身体、および友人、家族の身体を用いて反復学習を行うこと。（復習35分）
教科書	柔道整復学・実技編 改訂第2版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：（社）全国柔道整復学校協会 南江堂
参考書	特になし。
成績評価	講義直後の提出物（100%）により評価する。 提出物の評価は、講義内容の要約（項目と概要）が3/4以上記載されていれば優、3/4未満1/2以上であれば良、1/2未満1/4以上であれば可、1/4未満は不可と評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：松本 和久 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:00-17:00
備考	35年間、病院に勤務し、その病院のリハビリテーションセンターにおける実務経験をもとに授業をすすめる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
林 知也, 星 伴路, 宮坂卓治			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：柔道整復師に必要な知識を総合的に理解するために、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行うことによって、既に学習した人体構造学、人体機能学、柔道整復学の科目について演習を通して総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標：柔道整復師国家試験の合格レベルの知識を総合的に活用できる。</p> <p>※詳細な日程・内容等については、授業開始時に説明する。</p>
授業計画	<p>第1回 人体構造学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、人体構造学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体構造学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第2～5回 人体構造学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体構造学の内容を理解し、説明できる。 授業形態：事前に配布された課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。</p> <p>第6回 人体機能学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、人体機能学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体機能学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第7～10回 人体機能学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。 到達目標：演習を通して、柔道整復師に必要な人体機能学の内容を理解し、説明できる。 授業形態：事前に配布された課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。</p> <p>第11回 柔道整復学の基本的な復習（教員による解説） 概要：担当教員が、柔道整復学の重点ポイントの説明と、配布した演習問題の解説を行う。 到達目標：演習を通して、柔道整復学に関する4択問題の解き方とそれに必要な知識を理解する。 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認を行う。</p> <p>第12～14回 柔道整復学の基本的な復習（学生による解説） 概要：担当教員の指導の下、各学生グループごとに配分された演習問題の解説を各学生が他の学生の前でプレゼンテーションし、必要に応じてそれに必要な知識も説明する。 到達目標：演習を通して、柔道整復学の内容を理解し、説明できる。 授業形態：事前に配布された課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：配布プリントの演習問題を解き、必要な知識の再確認し、問題解説のプレゼンテーションができるように準備する。</p> <p>第15回 期末試験 到達目標：柔道整復師に必要な人体構造学、人体機能学、柔道整復学の重点ポイントを理解し、応用できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習35分） 当該授業で演習した内容について、十分に復習し、理解するようにする。（復習35分） 配布された演習問題については、各自理解するようにし、特にプレゼンテーションの分担が指示された問題については、他の学生が理解できるように周辺知識をしっかりと身につける。分からない点は、教科書、参考書を利用して理解を深め、それでも分からない点があれば質問等にて、積極的に解決すること。</p>
教科書	「柔道整復師ブルー・ノート 基礎編」 樽本修和・安藤博文 編集（メジカルビュー社）
参考書	「解剖学 第2版」 社団法人柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛 編（医歯薬出版） 「シンプル生理学(改訂第6版)」 貴邑富久子、根来英雄 著（南江堂） 「柔道整復学(理論編)改訂第5版」 社団法人柔道整復学校協会 編集（南江堂）
成績評価	<p>(1) 出席基準を満たした者を評価対象者とする。</p> <p>(2) 小テスト（30%）、および期末試験（70%）で評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○林 知也 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 月曜日 放課後</p> <p>担当教員名 : 星 伴路 研究室 : 8号館4階准教授室 オフィスアワー : 水、木曜日 放課後</p>

	担当教員名 : 宮坂卓治 研究室 : 8号館4階教授室 オフィスアワー : 木曜日 放課後
備考	

講義科目名称： 附属病院実習

授業コード： 2H318

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
苗村 建慈			
添付ファイル			

授業目標	<p>(概要) 1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を、外来診療各科において見学し、現代医学的診察法および患者に対する診療方法を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士等院内における医療スタッフの業務を見学し、理解するとともに附属施設(臨床検査部等の中央診療施設、MRセンター等)を見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深める。3) それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法を学ぶ。また、4) 医師や他の医療スタッフと適切な提携ができるようにそのあり方を学ぶ。</p>		
授業計画	苗村建慈	<p>実習ガイダンス 8月上旬～9月上旬および2月上旬～3月上旬の間で、計3週間分の実習を行う。 各診療科を班ごとにローテーションするため、実習簿で自分の実習日や診療科を確認しておくこと。</p>	
	苗村建慈	<p>実習の概要 1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を外来診療各科において見学し、現代医学の診察法および患者の接し方を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、薬剤師など院内における医療スタッフの業務を見学し、理解する。また、附属施設(臨床検査部、放射線科などの検査施設)も見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深め、それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法について学ぶ。3) 医師や他の医療スタッフと適切な連携ができるようにそのあり方について学ぶ。</p>	
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>実習は単なる見学ではなく、臨床講義で学んだ知識が実際の臨床現場でいかに活用されているかを実感として学ぶ貴重な経験の場であるので、真摯な態度で臨まなければならない。各科を回ることになるが、該当する科の講義で学んだ臨床的知識を復習して実習に臨むこと。</p>		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価	<p>レポートにより評価する。 出席回数を満たしていること。</p>		
担当教員の基本情報	担当教員名	苗村 建慈	
	研究室	病院2階病院長室	メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日16:30-17:00	
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
田邊 美彦			
添付ファイル			

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵまでで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。本科目の目的は、頸部と肩関節周囲に関する骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。		
授業計画	第1回	顎関節脱臼 顎関節脱臼の発生機序、症状、施術法、固定法について理解し、実践する。	
	第2回	顎関節捻挫 顎関節捻挫の発生機序、症状、施術法、固定法について理解し、実践する。	
	第3回	頸部捻挫の診察（視診・問診・触診） 頸部捻挫の診察（視診・問診・触診）について理解し、実践する。	
	第4回	頸部捻挫における固定・手技の技術習得 頸部捻挫における固定・手技の技術習得について理解し、実践する。	
	第5回	胸鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法 胸鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第6回	肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第7回	肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩鎖関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第8回	肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第9回	肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法 肩関節脱臼の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第10回	上腕骨頸部骨折の診察法・整復・固定方法 について理解し、実践する。	
	第11回	上腕骨頸部骨折の診察法・整復・固定方法 上腕骨頸部骨折の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第12回	上腕骨骨幹部骨折の診察法・整復・固定方法 上腕骨骨幹部骨折の診察法・整復・固定方法について理解し、実践する。	
	第13回	肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチ 肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチについて理解し、実践する。	
	第14回	肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチ 肩関節周囲の軟部組織損傷における治療アプローチについて理解し、実践する。	
	第15回	総復習 これまでの実習をふまえて総復習を行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前配布してある資料を読みこむ、授業後に復習する。		
教科書	・柔道整復学（理論編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第5版 ・柔道整復学（実技編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第2版		
参考書	授業時間内に指示する。		
成績評価	出席や授業態度を加味し、総合評価とする。		
担当教員の基本情報	田邊 美彦(タナベ ヨシヒコ) 大阪府池田市で開業、行岡医療専門学校非常勤講師		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
並川 一利			
添付ファイル			

授業目標	本科目では、整復学Ⅰから整復学Ⅵ（学校協会柔道整復理論編の全内容）までで学習した内容を踏まえ、さらに臨床的な技術や知識を学ぶ科目である。本科目の目的は、肘関節、手関節週における骨折・脱臼・軟部組織損傷における臨床的な知識と技術習得である。
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション</p> <p>第2回 上腕骨顆上骨折における診察・固定・整復について 上腕骨顆上骨折における診察・固定・整復について理解する</p> <p>第3回 肘頭骨折における診察・整復・固定法 肘頭骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第4回 肘関節後方脱臼における診察・整復・固定法 肘関節後方脱臼における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第5回 野球肘における診察・整復・固定法 野球肘における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第6回 コーレス骨折・スミス骨折における違いと診察・整復・固定法 コーレス骨折・スミス骨折における違いと診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第7回 舟状骨骨折における診察・整復・固定法 舟状骨骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第8回 ボクサー骨折における診察・整復・固定法 ボクサー骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第9回 手指の骨折における診察・整復・固定法（1） 手指の骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第10回 手指の骨折における診察・整復・固定法（2） 手指の骨折における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第11回 月状骨脱臼における診察・整復・固定法 月状骨脱臼における診察・整復・固定法について理解する</p> <p>第12回 手・指部における軟部組織損傷について 手・指部における軟部組織損傷について理解する。</p> <p>第13回 総合復習 1 第1～12回までの授業内容の復習を行う。</p> <p>第14回 総合復習 2 第1～12回までの授業内容の復習を行う。</p> <p>第15回 総合評価</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時間内に指示する。
教科書	・柔道整復学（理論編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第5版 ・柔道整復学（実技編）社団法人 全国柔道整復学校協会編 改訂第2版
参考書	授業時間内に参考書を指示する。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワーの時間 授業終了後から1時間 場所：8号館 4F非常勤講師室
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
中川 達雄			
添付ファイル			

授業目標	<p>基礎医学、柔道整復学などで学習した内容を基礎として、さらに専門的観点から臨床に応用できるように、柔道整復施術の業務範囲における各種傷害に対して、徒手による検査法そして施術法などを教授する。</p> <p>&lt;教育概要&gt; 柔道整復師として、日常の臨床でよく遭遇する関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切で安全な施術法であるかを考察、選択する。さらに柔道整復師としてどのように施術にあたればよいのかを関連させながら講義を行う。解剖学（特に骨学、関節、筋肉、神経に焦点を当て）と整形学を基礎とし、人体構造、特に四肢（下肢および上肢）の関節機能障害に対する徒手検査法であるスタティック・パルペーションとモーション・パルペーションを用いて四肢関節の歪みや可動性異常を正確に検査する。それによって、関節がどのような問題を呈しているか鑑別診断を行い、考察を行う。次に、その診断に基づき、関節の問題、特に関節機能障害に焦点を当て、どのような調整が最も適切であるかを考察し、安全かつ有効な施術法であるマイクロ・モービリゼーション、マイクロ牽引法を教授する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 これから学ぶ徒手療法、手技療法についての基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p> <p>2回目 肘関節1：肘関節の触診実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節検査に必要な解剖学的部位が正確に触診できるようになる。</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：肘関節の解剖学</p> <p>3回目 肘関節2：肘関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節屈曲検査法とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの習得</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘屈曲検査P102-103</p> <p>4回目 肘関節3：肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘回旋検査P110-115</p> <p>5回目 肘関節4：肘関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 肘関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の実習</p> <p>【備考】（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘伸展検査P104-105</p> <p>6回目 肘関節5：肘関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確</p>

	<p>さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 肘関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの実習</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（下巻） 肘外/内方可動性検査P104-107、120-123</p>
7回目	<p>まとめ アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 1回目～6回目の授業についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） 予習：1回目から6回目までの授業内容</p>
8回目	<p>膝関節1：膝関節の解説、触診、可動域検査における注意事項 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節の解説、触診、可動域検査における注意事項の理解と検査技術の修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝屈曲検査P80-83</p>
9回目	<p>膝関節2：膝関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節屈曲検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝伸展検査P84-87</p>
10回目	<p>膝関節3：膝関節伸展検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節伸展検査と異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝回旋検査P88-95</p>
11回目	<p>膝関節4：膝関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節回旋検査とその異常に対する治療法であるマイクロ牽引法の修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝外/内方可動性検査P96-99</p>
12回目	<p>膝関節5：膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの解説 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節外方、内方可動性検査とその異常に対する治療法であるマイクロ・モービリゼーションの修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：四肢のモーション・パルペーション（上巻） 膝P80-99</p>
13回目	<p>膝関節障害に対する膝関節検査法と治療法の総復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p><b>【内容・到達目標】</b> 膝関節障害のための関節可動性検査とその関連技術の修得</p> <p><b>【備考】</b>（授業時間外学習の指示等） ワークシートの提出必須 予習：足関節捻挫の復習</p>

	<p>14回目 総復習 アクティブラーニング：学生同士でペアを組み検査法・治療法を練習しながら、触診部位の正確さや、より適切な検査・治療の仕方を互いにフィードバックする。</p> <p>【内容・到達目標】 8回目～14回目の授業についての総括を行う。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習：8回目から14回目までの授業内容</p> <p>15回目 まとめ 【内容・到達目標】 8回目～14回目の授業についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。</p> <p>【備考】(授業時間外学習の指示等) 予習：8回目から14回目までの授業内容</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>シラバスを参考に、予習復習を行うように努める。</p> <p>1. 予習(45分)：授業予定である教科書内容を熟読すること。</p> <p>2. 復習(45分)：検査法、治療技術は、実際に臨床で使えなければならない。必ず、配布プリントの対応部分を精読し、実際に繰り返して練習をし、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問したりして解決すること。患者は、人によって異なる関節の動きを呈する。症状も患者によって微妙に異なる。これを理解し、よき柔道整復師になるためには、繰り返して練習することが重要なことであり、近道である。</p>
教科書	<p>1. 四肢のモーション・パルペーション(上巻) 下肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p> <p>2. 四肢のモーション・パルペーション(下巻) 上肢編 中川貴雄編著 科学新聞社</p>
参考書	<p>1. 機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p> <p>2. 機能解剖学的触診技術 下肢 改定第2版 著：林典雄 メディカルビュー</p>
成績評価	筆記試験45%、実技試験45%、ワークシート・授業参加態度10%で評価を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中川達雄 研究室 : メールアドレス : tatsu-naka@tumh.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 泉 晶子 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : a_izumi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間</p>
備考	泉 晶子：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
木村 篤史			
添付ファイル			

授業目標	<p>柔道整復師が対象とする急性外傷の受傷者は、急性期では損傷部の局所安静（固定，免荷）ののち，後療法を経て日常生活に復帰する．従って，急性期では局所安静を確実に保ちながら，安全に日常生活を過ごすためのアプローチが必要であり，後療法では元々の日常生活に出来るだけ早期に復帰するためのアプローチが必要である．また，急性外傷の患部外に潜んでいる多くのリスクを理解し，患者の日常生活動作に対して適切な助言と動作を遂行するための適切な介助が実施できる能力を有することも重要である． 本科目の授業目標は，上記の内容について理解し説明できるようになることである．</p>		
授業計画	第1回	<p>日常生活動作とは [授業概要] 日常生活動作について学習するとともに，我々が普段行っている日常生活にはどのような行為が含まれ，それらの行為を遂行するためにどのような動作を行っているのかについてアクティブラーニングとしてグループトークで意見交換を行う。 [到達目標・学習目標] 話し合った内容をまとめて発表することができる。</p>	
	第2回	<p>柔道整復師が対象とする急性外傷患者の日常生活動作の考え方 ～総論～ [授業概要] 急性期における局所安静（関節固定，免荷）の状況での日常生活動作の行い方，後療法における日常生活動作の再獲得までの全体像について学習する。 [到達目標・学習目標] 上記の授業内容を理解し，口頭で簡潔に説明することができる。</p>	
	第3回	<p>急性期の日常生活動作について～関節固定の状況での日常生活動作の行い方 [授業概要] 関節固定（上下肢・体幹）を守るための日常生活動作の行い方，自助具についてアクティブラーニングとして実習を通じて学習する．[到達目標・学習目標] 上記の授業内容を理解し，口頭で簡潔に説明することができる。</p>	
	第4回	<p>急性期の日常生活動作について～免荷状況での日常生活動作の行い方：松葉杖 その1～ [授業概要] 松葉杖の適合判定，松葉杖による免荷歩行の基本的な指導方法についてアクティブラーニングとして実習を通じて学習する。 [到達目標・学習目標] 被験者に対して松葉杖の適合判定，免荷歩行を適切に実際に指導することができる。</p>	
	第5回	<p>急性期の日常生活動作について～免荷状況での日常生活動作の行い方：松葉杖 その2～ [授業概要] 松葉杖による免荷歩行での応用動作（屋外歩行，階段昇降など）についてアクティブラーニングとして実習を通じて学習する。 [到達目標・学習目標] 松葉杖による免荷歩行を応用動作場面で実際に行うことができる。</p>	
	第6回	<p>後療法における日常生活動作の獲得について～歩行・姿勢制御の運動学～ [授業概要] 歩行についての学習 [到達目標・学習目標] 歩行に関する運動学的な基礎知識を理解し簡潔に説明することができる。</p>	
	第7回	<p>後療法における日常生活動作の獲得について～歩行能力の再獲得のための評価～ [授業概要] 歩行能力の再獲得に必要な「評価」についてアクティブラーニングとして実習を通じて学習する。 [到達目標・学習目標] 実習にてお互いに動作観察をすることができる。</p>	
	第8回	<p>後療法における日常生活動作の獲得について～歩行能力の再獲得のためのアプローチ～ [授業概要] 歩行能力の再獲得のためのアプローチや指導方法についてアクティブラーニングとして実習を通じて学習する。 [到達目標・学習目標] 歩行能力の再獲得のための方法を適切に選択することができる。</p>	
	第9回	<p>脳血管障害の障害特性と日常生活動作 [授業概要] 脳血管障害者の障害の特性と日常生活動作における注意点，動作遂行時の介助方法について学習する。 [到達目標・学習目標] 脳血管障害者の障害の特性と日常生活動作における注意点，動作遂行時の介助方法について理解することができる。</p>	
	第10回	<p>運動器疾患の障害の特性と日常生活動作 その1 [授業概要] 運動器疾患の障害の特性と日常生活動作における注意点，動作遂行時の介助方法について学習す</p>	

	<p>る。 [到達目標・学習目標] 運動器疾患の障害の特性と日常生活動作における注意点、動作遂行時の介助方法について理解することができる。</p> <p>第11回 運動器疾患の障害の特性と日常生活動作 その2 [授業概要] 運動器疾患の障害の特性と日常生活動作における注意点、動作遂行時の介助方法について学習する。</p> <p>[到達目標・学習目標] 運動器疾患の障害の特性と日常生活動作における注意点、動作遂行時の介助方法について理解することができる。</p> <p>第12回 高齢者特有の身体障害の特性と日常生活動作 [授業概要] 高齢者特有の身体障害の特性と日常生活動作における注意点、動作遂行時の介助方法について学習する。</p> <p>[到達目標・学習目標] 高齢者特有の身体障害の特性と日常生活動作における注意点、動作遂行時の介助方法について理解することができる。</p> <p>第13回 まとめ [授業概要] 第1回～第12回の講義・演習内容について総復習と行う。</p> <p>[到達目標・学習目標] 第1回～第12回の講義・演習内容について理解することができる。</p> <p>第14回 評価・総括 [授業概要] 上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。</p> <p>[到達目標・学習目標] 評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	準備学習として、次講義に関連する項目について自己学習を(予習35分)すること。終了した講義の内容についてノートにまとめておくこと(復習35分)。それでも解決しない場合は、担当教員にメールで連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	指定の教科書はなし。必要に応じ、随時資料を配布する。
参考書	・ADLとその周辺 第3版: 評価・指導・介護の実際 著者: 伊藤利之 (医学書院)
成績評価	第14回目の筆記試験の得点により評価する。得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村 篤史 研究室 : なし (附属病院 総合リハビリテーションセンターまで) メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールにて事前連絡し、随時調整する。
備考	医療機関の総合リハビリテーションセンターにて理学療法士として23年間の実務経験を有する。その実務経験を基に患者の日常生活動作に関する内容について授業を進める。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
植田 広樹			
添付ファイル			

授業目標	救急車到着前にバイスタンダーが応急救急を実施することは傷病者の救命率及び、機能予後の改善のためには重要である。 本授業では、傷病者に単に処置を実施できるようになるだけではなく、その処置が必要かどうかの判断、及び傷病の理解を深められることを目標とする。		
授業計画	1回	オリエンテーション・私たちが救急蘇生法について学ぶ意味 [到達目標] 1 事故や疾病には、一刻を争う手当が必要なことがある 2 けが人や急病人の苦痛を和らげ、悪化を防ぐ 3 事故防止や安全に対する意識が高まる 4 救急活動の現状を知る救急処置の必要性を理解する [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	
	2回	私たちの命を脅かすもの [到達目標] 1 大切な命を奪ってしまう原因と予防 2 交通事故の防止 3 学校で多い事故と病気 4 家族と職場での事故と予防対策 [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	
	3回	学んでおきたい救急蘇生法の基礎知識① [到達目標] 1 市民が行う救急蘇生法 2 救命の連鎖 3 一次救命処置の流れ 4 周囲の状況と傷病者の把握 [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	
	4回	学んでおきたい救急蘇生法の基礎知識② [到達目標] 5 心停止への対応(人工呼吸の方法、心肺蘇生の継続、回復体位) 6 異物への対応 [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	
	5回	学んでおきたい救急蘇生法の基礎知識③ [到達目標] スキルチェック 胸骨圧迫、人工呼吸 一人法 5分 [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	
	6回	学んでおきたい救急蘇生法の基礎知識④ [到達目標] 1 出血による症状 2 止血時の注意点 [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	
	7回	場面に応じた応急手当① [到達目標] 1 応急手当とは 2 けがに対する応急手当 (頭部外傷、胸部外傷、腹部外傷、四肢の外傷) [授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で	

	<p>学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 場面に応じた応急手当②</p> <p>[到達目標] 2 けがに対する応急手当 (三角巾の復習、四肢の止血、吊り三角巾、副子を使用した固定)</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 場面に応じた応急手当③</p> <p>[到達目標] 2 けがに対する応急手当 (やけど（熱傷）、動物による刺しきず、かみきず（刺咬傷） 感電・雷撃、溺水、発熱、痙攣)</p> <p>3 急病に対する応急手当 呼吸困難 アナフィラキシー 突然の胸痛</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 場面に応じた応急手当④</p> <p>[到達目標] 3 急病に対する応急手当 (突然の腹痛、日射病・熱中症、低体温症、失神、脳卒中、低血糖)</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 場面に応じた応急手当⑤</p> <p>[到達目標] 4 中毒に対する応急手当 (薬、家庭用品と農薬、ガス、乱用薬物（危険ドラッグや麻薬など）、自然毒、アルコール)</p> <p>5 異物に対する応急手当 (からだに刺さった異物、目に入った異物、耳に入った異物)</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 災害に対する備えと心がまえ</p> <p>[到達目標] 1 災害への備え 2 災害への心がまえ</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 救急医療体制のしくみ</p> <p>[到達目標] 1 119番通報と受信 2 救急活動の流れ</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 総まとめ・筆記試験</p> <p>[到達目標] 心肺蘇生法・ファーストエイドについて要点をまとめ説明できる。</p> <p>[授業時間以外の学修] 教科書・参考書を参考に、講義のタイトルに関連するページを事前勉強し（予習30分）、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習30分）。 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各種参考書もとに自主学习
教科書	図解みんなの救急（大修館書店）
参考書	図解みんなの救急（大修館書店）
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件。 筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。 その他授業態度等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 植田広樹 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h-ueta@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 坂梨秀地 研究室 : 6号館2階 研究室</p>

	メールアドレス : s_sakanashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦 吉田 勲生 濱口 夏花			
添付ファイル			

授業目標	スポーツ現場における柔道整復師として行える各種手技的アプローチを理解する。特にスポーツ選手（アスリート）に特有な外傷・障害の発生メカニズムを理解するとともにテーピング並びに早期現場復帰のための運動療法の理論を修得する。
授業計画	<p>1回目</p> <p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節）  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷・障害発生時のエピソードを理解し、アプローチ（足関節）の方法を理解することができるようになる。  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・足関節の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）  ・テーピングの技法を参照（指定教材：DVD）し、復習すること</p> <p>2回目</p> <p>足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅰ  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷発生時の応急処置としての足関節のテーピングと運動療法を身につける  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・足関節のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）  ・3)足関節応急処置(内反捻挫の場合)を参照（指定教材：DVD）し、予習・復習すること</p> <p>3回目</p> <p>足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅱ  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷予防としての足関節のテーピングと運動療法を身につける  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・足関節のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）  ・1)足関節予防(内反捻挫予防)を参照（指定教材：DVD）し、予習・復習すること</p> <p>4回目</p> <p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部）  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷発生時のエピソードとアプローチ（足部）の方法を理解することができるようになる  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・足部周辺の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）  ・2)足関節予防(内反捻挫予防)エキストラテープを参照（指定教材：DVD）し、予習・復習すること</p> <p>5回目</p> <p>足部のテーピングと運動療法の実践  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷発生時の足部のテーピングと運動療法を身につける  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・足部周辺のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）  ・5)アーチ予防(アーチ痛(扁平足痛)予防)を参照（指定教材：DVD）し、予習・復習すること</p> <p>6回目</p> <p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節Ⅰ）  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷・障害発生時のエピソードとアプローチ（膝関節Ⅰ）を理解することができるようになる  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・膝関節の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）  ・6)膝関節予防(内側側副靭帯損傷予防)を参照（指定教材：DVD）し、予習すること</p> <p>7回目</p> <p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節Ⅱ）  <b>【到達目標】</b> スポーツ外傷・障害発生時のエピソードとアプローチ（膝関節Ⅱ）を理解することができるようになる  <b>【授業形態】</b> アクティブラーニング有  ・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する  <b>【時間外学習】</b>  ・膝関節の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）  ・6)膝関節予防(内側側副靭帯損傷予防)を参照（指定教材：DVD）し、予習・復習すること</p>

8回目	<p>膝関節のテーピングと運動療法の実践</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷発生時の膝関節部のテーピングと運動療法を身につける</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・膝関節のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）</li> <li>・6)膝関節予防(内側側副靭帯損傷予防)を参照(指定教材：DVD)し、予習・復習すること</li> </ul>
9回目	<p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（大腿部・腰）</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷・障害発生時のエピソードとアプローチ（大腿部・腰）を理解することができるようになる</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿部・腰部の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）</li> </ul>
10回目	<p>大腿部・腰部のテーピングと運動療法の実践</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷発生時の大腿部・腰部のテーピングと運動療法を身につける</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大腿部・腰部のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）</li> <li>・7)大腿部(後面肉離れ)を参照(指定教材：DVD)し、予習・復習すること</li> <li>・8)腰部予防を参照(指定教材：DVD)し、予習・復習すること</li> </ul>
11回目	<p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肘・手関節）</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷・障害発生時のエピソードとアプローチ（肘・手関節）を理解することができるようになる</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肘・手関節の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）</li> </ul>
12回目	<p>肘・手関節のテーピングと運動療法の実践</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷発生時の肘・手関節のテーピングと運動療法を身につける</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肘・手関節のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）</li> </ul>
13回目	<p>スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肩関節・他）</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷・障害発生時のエピソードとアプローチ（肩関節・他）を理解することができるようになる</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肩関節の構造と機能について予習・復習を行う（70分程度）</li> </ul>
14回目	<p>肩関節のテーピングと運動療法の実践</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷発生時の肩関節のテーピングと運動療法を身につける</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義および実技を行い、実技では様々な体型に対応できるようペアをローテーションしながら実施する</li> </ul> <p>【時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肩関節のスポーツ外傷について予習・復習を行う（70分程度）</li> <li>・4)アキレス腱予防を参照(指定教材：DVD)し、予習・復習すること</li> </ul>
15回目	<p>試験</p> <p>第1～14回の授業で学習した内容について、筆記試験と実技試験を行う</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業時に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載して次の授業までに自習または教員に聞き、理解すること。また、[備考]を参考に次回授業で行われる各関節・周辺部位の機能解剖を理解しておくこと。（各回の予習および復習に必要な時間は1時間程度）</p>
教科書	<p>「テーピングナビ」DVD：著者 長尾淳彦、(有)ラウンドフラット 7,140円(税込)→5,000円 有限会社ケアステーション京都にて購入するとこの価格</p>
参考書	<p>「スポーツ・テーピング」：著者 長尾淳彦、池田書店 「柔整師のためのテーピングの理論と実践」：著者 長尾淳彦、からだサイエンス 「柔道整復師のための運動療法」：著者 長尾淳彦、からだサイエンス</p>
成績評価	<p>筆記試験50% 実技試験50%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 長尾 淳彦 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 吉田 勲生 研究室 : 8号館4階 講師室 メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 濱口 夏花</p>

	研究室 : 8号館4階 講師室 メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	長尾 淳彦: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 吉田 勲生: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。 濱口 夏花: 施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦			
添付ファイル			

授業目標	講義および実技において、スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、スポーツ障害との結びつきを理解させる。また、各関節の損傷や障害に対して行う手技について基本理念を理解すると共に知識と技術の熟成を目指す。
授業計画	<p>1回目 下腿～足関節の機能解剖を理解する。 下腿～足関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>2回目 下腿～足関節のコンディショニング① 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>3回目 下腿～足関節のコンディショニング② 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>4回目 大腿～膝関節の機能解剖を理解する。 大腿～膝関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>5回目 大腿～膝関節のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>6回目 腰部～股関節の機能解剖を理解する。 腰部～股関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>7回目 腰部～股関節のコンディショニング① 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>8回目 腰部～股関節のコンディショニング② 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>9回目 肩関節の機能解剖を理解する。 肩関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>10回目 肩関節のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>11回目 肘関節の機能解剖を理解する。 肘関節の筋と運動・外傷と障害</p> <p>12回目 肘関節のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>13回目 手関節～手指の機能解剖を理解する。 手関節～手指の筋と運動・外傷と障害</p> <p>14回目 手関節～手指のコンディショニング 触診・マッサージ・ストレッチ・エクササイズ</p> <p>15回目 総合評価（まとめ）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	機能解剖学は臨床において必要な知識であるため、事前学習をしておくこと。
教科書	指定なし
参考書	指定なし
成績評価	出席基準を充たした者に筆記または実技の評価を行う。 必要に応じて小テストを行う場合がある。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : メールアドレス : pochimatamoto@yahoo.co.jp オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 濱口 夏花 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	


講義科目名称： 生活習慣病とその予防

授業コード： 2H326

英文科目名称： Lifestyle disease and its prevention

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
浅沼 博司			
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症および期末試験 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指す点不明な点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習90分、復習90分）。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院 副病院長（併）内科部長 教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「生活習慣病とその予防」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
添付ファイル			

授業目標	球技種目を中心に（バスケット・バドミントン・バレーボール）を通してスポーツの幅広い知識や考え方を育てると共に、試合形式のゲームを通して技能・体力向上を図る。 実習を通じて、スポーツの楽しさを実感してもらうことを目的とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス 【到達目標】 エアロビク運動実習の狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>2 ウォーミングアップ 【到達目標】 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温を上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。 予習：ウォーミングアップについて調べておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>3 動的ストレッチ 【到達目標】 動的ストレッチ（ダイナミック）の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点（関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運動などetc）がある事を理解させ実践させる。 予習：動的ストレッチについて調べておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>4 ラダートレーニング・ミニハードル 【到達目標】 ラダートレーニング・ミニハードルを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。 予習：ラダートレーニング・ミニハードルについて調べておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>5 バスケット①基礎応用・ルール・ゲーム 【到達目標】 ドリブル・パス・シュートを中心に説明、反復練習を行い理解させる。 ゲームの進め方やルールの説明、理解させての反復練習を行い修得させる。 予習：バスケットの基礎応用・ルールを調べておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>6 バスケット②基礎応用・ゲーム 【到達目標】 チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとりゲームを行わせる。 予習：バスケットの基礎応用を使いゲームにつなげるよう調べておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>7 バスケット③ゲーム 【到達目標】 チーム再編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとりゲームを行わせる。 予習：バスケットのより良いゲームの組み立て方を調べておく 復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p>

	<p>8 自重トレーニング（体幹）  <b>【到達目標】</b>  自分の体重（自重）を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても（意識・回数・インターバル）効率良く体力向上に繋げさせる。  予習：自重トレーニング（体幹）について調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>9 自重トレーニング（全身）  <b>【到達目標】</b>  自分の体重（自重）を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても（意識・回数・インターバル）効率良く体力向上に繋げさせる。  予習：自重トレーニング（全身）について調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>10 バドミントン①基礎応用・ルール・ゲーム  <b>【到達目標】</b>  グリップの握り方・ストローク・サーブの基本から戦術的に使われるドロップ・ロブ・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュまでそれぞれ説明・反復練習を行い理解させる。  ゲームの進め方やルールを説明、理解させての反復練習を行い修得させる。  予習：バドミントンの基礎応用・ルールを調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>11 バドミントン②基礎応用・ゲーム  <b>【到達目標】</b>  チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってダブルスゲームを行わせる。  予習：バドミントンの基礎応用を使いゲームゲームにつなげるよう調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>12 バドミントン③ゲーム  <b>【到達目標】</b>  チーム再編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってダブルスゲームを行わせる。  予習：バドミントンのより良いゲームの組み立て方を調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>13 バレーボール①基礎応用・ルール・ゲーム  <b>【到達目標】</b>  サーブ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス・スパイクを中心に説明・反復練習を行い理解させる。  ゲームの進め方やルールの説明、理解させての反復練習を行い修得させる。  予習：バレーボールでの基礎応用・ルールを調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p> <p>14 バレーボール②基礎応用・ゲーム  <b>【到達目標】</b>  チーム編成を行い、戦術・コミュニケーションを理解させ、前実習で行なった基礎・基本・ルールにのっとってゲームを行わせる。  予習：バレーボールの基礎応用を使い、より良いゲームの組み立て方を調べておく  復習：授業での経験・ポイントを書いておく</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。
教科書	指定しない
参考書	指定しない

成績評価	授業態度 50% 実技評価 30% 授業の貢献度 20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
保健医療学部 柔道整復学科	30時間	授業形態：講義／オンライン授業（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_3J336スポーツ医学基礎_柔整. xlsx			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するための科目である。</p> <p><b>【授業目標】</b> スポーツ医・科学とトレーニング科学の基本的な考え方と理論体系を習得することを目的とする。スポーツ医・科学では、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピングを、トレーニング科学では、トレーニングの基本的な考え方・理論体系、体力・スキルのトレーニングの原理原則、トレーニング計画を習得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 (担当：吉田行宏) ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理  <b>【到達目標】</b>  1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。  2. スポーツと健康について理解し説明できる。  3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策  <b>【到達目標】</b>  アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策  <b>【到達目標】</b>  女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。  スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防  <b>【到達目標】</b>  スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法  <b>【到達目標】</b>  コンディショニングの手法について理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 (担当：吉田行宏) スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置)</p>

	<p><b>【到達目標】</b> 救急蘇生法について理解し説明できる。 外科的応急処置について理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P297-310までを熟読しておくこと。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論</p>
7回目	<p><b>【到達目標】</b> 1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。 2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。 3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせることでトレーニング方法を設定することができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】(予習項目)</b> スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。教科書熟読：p. 132-139。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-2、トレーニング計画論</p>
8回目	<p><b>【到達目標】</b> 4) トレーニングを数年間、1年間、数ヶ月、数週間、1週間、1日という長期から短期までの時間資源の中で計画できる。 5) 試合当日の行動を戦略的に行うことができる。 6) 一連のトレーニングサイクルが適切であったか、さらによりよくするためにはどうすべきかに関する測定・評価・診断(アセスメント)を行うことができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】(予習項目)</b> トレーニング計画論、トレーニングと休養のバランス、他。教科書熟読：p. 139-155。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-1、身体のしくみと働き、体力を構成する要素体系他</p>
9回目	<p><b>【到達目標】</b> 7) 体力を構成する要素について、身体のしくみと働きを踏まえて体系的に説明できる。 8) 各自が実践するスポーツ種目に必要な体力の種類とそのバランスについて説明できる。 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】(予習項目)</b> 身体のしくみと働き、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、体力構成要素 教科書熟読：p. 156-178。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-2、体力トレーニングの原理・原則、種類</p>
10回目	<p><b>【到達目標】</b> 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 10) 筋力・パワートレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 11) 持久力トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 12) 柔軟性トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 13) 体力トレーニング手段の組み合わせ方が説明できる。 14) トレーニングの目標と課題、具体的な手段、実践内容や方法について考えて計画し、説明が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】(予習項目)</b> 体力トレーニングの原理・原則、トレーニングの種類。教科書熟読：p. 176-191。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-1、スポーツ技術・技能、スキルトレーニングの特徴など</p>
11回目	<p><b>【到達目標】</b> 15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。 16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p><b>【備考】(予習項目)</b> スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書熟読：p. 192-196。</p>

	<p>12回目 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-2、スキル向上のメカニズム・効果  <b>【到達目標】</b>  17) 技術的な習熟・発達には大きく3つの段階があり、上達の過程でプラトーやスランプなどの現象が見られることが説明できる。 3133  18) 技術トレーニングの方法、全習法（協調的全習法）と分習法、集中法と分散法、負荷軽減法（アシステッド法）と超過負荷法（レジステッド法）、イメージトレーニング法などについて説明できる。 3134  19) 技術トレーニングの方法の実施する順序や組み合わせによる効果の違いが説明できる。 3135  20) トレーニングの心理面、技術面、体力面はそれぞれ独立したのではなく、相互に規定し合い、密接に関連し補完し合う関係にあることが説明できる。 3136  21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。  <b>【備考】</b>（予習項目）  スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p. 196-197。</p> <p>13回目 (担当：吉田行宏) アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割  <b>【到達目標】</b>  アンチドーピングについて理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p> <p>14回目 (担当：ゲストスピーカー) アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割  <b>【到達目標】</b>  アンチドーピングについて理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  アンチ・ドーピングに関わる専門家をゲストスピーカーとし、その現状について授業を行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・ 配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	トレーニングの科学（齊藤担当） 「トレーニング科学 最新エビデンス」 安部 孝編（講談社サイエンティフィク） 「スポーツでのばす健康寿命」 深代千之、安部孝編（東京大学出版会）
成績評価	出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。 ①合格点：各回の講義終了後に実施する小テスト(100点法)を集計して評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点が80点以上を優、70点～79点を良、60～69点を可とする。 ③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 13:50-16:40  担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間（要予約）。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。
備考	実務経験； 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。
	アクティブラーニング； 小テストのフィードバック及び授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
	ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
吉田 行宏 神内伸晃 糸井啓純 齊藤昌久 棚原勝平			
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツ医学応用は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。また、今後開設される、健康とスポーツに関連する科目を理解するための基礎知識を習得する。</p> <p>特に、本科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p>
授業計画	<p>1回目</p> <p>1. ガイダンス 2. 他者力を磨こう(1)</p> <p>【到達目標】 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を知る。 2. 対他者力について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>2回目</p> <p>他者力を磨こう(2)</p> <p>【到達目標】 対他者力について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>3回目</p> <p>スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス</p> <p>【到達目標】 スポーツに関するガバナンスとコンプライアンスについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>4回目</p> <p>1. スポーツ仲裁 2. スポーツ倫理</p> <p>【到達目標】 1. スポーツに関する紛争とその仲裁について理解し、説明ができる。 2. スポーツに関する倫理について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>5回目</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系(1)</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>6回目</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系(2)</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>7回目</p> <p>体力のトレーニング(1)</p> <p>【到達目標】 体力トレーニングに関する体の構造と機能について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>8回目</p> <p>体力のトレーニング(2)</p> <p>【到達目標】 体力のトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p>

	<p>9回目 スキルトレーニング  <b>【到達目標】</b> スキルトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>10回目 心のトレーニング(1)  <b>【到達目標】</b> 心のトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>11回目 心のトレーニング(2)  <b>【到達目標】</b> 心のトレーニングについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>12回目 コーチング環境の特徴  <b>【到達目標】</b> コーチングの環境について理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>13回目 スポーツ組織のマネジメント  <b>【到達目標】</b> スポーツ組織のマネジメントについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>14回目 障がい者とスポーツ  <b>【到達目標】</b> 障がい者とスポーツについて理解し、説明ができる。  <b>【授業形態】</b> 遠隔授業(オンデマンド)  <b>【備考】</b>            テキストを読んで予習する。            特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。            小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。</li> <li>・2021年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世間でのスポーツにおける関心がますます高まる。スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。</li> </ul>
教科書	「リファレンスブック」 (財)日本スポーツ協会編 (財)日本スポーツ協会)
参考書	特記無し
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席基準(3/5)を満たした者に単位を認める。</li> <li>・成績評価は講義ごとに実施する課題や小テストの内容に提出期限を加味し、総合的に評価(優、良、可、不可)とする。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏        経歴 : はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、鍼灸臨床歴19年、教員歴10年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。        研究室 : 附属鍼灸センター2F 教員室        メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp        オフィスアワー : 月曜日 13:50-16:40</p> <p>担当教員名 : 神内伸晃        研究室 : 6号館4F教員室        メールアドレス : n_jinnai@meiji-u.ac.jp        オフィスアワー : 水曜日 18:00-19:00</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純        研究室 : 附属病院2F教授室        メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp        オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 齊藤昌久        研究室 : 6号館4F教員室        メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp        オフィスアワー :</p> <p>教員名 : 棚原勝平        メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp        オフィスアワー :</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連

	①知識・理解-○ ③関心・意欲-○

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
中才 幸樹			
添付ファイル			

授業目標	トレーニング論で学んだ科学的な理論と方法論をスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じたトレーニングを体験するとともにトレーニング計画を立案し、実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	ウォーミングアップとクーリングダウン① [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第2講	ウォーミングアップとクーリングダウン② [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第3講	各種トレーニングのための動き作り① [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。	
	第4講	各種トレーニングのための動き作り② [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。	
	第5講	柔軟性を高めるためのトレーニング [到達目標] 関節の可動域を広げる各種ストレッチの理解と実践	
	第6講	調整力を高めるためのトレーニング [到達目標] バランス感覚向上のためのトレーニングの理解と実践	
	第7講	全身持久力トレーニング [到達目標] 全身持久力トレーニングの実践	
	第8講	筋持久力トレーニング [到達目標] 筋持久力トレーニングの実践	
	第9講	トレーニングルームの安全な使用法 [到達目標] トレーニング機器の安全管理および使用法について。	
	第10講	トレーニングプログラムの立案と実践① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第11講	トレーニングプログラムの立案と実践② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第12講	トレーニングプログラムの立案と実践③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第13講	トレーニングプログラムの立案と実践④ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第14講	トレーニングプログラムの立案と実践⑤ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第15講	トレーニングプログラムの立案と実践⑥ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習		
教科書	授業毎に配布する資料により実施。		
参考書	特に指定はなし。		
成績評価	成績評価は、出席点を重視し、また、授業態度等を参考とした総合評価とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時		

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
岩佐真代・谷口祐一			
添付ファイル			

授業目標	健康増進と疾病予防のための栄養学を理解することを目的とし、その基礎を学習する。さらに、食事と運動との関連や、運動の効果を最大限に引き出すための食事のあり方などを、最新の情報を取り入れながら、基礎情報と関連付けて理解する。		
授業計画	第1講	<p>スポーツと保健栄養学入門</p> <p>【担当】 谷口祐一</p> <p>【到達目標】 栄養学の歴史を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 シラバスの内容を確認するとともに、教科書を購入しておく。(30分)</p>	
	第2講	<p>エネルギーと栄養バランス</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 バランスの良い食事について科学的に理解する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第3講	<p>栄養素のはたらき 糖質</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 糖質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第4講	<p>栄養素のはたらき 脂質</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第5講	<p>栄養素のはたらき たんぱく質、サプリメントの利用</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 たんぱく質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。サプリメントについて理解し、正しい利用法について把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第6講	<p>栄養素のはたらき ビタミン・ミネラル</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 ビタミン・ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>	

第7講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドの概要を理解する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第8講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。また、課題について次回講義までに作成しておく。(30分)</p> <p>水分補給</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      水分の役割を理解し、水分補給の重要性を把握する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第9講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>生体リズムと栄養</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      生体リズムについて理解し、食事や運動のタイミングの重要性を把握する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第10講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>ウェイトコントロールと食事</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      ウェイトコントロールについて理解し、適切な食事摂取量を把握する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第11講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>運動における栄養素のはたらき</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      運動時の各栄養素の代謝を理解する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第12講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>ライフステージと栄養 ジュニア期</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第13講	<p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>ライフステージと栄養 シニア期</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】      シニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。</p> <p>【授業形態】      講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】      前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>

	<p>第14講 総括（評価を含む）</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 第1回目から第13回目の内容について理解する。</p> <p>【授業形態】 前半に講義、後半に試験を実施する。</p> <p>【必要な準備】 第1回目から第13回目の内容について配布したプリントを用いて復習をする。（45分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>次回の予習箇所については、毎回講義内で伝達する。</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、プリントの穴埋めについて解答しておくこと。</p>
教科書	<p>「栄養科学NEXTシリーズ スポーツ・運動栄養学（第3版）」 加藤秀夫／中坊幸弘／中村亜紀・編（講談社サイエンティフィク）</p>
参考書	指定しない
成績評価	<p>定期試験70% 課題レポート15% 毎回のコミュニケーションカード15%</p> <p>・実習などのやむを得ない理由で欠席する予定が分かっている場合は、担当者に事前に報告すること。 ・配布されたプリント類は自己責任で保管し、欠席した場合は、次回講義までに教学課に取りに行くこと。 （講義内で、欠席分のプリント配布は行わない）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岩佐 真代（第2回～14回担当） 研究室 : 京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 栄養科学研究室</p> <p>メールアドレス : iwasa@kpu.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p> <p>担当教員名 : 谷口 祐一（第1回担当） 研究室 : 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 健康科学研究室 メールアドレス : hirokazu-t@kpu.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
神内 伸晃			
添付ファイル			

授業目標	キャリアとは何かを学び、卒業後の進路や生涯設計に関連する知識を学ぶ。また、社会規範となるマナーや現代において問題となっている情報化社会でのマナーを含めて社会人としての第一歩を踏み出すための知識を学ぶ。		
授業計画	第1講義	<p>キャリアとは何か？なぜ働くのか？</p> <p>【到達目標】 キャリアとは何か？なぜ働くのか？ということについて考え、これから自分が卒業後に働く意義について考える能力を養う。講義ではキャリアビジョンの描き方や自己分析の方法について学ぶ。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
	第2講義	<p>社会人に必要な力とは</p> <p>【到達目標】 社会人に必要な力について考える。グループで社会人になるために必要なことについて討論し、グループ発表を行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
	第3講義	<p>自己分析をしてみよう</p> <p>【到達目標】 自己分析シートから自分について自他からみた自分を知ること为目标とする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
	第4講義	<p>ビジネスマナーと就職活動</p> <p>【到達目標】 就職活動におけるビジネスマナーについて学び、グループ内で職業マナーについて理解を深める。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
	第5講義	<p>社会の流れを知ることをはじめよう</p> <p>【到達目標】 ニーズを知ることが社会人にとって必要なことであり、身近なニュースからクラスで関心のある事柄が何か考える。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
	第6講義	<p>生涯年収と高齢者の経済問題</p> <p>【到達目標】 現代における経済の問題と世帯収入の各年代ごとからどのように今まで移り変わってきたのかを学び、卒業後に自分で一人暮らしをする際に1ヶ月間にどのくらいの予算で生活したらよいか理解し、自身で考えられることを目的とする。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
	第7講義	<p>総合復習</p> <p>【到達目標】 キャリアプランを作成し、どのように実行していくのを学ぶ。また、各個人のキャリアプランの概要をグループ内で口答発表を行う。キャリアプランを実行していくために必要なことは何かというテーマで総合討論を各グループで行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニングの有無：有り 小グループもしくは個人で授業内の課題に取り組み発表を行う。</p>	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各授業ごとの授業テーマについての社会的な問題や今後の自身の展望などについてまとめ、次回の授業で発表できるようにノートなどにまとめること(所要時間90程度)		
教科書	学内でキャリアデザインに関する冊子を配布する。また、授業用資料を配布するため、教科書は指定しない。		
参考書	大学生のためのキャリアデザイン入門 編集：岩上真珠 大槻奈巳 出版社：有斐閣 キャリアデザイン入門1 基礎力編 第2版 著：大久保幸夫 出版社：日本経済新聞社		
成績評価	出席基準を満たした者に評価を行う。評価は授業課題(30%)と課題レポート(70%)によって総合評価を行う		

	う。
担当教員の基本情報	担当教員：神内伸晃 オフィスアワー：授業終了後1時間 場所：8号館4F講師室 メールアドレス：n_jinnai@meiji-u.ac.jp
備考	ゲストスピーカー：斉藤淳平（ファイナンシャルプランナー） 神内伸晃：施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連 「◎-1」「○-4」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
川村 茂			
添付ファイル			

授業目標	医療面接法では、基礎医学、現代医学、柔道整復学などを基礎とし、実際の診療に即した問診や医療面接の方法を適切かつ効果的に行える技能を修得する。あわせて医療人としての心構えや医療倫理などについての理解を深める。
授業計画	<p>1回目 医療面接の目的や概要      [ 授業概要 ]      オリエンテーション      授業方針・概略を説明する。      医療面接の目的と構造について説明する。      [ 到達目標 ]      医療面接の目的・構造が説明できる。      問診と医療面接の違いが説明できる。      医療面接の必要性に関して説明できる。      [ 授業時間外学習の指示 ]      「医療面接」に関して、インターネットや参考文献を検索し理解を深めておく（予習130分）。      授業中に説明した「医療面接の目的・構造」の要点について、授業中の配付プリントの内容に関する理解を深める（復習130分）。</p> <p>2回目 アクティブラーニング：有      初診患者さんとのコミュニケーション      [ 授業概要 ]      初診患者さんとのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。      [ 到達目標 ]      診察項目について理解する。      カルテ記載方法について理解する。      [ 備考 ]      診察項目について学習する。      初診患者さんの病態を把握するための情報収集に関する説明ができる。      主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症が説明できる。      [ 授業時間外学習の指示 ]      「医療面接」について、インターネットや参考文献を検索して理解を深めておく。OSCE（オスキー：Objective Structured Clinical Examination）に関して調べておく（予習130分）。      初診患者さんに関する情報収集とその項目（主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現象など）の要点について、授業中の配付プリントの内容に関する理解を深める（復習130分）。</p> <p>3回目 アクティブラーニング：有      再診患者さんとのコミュニケーション      [ 授業概要 ]      再診患者さんとのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。      初診患者さんと再診患者さんの情報収集の違いについて要点を説明する。      [ 到達目標 ]      再診患者さんの一般的な評価方法が説明できる。      再診患者さんにおける情報収集が説明できる。      初診患者さんと再診患者さんの情報収集の違いについて要点が説明できる。      [ 授業時間外学習の指示 ]      「医療面接」について、インターネットや参考文献を検索して理解を深めておく。OSCE（オスキー：Objective Structured Clinical Examination）に関して調べておく（予習130分）。      授業中の要点である「初診患者さんと再診患者さんの情報収集の違い」について理解を深めておく（復習130分）。</p> <p>4回目 アクティブラーニング：有      コミュニケーション技法      [ 授業概要 ]      円滑なコミュニケーションを実現するために使用される「技法」に関して説明する。      質問法について説明する。      面接技法について説明する。      面接の流れについて説明する。      [ 到達目標 ]      医療に患者さんが求めるものについて説明できる。      医療従事者と患者さんとの関係について説明できる。      医療現場での円滑なコミュニケーションを実現するための要点について説明できる。      医療従事者に必要な非言語的コミュニケーションについて説明できる。      [ 授業時間外学習の指示 ]      「医療面接」について、インターネットや参考文献を検索して理解を深めておく。OSCE（オスキー：Objective Structured Clinical Examination）に関して調べておく（予習130分）。      授業中に説明した要点である「円滑なコミュニケーションを実現する技法」や「非言語的コミュニケーション」に関して理解を深めておく（復習130分）。</p>

	<p>5 回目        アクティブラーニング : 有        円滑な医療面接・コミュニケーションの実現に求められる医療従事者の態度・姿勢        [ 授業概要 ]        より良い医療面接・コミュニケーションを行なうための患者さんに対する態度、診察環境、位置関係に関して説明する。        [ 到達目標 ]        円滑な医療面接・コミュニケーションを実践するための態度、姿勢、診察環境、位置関係を理解する。        [ 授業時間外学習の指示 ]        「医療面接」について、インターネットや参考文献を検索して理解を深めておく。OSCE (オスキー: Objective Structured Clinical Examination) に関して調べておく (予習130分)。        授業中に説明した要点である「より良い医療コミュニケーションを行なうための患者さんに対する態度、診察環境、位置関係」に関して理解を深めておく (復習130分)。</p> <p>6 回目        アクティブラーニング : 有        医療面接の実際        [ 授業概要 ]        「医療面接」に関する動画を鑑賞し、実践・ロールプレイを行なう。        [ 到達目標 ]        ロールプレイを通じて医療コミュニケーションが実践できる。        「医療面接」に関する動画を鑑賞し、その動画内で使用された医療コミュニケーションの技法に関して説明できる。        [ 備考 ]        授業を復習し、教科書、ノートを見なくても面接できる準備をしておくこと。        [ 授業時間外学習の指示 ]        「医療面接」について、インターネットや参考文献を検索して理解を深めておく。OSCE (オスキー: Objective Structured Clinical Examination) に関して調べておく (予習130分)。        授業中に説明した要点である「医療面接・コミュニケーションの実践テクニック」に関して説明できるよう理解を深めておく (復習130分)。</p> <p>7 回目        アクティブラーニング : 有        総括・レポート課題に関する説明        [ 授業概要 ]        「医療面接・コミュニケーション」に関する要点の総復習を行なう。        レポート課題に関して説明する。        [ レポート課題 ]        「〇〇に関して説明せよ」というレポート課題に関しては、項目を個条書きにするのではなく、本分野を知らない方にも理解できるように配慮する。レポート課題には「ポイントとなるキーワード」を挿入して記載する。配付プリントの丸写し・コピーペーストではなく、自分で調べた内容を入れ、理解した内容を咀嚼して記載する。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	本授業は、初診患者、再診患者から聞き出す内容 (問診) と患者さんの良好な関係を築くためのコミュニケーション (態度を含む) の2つの柱から構築される。それに加えて正確なカルテ記載などについても学習する。 1) 初診患者・再診患者から聞き出す内容、カルテ記載 参考資料を熟読して学習、理解すること。これを修得しておかなくては実際の患者さんを目の前にした際、何を質問してよいのかわからなくなる。問診は、患者さんと接する最初の医療行為である。 2) コミュニケーション法 授業で学習した内容を日常生活で意識することが重要である。実際のコミュニケーション能力は、授業で学習したのみでは向上しない。日常生活でも意識して実践することが重要である。 3) 基本と応用 本授業では、問診と医療面接に必要な基本事項を学習する。臨床現場では、患者さんの病態や性格に応じた面接 (コミュニケーションを含む) が求められる。本授業で学習した内容を省略する場合もあれば、さらに深い面接が必要になることもある。現代医学的知識、柔道整復学的知識を活かしながら各患者に応じた面接を応用として学習する。 上記項目について予習・復習を行うこと。
教科書	とくに指定はしない。 適時、プリント、資料を配布する。
参考書	・ よくわかる医療面接と模擬患者: 鈴木富雄、阿部恵子 (名古屋大学出版会) ・ 鍼灸臨床における医療面接: 丹澤章八 (医道の日本社) ・ 授業中配付したプリントなどを参考資料とする。
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 全ての授業が終了した後、レポート課題を行なっていただき、その内容を評価する (100%) 1. 医療面接の目的と構造 2. 質問法 3. 初診患者および再診患者の情報収集 4. 医療面接における傾聴を実現するテクニック 5. 患者さんの「語り」を促進させる技法 上記の記載事項と授業中に説明した内容、医療面接の動画に関するレポートを作成していただく レポートの作成方法については、授業中 (7回目) に解説する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 川村 茂 研究室 : 8号館 4 F 准教授室 (川村) メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー : 講義終了後
備考	医療現場でのコミュニケーションについて、柔道整復領域および鍼灸領域における「医療面接」の目的・技法を提示しながら解説する。
	本科目におけるDPの位置づけ ⑤技能・表現 - ◎

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
田中 健吾			
添付ファイル			

授業目標	a		
授業計画	1回目	法の意義、法体系。インフォームドコンセント [到達目標] わが国における法体系，法令の優劣順位を学ぶ。 インフォームドコンセントの必要性と患者の権利を実感する。	
	2回目	[備考] 予習（教科書 p 1～ p 4） ※改訂第 2 版のページを示す（以下に同じ） 日本国憲法（天皇・基本的人権） [到達目標] 過去に出題された国家試験問題を参考に免許制度・広告制限・施術所立入検査の合憲性を学ぶ。	
	3回目	[備考] プリント 事前に配付するので通読しておくこと。 日本国憲法（国会・内閣・裁判所・地方自治・最高法規） [到達目標] 国会・内閣・裁判所の構成，特別区の意義を学ぶ。	
	4回目	[備考] プリント 医師法 [到達目標] 医師法の絶対的欠格事由・相対的欠格事由を覚える。	
	5回目	[備考] 予習（教科書 p 41～ p 46） 医師法 [到達目標] 臨床研修制度，再教育研修制度の意義を理解する。	
	6回目	[備考] 予習（同上） 医師法 [到達目標] 医師の業務と柔道整復師法との関連を学ぶ。	
	7回目	[備考] 予習（同上） 医事法規（保健師助産師看護師法・診療放射線技師法） [到達目標] 免許付与者、各医療従事者の業務の特徴を覚える。	
	8回目	[備考] 予習（教科書 p 46～ p 49） 医事法規（臨床検査技師法・理学療法士及び作業療法士法、救急救命士法） [到達目標] 医療従事者のそれぞれの業務の特徴を学ぶ。	
	9回目	[備考] 予習（教科書 p 49～ p 54） 医事法規（歯科衛生士法、歯科技工士法、薬剤師法） [到達目標] 女性のみ認められる医療免許を覚える。 薬剤師の業務を学ぶ。	
	10回目	[備考] 予習（教科書 p 55～ p 56） 医療法 [到達目標] 医療法の目的，医療提供の理念，医師等の責務を学び，柔道整復師の業務との関連を考える。	

	<p>11回目</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 57～ p 58） 医療法 [到達目標] 病院・診療所等の医療施設の区分・概要を覚える。</p> <p>12回目</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 59～ p 66） 医療法 [到達目標] 病院等の開設と施術所の開設との違いを覚える。</p> <p>13回目</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 67～ p 74） 社会福祉法規 [到達目標] それぞれの法律の目的・概要を学ぶ。</p> <p>14回目</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 75～ p 79） 社会保険関係法規 [到達目標] 柔道整復師の療養費支給申請の根拠、労災保険・雇用保険と施術所経営との関連を学ぶ。</p> <p>15回目</p> <p>[備考] 予習（教科書 p 80～ p 89） まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	a
教科書	『 関係法規 』前田和彦編著（医歯薬出版株式会社）
参考書	a
成績評価	a
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中健吾（非常勤講師） 研究室 : メールアドレス :
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
田中 健吾			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業内容は、教科書に基づいて、柔道整復師に係る「柔道整復師法」「医療法」さらに免許取得後の実務に関し判例、具体事例を示してわかりやすく展開します。</p> <p>同時に、柔道整復師の療養費受領委任取扱いの具体事例を理解する。施術録、支給申請書の記載についても理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 法の体系・総則 [到達目標] 法令遵守の精神の取得</p> <p>[備考] 予習（教科書P4～P6）</p> <p>2回目 柔道整復師法（総則・免許） [到達目標] 柔道整復師法、免許の重要性・社会的意義を理解する。</p> <p>[備考] 予習（教科書P7～P15）</p> <p>3回目 柔道整復師国家試験 [到達目標] 国家試験の概要、受験手続、合格証書を学ぶ、不正行為（カンニング）者への処分を知る。</p> <p>[備考] 予習（教科書P16～P19）</p> <p>4回目 柔道整復師の業務（1） [到達目標] 柔道整復師の業務独占の意味、業務範囲・施術の限界と医師の同意をしっかりと理解する。</p> <p>[備考] 予習（教科書P20～P23）</p> <p>5回目 柔道整復師の業務（2） [到達目標] 守秘義務の重要性、知事の「指示」を理解する。</p> <p>[備考] 予習（教科書P23～P24）</p> <p>6回目 施術所（1） [到達目標] 施術所の開設届・廃止届・休止届・再開届・変更届の提出先、手続きを学ぶ。</p> <p>[備考] 予習（教科書P25～P26）</p> <p>7回目 施術所（2） [到達目標] 施術所の構造設備基準・衛生上必要な措置を覚え、都道府県知事の「監督」の意義を理解する。</p> <p>[備考] 予習（教科書P26～P28）</p> <p>8回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必ず事前に教科書を熟読し、講義に臨んでください。 「柔道整復師法」は必修問題1問、一般問題は10問中概ね6問が出題されるのでそれを念頭に置き受講。
教科書	『関係法規』前田和彦編著（医歯薬出版株式会社）
参考書	教科書の補足、重要事項のまとめとしてプリントを配布。
成績評価	筆記試験
担当教員の基本情報	担当教員名：田中健吾 研究室： メールアドレス： オフィスアワー：
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1


開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
松本 和久			
柔道整復学科	時間数：30時間	講義形態：講義/遠隔・オンデマンド	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、柔道整復師として診察から治療までの過程を自分で考えられる能力を養うことを目的として、運動器における外傷の発生メカニズムおよび、外傷による症状について理解し、外傷に対する適切な処置を判断できるようになる。
授業計画	<p>1回目 顔面、顎の軟部組織損傷について：顔面、顎の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [到達目標] 顔面、顎の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の顔面、顎の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと（予習130分）。 履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと（復習130分）。</p> <p>2回目 腕神経叢の損傷について：腕神経叢の損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [到達目標] 腕神経叢の損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の腕神経叢損傷の項を熟読しておくこと（予習130分）。 履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと（復習130分）。</p> <p>3回目 腰部の軟部組織損傷について：腰部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [到達目標] 腰部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の腰部の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと（予習130分）。 履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと（復習130分）。</p> <p>4回目 胸・背部の軟部組織損傷について：胸・背部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [到達目標] 胸・背部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の胸・背部の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと（予習130分）。 履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと（復習130分）。</p> <p>5回目 肩関節周囲の軟部組織損傷について：肩関節周囲の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [到達目標] 肩関節周囲の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。 [備考]（授業時間外学習の指示） 教科書の肩関節周囲の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと（予習130分）。 履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと（復習130分）。</p> <p>6回目 肘・前腕の軟部組織損傷について：肘・前腕の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明で</p>

	<p>き、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  肘・前腕の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の肘・前腕の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
7回目	<p>手関節周囲の軟部組織損傷について：手関節周囲の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  手関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の手関節周囲の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
8回目	<p>指の軟部組織損傷について：指の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  指の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の指の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
9回目	<p>股関節の軟部組織損傷について：股関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  股関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の股関節の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
10回目	<p>大腿部の軟部組織損傷について：大腿部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  大腿部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の大腿部の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
11回目	<p>膝関節の軟部組織損傷について：膝関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  膝関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の膝関節の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
12回目	<p>下腿部の軟部組織損傷について：下腿部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [到達目標]  下腿部の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。  [授業形態]  アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。  [備考] (授業時間外学習の指示)  教科書の下腿部の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。  履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>

	<p>分)。</p> <p>13回目 足関節の軟部組織損傷について：足関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。</p> <p>[到達目標]</p> <p>足関節の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>教科書の足関節の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。</p> <p>履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p> <p>14回目 足部・足指の軟部組織損傷について：足部・足指の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。</p> <p>[到達目標]</p> <p>足部・足指の軟部組織損傷の発生機序、症状、処置等が説明でき、かつ適切に対応できる。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング有：授業で学んだ内容をもとに、自ら問題形式に変換した形で表出し、それを友人と解き合うことによって、自分の知識の習得度を認知するとともに、誤った理解についてはその都度フィードバックすることで、双方向性の授業形態を実施する。</p> <p>[備考] (授業時間外学習の指示)</p> <p>教科書の足部・足指の軟部組織損傷の項を熟読しておくこと (予習130分)。</p> <p>履修した内容を他者に説明でき、かつ適切に対応できるよう資料をまとめておくこと (復習130分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書における、授業計画に記載している項を熟読しておくこと (予習130分)。 教科書に記載されている内容と、記載されていない内容を整理し、過去の国家試験問題等を参考にしながら、知識が深まるように復習を行うこと (復習130分)。
教科書	柔道整復学・理論編 監修：全国柔道整復学校協会 改訂第5版 南江堂
参考書	特になし
成績評価	講義直後の提出物 (25%) と筆記試験 (75%) により評価する。 なお、筆記試験の結果はアクティブ・ラーニングとして、学生にフィードバックする。
担当教員の基本情報	担当教員名：松本 和久 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：k_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日16:00-17:00
備考	35年間本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎ー1 ○ー2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
川村 茂			
添付ファイル			

授業目標	<p>運動器疾患の画像診断としては、単純X線写真が広く普及している。詳細な画像診断にはCT、MRIが用いられている。しかしながら、機器の価格、検査料ともに高額であり、検査の待ち時間の長さや被曝の問題から短期間での繰り返し検査ができないのが現状である。近年、著しい技術開発により超音波画像診断装置がデジタル化され、高周波プローブが出現したことによって、CT、MRIを上回る高分解能画像が簡便に得られるようになってきた。さらに、本機器の特徴であるリアルタイム性を応用することで、運動器の損傷状態、動態、血流、組織弾性の評価が可能となってきた。本講では、柔道整復領域に普及しつつある超音波画像診断の有用性について、他の画像（単純X線画像、MRI画像など）と対比しながら教授する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション      [ 授業概要 ]      様々な外傷・障害を想定した関節評価法、エコー観察、徒手検査法、整復法、指導管理など実際の臨床現場で役立つ知識・技能を総合的に学習する。また、運動器外傷・障害のエコー画像について読影ポイントの学習を交え、より実践的な診察・治療技術の向上を目的とする。      [ 到達目標 ]      授業の概要について理解し実践できる。      シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。      [ 時間外学修の指示 ]      参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。      授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>2回目 肩関節の画像観察法（1）      [ 授業概要 ]      肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。      [ 到達目標 ]      肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。      [ 時間外学修の指示 ]      参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。      授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>3回目 肩関節の画像観察法（2）      [ 授業概要 ]      肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。肩関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。      [ 到達目標 ]      肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。      肩関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。      [ 主な描出箇所 ]      ・ 結節間溝      ・ 長頭腱      ・ 大結節      ・ 小結節      ・ 肩甲下筋（肩関節を外旋して描出）      ・ 棘上筋腱板      [ 時間外学修の指示 ]      参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。      授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>4回目 肘関節の画像観察法（1）      [ 授業概要 ]      肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。      [ 到達目標 ]      肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。      [ 時間外学修の指示 ]      参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。      授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング：有</p> <p>5回目 肘関節の画像観察法（2）      [ 授業概要 ]      肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明</p>

	<p>する。肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  肘関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 橈骨頭（前腕回内・回外して描出）  ・ 上腕骨小頭（前面・後面アプローチ）  ・ 内側側副靭帯（前斜走靭帯）  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
6回目	<p>膝関節の画像観察法 (1)  [ 授業概要 ]  膝関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  膝関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
7回目	<p>膝関節の画像観察法 (2)  [ 授業概要 ]  膝関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。膝関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  膝関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  膝関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 内側半月板（膝関節を屈曲・伸展して後方から描出）  ・ 膝蓋骨  ・ 膝蓋腱  ・ 脛骨粗面  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
8回目	<p>足関節の画像観察法 (1)  [ 授業概要 ]  足関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  足関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
9回目	<p>足関節の画像観察法 (2)  [ 授業概要 ]  足関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。足関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。  [ 到達目標 ]  足関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。  足関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。  [ 主な描出箇所 ]  ・ 前距腓靭帯（ATFL）前方に引き出しながら描出  ・ 腓骨下端  ・ 脛骨下端  ・ 二分靭帯（第4趾を長軸方向にたどり踵骨前方突起を描出）  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
10回目	<p>手指・手関節の画像観察法 (1)  [ 授業概要 ]  手関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。  [ 到達目標 ]  手関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。  [ 時間外学修の指示 ]  参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。  授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。  アクティブラーニング : 有</p>
11回目	<p>手指・手関節の画像観察法 (2)  [ 授業概要 ]</p>

	<p>手関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。手関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>手関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。</p> <p>手関節部のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。</p> <p>[ 主な描出箇所 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各手根骨</li> <li>・ 各手指の関節部</li> <li>・ 橈骨（長軸）</li> <li>・ 橈骨（短軸・リスター結節と長母指伸筋腱）</li> <li>・ 手の舟状骨（手関節部橈側から尺屈させながら描出）</li> <li>・ 伸筋腱の第1区画（de Quervain's病と関連）</li> </ul> <p>[ 時間外学修の指示 ]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
12回目	<p>体幹・脊柱の画像観察法 (1)</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>体幹・脊柱に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>体幹・脊柱関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。</p> <p>[ 時間外学修の指示 ]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
13回目	<p>体幹・脊柱の画像観察法 (2)</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>体幹・脊柱に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。手関節部のエコー描出・観察ルーティンを説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>体幹・脊柱のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解・実践できる。</p> <p>体幹・脊柱のエコー描出・観察ルーティンを実践できる。</p> <p>[ 主な描出箇所 ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肋骨</li> <li>・ 胸骨</li> <li>・ 脊柱棘突起</li> <li>・ 脊柱起立筋</li> </ul> <p>[ 時間外学修の指示 ]</p> <p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
14回目	<p>まとめ・総合復習 レポート作成の要点を指導</p> <p>[ 授業概要 ]</p> <p>いままで講義した内容の総括</p> <p>肩関節部、肘関節部、膝関節部、足関節部、手指・手関節部、体幹・脊柱部に関するエコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を総括・復習する。各部のエコー描出・観察ルーティンを総括・復習する。レポートの作成要点に関して説明する。</p> <p>[ 到達目標 ]</p> <p>肩関節部、肘関節部、膝関節部、足関節部、手指・手関節部、体幹・脊柱部のエコー描出・観察ルーティンの要点を理解・実践できる。</p> <p>アクティブラーニング : 有</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>参考資料などを使用して、事前に与えられたテーマについて予習すること。</p> <p>予習・復習ノートを作成して学習した事項を管理すること。</p> <p>ノートの提出義務はありません。</p>
教科書	<p>柔道整復学・理論編 改訂第5版 監修：(社)全国柔道整復学校協会 南江堂</p>
参考書	<p>運動器のエコー観察症例集 著者：中村辰三、増田雅保、川村 茂 医歯薬出版</p>
成績評価	<p>出席基準を満たした者に対して評価を行う。</p> <p>レポート課題での評価 = 100%</p> <p>授業中に教授した実習内容に関し、それをまとめて卒後も臨床上役立つ資料として完成させる。</p> <p>レポート作成の素材として画像が必要な場合には、授業中に写真撮影して、そのデータを使用してもよい。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 川村 茂</p> <p>研究室 : 8号館 4F 講師室</p> <p>メールアドレス : s_kawamura@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	<p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること。</p> <p>ノートの提出義務はありませんが、チェックや指導を行う場合があります。</p>
	<p>本科目におけるDPの位置づけ</p> <p>②思考・判断 - ③</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
並川 一利			
添付ファイル			

授業目標	臨床の場において傷害に遭遇した際、柔道整復施術の適応疾患か否かを的確に把握できる鑑別能力が要求される。 傷害鑑別診断法では、骨・関節・軟部組織傷害を対象とし、柔道整復施術の適応・禁忌の症例を的確に把握できる能力を身につけるための知識・技術を習得する。 また、各傷害に対する観血的治療、非観血的施術の判断に必要な事項、応急処置についての事項を習得する。
授業計画	<p>第1回 頰・腰部における鑑別診断 【到達目標】頰部・腰部における主要な骨・関節・軟部組織領域（頰・腰椎ヘルニアと脊柱管狭窄症、後縦靭帯硬化症、筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛症）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で頰部・腰部の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第2回 肩関節部および周辺部における鑑別診断 【到達目標】肩関節周辺部における主要な骨・関節・軟部組織領域（肩関節脱臼と上腕骨外科頸骨折における臨床的な症状の違い、腱板断裂と肩関節周囲炎の違い）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で肩関節周囲の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第3回 肘関節部における鑑別診断 【到達目標】肘関節周辺における主要な骨・関節・軟部組織領域（肘関節脱臼・上腕骨外科頸骨折、外側上顆炎と内側上顆炎の違いなど）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で肘関節の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第4回 手関節・手指部における鑑別診断 【到達目標】手関節・手指部における主要な骨・関節・軟部組織領域（コーレス骨折とスミス骨折の違い、手指の変形）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で手関節・手指部の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第5回 股関節部における鑑別診断 【到達目標】股関節における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（ペルテス病・骨頭すべり症・股関節インピンジメント症候群）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で股関節部の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第6回 膝関節部における鑑別診断 【到達目標】膝関節の外傷における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（前十字靭帯損傷・後縦靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷、ランナー膝、ジャンパー膝、鷲足炎など）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で膝関節部の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第7回 足関節部における鑑別診断 【到達目標】足関節の外傷における主要な骨・関節・軟部組織領域の疾患（靭帯損傷における圧痛部位、足部・足趾の主な骨折など）の疾患に特有な所見等を学び、鑑別できるようになる。 【備考】教科書で足関節部の疾患を熟読し、不明点は事前に調べる。 【アクティブラーニング】無</p> <p>第8回 総合評価（試験）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスを参照し、講義までに該当範囲の外傷および疾患を熟読し、不明点は事前に調べておく。 授業終了後は、講義範囲を復習し質問等がある場合は講義開始前および講義終了後に解決できるよう努める。 （予習および復習に要する時間は各90分程度）
教科書	柔道整復学・理論編 第5版 社団法人 全国柔道整復学校協会編 南江堂 授業配布プリント
参考書	詳解国家試験問題集柔道整復師用 明治東洋医学院編集委員会編 医道の日本社 ペインクリニック 診断・治療ガイドー痛みからの解放とその応用 大瀬戸 清茂（監修）日本医事新報社
成績評価	出席を満した者に対して期末試験を行い優・良・可の三段階で評価を行う。
担当教員の基本情報	オフィスアワーは授業内で指示する。
備考	並川一利：接骨院での臨床経験を生かした授業を行う。
	この授業とディプロマシーとの関連：◎-2


英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
添付ファイル			

授業目標	スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、アスレチックリハビリテーションを理解する。また、各関節毎のコンディショニング、エクササイズの基本理念を理解することにより臨床時の状況判断の向上を最終目的とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] アスレチックリハビリテーションの定義を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>2回目 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価などの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>3回目 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>4回目 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>5回目 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>6回目 膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>7回目 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>8回目 股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>9回目 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>10回目 腰部、腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部、腹部のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>11回目 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>12回目 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>13回目 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>14回目 肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に	復習し理解を深める。

ついて	
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験，小テスト，レポート，授業態度，出席などを総合的に評価する.
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-2
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
添付ファイル			

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。またコンディショニング、エクササイズの基本技術を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] 概要を理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	2回目	基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価を理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	3回目	足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	4回目	下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	5回目	膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	6回目	膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	7回目	股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	8回目	股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	9回目	腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	10回目	腰部，腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部，腹部のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	11回目	手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	12回目	肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	13回目	肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	14回目	肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	復習をし理解を深める。		

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	実技テスト、授業態度・出席（減点）を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-2
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。